

ISBN 978-4-86337-168-2
Studia Culturae Islamicae No.100
MEIS Series No.17



ギーラーン州の聖所 I

Sacred Places in Gilan Province I

清水直美

Naomi Shimizu

吉枝聡子

Satoko Yoshie

上岡弘二

Koji Kamioka

2014

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)



ギーラーン州の聖所 I

Sacred Places in Gilan Province I

清水直美

Naomi Shimizu

吉枝聡子

Satoko Yoshie

上岡弘二

Koji Kamioka

2014

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa(ILCAA)



Studia Culturae Islamicae No. 100

The Research and Educational Project for Middle East and Islamic Studies (MEIS) Series No. 17

Sacred Places in Gilan Province I

Naomi Shimizu

Satoko Yoshie

Koji Kamioka

Publisher : Research Institute for Languages and Cultures of
Asia and Africa (ILCAA)

Tokyo University of Foreign Studies

3-11-1, Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo, 183-8534, Japan

Printing : Sanrei Printing Co., Ltd.

2-32-1, Kanda Jinbo-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0051, Japan

©2014 Naomi Shimizu, Satoko Yoshie, Koji Kamioka

ISBN 978-4-86337-168-2

まえがき

本書は、2009年からギーラーン州内で行っている聖所の現状調査に関する報告書である。2009年の『テヘラン州の聖所』、2010年の『ゴム州の聖所』に続く、ギーラーン州内の聖所に関するモノグラフの第一巻にあたり、アースターネ・アシュラフィーエ郡、ソウメエ・サラール郡、フーマン郡（行政的にはフーマン郡とシャフト郡）の三つの地域を扱っている。第二巻はラーヒージャーン郡¹、ランゲルード郡、ルードサル郡²、第三巻はラシュト郡³とターレシュ郡⁴となる予定である。

これまで筆者は、テヘラン州、ゴム州、ガズヴィーン州で聖所の調査を行ってきた。これらは全てアルボルズ山脈以南の比較的乾燥した地域に属すが、今回は、アルボルズ山脈の北、カスピ海に面した湿潤な気候を持つギーラーン州での調査を試みた。北をカスピ海、南と西を山脈に囲まれたギーラーン州は、自然地理的・人文地理的にまとまった地域であり、イランの他の地域とは大きく異なっている。ギーラーンの人々自身が言うギーラーンの独自性は聖所においても見られるのかどうか、できるだけ多くのデータを集めることで確認してみたい。

これもまたギーラーンの人々自身が言うことであるが、ギーラーン州には多くの聖所が存在する。ほとんどの村に何らかの形で聖所が存在しているのではないかと感じるほどである。それらはタイル張りの美しいドームを持つ大規模な廟から、緑の布を結びつけただけの樹木や墓石まで様々であるが、人々の生活の中で崇敬の対象となり、信仰されてきたものである。

1345S.H./1965-6年にカスピ海岸地方における歴史的建造物の調査を行った **Manūchehr Sotūde** は、調査報告書 **Az Āstārā tā Astār ābād** の中で「大きく力強い木々のある場所はどこであれ、そこはギーラーンの人々の礼拝所(**parasteshgāh**)であり、巡礼地(**ziyāratgāh**)である」とギーラーンの樹木に対する信心を表現している。しかし、近代化・都市化の進む現代において、こうした素朴な信仰は急速に姿を消しつつある。

公的機関により保護された大規模な聖所から、地域の人々による地域の人々のための聖所まで、多様なギーラーン州の聖所の現状を記録し、聖所研究の一助としたい。

この〈聖所〉の調査を行うに当たって基本資料としたのは、ワクフ慈善庁 (**Sāzmāne Oūqāf va Omūre Kheirīye**) ギーラーン支部の持つリストである。

しかし、ワクフや寄付、支出の管理が主要な業務であるワクフ慈善庁は、基本的にワクフを持つ〈聖所〉以外の聖所については情報をほとんど持たない。そのため、文献資料や地図、現地の人々からの情報も利用してギーラーン州内にある聖所の調査を行い、リストを作成した。(表1)しかし、様々な理由から忘れ去られたり放棄されてしまった

1 行政区分としてラーヒージャーン郡とスィヤーフキヤル郡。

2 行政区分としてはルードサル郡とアムラシュ郡。

3 行政区分としてはラシュト郡、アンザリー郡、ルードバル郡、アースターラー郡。

4 行政区分としてはターレシュ郡、レズヴァーンシャー郡、マーサール郡。

り、消滅してしまった聖所や、外国人に対する警戒からあえて情報を与えなかったもの、筆者の調査不足によって見落としてしまったものなどもあることは十分に考えられる。第二巻、第三巻において新たな情報を加えることができるよう努力したい。

リストはワクフ慈善庁が使用している区分に従って記載されている。これは、イランの行政区分 *Shahrestān*⁵ にほぼ従っているが、一部、ワクフ慈善庁の管理の都合上、行政区分とは異なる部分もある。(地図 2、3)

本文中で使用される〈聖所〉の名称は、特に問題がない限り、ワクフ慈善庁のリストをはじめとする文献資料に従っているが、現地での名称と資料上の名称が異なる場合は、基本的に現地での名称を優先した。

『テヘラン州の聖所』でも指摘したが⁶、聖所を「エマームザーデ」と呼ぶのか「シャーザーデ」「シャー」「セイエド」「ズィヤーラトガー」とするのかに規則性はない。そのため、資料によって名称が異なることもままあり、また、現地でもいくつかの呼び名を持つことがある。現地での調査結果を重視するということから、資料との相違がある場合は本文あるいは脚注においてその旨を明記した。

エマームザーデの血統を示すシャジャレ (*Shajare*) も現地の情報と文献情報に差異が見られることも多い。そこで、現地での情報がある場合、本文中には現地の情報を、脚注においてその他の情報を記した。

〈聖所〉の所在は、市内にあり、住所が明確な場合には住所をしるしているが、町や村から離れた場所にあるものに関しては、最寄りの町あるいは村の名前で記載し、また、本文中で GPS 情報も併記した。GPS 情報については、基本的に、廟がある場合は、正面入り口前で測定するようにしているが、機材が小型のものであることから、多少の誤差があることはご寛恕いただきたい。それぞれの聖所の位置を示すため、簡単なものではあるが地図を作成、添付している。しかし、道路の敷設工事が急速に進んでいることから、実際の道路と地図上の道路情報が異なる可能性があるということをあらかじめ指摘しておく。

現在、インターネットの地図上で聖所の GPS データを公開するための作業を行っており、より精確に聖所の位置を確認できるようにする予定である。これは 2013 年度中の公開を目指して作業中である。

聖廟内についての記述に、ザリー (*zarīh*)⁷ あるいはサンドゥーグ (*ṣandūq*)⁸ の有無、墓石の形ザリーの形、アーイーネカーリー (*ā'īnekārī*)⁹、ギャッチボリー (*gachborī*)¹⁰ 有無など

⁵ イランの行政区分の一つ。Dehestān はいくつかの村によって構成され、bakhsh はいくつかの Dehestān によって構成される。いくつかの bakhsh と中心となる町 (shahr) 一つあるいは数市によって shahrestān が作られる。この単位は、古くからの地理的・文化的な共通性に基づくことが多い。

⁶ [清水・上岡 2009: 1-3]

⁷ 墓石を覆う柵。材質は木材や金属など。墓石の四方を覆うだけのものから、上部も覆い、単純な柵ではなく、格子に組み合わせたものも見られる。

⁸ 箱の意。木製で、墓石をすっぽりと覆う形のものがこの名で呼ばれることが多いが、金属製のものも見られる。

⁹ 鏡細工、ミラーワークの意。

¹⁰ 漆喰細工の意。

について触れているが、これらが聖所の収入の度合いを表すことが多いからである¹¹。ワクフ慈善庁は、管理下にある聖所の収支を公表することに否定的であるため、それぞれの聖所の収入の程度を知ることは難しいが、これらによって少なくとも、収入や訪れる人の程度を推し量ることができる。

調査では、廟内外の写真による記録と、〈聖所〉の立地、現状の確認、ズィヤーラト・ナーメやシャジャレ・ナーメの有無と内容、管理人や住民へのインタビューを中心に行った。できるだけ情報を集めることに努めたが、管理人や住民の不在などの理由により調査が不十分なままとなってしまった聖所もあることをお断りしておく。

日付は、A.H./西暦で表記する。イラン暦の場合はS.H.である。

本書の出版は、アジア・アフリカ言語文化研究所元所長の上岡弘二先生のご尽力によるものである。調査記録をまとめ、出版することを勧めてください、様々な面でご指導くださったことに改めて、心よりの感謝を捧げたい。また、本書の出版は、同研究所副所長の飯塚正人先生のお力添えによるものである。飯塚先生のご厚意に、心よりのお礼を申し上げたい。

調査にあたり、ギーラーン州内での調査許可を与えてくれたワクフ慈善庁ギーラーン支部、運転手と助手を務めてくれたチャパリヤーン氏とエフサーニー氏、聖所に関する様々な話を聞かせてくれたり説明してくれたりした人々、そしてまた村から遠く離れた聖所まで、女性一人を歩かせるわけにいかないと道案内をしてくれた人々に心より感謝を捧げたい。

この調査は、トヨタ財団の助成（助成番号D09-R-0540「イラン・カスピ海沿岸地方の聖所信仰と地域社会：その現状調査と基本情報のデータベース化」）により実施された。当初の予想を超える聖所の数に、予定期間内に州内全域の調査を終えることはできなかったが、非常に有益な調査を行うことができた。ここにその一部を報告する次第である。

最後に、日本とイランにおいて様々な形で支援して下さった方々、特に長期間にわたるイランでの研究生活を支えてくれた夫と家族には心よりの感謝を捧げたい。

¹¹ [清水・上岡 2009: 180] 聖廟の改修や新築を行う人々にとって、アーイーネカーリーで飾られたハラムと、エスファハーン型のザリーを持つことは大きな喜びである。これは、その華やかさと共に、大きな資金を必要とすることだからである。アーイーネカーリーは、材料費と手間賃が非常に高くつくことから、大規模に見られるところほど収入が多いと考えて問題ないと思われる。また、エスファハーン型のザリーも同様である。

ペルシア語の表記について

ペルシア語のカタカナ表記については、基本的に現代のイランで標準とされるペルシア語の発音に従っている。

例 コム → ゴム
ムハンマド → モハンマド

カタカナで表せない発音については、なるべく原音に近い音をあてるようにした。

例 Dokhtar → ドホタル
Qāsem → ガーセム

一部の言葉については、現代ペルシア語ではなく日本語で一般的に採用されている読み方を採用する。

例 Tehrān → テヘラン
Vaqf → ワクフ

ペルシア文字のアルファベット転写については、『岩波イスラーム辞典』に従うものとする。

目 次

まえがき	i
ペルシア語表記について	iv
1. ギーラーン州の概略	
(1) ギーラーン州の地理的特徴	1
(2) ギーラーン州の歴史	2
(3) ギーラーン州の言語・宗教	3
2. ギーラーン州の〈聖所〉について	
(1) 〈聖所〉の定義	4
(2) ギーラーン州の〈聖所〉の特徴	6
(a) 名称	6
(b) 対象となる人／もの	8
(c) 〈聖所〉で行われること	10
(d) 廟建築上の特徴	12
(e) 〈聖所〉の管理に関わる人々	14
3. ギーラーン州の〈聖所〉	
(1) アースターネ・アシュラフィーエ郡	16
(2) ソウメエ・サラール郡	43
(3) フーマン郡	
(3)-1 フーマン郡	70
(3)-2 シャフト郡	88
4. ギーラーン州の聖所をめぐって	
(1) 〈聖所〉に埋葬されている人々	103
(2) 〈聖所〉の種類	105
(3) 〈聖所〉にまつわる伝承	106
おわりに	108
参考文献	110

資料編

図 1 : イラン全図	115
図 2 : ギーラーン州行政区分図	116
図 3 : ワクフ慈善庁管理区分図	117
図 4 : Āstāne Ashrafīye (Dehestān)	118
図 5 : Şoume'e Sarā (Dehestān)	119
図 6 : Fūman (Dehestān)	120
図 7 : Āstāne Ashrafīye (全体図)	121
図 8 : Şoume'e Sarā & Fūman (全体図)	122
地図① : Āstāne Ashrafīye ①	123
地図② : Āstāne Ashrafīye ②	124
地図③ : Şoume'e Sarā & Fūman ①	125
地図④ : Şoume'e Sarā & Fūman ②	126
地図⑤ : Şoume'e Sarā & Fūman ③	127
表 : ギーラーン州の聖所	128
写真資料	141

ペルシア語まえがき

付録 CD 写真頁

1. ギーラーン州の概略

(1) ギーラーン州の地理的特徴

ギーラーン州は、西と南をアルボルズ山脈に、北をカスピ海に囲まれ、自然地理的・人文地理的に独自性の強い地域である。

面積は 14,711 平方キロメートル。国土の 0.9 パーセントに当たり、全国的に見ても小さな州である。それに対して人口は 248 万人で、人口密度は 177 人/平方キロメートルと、テヘラン州、アルボルズ州に次いで全国で三番目に高い。人口の 40 パーセント以上が州都であるラシュトとその周辺に集中している。

高い山に囲まれていることから他地域との交通は限られている。セフィードルード川沿いの街道により南西のガズヴィーン州やザンジャーン州と結ばれ、カスピ海岸沿いの街道により東のマーザンダラーン州と、ハシュトパル・ハルハール街道、アースターラー・アルダビール街道によりアルダビール州と結ばれている。ギーラーン州南部高地にあるデイラマーンやエシュケヴァルは、交通が徒歩あるいはロバやラバに限られていた時代には、ギーラーン州の平野部よりもアルボルズ山脈を越えてガズヴィーンとの繋がりが強かったという。いずれにせよ、物や人の大量の移動が難しいことが、歴史的に、ギーラーンの独自性に影響を与えてきたといえる。

また、現在、カスピ海（ペルシア語では *Daryāye Khazar*）に面した主要港にアンザリー港があり、カスピ海周辺諸国との交易が行われている。

カスピ海に面していることから、全州の 50 パーセント以上を占める平野部では温暖多湿な気候であり、年間平均気温は 16～20 度、年間降水量はラシュト市で 1507 ミリメートル、アースターラーで 1210 ミリメートル、マンジールで 177 ミリメートルである¹。山間部は森林に覆われているが、デイラマーン、エシュケヴァルといった高地では森林は途切れ、比較的乾燥した気候となる。

ギーラーン州で最も重要な河川は同州中央部を流れ、全長約 650 キロメートルに及ぶセフィード・ルード川である。上流のマンジールにダムが造られており、農業用水としても活用され、州中央部の灌漑ネットワークの重要な水源となっている。また、川に沿って街道が引かれ、アルボルズ山脈以南への主要街道として歴史的に知られている。

主要な産業は農業・牧畜である。平野部では水田が農地の多くを占め、家禽・牛が飼育される。米以外の農産物としては、茶、タバコ、野菜が見られる。ギーラーン州東部では柑橘類の栽培も盛んである。山間部では、果樹栽培と牛と羊の飼育、マンジールからルードバルにかけてはオリーブの産地として知られる。高地では、小麦や大麦、牧草、果実、葉草類が多く栽培され、羊が飼育される。海岸部においては漁業が行われ、ギーラーン州内だけでなく、テヘランなどにも出荷されているが、近年は養殖も盛んに行われている。

¹ 1374/1995-6 年の記録。[Farhangī : 18]

16の *shahrestān*²を持つが、ターレシュ（アースターラー、ターレシュ）、西部地域（アンザリー、ソウメエ・サラ、フーマン、シャンドルマーン、レズヴァーンシャフル）、東部地域（ラシュト、アースターネ・アシュラフィーエ、スィヤーフキヤル、ルードバール、ランゲルード、アムラシュ、ルードサル）に大きく分けられる。

（2）ギーラーン州の歴史

ギーラーン州におけるイスラーム以前の歴史は、山間部に多く残る先史時代の遺跡や、ギリシア人の記述、アヴェスターにおける記述などに残されている。**Caspian**、**Cadusii**、**Amard**、**Dailamites** といった諸族がギーラーン各地に居住していたことが知られており、メディア、アケメネス朝、サーサーン朝時代には、これらアルボルズ以南の諸勢力の直接支配を受けることなく、緩やかな関係を保ち続けた。

こうした状況は、アラブ軍のイラン高原侵攻後も大きく変化することはなかった。カスピ海沿岸地方は、アラブ軍の直接支配下に置かれることなく、貢納は行うものの、政治的には独立した状態が長く続いた。そのため、ギーラーンのイスラーム化はアルボルズ以南に比べて遅れることになった。

9世紀から10世紀にかけて、ギーラーンのイスラーム化が徐々に進む。

ギーラーンの高原部（現在のルードバールからデイラマーンにかけての地域）に住み、傭兵として各地で活躍していたダイラム人、沿岸部に居住していたギーラク（**Gilaki**）人は、次第にザイド派イスラーム化していった。864年、ハサン・イブン・アリーの子孫とされるハサン・イブン・ザイドがアラヴィー朝（ザイド朝）を樹立、928年にサーマーン朝に敗北するまでマーザンダラーンからギーラーン東部にかけて勢力を持ち続けた。アラウィー朝に仕えていたダイラム人は、12イマーム・シーア派化し、勢力を拡大、10世紀にはブワイフ朝を打ち立てることとなった。ブワイフ朝の滅亡以降は、地方諸勢力の支配が続き、セルジューク・トルコ、イルハン朝などは、ギーラーンの直接支配を行わず、半独立状態が続いた。

セフィード・ルード川以西ターレシュでは、ハンバル派が布教活動を行い、勢力を広めていった。

13世紀中頃には、シャーフィイー派のイスハーク家が西ギーラーンで勢力を持っていたが、オスマン朝とサファヴィー朝の争いの影響を受けるようになり、1592年、最終的にサファヴィー朝の直接支配を受けることになった。それに伴い、ギーラーン全域での12イマーム・シーア化が進んだ。

サファヴィー朝末期、政治的な混乱が続く中、ロシアがカスピ海南岸に対して影響力を強め、遠征軍の派遣を行った。ガージャール朝政権がテヘランに成立した後、ラシュトやアンザリーといったギーラーンの都市はロシアに占領された。

² イランの行政区分の一つ。州（*ostān*）の下位区分となる。

1919 年代、ミールザー・クーチャク・ハーンを指導者とするジャンギャリー運動がギーラーンで起こり、立憲革命のため、ガージャール朝専制政治の打倒を目指した。これを機にイランへの影響力を強めようとするロシアやイギリスとも戦い、ソ連の支持を受けることでギーラーンの政治的独立を確保した。しかし、1921 年にソ連とガージャール朝との間に友好条約が結ばれ、ギーラーンは再びイラン中央政府の支配下に置かれることとなった。

(3) ギーラーン州の言語・宗教

言語

ギーラーン州では、公用語であるペルシア語の他に、北西イラン語の一つであるギーラキー（山間部の方言ガーレシーを含む）、ターレシー、ターティーが話されている。どの言語も方言（lahje）が多く存在する。

ギーラキー：バンドル・アンザリー、ソウメエ・サラ、フーマン以東。セフィード・ルード川を境に、西ギーラキー、東ギーラキーに分けられる。その他に、山間部で話されるガーレシーがこのグループに属する。

ターレシー：レズヴァーンシャフル、マーサール、シャンデルマーン、フーマン以西、アゼルバイジャン共和国の南部までで話されている。

ターティー：ルードバルの西部山間部で話される。

ターティーを話す村は、経済的にはガズヴィーン州との接点が多いが、ターティーを話す故に自分たちはギーラーンの一部だ、と言語的一体感を強調する人も多い。しかしその一方で、日常的にイランの公用語であるペルシア語を話し、ギーラーン地方語を話さない若者も増えている。

宗教

現在はギーラーン州のほとんどの住民が、イランの国教に位置付けられる十二イマーム・シーア派の信徒である。ラシュト市内にアルメニア正教会が存在するが、ワクフ慈善庁によると、以前は教会が設けられるほどアルメニア正教徒が多かったが、現在、国外やテヘランへの移住により、ギーラーンにはキリスト教徒はほとんどいなくなっているとのことである。ユダヤ教徒もほとんど全くいない。

ギーラーンの歴史の中で触れたように、ギーラーンのイスラーム化が始まった頃に、東部でザイド派が、西部でハンバル派（後にシャーフィイー派）が勢力を有していたことが、ギーラーン全体がサファヴィー朝下で十二イマーム派化した後も人々の信仰に影響を残したと言われる。特に、聖所の数にそれは表れている。聖所の数を見ると、イラン東部に圧倒的に多く、セフィード・ルード川を越え、西へ行くほど数は減っていく。ターレシュには少数ではあるがシャーフィイー派スンニー派信徒が残っているとされ、聖所の数が他のシャフレスターンに比べると非常に少なくなっている。

2. ギーラーン州の〈聖所〉について

(1) 〈聖所〉の定義

これまで、テヘラン州、ゴム州で行ってきた調査の報告書の中で、〈聖所〉について、「地域住民、あるいは地域住民を超えて信者が「聖なる場 (jāye moqaddas)」 という共通認識を持ち、信仰に基づく行為を実施するあるいは実施されていた場」と定義したが³、地域住民あるいは地域を越えて人々が「聖なる場」という認識を持つ場、とはどのような場所なのかという点、実は曖昧である。

これまでの調査では、「エマームザーデ」と呼ばれる、エマームの子孫とされる人物や宗教的な偉人達の墓廟と、樹木や泉など、いわゆる民俗的な信仰対象となっているものを中心に調査を行ってきた。しかし、上にあげた定義に従うなら、礼拝を行うマスジェドやナマズハーネ、アーシューラーに関連する行事を行うホセイニーエヤテキエなどもその範疇に含まれてくるように思われる。では、これらの施設は〈聖所〉とみなされるのであろうか。上岡はイランの民間信仰について、「〈聖所〉を主な場として行われる、信者とひとを超えたものとのコミュニケーションの実態、あるいは信者がその舞台を中心に自分を超えたものに向けるパフォーマンスの総体と考えていただくことにする」と述べているが⁴、そうしたコミュニケーションあるいはパフォーマンスの実践の場が全て〈聖所〉であると定義できるであろうか。

この問題を考えるため、ギーラーン州でよく見られる事例について検討してみたい。

セイエドに対する崇敬

ギーラーン州各地の墓地でしばしば見られる光景に、セイエドあるいはセイエデに対する信心がある。墓地の中に並ぶ墓の中の、ある特定のセイエド (Seyyed) あるいはセイエデ (Seyyede) の墓が鉄あるいはアルミの柵で囲われ、柵を緑の布で飾り、ダヒールを結び、ろうそくを灯した跡が見られるのである。(写真 1~6)

これらは、一見すると、被葬者の家族が特に手厚く墓参を行っているのかとも思えるが、土地の人々にインタビューをしてみると、必ずしもそうではないことが見えてくる。

こうした墓の被葬者は、最近亡くなったばかりの人が多く。どのような人物であったか、いつ、どのようにして亡くなったか、家族が今どうしているのか等、現地の人に尋ねると、それほど遠い昔の話ではないことから、すぐに詳細な情報を得ることができる。共通しているのは、セイエド (あるいはセイエデ) であることと「ハージャト (Hājat) ⁵を与えてくれる」ということである。それ以外には、亡くなった時の年齢もまちまちであり、死因

³ [清水・上岡 2009 : 1]

⁴ [上岡 : 255]

⁵ イランの他地域ではシャファー (Shafā) と呼ばれることが多い。[清水・上岡 2009 : 6]

も様々である。しかし、ハージャトを期待して、あるいはセイエド／セイエデに敬意を表するため、家族以外の人々もその墓に詣で、以下の行為が見られるのである。

- ・墓石に触れ、ファーテヘ（Fāteḥe）を唱える⁶
- ・ダヒールを結ぶ
- ・ろうそくを灯す

こうしたセイエド／セイエデの墓は、自然発生的に人々の崇敬の対象となっていることが多い。そのため、地域の人々の間でもエマームザーデのようなく聖所>であると明確には認識されていないケースもあれば、<聖所>として認知され、積極的に周囲にアピールされているケースもある。さらに多くの事例を集める必要があるが、これらの地域の人々の信心の対象となっているの墓も、<聖所>の一つであると見なすことができるであろう。

これら<聖所>となる墓はセイエド／セイエデのものであり、それ以外の人物の墓は選ばれない。ギーラーン州内で筆者が見た限りではあるが、人々の崇敬の対象となる墓はほぼ間違いなくセイエド／セイエデの墓に限定されている。生前、どんなに良い人であったとして、死後、信心の対象となることはほぼない。このことから、信心の対象として、血統による選別が行われていることは明らかである。

他にも多くあるセイエドたちの墓の中から、なぜこのセイエド／セイエデが選ばれたのか、という問いに対しては、「若くして亡くなったことに対する哀悼の意を表すため」「非常に立派な人物であったことに敬意を表すため」という回答と同時に、対象となるセイエド／セイエデが「ハージャト」を与えてくれるからという回答が多かった。すなわち、「ハージャト」を与えることができるのは、全てのセイエド・セイエデではなく、その中でも少数のセイエド／セイエデであると考えられているのである。つまり、いくら立派な人物であったとしても、セイエド／セイエデ以外の人物はハージャトを持たず、崇敬の対象となりにくい。

また、ろうそくを灯すこと、ファーテヘを唱えることは、家族の墓参の折にも行われる行為であるが、ダヒールを結ぶことは自分の悩みや困難の解決を願って行われるものであり、通常墓参の中で行われることはない。ハージャトを与え、困難の解決を行うというのは、特別な人物だけが持つ力だからである。家族が夢に現れ、道を示してくれたという話は多いが、それらはハージャトと見なされていない。

<聖所>とは、そこを訪れることにより得られるハージャトあるいはシャファーが期待される場所とすることができる。<聖所>は「人々が、人を超えたものに向けて行うパフォーマンス、あるいは自分を超えたものとのコミュニケーションの場」であることに、「それを通して何らかの力を得ることが期待される場」を加えることができるように思われる。

⁶ アラビア語では Hamd。ゴルアーン（アラビア語のクラーン）の開扉の章。イランでは、墓でこれを唱えると亡くなった人の来世での徳が高まるとされるため、墓参の際には被葬者の来世での幸福のためとして、これが唱えられる。こうしたことから、イランの墓地には、ファーテヘを唱えることを商売しているセイエドも見られる。

(2) ギーラーン州の〈聖所〉の特徴

(a) 名称

・Boq'e/ Maqbare/ Ārāmgāh/ Āstāne

聖所に対する名称としては、『テヘラン州の聖所』でも簡単に触れた通り⁷、エマームの子孫と伝えられる人物が葬られているとされる場合、「エマームザーデ (Emāmzāde)」と呼ばれることが多い。しかし、ギーラーン州では、この名称で呼ばれる聖所は非常に少なく、多くの廟は「ボグエ (Boq'e=廟)」と呼ばれる⁸。

被葬者はセイエド (Seyyed) あるいはセイエデ (Seyyede)、すなわち、預言者ムハンマドの子孫とされることが多い。地域の人々によるとこれらの人物は「セイエド (セイエデ) であってエマームザーデではない」ため、その人物のための廟もエマームザーデではなくボグエと呼ばれる⁹。エマームあるいはエマームザーデとの関係を示すシャジャレ (Shajare=血統) がはっきりしている場合はエマームザーデと呼ばれたり、表記されることもあるが、地域の人々の間ではボグエと呼び習わされる聖所も多い。「ボグエ」は、被葬者の出自に関係なく、どのような人物の墓所に対しても使用される。

ボグエはセイエドあるいはセイエデ、シェイフ、ピールなど、人々により敬意を払われる人物の墓を覆う、ある程度の規模の建物に対して使用され (写真7)、墓石を覆う小屋のようなごく小さな建物の場合は、マクバレ (Maqbare)¹⁰やアーラームガー (Ārāmgāh)¹¹と呼ばれるようである。(写真8~9) 調査を行っている、「あれはマクバレで、ボグエじゃないよ」「そこには (ボグエもマクバレでもなく) ガブレスターン (Qabrestān)¹²しかないよ」などとと言われることが多く、人々の間では、ボグエ>マクバレ・アーラームガー>ガブレスターンという序列があると推測できる。墓石そのものは、「サンゲ・ガブル (=墓石)」と呼ばれる。

アースターネ¹³は「敷居、入り口」を意味し、そこから転じて聖域を指す。ギーラーン州でアースターネと言うと、アースターネ・アシュラフィーエにある Jalāl al-Dīn Ashraf 廟を指すことが多いが、他の聖所を指す際にも用いられることがある。

ジャクタージーは、ギーラーン東部ではアースターネが、中部から西部にかけてはボグエという名称が用いられるとしている。また、ギーラーン西部のスニー派地域では

7 [清水・上岡 2009: 1-4]

8 ギーラーン州各支部で入手したリストによると、ギーラーン州本部事務所の全州リストではエマームザーデ、各支部のリストでは、ラーヒージャーン支部はエマーム ザーデ、他の支部はボグエを採用している。ギーラーン州東部、ルードサル郡では、ワクフ慈善庁のリストではボグエと記載されているが、地域の人々は基本的に、エマームザーデという呼称を使用している。

9 「エマームザーデ」は被葬者の属性と場所の双方を示すが、「ボグエ」は場所のみを指す。

10 アラビア語起源の言葉で「墓」の意味。ギーラーン方言では「būqā」。

11 ペルシア語で「墓」の意味。

12 ペルシア語で「墓地」の意味。

13 ギーラーン方言では「Āstūne」。

Torbat¹⁴という名称も用いられるとしている¹⁵。本書で報告する聖所はギーラーン州中央部のものであることから、ボグエ、マクバレ、アーラームガーと呼ばれるものがほとんどである。

・ Mazār/Āqādār

ギーラーン州では、まえがきでも述べたように樹木への信心が多く見られる。

マザール (Mazār) とは、「アラビア語で〈訪れるべき場所〉を意味し、そこから通例、参詣の対象となる聖者の墓、聖者廟をさすようになった」¹⁶のものであるが、ギーラーン州ではマザールと言った場合、聖者の墓や廟ではなく、人々の信心の対象となっている樹木を指すことが多い。崇敬されるべき人物が埋葬されているとされるケースもあれば、そういった伝承を持たず、樹木そのものがハージャトを持っていると説明されるケースもある。このような樹木は Āqādār と呼ばれることが多い。

その対象となる樹木の種類としてはアーザード (āzād)¹⁷、チェナール (chenār)¹⁸、シエムシャード (shemshād)¹⁹、バルート (balūt)²⁰サルヴ (sarv)²¹が多く、その他に、その木の周囲に同じ種類のものが見られないなど珍しい木が信心の対象となる。(写真 10)

現在もマザールと呼ばれる樹木はギーラーン各地に見られるが、樹木単体ではなく、根元に墓石やザリー、サンドウグが置かれていたり、樹木が何らかの理由で失われてしまった代わりに、新しく墓石や廟が置かれていたりするものも見られる。

また、名前を持たず、「マザール」とだけ呼ばれることも多かったが、近年、何らかの名前を新たに与えられたマザールが増えてきている²²。

一方、名前を持たず、「デラフト (derakht=木)」とだけ呼ばれたり、そこに埋葬されているとされる人物の名で呼ばれたり、「マザール」「アーガーダール」とは呼ばれない木も見られる。

・ Āqā Seyyed

アーガーは男性に対するトルコ語起源の敬称の一つで、本来は「主人」の意味。女性に対しては、Āqā Seyyede²³。

¹⁴ ギーラーン方言では Turba。

¹⁵ [Jaktājī: 20]

¹⁶ [小松久夫他 2005:]

¹⁷ ケヤキの一種で、コーカサス地方からカスピ海岸にかけて多く見られる。

¹⁸ プラタナス。ギーラーン州にはそれほど多くなく、アルボルズ山脈の南側に多い。

¹⁹ ツゲ。ギーラーン方言では「Kīsh」。

²⁰ 樅。ギーラーン方言では「māzū」。

²¹ 糸杉。

²² 文献等から被葬者の名前を特定するか、地域の人々の夢に被葬者が現れて名前を明かすという形を取って名前が選ばれることが多い。

²³ 実際には Seyyede のみの場合の方が圧倒的に多い。

「廟」「墓」を意味する「ボグエ」「マクバレ」等を省略し、「アーガー・セイエド（ギーラーンの発音ではアーセイエド）某」と被葬者とされる人物の名で＜聖所＞を呼び表すことも多い。他の地域でも、アーガー、セイエドは聖所の名称として用いられることがあるが、ギーラーン州ではこの二つを組み合わせて使用することが多い。

(b) 対象となる人／もの

・ *Āqā Seyyed/Emānzāde/Pīr/Darvīsh/Sheikh/Hāj*

ギーラーン州で圧倒的に多いのは、「セイエド（女性はセイエデ）」と呼ばれる、イスラームの預言者ムハンマドの子孫とされる人物が埋葬されているとされる場所である。「シャジャレがはっきり分からないから」とエマームザーデではなく、アーセイエドなのだと説明される被葬者が多いが、シャジャレが存在していてもエマームザーデと呼ばれないセイエドも多い。

その他に、ピール、ダルヴィーシュ、シェイフ、ハージなど、イスラーム的に敬意を払われる人物も信仰の対象となる。出自がはっきり分かっている場合もあれば、名前すら明らかでないケースも見られる。

・ *Derakht*

イランの他の地域でも見られるが、巨木、変わった種類の樹木への信心はギーラーン州の聖所信仰の特徴の一つであるとされる。信心の対象となっている木の一部は名前を持ち、木の傍らあるいは下に埋葬されている人物に対しての信心であると説明される。

時に根元に墓石が置かれているものが見られるが、墓の傍らに木を植えたのか、木の傍らに墓を置いたのか明らかではないことも多い。（写真 11）

また、ボグエの傍らに立つ木に結ばれているダヒールも見られるが、これもその樹木に対する信心故なのか、ボグエの傍らに立っているからダヒールが結ばれるのか明らかではないこともある。信心とは全く関係なく、ちょうど良い木があるので結んでいるだけと説明されることも多い。（写真 12）

・ *Cheshme/Chāh*

飲用水として使われる²⁴泉（*cheshme*）、井戸（*chāh*）が人々の信心の対象となっているもの。干ばつの年や地震の後に地下水脈が枯れてしまった後にも涸れない、その水を飲むと病気を治してくれるなどと信じられている。そのため、水が涸れてしまった場合、人々の信心は失われてしまうことが多い。（写真 13）

一部の井戸は、12代目エマーム・マフディーと関連づけられている。（写真 14）

²⁴ ギーラーン州の平野部では、川の水など表流水は汚れているからという理由で飲用にはほとんど用いられず、農業用水として使用される。飲用水は井戸を掘るか泉の水を使用する。

・ Saqqākhāne

共同の水飲み場。

水が豊富なギーラーンでは、アルボルズ以南の乾燥地帯に比べるとサッカーハーネの数は少ないが、マスジェドやバーザールなどに設けられ、その一部は信心の対象となっている。(写真 15)

・ 岩窟／岩／岩場

大きな岩、岩の割れ目、岩窟等が聖所として信心の対象となる。ギーラーン州ではこの他に、特に対象となる岩などのない、石の散らばるだけの岩場も＜聖所＞と見なされることがある²⁵。これは、特に夏當地に多いとされる。(写真 16)

・ Masjed

マスジェドそのものは本来、礼拝のための建物であり、それ以外の信仰の要素が入り込む余地はないと思われるが、イランではミンバルや窓枠にダヒールを結びつけて祈願を行うという行為が見られることがある。(写真 17)

イラン全体で見ればごく少数のマスジェドでのみ見られる習慣であるが、なぜそのマスジェドなのかという疑問に対しては、明確な説明は得られていない。地元の人たちは「これはダヒールではなくて、ハージャトを願っているだけ」と言うことなので、これも聖所とした。

・ Qadamgāh

預言者ムハンマドやエマーム達、初代エマーム・アリーの異母弟アボルファズル、ヘズルといった宗教的に特別な地位を持つ人々の足跡とされるガダムガーはイラン各地に見られるが、ギーラーン州にはほとんど見られない。

・ Qor'ān

古いゴルアーンが崇敬の対象となる。ギーラーン州内には何カ所か、ゴルアーンを信心に対象とする＜聖所＞が見られるが、現在は信心の対象となるゴルアーンは失われているところがほとんどである。現在では、その多くの聖所で、ゴルアーンが収められていたあるいは置かれていた場所にザリー等が設けられており、一見すると墓を中心とした聖所と異ならない。

・ Qatlgāh

エマームザーデやセイエドなど、人々の崇敬の対象となる人物が殺害されたとされる場所。墓所とは別に、一種の聖所として人々の信心の対象となっている。人の願いを叶える

²⁵ [Jaktājī : 56-61]

何らかの力が存在すると見なされることも多く、その場で何らかの信心を示す行為が見られることも多い。

(c) <聖所>で行われること

聖所で見られる「ひとを超えたものとのコミュニケーション」であるが、ギーラーン州で見られる行動も他の地域で見られるものとそれほど変わらない²⁶。ここでは、他の地域ではあまり見られない行為を中心に紹介する。

・ダヒールを（釘に）結ぶ/南京錠あるいは安全ピンをかける

ギーラーンに限らず、聖所で最も多く見られる行為の一つがダヒール（dakhil）を結ぶことである。墓石を覆うザリーや木の枝に結ばれることが多いダヒールであるが、木にダヒールを結ぶときにギーラーンでは、木に釘を打ち込み、その釘にダヒールを結んでいるのが多く見られる。（写真 18）なぜ釘を打つのかについてははっきりとした答えは得られず、「神聖だという木に釘を打ち込む行為自体がおかしい」という人もいたが、ギーラーンに多いアーザードの木は幹がまっすぐで枝が低い位置には少ないためにダヒールを結ぶ場所が見つけにくく、その結果、釘を打たざるを得なかったのではないかという意見もある。

また、廟内のザリーやサンドゥグ、その他の場所に南京錠がかけられていたり、安全ピンが下げられていたりする。ダヒールを結ぶことを含め、これらは皆、困難をほどくことを願う人々の、一種の身代わりあるいは代理を意味しているとされる²⁷。

・小石を釘に乗せる

ダヒールを結ぶために木の幹に釘を打つという行為が見られるが、こうして幹に打ち付けられた釘の上に小石が載せられていたり、木の幹の隙間に小石が挟み込まれているのを目にすることがある。これは、一種の占いとすることで、石が落ちなければ願いが叶うとのことであるが、特に意味はないと説明する人もいる。（写真 19）

・シムシャードの小枝を捧げる

他の地域ではほとんど見られない習慣の一つに、シムシャードの小枝を聖所に捧げるという行為がある。廟の入り口、手すり、ザリー、廟周囲に立つ木、あるいは神聖な木と見なされている木そのものにシムシャードの小枝を差し込んだり結びつけたりする。

なぜそうするのかという問いに対しては、「昔からそうしているから」という回答が多かったが、「シムシャードは常に緑の葉をつけているから生命のシンボルなのだ」という説明も見られた。人が多く訪れる場所では、枝が頻繁に取り替えられるが、人が余り訪れな

²⁶ [清水・上岡 2009 : 5-9]

²⁷ [Dādmehr : 60]

い廟だと枯れた古い枝がそのまま残っていることも多い。(写真 20～21)

・動物の角を捧げる

ギーラーン州の山間部、特にルーダサル山間部からデイラマーンにかけて見られる行為に、動物、野生の雄山羊や雄羊、羚羊の角をボグエに捧げるというものがある。廟の柱や軒先、廟の周囲に立つ木につり下げたり結びつけたりして飾るものである。これは、これらの動物の力に対する古い時代の信仰のなごりとも考えられている²⁸。(写真 22～23)

・ろうそく (sham') やランプ (cherāgh) を灯す

これはイラン国内の他の地域でも広く見られる。(写真 24～25)

なぜろうそくやランプが灯されるのかは明らかではない。ゾロアスター教における光と闇の戦いを意味するという意見もあるが、決定的な根拠とはなり得ていないようである。しかし、ノウルーズのソフレにもろうそくが飾られることもあり、古いイランの伝統との関連が指摘されている²⁹。

・寄付 (ehdā)

聖所に対する寄付には様々なものがある。聖所で使用される道具類やランプの燃料、聖所を飾る布類などの他、お茶の葉や砂糖などの消耗品も見られる。廟内のアラムなどに女性のスカーフが結びつけられているのが見られるが、これはダヒールではなく寄付である。

・アラム・バンディーとアラム・ヴァーチニー

また、聖所、特にボグエは、シーア派最大の宗教行事アーシューラーに関連する行事の中心となることが多い。地域の人々が集まり廟内でロウゼ・ハーニー (rouze khānī)³⁰やノウヘ・ハーニー (nouhe khānī)³¹を行い、廟からダステ (daste)³²がスィーネ・ザダン (sīne zanī)³³やザンジール・ザダン (zanjīr zanī)³⁴を行いながら通りを練り歩く。地域のボグエはダステの出発地となり、大規模なボグエは近隣地域からのダステの集結地となる。また廟に集まった人々にはナズル (nazr)³⁵の食事がふるまわれる。

ダステの中心の一つとなるのがアラム ('alam³⁶)である。「旗」を意味し、本来は数メートルになる長い木の棒に布を結びつけたものとされるが、現在のテヘランでは、金属で

²⁸ [Jaktājī : 61]

²⁹ [Dādmehr : 59-60]

³⁰ カルバラーの悲劇を独特の節回しで吟唱すること。ロウゼはカルバラーの悲劇の物語。ハーニーは読むこと。

³¹ ロウゼ・ハーニーとほぼ同意。ノウへの本来の意味は泣くこと、嘆くこと。

³² 行進のための隊列を作ったグループ。

³³ 悲しみを表現するため掌で胸を叩くこと。

³⁴ 束にした鎖で身体を打ち、エマーム・ホセイーンとその一統の苦しみを共有すること。

³⁵ 願掛けに伴う寄進。[清水・上岡 2009 : 8-9]

³⁶ tūq, tūgh, tūq, tūgh と呼ばれる。

作られた横長のものを指す。地域の力自慢の若者がこれを持ち、ダステの先頭あるいは中央に立って行進する。

ギーラーンにおける伝統的なアラムは、3メートルほどの木の棒の先に金属製の飾りを取り付けたものである³⁷。この伝統的なアラムや新しいアラムを中心とした行事が、ギーラーンでは伝統的に行われていた。(写真 26～27)

・‘alam bandī

それぞれのボグエなどで日を決めて行われる伝統的行事。モハッラム月の第一週に行われることが多い。

決められた日に、何か祈願 (niyat) のある人達が、普段は廟内に置かれているアラムを廟の外に出し、そこに緑や色とりどりの布を結ぶ。その際に、ロウゼ・ハーニーやノウヘ・ハーニー、スィーネ・ザダンを行ったり、集まった人々にナズルを振る舞ったりすることもある。布を結ばれたアラムは儀式が終わる日まで再度廟内に置かれる。

・‘alam vāchīnī

ヴァーチーニーとは「開く」を意味し、その意味通り、結ばれたアラムを開く行事。廟により行われる日は異なるが、アラム・バンディーから10日後くらいに行われることが多いようである。

アラムに布を結んだ人々や地域の人々などが集まり、羊などを犠牲に捧げ、ナズルの食事を作り、昼食として配る。その後、廟から布の結ばれたアラムを出し、廟の前に広げられた敷物の上に横たえ、結ばれた布を開いていく。

アラム・バンディーもアラム・ヴァーチーニーも、以前は多くのボグエで行われていたが、現在は行わなくなっているところもある。

(d) 廟建築上の特徴

ギーラーン州は多雨多湿で森林資源が豊かなことから、木材と土壁を利用した建築が多い。しかし、その多雨多湿故に建物が長く残りにくく、改修や立て替えが頻繁である。

・ Eivān

ギーラーン州の独立した廟を持つボグエの特徴の一つにエイヴァーンがあげられる。

崇敬の対象となる墓やそれを覆うザリーヤサンドゥグが置かれた部屋の回りに、外に向かって開いたテラスが作られる。テラスには手すりが設けられ、床には敷物が広げられ、クッションなどが置かれてそこでくつろぐことができるようになっていることも多い。ギーラーン州の伝統的な民家にも多く見られる形式でもある。

改修が行われたり新しく立て替えられたりした廟の一部には、エイヴァーンの外周を壁

³⁷ ジャクタージーはその一例として、双頭の竜の飾りをあげている。[Jaktājī : 101]

で囲い、エイヴァーンを室内サロンへと変更しているものも見られる。

また、アルボルズ以南で見られるような大きなアーチを持ったエイヴァーンは、ギーラーン内では、近年建てられた大規模なボグエを除いてはほとんど見られない。(写真 28～29)

・墓地 (Qabrestān)

墓地を持たない聖所、特にエマームザーデやボグエは少ない。村や町の中心に廟がある場合でも墓地を伴っていることが多い³⁸。

・Masjed

ギーラーンの聖所はマスジェドとの関係が強い。その関係は以下のようなものである。

- ・同じ敷地内に別々な建物を持つ。(写真 30)

- ・マスジェドと壁を接して一連なりの建物として聖所が置かれる。入り口は別々に設けられていることが多い。(写真 31～32) 別々の建物であったものが拡張工事などでつながったものもあれば、昔からこのような建物であったというものもある。

- ・マスジェドの一角に壁やパーティションで区切って聖所が設けられる。入り口は別々に設けられている場合もあるが、大多数は建物の中で行き来ができるようになっている。(写真 33) 以前は別々な建物だったのが、マスジェドを拡張した際に取り込まれたというものもあれば、最初からマスジェドの一角に聖所が置かれていたというものもある。

- ・マスジェドの中に、空間を区切ることなくザリーや墓石がそのまま置かれている。

テヘラン州、ゴム州、ガズヴィーン州で行った調査では、このようにマスジェドと一緒に建つ廟の一部は、廟が先にあり、廟の改修や改築等にかかる費用の支援を得るため、関係機関に対してマスジェド建設を理由にしていたというものも多かった³⁹。しかし、ギーラーン州の場合、もともとマスジェドと聖所の両方があったというものも多く、金銭的な理由だけでこのような形になったのではないと思われる。

・サロン

廟内に、休息したり礼拝を行ったりすることができるような部屋が設けられていることがある。また、ギーラーンでは、ハラムを取り囲む回廊に絨毯が敷き詰められ、ポシュテイー(クッション)が置かれ、くつろぐことができるようになっている廟もある。(写真 34)

資料によってはこうした部屋を「マスジェド」としているが、部屋の用途を鑑みると、マスジェドとするには抵抗がある。そのため、これらの部屋を一部の資料でも使用されている「サロン」とした。礼拝を行うことが主要な目的とされている部屋についてはそのよ

³⁸ [Jaktājī : 20]

³⁹ [清水・上岡 2009 : 181]

うに記載した。

・壁絵

ギーラーン州の東部、ラシュト郡以東、特にラーヒージャーン郡とランゲルド郡のボグエに見られるものに、廟の壁面いっぱい描かれた宗教的な絵画がある。

題材は、預言者ムハンマドやイマーム・アリーに関する物語から採られたものや、イマーム・フサインのカルバラの悲劇に関するものなど様々である。

廟の外壁や内壁に漆喰を塗り、絵の具で描いているため、漆喰が落ちると絵画も破損してしまう。現在は、破損した絵画を修復することなく新たに漆喰を塗ったり、廟を改築する際に絵画を再現しないままにしたりということが多く、記録には残っていても現存しない壁絵も多い。(写真 35-36)

古い宗教画が失われていく一方で、以前のように壁いっぱいではなく、小規模に宗教的な絵画が見られる新築の廟も見られる。

・その他

ギーラーン州の平野部では、廟の前に一本の大きな木が立っていることが多い。これについては、廟の関係者などによって日陰を提供するためと説明されている。

訪れる人に水を提供するための井戸あるいは泉も多くの廟に備わっている。これらの一部には、水道に代わっているものもあるが、井戸のないあるいはなかった廟の方が少ない。

(e) <聖所>の管理に関わる人々

<聖所>の維持は、地域の人々によって行われる。自然物が対象となっている聖所などは、近所で信心を持つ人たちが自発的に、緑の布を取り替えたり、ランプを灯しておいたりなど、といったことを行っている。

建物を持つ廟は、建物を維持するために何らかの役割を持つ人々が存在する。

・評議委員 (ḥei'at al-omanā)

廟の管理をする責任者。村にある廟などでは通常2～5名。村の有力者や、廟に対して信心を持つ人が担当することが多い。

廟の収支の管理や、廟で行われる行事の執行などを行う。基本的に無給であるため、収入の比較的高い人物であったり、運営能力のある人物として村の議員であったりすることが多い。

・管理人 (motavalli/khādam)

廟の管理人。廟の近所に住む人であることが多い。代々管理人をしているという人もい

れば、廟に対して非常に強い信心を持つために志願して管理人になったという人もいる。ワクフ慈善庁に登録された聖所の管理人は、同庁から給料が支払われているということである。

評議委員会のメンバーも管理人も、仕事の傍らでその任に当たっている人が多い。そのため、ギーラーン州の米作を中心とした農村部では、人手を必要とする農繁期には廟の管理にまで手が回らないということで、扉を閉じてしまう廟も見られる。

3. ギーラーン州の聖所

ギーラーン州は聖所の数が多いことで知られる。ワクフ慈善庁が正式に登録している聖所は 900 を超え⁴⁰、登録されていない小規模なあるいは自然物なども含めるとどれほどの聖所があるか分からないという。そのため、三巻に分けてギーラーン州の聖所について報告を行う予定である。

第一巻では、ギーラーン平野部に位置するアースターネ・アシュラフィーエ郡とソウメエ・サラール郡、ソウメエ・サラール郡に接し、平野部から山地にかけて広がるフーマン郡での調査報告を行う。

(1) アースターネ・アシュラフィーエ郡 (Shahrestāne Āstāne Ashrafiye)

ラシュト郡の東隣、セフィード・ルード川の東岸に位置する、面積 426.6 平方キロメートルという小さなシャフレスターン。平均標高 3 メートルという低湿地にあり、セフィード・ルード川の水を利用した灌漑ネットワークが発達した米作地帯であり、最高品質の米の産地として知られる。米の他にはピーナッツ、野菜などを生産し、牧畜も行われている。

アースターネとキヤー・シャフルという 2 つの市を中心とした 2 つの Bakhsh の下に、6 つのデヘスターン (Dehestān) を持つ。アースターネ市は、以前はクーチャーン (Kūchān) という名であったが、ジャラーロッドイーン・アシュラフの墓廟がここに築かれたことから、現在の名で呼ばれるようになった。

(1) بقعه سيد جلال الدين اشرف (Boq'ē Seyyed Jalāl al-Dīn Ashraf)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Shahre Āstāne Ashrafiye

Seyyed Jalāl al-Dīn Ashraf b. Emām Mūsā al-Kāẓem⁴¹

アースターネ・アシュラフィーエの町の中心に位置する。ギーラーン州最大の巡礼地であることから⁴²、地域の言葉で *pile āstone* (*pile* = 大きな) として知られる⁴³。(写真 37)

311A.H./923-4 にギーラーンの支配者たちとの戦闘の中で殺され、ここに埋葬された⁴⁴。

⁴⁰ 調査の開始にあたってワクフ慈善庁から入手したリストには 940 箇所が登録されているが、実際には重複登録や記載ミスも多く、900 箇所弱になると思われる。また、ワクフ慈善庁は、「ワクフ (ペルシア語ではヴァクフエ) あるいは何らかの現金収入を持つ聖所」のみを管轄しており、それ以外の聖所については情報を持たない。あるいは情報を持っていたとしても、管理下の聖所としてリスト化することはない。

⁴¹ ソトゥーデは、Āqā Seyyed Ḥasan yā Āqā Seyyed Ebrāhīm Ma'rūf be Solṭān Seyyed Jalāl al-Dīn Ashraf b. Emām Mūsā al-Kāẓem であり、エマーム・レザーの同母弟であるとしている。[Sotūde 1 : 179]

⁴² イラン全土では第五番目の巡礼都市。[Qolāmī 1384b : 88]

⁴³ [Jaktājī : 29] 以前は Kūchān という名の小さな村であったが、廟が置かれてから次第に大きな町となっていた。[Jaktājī : 18]

⁴⁴ 現在のルードバール近くで亡くなったが、「ゴスル (浄め) を行った後、サンドウーグ (箱) の中に遺体を納め、セフィードルードの水に委ね、水がそれを運んだ場所に埋葬せよ」と遺言し、サンドウーグが

セフィードルードに近いことからこれまでに何度も洪水により廟が流されており、オリジナルの廟は残っていない⁴⁵。ズィヤーラトの人が多く、寄付も多いことから常に廟を壮麗に飾るための工事が行われていて、現在は、タイル張りのドームを持ち、タイルや大理石、アーイーネカーリーで飾られた廟となっている。(写真 38)

ハラムにはエスファハーン様式のザリーが置かれ、パーティションで男女別に分けられている。入り口も男女別で、ハラムの両側に男女それぞれの礼拝などに使用される部屋が置かれている。(写真 39)

廟の周囲は墓地となっている。道路を挟んだ向かいにマスジェド。

(2) بقعه سيد محمد آخوند مزار (Boq'ē Moḥammad Ākhond Mazār)⁴⁶

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Shahre Āstāne Ashrafiye - Khiyābāne Abū zar

(北緯 37 度 15 分 767 秒、統計 49 度 56 分 901 秒、標高-8 メートル)

アースターネ・アシュラフィーエ廟と通りを隔てて建つマスジェドの裏手に延びるバーザールの外れ。木曜市が立つ。

青いタイル張りのドームを持つ新しい廟。二本のゴルダステを持つ門、マスジェド、ホセイニーエ、図書館等の設備を持つ。(写真 40~41)

廟は二方向にエイヴァーンを持ち、男女の入り口、ハラムとハラムを囲む礼拝用の部屋は男女別で、礼拝用の絨毯が敷き詰められている。(写真 42~ 43)

廟の周囲は墓地が広がる。以前はもっと広がったとのことであるが、廟周囲の再開発などにより、墓地の規模は縮小した。

ハラムはアーイーネカーリーで飾られ、エスファハーン様式のザリーが置かれている。

(3) بقعه آقا سيد حسن (Boq'ē Āqā Seyyed Ḥasan)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Shahre Āstāne Ashrafiye - Ḥasan ābād

Āqā Seyyed Ḥasan b. Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 16 分 402 秒、東経 49 度 56 分 683 秒、標高-10 メートル)

現在のアースターネ・アシュラフィーエ市の西端。

以前の廟を取り壊し、銀色のドームを持つ、マスジェドと一体になった大きな廟を建設中。しかし、資金不足から 10 年ほど工事が進まずにいるとのこと。(写真 44)

低い囲いで区切られたハラムに大型のエスファハーン様式のザリー。(写真 45~46)

廟の周囲は墓地。

流れ着いたのが現在廟の建つ場所であったと伝えられている。[Jaktāji : 110]

⁴⁵ [Sotūde 1 : 180] [Farhangī : 120]

⁴⁶ Ākhond という名については、セイエド・モハンマドがコーラン諸学に通じた学者であったことからそのように呼ばれているとのことである。血統に関しては、廟内に表示はなかったが、エマーム・ジャアファルの息子で、エマーム・ムーサーの兄弟、セイエド・ジャラーロドディーン・アシュラフのおじであるという。ギーラーン州に関するウェブサイトには、Dehshāl 村にある同名の廟を Ākhond Mazār と紹介しているものも見られる。

(4) بقعه آقا سيد حسن (Boq'ē Āqā Seyyed Ḥasan)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Kiyāshahr - Dehestāne Dehgāh - Rūstāye Dehgāh

Āqā Seyyed Ḥasan b. Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 22 分 357 秒、東経 50 度 03 分 966 秒、標高-16 メートル)

街道沿いに広がる村の中に広がる墓地の中。敷地内にマスジェド。

青いタイルのドームを持つ廟。(写真 47)

アーイーネカーリーに飾られたハラムには、エスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 48) ハラムの両脇に、殉教者の墓が並ぶ礼拝用の部屋が置かれている。

墓地の中にガラスケースに収められたセイエドの墓があり、緑の布で覆われ、お金が投げ込まれている⁴⁷。(写真 49～50)

(5) بقعه سيده گوهر خانم (Boq'ē Seyyede Gouhar Khānom)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Kiyāshahr - Dehestāne Dehgāh - Rūstāye Şeqaldeh

(北緯 37 度 22 分 273 秒、東経 50 度 04 分 860 秒、標高-6 メートル)

村の中心部、商店などが集まる一角に設けられた墓地の中。敷地内にマスジェド。

銀色の小さなドームを持つ新しい廟。ハラムの四方をサロンが取り囲む。サロンに敷かれた絨毯の下にも墓石が見られる。ハラムにはザリー等を持たない背の低い墓石。(写真 51～52)

廟の脇に緑の布が巻かれ、ダヒールが結ばれた木が数本立っている。この木の下にの地面には決して草が生えない場所があり、そこにゴウハル・ハーノムの孫が埋葬されていると考えられている。ここは毎年、タースーアー、アーシューラーの日に光を発するとのこと。(写真 53～56)

(6) بقعه آقا سيد محمد (Boq'ē Āqā Seyyed Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Kiyāshahr - Dehestāne Dehgāh - Rūstāye Bālā Maḥalle Gīldeh

(北緯 37 度 20 分 861 秒、東経 50 度 05 分 880 度、標高-16 メートル)

墓地の中に建つ新しい廟。敷地内にマスジェド。(写真 57)

ハラムの周囲をサロンが取り囲む。ハラムいっぱい布で覆われた大型の金属製ザリーが置かれ(写真 58)、ハラムの外、サロンに面した壁には新しい宗教画が描かれている。(写真 59～61)

⁴⁷ 2013 年に墓地が全て掘り返され整備が行われ、この墓も一時取り外されていた。

(7) بقعه سه برادران (Boq'e Se Barādarān)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Kiyāshahr - Dehestāne Dehgāh - Rūstāye Anbārsar

(北緯 37 度 23 分 345 秒、東経 50 度 05 分 453 秒、標高-23 メートル)

ダスタク-キヤーシャフル街道沿い、アースターネ街道との合流点に広がる墓地の中。(写真 62)

長方形の一部屋だけの建物。(写真 63) 部屋の中央部に大型木製ザリーが置かれ、右手奥には村のセイエドたちの墓が置かれている。(写真 64)

廟の周囲は墓地。敷地内にマスジェド。

(8) بقعه سيد رضا (Boq'e Seyyed Rezā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Kiyāshahr - Dehestāne Dehgāh - Rūstāye Dastak

(北緯 27 度 23 分 275 秒、東経 50 度 08 分 445 秒、標高-12 メートル)

村の中心部、バーザール地区の裏手に広がる墓地の中。

ホセイニーエを兼ねる新しい建物の中。(写真 65)

広い廟内には絨毯が敷き詰められ、中央からずれた場所にザリー等を持たない緑の布で覆われた平たい墓石が置かれている。(写真 66～67)

土地の人によると、このセイエドは非常に大きな力を持っていたため、オールを使わずに小舟で川の流れを遡ることができたほどである。

廟の前に小さな建物を持つセイエドの墓があり、村の人々に敬意を払われている。(写真 68～69)

(9) قبرستان روستای محسن آباد (Qabrestāne Rūstāye Moḥsen ābād)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Kiyāshahr - Dehestāne Dehgāh - Rūstāye Moḥsen ābād

(北緯 37 度 22 分 436 秒、東経 50 度 08 分 611 秒、高度-12 メートル)

村の共同墓地の中で、何人かのセイエドの墓が村の人々の崇敬の対象となっている。コンクリートやガラスで墓を覆い、訪れる人々がダヒールを結んだりろうそくを灯したりしている。(写真 70～75)

病気治しのハージャトを見せたことや、村の人の夢の中に現れたことなどから崇敬の対象となったとのこと。

(10) بقعه آقا سيد محمد (Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Kiyāshahr - Dehestāne Dehgāh - Rūstāye Pāīn Maḥalle Rūd posht

(北緯 37 度 21 分 819 秒、東経 50 度 09 分 731 秒、高度-10 メートル)

街道の脇、空き地の中に建つ廟。(写真 76)

一部屋だけの小さな廟。廟内には金属製ザリー。(写真 77～78)

廟の周囲に墓地は見られない。(写真 79)

(11) قبرستان مسجد جامع (Qabrestāne Masjede Jāme‘)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Kiyāshahr - Dehestāne Dehgāh - Rūstāye Pāin Maḥalle Rūd posht

(北緯 37 度 21 分 106 秒、東経 50 度 09 分 220 秒、高度-15 メートル)

村のマスジェド・ジャーメに付属した墓地の中に建つ、二つの小さな小祠。(写真 80)

マスジェドに近い方は窓が割れたり床にゴミが散乱するなど、人が訪れている様子は見られない。その後ろに建つ緑と白に塗り分けられた方には、緑の布で覆われた墓石が五基並んでいる。(写真 81～82) セイエド・ファータメとセイエド・クーチェクは兄弟。セイエド・アッバース、セイエド・ソルターン、セイエド・フーリーエは血縁関係はない。現在もセイエド・フーリーエの親族は村に住んでいるとのこと。しかし、親戚以外の人たちも、この墓を訪れることがあるという。

(12) بقعه سيد ابو جعفر (Boq‘e Seyyed Abū Ja‘far)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Kiyāshahr - Shahre Bandare Kiyāshahr
Seyyed Abū Ja‘far az Emām Mūsā al-Kāzem⁴⁸

ダスタク-キヤージャフル街道沿いにある墓地の中。(写真 83)

青いタイル張りのドームを持つ大きな廟。現在建設工事中。(写真 84)

正面にタイル張りの大きなエイヴァーンを持ち、他の三方にも出入り口を持つ。ハラムの周囲にサロンをめぐらし、更に外に回廊をめぐらせてある。回廊には墓石が並ぶ。(写真 85)

ハラムは男女別に分けられ、周囲のサロンも同様である。ハラムはアーイーネカーリーで飾られ、エスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 86)

(13) بقعه سيد زكريا (Boq‘e Seyyed Zakariyā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Kiyāshahr - Dehestāne Kiyāshahr - Rūstāye Miyān Kūh

(北緯 37 度 25 分 261 秒、東経 49 度 55 分 093 秒、高度-2 メートル)

村の住宅地の中。二本のゴルダステを持つ門を持つが、この門は普段は閉められており、通りに面した廟の出入り口を使う。(写真 87～88)

⁴⁸ エマーム・ムーサーから何代目の子孫にあたるかは明らかではない。[Qolāmī 1384b : 88] [Sotūde vol.2 : 198]

廟は比較的新しいもので、ホセイニーエと一連なりの建物となっている⁴⁹。(写真 89)
ハラムには金属製ザリーが置かれている。(写真 90)
廟と門の間は小規模な墓地となっている。

(14) بقعه سيد علی کیا (Boq'ē Seyyed 'Alī Kiyā)⁵⁰

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Kiyā shahr - Dehestāne Kiyā shahr - Kūye
Shahīd Rajāi

(北緯 37 度 25 分 825 秒、東経 49 度 54 分 446 秒、高度-12 メートル)

海岸に近い村はずれ。廟の周囲には砂山が多く見られる。

一部屋だけの新しい廟。ハラムの四方をエイヴァーンが取り囲む。(写真 91)

廟内の中央に大きな金属製ザリー。(写真 92)

廟の一角に台所兼道具置き場となっている小部屋が作られている。(写真 93)

(15) بقعه سيد طاهر (Boq'ē Seyyed Tāher)⁵¹

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Kiyā shahr - Dehestāne Kiyā shahr -
Rūstāye Lākūzh deh

(北緯 37 度 23 分 823 秒、東経 49 度 56 分 927 秒、高度-11 メートル)

アースターネ-キヤーシャフル街道沿いに建つ。

現在建設中のマズジェドに隣接する一部屋だけの小さな廟。もともとは廟だけがここに
建っていたが、廟の一部を取り壊し、マズジェドを建設することにした。しかし、現在は
資金が尽きてしまったため工事は止まっている⁵²。(写真 94～95) マズジェドが完成した
ら、廟とマズジェドの間の壁を取り払い、行き来できるようにしたいと考えている。

普段は鍵がかけられ、廟の中に入ることはできないようになっている。

廟内には金属製ザリー。廟の外の窓枠にダヒールが結ばれている。(写真 96～97)

廟の周囲に墓地は見られない。

(16) بقعه کوچک آقا (Boq'ē Kūchak Āqā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Kiyā shahr - Dehestāne Kiyā shahr -
Rūstāye Nou Bījār Maḥalle

(北緯 37 度 23 分 514 秒、東経 40 度 55 分 850 秒、高度-13 メートル)

⁴⁹ ソトゥーデによると、以前の建物は「八角形の外観で、四方にエイヴァーンを持つ。木製ザリーがサ
ンドウグを覆っている」ものであった。[Sotūde vol.2 : 197]

⁵⁰ ワクフ慈善庁のリストによると「Seyyed 'Alī Ziyā」。

⁵¹ Shāh Aḥmad Qāsem とも。

⁵² 1391/11/17=2013/2/5 付けの IRNA 通信によると、1 億 2700 万リヤールがワクフ慈善庁アースターネ・
アジュラフィーエ支部から改修費用としてこの廟を含む 9 箇所の廟にそれぞれ渡され、アーガー・セイエ
ド・ターヘル廟では、キヤー・シャフルのエマーム・ジョムエ、アースターネ・アジュラフィーエの
Farmāndārī (内務省管轄の役所) 次官、キヤー・シャフルの議員、市役所、郡役所らの関係者らが参加し
て鉄入れ式が行われているので、工事が進展すると思われる。

マスジェドに付属する墓地の中に建つ一部屋だけの小さな廟。つい最近建てられたばかりとのことで、まだコンクリートブロックがむき出しになっている。(写真 98)

廟の中央に背の低い墓石が二つ並んでいる。片方は、セイエドの姉妹でセイエデ・ザフラーのもの。(写真 99)

セイエドの来歴は明らかではない。

このセイエドに対して信心を持つ人がズィヤーラトを訪れると、廟に入る際に脱ぎ捨てた靴が、いつの間にかきちんと揃えられているという。

(17) بقعه سيد محمد هاشمي نژاد (Boq'e Seyyed Moḥammad Hāshemī Nezhād)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshē Kiyā shahr - Dehestāne Kiyā shahr - Rūstāye Moḥsen ābād

(北緯 37 度 23 分 409 秒、東経 49 度 54 分 693 秒、高度-14 メートル)

村の中心部近くにあるマスジェドに付属する墓地の中。3メートル四方ほどの一部屋だけの小さな廟。(写真 100)

廟内には緑の布で覆われたザリー。(写真 101)

木曜日の午後のみ扉を開けるとのことであったが、鍵を持つ管理人が見つからなかったため、中に入ることはできなかった。(写真 102)

(18) بقعه سيد زكريا (Boq'e Seyyed Zakariyā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshē Kiyā shahr - Dehestāne Kiyā shahr - Rūstāye Nabī Dehgāh

(北緯 37 度 21 分 484 秒、東経 40 度 56 分 029 秒、高度-10 メートル)

村から外れた、周囲を水田に囲まれた廟。(写真 103~104)

新しい廟を建てるため、古い廟を囲うように新しい壁が作られている。

廟内には木製ザリー。(写真 105)

廟の前にごく小規模な墓地。

(19) بقعه سيده بی بی هيبت (Boq'e Seyyede Bībī Heibat)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshē Kiyā shahr - Dehestāne Kiyā shahr - Rūstāye Dehsar

(北緯 37 度 21 分 086 秒、東経 49 度 57 分 302 秒、高度-9 メートル)

アースターネ-キヤーシャフル街道や村からは距離のある、周囲に水田が広がる草地の中。緑色に塗られた一部屋だけの小さな廟。廟内には大型の金属製ザリー。(写真 106~108)

敷地内にごく小規模な墓地と集会所。

木曜日の午後以外は鍵がかけられている。

(20) بقعه آقا سيد على كيا (Boq'e Āqā Seyyed 'Alī Kiyā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshē Kiyā shahr - Dehestāne Kiyā shahr - Rūstāye Dehsar Eshman Komāchāl

(北緯 37 度 21 分 365 秒、東経 49 度 58 分 135 秒、高度-5 メートル)

村の中心近くの墓地の中。敷地内にマスジェド。

大きな銀色のドームを持つ新しい廟。ハラムの四方をエイヴァーンが取り囲んでいる。

(写真 109~110)

廟内には金属製ザリー。(写真 111)

墓地の端に緑色に塗られた小さな廟があり、その中にセイエドの墓が置かれている。(写真 112~115)

(21) بقعه سيد سه برادران (Boq'e Seyyed Se Barādarān)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshē Kiyā shahr - Dehestāne Kiyā shahr - Rūstāye Anbārsar Sālek deh

(北緯 37 度 23 分 117 秒、東経 50 度 00 分 080 秒、高度-12 メートル)

村の墓地の中に建つ廟。敷地内にマスジェド。(写真 116)

新しい建物の中央にザリー。入り口近くに背の高い墓石、部屋の左手奥に平たい墓石。

この三つの墓の他に、村の人々の墓石も何基か見られる。(写真 117~119)

村の人たちの説明によると、以前、この辺り一帯は林の中であったが、その木々の間にこの三つの墓があった。時代が下るに従い林は切り開かれ、村や水田となった。しかしこの三つの墓は残され、その周囲は墓地となった。この三つの墓についてはそれ以上のことは分からないが、昔からずっと崇敬の対象になっていたとのこと。(写真 120~122)

(22) بقعه سيد محمد (Boq'e Seyyed Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshē Kiyā shahr - Dehestāne Kiyā shahr - Rūstāye Laskū Kelāye

Seyyed Moḥammad b. Emām Mūsā al-Kāzem⁵³

(北緯 37 度 22 分 829 秒、東経 50 度 01 分 693 秒、高度-11 メートル)

村のバーザールの近くの墓地の中。敷地内にマスジェド。

銀色のドームを持つ一部屋だけの新しい廟⁵⁴。(写真 123) ハージャトを非常に多く持つと言われ、木曜日の午後になると墓参の人や、バーザールの買い物客だけでなく、あちこちからズィヤラトの人たちが集まってくるという。

廟内には金属製ザリー。(写真 124)

⁵³ [Sotūde vol.2 : 191]

⁵⁴ ソトゥーデによると、「3.5×4 メートル。瓦屋根を持ち、東西にエイヴァーンがある。ゆりかご型の屋根のついた木製ザリーが置かれている」。また、モハラム月 1 日にアラムバンディーを、13 日にアラム・ヴァーチャーニーを行っている。[Sotūde vol.2 : 191]

(23) بقعه سيده مينا (Boq'e Seyyede Mīnā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Kiyā shahr - Dehestāne Kiyā shahr - Rūstāye Bālā Maḥalle Laskū Kelāye

(北緯 37 度 22 分 263 秒、東経 50 度 01 分 956 秒、高度-9 メートル)

村を通る街道沿いに建つ、マスジェドと一連なりになった建物。外から見ると向かって左側、薄茶色の壁部分が廟。(写真 125)

廟内には金属製ザリーが置かれ、その他にも数基の墓が見られる。(写真 126)

廟の前には小規模な墓地。

(24) بقعه سيد حسن و سيد آقا (Boq'e Seyyed Ḥasan va Seyyed Āqā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Dehshāl

(北緯 37 度 19 分 100 秒、東経 50 度 02 分 129 秒、高度 5 メートル)

村のバーザールの裏手に立つ廟。周囲は墓地、敷地内にマスジェド。

背の高いチェナルの木の下に、新しい廟が建てられている。(写真 127)

ハラムの四方をサロンが取り囲み、ハラムにはザリー等を持たない墓石が数基並んでいる。墓石は緑色の布で覆われ、パンジタンが多数置かれている。(写真 128~131) ハラム内の募金箱や廟の前のチェナルにはダヒールが結ばれている。(写真 132~133)

(25) آرامگاه آقا سيد زينول (Ārāmgāhe Āqā Seyyed Zeinūl)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Kelīd sar

(北緯 37 度 18 分 917 秒、東経 50 度 02 分 620 秒、高度-9 メートル)

マスジェドに付属する墓地の中のセイエドの墓。(写真 134~135)

デフシャールに店を持っていた人物で、非常に良い人であったことから、亡くなった後も墓地を訪れる人々がこの墓に敬意を表しているとのこと。デフシャールやケリードサルの人々はここをズィヤラトガーと認識している。

(26) آرامگاه سيده بيگم (Ārāmgāhe Seyyede Beigom)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Dargāh

(北緯 37 度 18 分 699 秒 東経 50 度 01 分 353 秒 標高-3 メートル)

村のマスジェド・サッジャーディーエに付属する墓地の中にある、緑色に塗られた鉄のサンドゥグ。(写真 136)

扉は壊れているが、ダヒールが結ばれ、ろうそくを灯した跡も多数見られる。(写真 137)

～138)

村に住む独身の老女だったとのこと。ハージャトを持つため、墓参の際にこの墓にズィヤーラトを行う人もいるという。

(27) بقعه شيخ محمد زيد (Boq'ē Sheikh Moḥammad Zeid)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Pāīn Maḥalle Dargāh

(北緯 37 度 18 分 375 秒、東経 50 度 02 分 006 秒、高度-2 メートル)

村の外、水田に囲まれた中に建つ廟。(写真 139～140)

ハラムの四方をサロンが取り囲み、サロンに敷かれた絨毯の下には墓石が幾つも見られる。(写真 141)

ハラムには大型のアルミ製ザリーが置かれている。(写真 142)

廟の前には小規模な墓地。

(28) بقعه سيد حسن (Boq'ē Seyyed Ḥasan)⁵⁵

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Chālījgāhe Dargāh

Seyyed Ḥasan b. Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 17 分 751 秒 東経 50 度 01 分 353 秒 高度-9 メートル)

村の墓地の中。(写真 143) マスジェドと一連なりになった廟。

細長い部屋の一角に金属製ザリーが置かれている。(写真 144)

(29) بقعه آقا سيد ابراهيم (Boq'ē Āqā Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Dargāh

(北緯 37 度 18 分 059 秒 東経 50 度 01 分 341 秒 高度-6 メートル)

村のマスジェド・ジャーメ付属の墓地の中。

建物の一部を残した小部屋が残された形の廟⁵⁶。(写真 145～146) 土が入り込んでいたり、蜘蛛の巣がはっていたりと、人が訪れている形跡があまり見られない。

廟内にはザリー等を持たない背の低い墓石。(写真 147)

(30) بقعه آقا سيد حسن، آقا سيد جليل و آقا سيد جواد (Boq'ē Āqā Seyyed Ḥasan, Āqā Seyyed Jalāl va Āqā Seyyed Javād)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye

⁵⁵ ワクフ慈善庁のリストではハサンとなっている。

⁵⁶ 2013 年現在、廟は完全に取り壊され、墓石を覆う東屋が作られているとのこと。

Seiqal sarā

(北緯 37 度 17 分 264 秒 東経 50 度 01 分 968 秒 高度-3 メートル)

水田に囲まれた小さな空き地に建つ。(写真 148)

銀色の小さなドームの乗った一部屋だけの新しい廟。(写真 149) ハラムには金属製のザリー。(写真 150)

周囲に墓地は見られない。水田を挟んでマスジェド。

(31) بقعه سيد عبدالرحمان اژدر (Boq'ē Seyyed 'Abd al- Raḥmāne Azhdar)⁵⁷

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Pāin Maḥalle Dākhel

(北緯 37 度 17 分 369 秒 東経 50 度 00 分 712 秒 高度-8 メートル)

水田に囲まれた、墓地の中。(写真 151)

マスジェドと一連なりになった小さな部屋。マスジェドと出入り口は別となっている。(写真 152)

ハラムの中央に金属製のザリーが置かれている。(写真 153)

(32) بقعه سيد محمد (Boq'ē Seyyed Moḥammad)⁵⁸

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Bālā Maḥalle Dākhel

(北緯 37 度 16 分 437 秒 東経 49 度 59 分 798 秒 高度 4 メートル)

アースターネ-キヤーシャフル街道から分かれ、村へと向かう道沿いに建つ廟。(写真 154)

マスジェドと一連なりになった廟。廟の一角を区切りハラムとしている。(写真 155～156)

ハラムには、ハラムいっぱいになるほどの大型木製ザリー。(写真 157～158)

(33) بقعه آقا سيد آقا جان (Boq'ē Āqā Seyyed Āqā Jān)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Kār Seyyedān

(北緯 37 度 17 分 966 秒 東経 49 度 59 分 968 秒 高度-9 メートル)

村のマスジェデ・ジャーメ付属の墓地の中。道路に沿って作られたブロック塀から道にはみ出すようにして、一部屋だけの小さな廟が作られている。(写真 159)

廟内には背の低い墓石。鍵は閉められていたが、廟内は手入れが行き届いているように見える。(写真 160～161)

墓地側に作られた入り口前にはいくつかのコンクリートブロックが置かれ、ベンチあるいはシャムダーンの代わりになっている。(写真 162)

⁵⁷ Jalāl al-Dīn Ashraf 軍の司令官の一人とされる。[Qolāmī 1376 : 248]

⁵⁸ 地元の人たちはエマーム・ムーサーの息子と信じている。

被葬者について、どのような人物であったかは明らかにできなかった。

(34) بقعه آقا سيد روح الله (Boq'ē Seyyed Rūhollāh)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Bakhshē Dargāh

(北緯 37 度 18 分 150 秒 東経 50 度 00 分 319 秒 高度 0 メートル)

村を通る街道沿いに建つ、コンクリートで作られた小さな廟。(写真 163)

廟内には、ザリー等を持たない背の低い墓石。(写真 164)

廟の周囲にはごく小さな墓地。

被葬者についての近所の人たちによる説明は次の通りである。

以前この場所に非常に貧しいセイエド夫婦が住んでいた。あるとき、セイエドの妻が「もう一年以上マーヒー・セフィード⁵⁹を口にしていない」と言った。セイエドは家の前の水田へと出て行き、帰ってきたときには手にマーヒー・セフィードを持っていた。

またあるときもやはり、手ぶらで家の外に出て、野鳥を持って帰ってきた。

彼がこれらのものを買うだけのお金を持っていなかったことは誰もが知っていたが、村の人のものを盗んだわけでなく、また、こっそりと村の外へ出かけて手に入れたのでもないことはどの村人も知っていた。

セイエドの死後、彼の住んでいた場所に葬られ、ズィヤーラトガーとなった。

(35) بقعه سيد حميد (Boq'ē Seyyed Ḥamīd)⁶⁰

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Fūshāz deh

(北緯 37 度 19 分 403 秒 東経 50 度 02 分 431 秒 高度-3 メートル)

青いタイル張りのドームを持つ廟。廟の拡張工事が行われている。(写真 165)

ハラムとハラムの四方を囲むサロン。ハラムへは全ての方向から入ることができる。(写真 166)

ハラムはアーイーネカーリーで飾られ、金属製ザリーが置かれている。ザリーにはびっしりと南京錠が取り付けられている。(写真 167)

廟の周囲は墓地。敷地内にマスジェド。

廟の前に立つ樹齢 700 年と言われるアーザードの巨木⁶¹は、以前は人々の信心の対象となっていたが、現在は、そうした信仰は失われている。(写真 168~169)

(36) آرامگاه سيدان و شهيدان (Ārāmgāhe Seyyedān va Shahīdān)

⁵⁹ 「白魚」の意味。カスピ海で獲れる高級魚。

⁶⁰ 地元の人にはエマーム・ムーサーの息子と信じている。

⁶¹ 敷地内には、他にも樹齢 500 年というマーズーの木も立っているが、こちらは信仰の対象にはなっていないという話であった。

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Amīrhende Bālā

(北緯 37 度 18 分 150 秒 東経 50 度 00 分 319 秒 高度 0 メートル)

村のパーザール近く。マスジェドに付属した墓地の中。

由来は確認できなかったが、数人のセイエドの墓が緑に塗られた柵で囲われている。(写真 170) これらの墓がズィヤーラトガーとなった理由については、「昔からそうだったから」とのことであった。(写真 171~172)

現在は全て切り倒されてしまっているが、以前はチェナールの大木が墓地を取り囲んでいた。その中でもとりわけ大きなチェナールは神聖なもの見なされていて、人々はダヒールを結んで願い事を行っていたという。(写真 173)

(37) بقعه بی بی زینب معروف به مادر فقیه (Boq'eh Bībī Zeinab Ma'rūf be Mādare Faqīh)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Tāsande

(北緯 37 度 20 分 853 秒 東経 50 度 04 分 426 秒 高度-11 メートル)

アミールヘンデから村に入ってからすぐの正面、道路がカーブした地点に見える廟。(写真 174~175)

ハラムの四方にエイヴァーン。ハラムには大型の金属製ザリー。(写真 176)

廟の周囲は墓地。敷地内にマスジェド。

マーダレ・ファギーフという名については、昔、ゴルアーンに通じた女性が住んでいて、村の女性たちの相談に乗ったり悩み事を聞いてあげるなどし、敬意を払われていた。死後ここに葬られ、人々が生前の徳を称え、ズィヤーラトに訪れるようになり、この名で知られるようになったのだとこと。

(38) زیارتگاه (Ziyāratgāh)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Tāsande

(北緯 37 度 21 分 067 秒 東経 50 度 04 分 649 秒 高度-4 メートル)

村はずれの道路脇に置かれたセイエドの墓。緑に塗られた鉄製のサンドウグで囲われている。

以前は墓を覆う建物があつたのだが、老朽化して危険になったため取り壊さざるを得ず、とりあえず墓を覆うためのサンドウグを置いた。新しい建物を建てたいとは思っているが、費用の問題から実現できずにいるとのこと。(写真 177~178)

現在はサンドウグが置かれているだけであるが、タースーアー、アーシューラー、サファル月 27 日には、多くのダステがマーダレ・ファギーフに集まり、そこからここまで足を伸ばす。

(39) بقعه سيد محمد (Boq'e Seyyed Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhsh Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Sheshkal

Seyyed Moḥammad az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem⁶²

(北緯 37 度 21 分 196 秒 東経 40 度 02 分 963 秒 高度-6 メートル)

村はずれの墓地の中。二本のゴルダステを持つ大規模なマスジェドの一角。(写真 179)
マスジェドは新しく建てられたものであるが、元々はマスジェドではなくボグエであったとのこと。現在はマスジェドの入り口脇に作られた小部屋に金属製ザリーが置かれている⁶³。(写真 180～181)

礼拝の時間以外は鍵がかけられている。

(40) بقعه سيده بی بی فیروزه (Boq'e Seyyede Bībī Fīrūze)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhsh Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Jīrsū Sheshkal

(北緯 37 度 31 分 141 秒 東経 50 度 04 分 026 秒 高度-7 メートル)

村のバーザール近くに建つ廟。

近年、建て替えられた銀色のドームを持つ六角形の廟。(写真 182)

廟内にはエスファハーン様式のザリー。(写真 183)

廟の周囲は墓地。敷地内にマスジェド。

(41) بقعه سيد امير كيا (Boq'e Seyyed Amīr Kiyā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhsh Markazī - Dehestāne Dehshāl - Rūstāye Sūkhte Kūh

Emāmzāde Seyyed Amīr Kiyā b. Emām Mūsā al-Kāzem⁶⁴

(北緯 37 度 30 分 537 秒 東経 50 度 00 分 512 秒 高度-10 メートル)

村はずれの墓地の中に建つ廟。敷地内にマスジェド。

ハラムの四方をエイヴァーンが取り囲み、銀色のドームを持つ。現在、廟の拡張工事が始まっている。(写真 184～185)

ハラムにはエスファハーン様式のザリー。(写真 186)

(42) بقعه سيده كافييه (Boq'e Seyyede Kāfīye)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhsh Markazī - Dehestāne Gūrkā - Rūstāye

⁶² [Qolāmī 1384b : 90]

⁶³ マスジェドの二階の女性用の区画がこの部屋の上当たり、そこにもザリーが置かれているとのことであるが[Qolāmī 1384b : 90]、未確認。

⁶⁴ 地元の人によると、シーラーズのシャー・チェラーグと兄弟である。

Khoshkāvandān

(北緯 37 度 16 分 527 秒 東経 49 度 53 分 929 秒 高度 13 メートル)

マスジェド付属の墓地の中。

古い廟を取り壊し、新しい六角形の廟を建設中。(写真 187)

訪問時にはまだ床が張られていなかったため、コンクリートの仮の墓石。(写真 188)

生前からハージャトを持ち、けがや病気を治してくれたという。そして、亡くなった後も病気やけがをよく治してくれると信じられている。

(43) بقعه سيد محمد صادق معروف به پرنور (Boq'ē Seyyed Moḥammad Ṣādeq Ma'rūf be Por Nūr)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Gürkā - Rūstāye Gouhardān

Seyyed Moḥammad Ṣādeq naveye Emām Mūsā al-Kāẓem⁶⁵

(北緯 37 度 16 分 338 秒 東経 49 度 48 分 789 秒 高度 15 メートル)

村のバーザールに近い墓地の中。マスジェドと一連なりになった廟⁶⁶。(写真 189)

ハラムを囲んでサロンがめぐらされ、ハラムの中には大型の金属製ザリーが置かれている。(写真 190～191)

現地ではポルヌールという名で知られているため、ワクフ慈善庁の登録名であるセイエド・モハンマド・サーデグで所在を尋ねても、そのような廟はないと答える人が多かった。

目の病気に対するハージャトを多く持っていて、そのため、ポル・ヌール(=光に満ちた)と呼び習わされている。

(44) بقعه سيد ابراهيم (Boq'ē Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Gürkā - Rūstāye Kashal Āzād sar

Seyyed Ebrāhīm b. Emām Mūsā al-Kāẓem⁶⁷

(北緯 37 度 17 分 865 秒 東経 49 度 55 分 671 秒 高度-3 メートル)

アースターネ-ラシュトネシャー街道沿いに建つ廟。周囲は墓地。

マスジェドに接して建てられた新しい廟。(写真 192)

廟の中央に四本の柱が立ち、低い仕切りで区切られたハラムが作られ、金属製のザリーが置かれている。(写真 193)

廟内の絨毯の下にも墓石が多数見られる。(写真 194)

⁶⁵ [Javādī vol.2 : 399]

地元の人の中には、エマーム・ジャアファルの息子という人もいる。

⁶⁶ 度々セフィード・ルードの氾濫の被害に遭っており、建物はそのたびに建て替えられている。

⁶⁷ [Sotūde vol.2 : 198]

(45) مسجد امام حسن مجتبی و آرامگاه سید موسوی (Masjede Emām Ḥasan Mojtabā va Ārāmgāhe Seyyed Mūsavī)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Gūrkā - Rūstāye Jū posht

(北緯 37 度 18 分 194 秒 東經 49 度 55 分 255 秒 高度 9 メートル)

村を通る街道沿いに建つマスジェド。(写真 195)

窓枠に緑の布が結ばれている。これは、願い事のある人がここに布やひもを結び、願いが叶うとマスジェドに寄付を行うというしるしであるとのこと。(写真 196)

マスジェドの横手に設けられた墓地にある鉄製の柵で囲われたセイエドの墓も、人々の崇敬の対象となり、墓参の人々の祈りの対象となっている。(写真 197)

(46) بقعه آقا سید احمد یمنی (Boq'ē Āqā Seyyed Aḥmad Yamanī)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Gūrkā - Rūstāye Māshk

Āqā Seyyed Aḥmad Yamanī b. Emām Mūsā al-Kāẓem⁶⁸

(北緯 37 度 18 分 398 秒 東經 49 度 54 分 000 秒 高度-1 メートル)

村はずれの墓地の中。敷地内にマスジェド。

古い廟を取り壊し、銀色のドームと二本のゴルダステを持つ新しい廟が建てられた。(写真 198～199)

アーイーネカーリーで飾られた広い廟内に金属製ザリーが置かれている。(写真 200)

モハラム月 1 日にアラム・バンディアーが、同 10 日にアラム・ヴァーチーニーが行われている。

(47) بقعه آقا پیر محمد (Boq'ē Āqā Pīr Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Gūrkā - Rūstāye Nāzok sarā

(北緯 37 度 19 分 227 秒 東經 49 度 55 分 989 秒 高度-2 メートル)

アースターネ-ラシュトネシャー街道沿いに建つ小さな廟。周囲は小規模な墓地。(写真 201)

ハラムの四方をサロンが取り囲む。サロンの床にもいくつもの墓石が見られる。(写真 202)

ハラムには金属製ザリー。(写真 203)

昔ここに住んでいた、とても良い人物であったピールの墓とのこと。

敷地内にマスジェド。

⁶⁸ [Sotūde vol.2 : 198]

(48) بقعه سيد زكريا (Boq'ē Āqā Seyyed Zakariyā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Gūrkā - Rūstāye Lofūt Pāīn

Āqā Seyyed Zakariyā b. Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 19 分 191 秒 東經 49 度 55 分 288 秒 高度-4 メートル)

村はずれ、周囲を水田に囲まれた墓地の中に建つ。敷地内にマスジェド。

青いタイル張りのドームを持つ新しい廟⁶⁹。(写真 204)

ハラムの四方をサロンが取り囲み、ハラムにはアルミ製ザリーが置かれている。(写真 205)

墓地の中に小さな廟が作られ、村の人によると、セイエド・エスマーイール、セイエド・モハンマドレザー、セイエド・サッターギー、セイエド・ザフラーの四人のセイエドの墓がおさめられている。(写真 206～209)

セイエドの墓は緑の布で覆われ、ダヒールが結ばれたパンジタンなどが置かれている。

(49) بقعه سيد زهرا مير حسيني (Boq'ē Seyyede Zahrā Mīr Ḥoseinī)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Gūrkā - Rūstāye Kīnchāh

(北緯 37 度 20 分 118 秒 東經 49 度 55 分 568 秒 高度-12 メートル)

アースターネ-ラシュトネシャー街道から別れた小路の突き当たり。

一部屋だけの小さな廟。(写真 210～211) 廟内には小さなザリーが置かれている。(写真 212)

周囲に墓地は見られない。

(50) بقعه سيد روح الله (Boq'ē Seyyed Rūhollāh)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Gūrkā - Rūstāye Gūrāb javār

(北緯 37 度 18 分 226 秒 東經 49 度 59 分 217 秒 高度 3 メートル)

村はずれの水田に囲まれた中に建つ廟。

建設途中のマスジェドと一連なりになっている。(写真 213) 向かって左手の入り口を入るとハラム。

廟内には金属製ザリーが置かれている。(写真 214)

廟の前に小規模な墓地。(写真 215)

(51) بقعه سيد ركابدار (Boq'ē Seyyed Rekābdār)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Bālā

⁶⁹ 以前は四方にエイヴァーンを持つ廟であった。[Sotūde vol.2 : 192]

Maḥalle Kīsom⁷⁰

Seyyed Faṣl (Rekābdār) b. Karīm b. Ḥamze b. Ṭaiyān b. Aḥmad b. Zarīr Khazāī naveye
Emām 'Alī

(北緯 37 度 14 分 167 秒 東経 49 度 51 分 231 秒 高度 17 メートル)

村のバーザール地区の裏手に広がる墓地の中。敷地内にマスジェド。

ハラムの四方をサロンが取り囲み、(写真 216～217) ハラムには金属製ザリーが置かれている。(写真 218)

廟全体はそれほど古いものには見えないが、ハラムに残された窓枠などは古いものが残されている⁷¹。

セイエド・ジャラルルッディーン・アシュラフが蜂起したときに軍に加わり、シェミーラーンで敗北した後ここにたどり着き、亡くなったとされる⁷²。

モハッラム月 1 日にアラム・バンディーを、サファル月 27 日にアラム・ヴァーチーニーを行う⁷³。

(52) بقعه آقا سيد محمد يمني (Boq'ē Āqā Seyyed Moḥammad Yamanī)⁷⁴

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye
Miyān Maḥalle Kīsom

Āqā Seyyed Moḥammad Yamanī b. Emām Mūsā al-Kāzem⁷⁵

(北緯 37 度 14 分 538 秒 東経 49 度 51 分 238 秒 高度 8 メートル)

アースターネ-キーソム街道沿いの墓地の中。敷地内にマスジェド。(写真 219)

ハラムの四方をエイヴァーンが取り囲み、ハラムの壁の内外には彩色された宗教画が残る⁷⁶。(写真 220～224)

小さなハラムには、周囲をめぐるのが難しいほどの大きさで、緑の布で覆われたサンドウグが置かれている。(写真 225)

木の扉や外壁には傷みも目立つが、資金不足のため修理もままならないとのこと。

木曜の午後のみ扉を開く。

(53) بقعه سيد نور محمد (Boq'ē Seyyed Nūr Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Pāīn
Maḥalle Kīsom

⁷⁰ [Qolāmī 1376 : 246]

⁷¹ 以前は四方にエイヴァーンをもつ瓦屋根の廟であった。[Sotūde vol.2 : 195]

⁷² [Qolāmī 1376 : 246]

⁷³ [Sotūde vol.2 : 195]

⁷⁴ ソトゥーデによると、Āqā Seyyed Aḥammad Yamanī。[Sotūde vol.2 : 195]

⁷⁵ [Sotūde vol.2 : 195-6]

⁷⁶ ソトゥーデはアーザードの木に取り囲まれていると記しているが[Sotūde vol.2 : 195-6]、現在は残っていない。

(北緯 37 度 14 分 362 秒 東経 49 度 51 分 942 秒 高度 14 メートル)

アースターネ-キーソム街道沿いに建つ廟。

ホセイニーエと一連なりになった廟。向かって右側の扉が廟。(写真 226)

廟内には緑の布で覆われた金属製ザリー。(写真 227)

廟の周囲に墓地は見られない。

(54) بقعه آقا سيد حسين كيا معروف به امامزاده ذوالفقار (Boq'ē Āqā Seyyed Ḥosein Kiyā Ma'rūf be Zū al-Feqār)⁷⁷

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Pāin Maḥalle Kīsom

Āqā Seyyed Ḥosein Kiyā b. Emām Mūsā al-Kāzem⁷⁸

(北緯 37 度 14 分 266 秒 東経 49 度 52 分 317 秒 高度 15 メートル)

アースターネ-キーソム街道沿いの墓地の中。敷地内にマスジェド。

金色の細いドームを持つ新しい廟⁷⁹。(写真 228)

ハラムの両側にサロン。小さなハラムに金属製の細長いザリーが置かれている。(写真 229)

廟の前に立つチェナールの巨木は、以前は人々の崇敬の対象となり、ダヒールを結んだり、祈りを捧げる人などがいたが、今はそうしたことは行われていないとのこと。(写真 230)

(55) بقعه سيد ابراهيم و سيد اسماعيل (Boq'ē Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Esmā'īl)⁸⁰

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Gūrāb sar

Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Esmā'īl b. Āqā Seyyed Ḥosein Kiyā b. Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 14 分 205 秒 東経 49 度 51 分 700 秒 高度 8 メートル)

アースターネ-キーソム街道から外れ、水田に囲まれた中。

マスジェドと一連なりになった廟。廟内には金属製ザリー。(写真 231~232)

廟の前に立つアーザードの木は、以前は神聖なものに見なされていたというのが、現在は信心の対象にはなっていない。廟の横手の木にはダヒールが結ばれているが、これは神聖だからという理由からではなく、みんなが結んでいるから、とのことであった。(写真 233)

廟の周囲に墓地は見られない。

⁷⁷ [Sotūde vol.2 : 193]

⁷⁸ [Sotūde vol.2 : 193]

⁷⁹ 以前は、緑色の瓦を乗せた屋根と四方にエイヴァーンを持ち、一部屋だけの廟内には木製ザリーに覆われたサンドゥグが置かれ、廟内に宗教画が施された廟であった。[Sotūde vol.2 : 193]

⁸⁰ 以前は Salmān という名で呼ばれていた。sal とは estakhr=プール、貯水池、mān は makān、sarzamīn=土地。[Qolāmī 1384a : 93]

(56) بقعه سيد رسول (Boq'e Seyyed Rasūl)⁸¹

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Tajan

(北緯 37 度 14 分 509 秒 東経 49 度 53 分 157 秒 高度 13 メートル)

村を通る街道沿いに建つ廟。廟の周囲は墓地が広がり。敷地内にマスジェド。

以前の廟を取り壊し⁸²、新しく建てられた銀色のドームを持つ廟。(写真 234)

廟内に緑の布で覆われた金属製ザリー。(写真 235)

廟内にシャヒード墓地が設けられている。(写真 236)

廟の傍らに建つアーザードの木にダヒールが結ばれている。(写真 237)

(57) بقعه آقا سيد عبدالله معروف به آقا سيد بازو (Boq'e Āqā Seyyed 'Abdollāh Ma'rūf be Seyyed Bāzū)⁸³

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Bāzān

Āqā Seyyed 'Abdollāh az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem⁸⁴

(北緯 37 度 13 分 937 秒 東経 49 度 53 分 563 秒 高度 15 メートル)

村の中心から離れた墓地の中。敷地内に大規模なマスジェドを建設中。(写真 238)

ハラムの四方をサロンが取り囲む、比較的新しい廟⁸⁵。(写真 239)

ハラムは二方向に扉を持ち、緑の布で覆われた木製サンドウグが置かれている。(写真 240)

(58) چشمه (Cheshme)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Bāzān

(北緯 37 度 13 分 499 秒 東経 49 度 53 分 322 秒 高度 8 メートル)

ボグエ・セイエド・アブドラーの裏手から水田の中を通る未舗装道路を向かい 200 メートルほど。道ばたに立つアーザードの木が目印。木の傍らに、屋根をかけた井戸が掘られている。(写真 241~242)

井戸はそれほど深くなく、2 メートルほどで、ひもを結んだバケツを投げ込み、水を汲む。(写真 243)

⁸¹ ソトゥーデは Boq'e Seyyed Rasūl va Seyyede Hūrī としているが [Sotūde vol.2 : 197]、現在セイエデ・フリーの名前は廟内には見られない。

⁸² 以前は、四方にエイヴァーンを持つ瓦屋根の廟の中に、二人分の墓石を収めた木製サンドウグが置かれていた。[Sotūde vol.2 : 197]

⁸³ Bāzū は「腕」の意味。カルバラーにおけるアッパーズのように、戦いの中で切り落とされた腕が埋葬された場所と信じられていることによる。[Jaktājī : 28]

⁸⁴ [Jaktājī : 28]

⁸⁵ 以前は四方にエイヴァーンを持つ瓦屋根の廟であり、壁に宗教画が描かれていた。[Sotūde vol.2 : 196]

非常にハージャトがあり、遠方からも水を汲みに人が集まってくる。一年を通して水温は一定で、どんな干ばつの年にも干上がることはない。

ハージャトを求める人は、井戸にコインを投げ込み、水を汲む。村では定期的に底をさらってお金を集め、また、飲んでも問題がないように消毒を行っているとのこと。

井戸の傍らのアーザードの木はダヒールが結ばれていたり、緑の布が巻かれていたりするが、井戸の方が神聖なものだとの説明であった。(写真 244)

(59) بقعه آقا سيد علی (Boq'ē Āqā Seyyed 'Alī)⁸⁶

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Tajan Gūke Bālā

Āqā Seyyed 'Alī b. Emām Mūsā al-Kāzem⁸⁷

(北緯 37 度 13 分 839 秒 東経 49 度 54 分 994 秒 高度 24 メートル)

キースム-ラーヒージャーン街道沿いの村のバーザールの裏手に広がる墓地の中。

マスジェドと一体になった新しい建物⁸⁸。(写真 245) 建物の中心にハラム。その両側にマスジェド。

小さなハラムに大型のアルミ製ザリーが置かれている。(写真 246)

モハッラム月 1 日にアラムバンディエーを、同 13 日にアラムヴァーチニーを行う⁸⁹。

(60) بقعه سيد محمود (Boq'ē Seyyed Maḥmūd)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Tajan Gūke Pāīn

(北緯 37 度 13 分 548 秒 東経 49 度 54 分 841 秒 高度 6 メートル)

村を通る街道沿いに立つ民家の裏手。

周囲をエイヴァーンが取り囲む六角形の廟。(写真 247)

ハラムには緑の布で覆われた木製サンドウグが置かれている。(写真 248)

周囲に墓地は見られない。

(61) بقعه سيد ملك شهميران (Boq'ē Seyyed Malek Shahmīrān)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Tahām

(北緯 37 度 13 分 405 秒 東経 49 度 54 分 540 秒 高度 14 メートル)

⁸⁶ [Javādī vol.2 : 142] [Sotūde vol.2 : 170]によると、Seyyed 'Alī Ghaznavī。アミール・キヤーの祖先の一人。Zanjīr Āstāne とも。

⁸⁷ 廟内の表示による。[Javādī vol.2 : 142]によると、Seyyed 'Alī b. Emām Ja'far Šādeq。

⁸⁸ 以前は、煉瓦のゴルダステと四方にエイヴァーンを持つ廟で、そのうちの西側の一つがマスジェドとして利用されていた。廟内には美しい彫り物の施された、871A.H./1466-7 の日付を持つ木製サンドウグが置かれていた。[Javādī vol.2 : 142] [Sotūde vol.2 : 171-2]

⁸⁹ [Sotūde vol.2 : 173]

村の商店が集まる一角に広がる墓地の中。敷地内にホセイニーエ。

ハラムの四方をサロンが取り囲む新しい廟。(写真 249～250)

小さなハラムには、緑の布で覆われた木製サンドウグが置かれている。(写真 251)

(62) بقعه آقا سيد حسين (Boq'ē Āqā Seyyed Ḥosein)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Tajan Gūke

(北緯 37 度 13 分 698 秒 東経 49 度 55 分 834 秒 高度 4 メートル)

Āqā Seyyed Ḥosein b. Emām Ja'far Ṣādeq⁹⁰

キーソム-ラーヒージャーン街道沿いの墓地の中。敷地内にマスジェド。

以前の廟を取り壊して建てられた新しい廟。(写真 252)

ハラムとその隣に多目的用途の部屋。

ハラムの奥、向かって左の壁に近い場所に、緑色に塗られた木製ザリー⁹¹。(写真 253)

ハラムの入り口横に、ガラスケースに収められたセイエドの墓。(写真 254)

(63) بقعه سيد امير سلطان (Boq'ē Seyyed Amīr Solṭān)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Amīr hende

Seyyed Amīr Solṭān b. Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 13 分 252 秒 東経 49 度 55 分 727 秒 高度 7 メートル)

村はずれの墓地の中。敷地内にマスジェド。(写真 255)

金色のドームを持つ六角形の新しい廟⁹²。ほぼ正方形のハラムをサロンが取り囲んでいる。(写真 256)

アーイーネカーリーが施されたハラムには大型の金属製ザリーが置かれている。(写真 257)

廟の正面に立つ木と、マスジェド近くに立つ木の二本のアーザードの木は、以前は人々がダヒールを結ぶなど崇敬の対象となっていたが、現在では行われなくなってしまった。

地元で話を聞くと、「マシュハドのエマーム・レザーの兄弟」すなわち、ジャラルルッディーン・アシュラフの兄弟の一人という出自が強調されている⁹³。

アラム・バンディーがモハッラム月 2 日に、アラム・ヴァーチニーが同月 12 日のタ

⁹⁰ [Sotūde vol.2 : 175]

⁹¹ 南の角にあたる。このザリーは、ラシュトの Khāhare Emām で使用されていたものが、1345S.H./1967 にここに移されたものである。[Sotūde vol.2 : 175]

⁹² 以前は四方にエイヴァーンを持つ廟で、そのうちの北側のエイヴァーンの扉はマスジェドの入り口でもあった。寄せ木細工のサンドウグを木製ザリーが覆っていた。[Sotūde vol.2 : 174]

⁹³ ジャラルルッディーン・アシュラフが蜂起した後、209A.H./824-5 に、マディーナから軍勢に加わり、211A.H./826-7 にラシュトの統治者となった。ジャラルルッディーン・アシュラフの死後しばらくして亡くなり、ここに葬られた。[Qolāmī 1376 : 236]

刻に行われる⁹⁴。

(64) بقعه آقا سيد ابراهيم (Boq'ē Āqā Seyyed Ebrāhīm)⁹⁵

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Amīr hende

(北緯 37 度 13 分 252 秒 東経 49 度 55 分 727 秒 高度 7 メートル)

アミール・ソルターン廟の隣に立つ、前方にエイヴァーンを持つ小さな廟⁹⁶。(写真 258)

廟内には緑の布で覆われた木製サンドウグが置かれている。(写真 259)

アミール・ソルターンとは特に関係はないらしいとのこと。

(65) بقعه آقا سيد محمد (Boq'ē Āqā Seyyed Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Panjāh

Āqā Seyyed Moḥammad b. Emām Ja'far Šādeq

(北緯 37 度 14 分 287 秒 東経 49 度 56 分 623 秒 高度 0 メートル)

村の墓地の中に立つ廟。敷地内にマスジェド。

近年建て替えられた銀色のドームを持つ大きな廟⁹⁷。(写真 260) ハラムの四方をエイヴァーンが取り囲む。(写真 261～262)

ハラムにはエスファハーン様式のザリーが置かれ、パーティションで男女が分けられている。

廟とマスジェドの間に立つアーザードの木にダヒールが結ばれているが、この木に対する信心があつてのことなのかどうか確認が取れなかった⁹⁸。(写真 263～264)

モハッラム月 1 日にアラムバンディーを、同 12 日にアラムヴァーチーニーを行う。

(66) بقعه آقا سيد جنيد (Boq'ē Āqā Seyyed Joneid)⁹⁹

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Siyāh Kūche

(北緯 37 度 14 分 335 秒 東経 49 度 57 分 032 秒 高度 0 メートル)

村の中心部近くの広場の中。広い敷地の一角が墓地となっており、その中に四方をエイ

⁹⁴ [Sotūde vol.2 : 175]

⁹⁵ 以前は"Kūchek Boq'ē"という名で知られていたが、近年この名で呼ばれるようになった。[Sotūde vol.2 : 175]

⁹⁶ 以前は四方にエイヴァーンを持つ廟であった。[Sotūde vol.2 : 175]

⁹⁷ 建て替えられる以前の廟は、キヤーニー朝からサファヴィー朝にかけての建物で、ハラムの四方をエイヴァーンが取り囲む瓦屋根の廟であった。西側と南側のハラムの外壁は宗教画で飾られ、870A.H./1465年の日付を持つ扉を持ち、エイヴァーンには 1333A.H./1914-5年の日付を持つタイルが貼られていた。[Sotūde vol.2 : 188] [Farhangī : 111-112] [Javādī vol.2 : 399]

⁹⁸ ソトゥーデは「二本の古木」としているが[Sotūde vol.2 : 190]、現在一本しか確認できない。

⁹⁹ ソトゥーデによると、Boq'ē Āqā Seyyed Jānī b. Emām Mūsā al-Kāzem。[Sotūde vol.2 : 183]

ヴァーンに囲まれた新しい廟が建っている¹⁰⁰。(写真 265)

廟内には小ぶりなエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 266)

モハラム月 3 日にアラムバンディー、同 13 日にアラムヴァーチニー。

(67) بقعه سيد على معروف به دانا آقا (Boq'e Seyyed 'Alī Ma'rūf be Dānā Āqā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Bālā
Maḥalle Niyākū

Seyyed 'Alī az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem¹⁰¹

(北緯 37 度 14 分 447 秒 東経 49 度 57 分 171 秒 高度-8 メートル)

村の中心部。マスジェドと一連なりになった廟。周囲は墓地。(写真 267)

マスジェドからも出入りができるようになっているが、通常は、外から直接廟に出入りできるように設けられた入り口を使用する。(写真 268)

入り口から入ると小部屋があり、その奥にハラム。ハラムには金属製ザリーが置かれている¹⁰²。(写真 269)

(68) بقعه سيد محمد آقا پور نور (Boq'e Seyyed Moḥammad Āqā Pūr Nūr)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Pāin
Maḥalle Niyākū

Seyyed Moḥammad Āqā az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem¹⁰³

(北緯 37 度 14 分 794 秒 東経 49 度 57 分 415 秒 高度-9 メートル)

村の新しいマスジェド・ジャーメの一角に小部屋が作られ、その中に緑に塗られた金属製ザリーが置かれている¹⁰⁴。(写真 270～271)

廟の周囲は墓地。(写真 272)

(69) بقعه آقا پير مزار (سيد على) (Boq'e Āqā Pīr Mazār)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye
Niyākū

Seyyed 'Alī b. Emām Mūsā al-Kāzem¹⁰⁵

(北緯 37 度 14 分 885 秒 東経 49 度 57 分 885 秒 高度 3 メートル)

現在のアースターネ-ラーヒージャーン街道沿いの水田に囲まれた廟。(写真 273)

¹⁰⁰ 以前は、ハラムの内外に宗教画が描かれ、ハラムには木製サンドウグが置かれていた。[Sotūde vol.2 : 183-4]

¹⁰¹ [Sotūde vol.2 : 187]

¹⁰² 以前は瓦屋根のマスジェドと一体になった廟で、ハラムには木製ザリーが置かれていた。[Sotūde vol.2 : 187] [Javādī vol.2 : 420]

¹⁰³ [Sotūde vol.2 : 185-6]

¹⁰⁴ 以前は瓦屋根のマスジェド・ジャーメの南西の角に作られたハラムに、サンドウグとそれを覆うザリーが置かれていた。[Sotūde vol.2 : 185-6]

¹⁰⁵ [Sotūde vol.2 : 185]

三方にエイヴァーンを持ち、ハラムには木製ザリーが置かれている¹⁰⁶。(写真 274～276)
周囲に墓地は見られない。

(70) مزار آقا سید علی کیا (Mazār Āqā Seyyed ‘Alī Kiyā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhsh Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Bālā
Maḥalle Komāchāl

(北緯 37 度 15 分 093 秒 東経 49 度 58 分 455 秒 高度 0 メートル)

村の墓地の中。他の墓とは生け垣によって区切られた一面に、鉄製の覆いで囲われ、緑の布が巻かれた墓が置かれている。(写真 277～278)

覆いの中にはパンジ・タンが多数結びつけられ、ろうそくが灯された跡も見られる。(写真 279～280)

墓の傍らの木にも緑の布が多数巻かれ、ダヒールも大量に結ばれている。(写真 281～282)

どのような人物が埋葬されているかについては明らかではないが¹⁰⁷、村の人によると、「ある夜、村の人たちが集まっているとそこを訪れた人がいた。みんなはその人をもてなし、一晩泊めてやった。ところが、朝になってみるとその人は姿を消していた。きっと、これがアーガー・セイエド・アリー・キヤーだったに違いないとみんなは思った」という。

ダヒールやエフダーの数が多く、地元の人たちの信仰が篤いように見えるため、廟を建てるつもりはないのかと尋ねたところ、アーガー・セイエド本人が村の人の夢の中に現れ、「私は廟を建てて欲しくはない」と言ったことから、ザリーで墓石を覆っただけにしているとのことである。

(71) بقعه سید محمد (Boq‘e Seyyed Moḥammad)¹⁰⁸

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhsh Markazī - Dehestāne Kīsom - Rūstāye Pāīn
Maḥalle Komāchāl

Seyyed Moḥammad b. Emām Rezā¹⁰⁹

(北緯 37 度 14 分 484 秒 東経 49 度 59 分 365 秒 高度-3 メートル)

村の住宅の集まる一面に建つマスジェドの一室。(写真 283) マスジェドとは入り口は分けられているが、中で行き来ができるようになっている。(写真 284)

細長い部屋の中央に鉄製ザリーが置かれている。(写真 285)

ザリーの近くに、セイエドに対して強い信心を持っていたという女性の墓が置かれている。(写真 286)

マスジェドの周囲は墓地。

¹⁰⁶ 2013 年現在、廟を取り壊し、新築工事が始まっている。

¹⁰⁷ 地元の人によると、キヤー朝期、ザイド派の優れたウラマーであったという説もあるとのこと。

¹⁰⁸ ジャラルッディーン・アジュラフ廟が *Pile Āstūne* (=大アースターネ) と呼ばれるのに対し、*Kūche Āstūne* (=小アースターネ) と呼ばれる。

¹⁰⁹ [Sotūde vol.2 : 184] Emām Zein al-‘Ābedīn の孫の一人という人もいる。

(72) بقعه سيد عبدالرضا (Boq'ē Seyyed 'Abd al-Rezā)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Chahār deh - Rūstāye Gācherā' Bālā

Seyyed 'Abd al-Rezā b. Emām Mūsā al-Kāzem¹¹⁰

(北緯 37 度 13 分 842 秒 東経 49 度 50 分 181 秒 高度 3 メートル)

村から離れた墓地の中。敷地内に墓地。

以前の廟を取り壊し、新しく建てられた銀色のドームを持つ廟¹¹¹。(写真 287~288)

広い廟内の中央に金属製ザリー。(写真 289~290)

(73) سيده مريم (Seyyede Maryam)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Chahār deh - Rūstāye Gācherā' Bālā

(北緯 37 度 13 分 046 秒 東経 49 度 47 分 736 秒 高度 20 メートル)

住宅と水田の間の土地に建つアーザードの巨木。(写真 291)

根元部分に緑色をはじめとする様々な布が巻き付けられている。ダヒールやろうそくの跡は見られない。(写真 292~293)

近所の人々はこの聖所の名前を認識しており、幹に巻かれている布も古びてはいないが、周囲はゴミ捨て場となっている。(写真 294)

(74) بقعه سيد ناصرالدين (Boq'ē Seyyed Nāšer al-Dīn)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Chahār deh - Rūstāye Gācherā' Pāin

Seyyed Nāšer al-Dīn az oulāde Emām Mūsā al-Kāzem¹¹²

(北緯 37 度 16 分 338 秒 東経 49 度 48 分 789 秒 高度 15 メートル)

村の中心部、バーザール地区近くに建つ瓦屋根の廟。(写真 295)

ハラムの周囲をサロンが取り囲んでいる¹¹³。(写真 296)

小さなハラムには、鉄製ザリーに囲われた鉄製サンドウグが置かれている。(写真 297)

廟の周囲は墓地。敷地内に改修中のタアズィーエ・ハーニー、マスジェド。(写真 298)

モハッラム月 1 日にアラム・バンディーが、サファル月 28 日にアラム・ヴァーチーニーが行われる¹¹⁴。

¹¹⁰ [Golāmī 1384b : 89] [Sotūde vol.2 : 202]

¹¹¹ 四方にエイヴァーンを持つ廟内に切り妻屋根方の木製ザリーが置かれていた。

¹¹² [Sotūde vol.2 : 200] [Javādī vol.2 : 476]

¹¹³ 以前は四方にエイヴァーンを持ち、その内の南北のエイヴァーンに小部屋が設けられていた廟であったが[Sotūde vol.2 : 200] [Javādī vol.2 : 476]、現在は全てのエイヴァーンに外壁が設けられている。

¹¹⁴ アラムヴァーチーニーが稲の刈り取りの時期と重なる場合は、収穫の後に行われる。[Jaktājī : 104]

(75) مزار آقا سيد اسماعيل (Mazār Āqā Seyyed Esmā'īl)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Chahār deh - Rūstāye
Khalshā' Pāīn

(北緯 37 度 12 分 946 秒 東経 49 度 48 分 226 秒 高度 20 メートル)

村はずれの墓地の中に立つアーザードの巨木。(写真 299)

根元近くに緑の布やイマーム・ホセインの名前の入った旗が巻かれ、枝にダヒールが多数結ばれている。(写真 300~303)

敷地内にマスジェド。

(76) بقعه آقا سيد يوسف (Boq'ē Āqā Seyyed Yūsof)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Chahār deh - Rūstāye
Khalshā' Bālā

(北緯 37 度 12 分 832 秒 東経 49 度 48 分 466 秒 高度 13 メートル)

カーチャー村との境界近く。周囲を水田に囲まれた墓地の中に建つ廟。(写真 304)

前方にエイヴァーンを持つ石張りの新しい廟。(写真 305)

廟内には大型の金属製ザリーが置かれている。(写真 306)

(77) بقعه آغا سيد خورشيد (Boq'ē Āghā Seyyed Khorshīd)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Chahār deh - Rūstāye
Shīr kūh

(北緯 37 度 13 分 505 秒 東経 49 度 48 分 698 秒 高度 16 メートル)

村を通る街道沿いに建つ民家の裏手、マスジェドに付属する墓地の中。

墓地の中に緑の布で覆われた木の根元部分が残っており¹¹⁵、それを囲って建物を建てるための基礎部分が作られている。(写真 307~310)

町や周辺の村の人々には同名のマスジェドの方が知られており、敷地内に聖所が存在していると認識していない人も多い¹¹⁶。

(78) بقعه آقا سيد جليل (Boq'ē Āqā Seyyed Jalīl)

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafīye - Bakhshe Markazī - Dehestāne Chahār deh - Rūstāye
Khalshā' Bālā

(北緯 37 度 12 分 168 秒 東経 49 度 48 分 454 秒 高度 25 メートル)

村はずれの墓地の中。

¹¹⁵ 古いアーザードの木の切り株から生えた無花果の木となっているが[Qolāmī 1384a : 80]、現在は無花果の木も切り倒されている。

¹¹⁶ 筆者の聞き取りの際には由来に関する情報を得ることができなかったが、ゴラーミーによると、昔、住民の一人が美し女性をこの場所で見たと。その人物は寄付を集め、マザールの近くにサンドウグを置き、その近くにマスジェドも建設したとなっている。[Qolāmī 1384a : 80]

以前の廟を取り壊して建てられた新しい、マスジェドと一連なりになった廟。(写真 311)
廟内には、マスジェドに近い側の壁に寄せて金属製ザリーが置かれている。マスジェドとの間に入出口はなく、それぞれ独立している。(写真 312)

(79) بقعه آقا سيد حسين (Boq'ē Āqā Seyyed Ḥosein)¹¹⁷

Gīlān - Shahrestāne Āstāne Ashrafiye - Bakhsh Markazī - Dehestāne Chahār deh - Rūstāye Kateshast ābādān

(北緯 37 度 12 分 294 秒 東経 49 度 49 分 209 秒 高度 19 メートル)

以前の廟を取り壊し、ドームとゴルダステを持つ新しい廟を建設中。(写真 313)
幾つもの墓石が並ぶ床の中央に、金属製ザリーが置かれている。(写真 314~316)
廟の周囲を墓地が取り囲み、敷地内にマスジェド。

2. ソウメエ・サラール郡 (Shahrestāne Şoume'e Sarā)

北から、アンザリー、ラシュト、シャフト、フーマン、マーサール、レズヴァーン・シャフルに囲まれた、約 633 平方キロメートルのシャフレスターン。平均標高約 20 メートルという平地にあり、米、タバコ、サトウキビ、絹の生産が行われている。ソウメエ・サラール市、マルジャガル (Marjaghal) 市、グラーブ・ザルミーフ市をそれぞれ中心都市とするマルキャズイー、トゥーレム、ミールザー・クーチャク・ジャンギャリーの三つの Bakhsh、その下に 7 つの Dehestān を持つ。

ソウメエ・サラール市は、以前はキャスマー村の一部であり、ソウメエ・サラール郡はフーマン郡の一部であったが、現在はシャフレスターンとして独立している。

(80) بقعه سيد جعفر آقا (Boq'ē Seyyed Ja'far Āqā)¹¹⁸

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Shahre Şoume'e Sarā - Khiyābāne Ja'farī

Seyyed Ja'far Āqā az afḥāde Emām Mūsā al-Kāẓem

ソウメエ・サラールのバーザール地区の近く。青いタイル張りのドームを持つ廟¹¹⁹。(写真 317)

小さなハラムを囲んで男女が分けられてサロンが設けられている。ハラムにはエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 318~319)

¹¹⁷ エマーム・ムーサーの孫の一人という人もいるが、よく分からない。

¹¹⁸ ソトゥーデは、フーマン市内に同名の聖所があると記述しているが[Sotūde vol.1 : 162]、実際には存在せず、この廟をフーマン市内と記載してしまったと推測されている。

¹¹⁹ 2013 年現在、この廟とマスジェドは取り壊され、新築工事中が行われている。

廟に隣接してマスジェドとモサッラー。マスジェドの外壁に、一つの墓が据えられ、それを覆って金属製のザリーが埋め込まれている。被葬者は **Āqā Seyyed Ḥosein Bāqerī Ma'rūf be Karbalāi Pīle Āqā**。(写真 320～321)

敷地内に殉教者墓地を含む小規模な墓地。

(81) مقبره سیده خدیجه (Maqbare Seyyede Khadije)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Shahre Şoume'e Sarā - Khiyābāne Ja'farī

Seyyede Khadije az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem

道路沿いに置かれた墓石とそれを覆う緑色に塗られた金属製ザリー。現在、ザリーを囲むように建っているのはタブリーガーテ・エスラーミーの建物。(写真 322～323)

セイエド・ジャアファル・アーガーからも近く、買い物途中の人が立ち止まり、胸に手を当てて敬意を表して行ったり、ザリーに手を触れていくといった行為が見られる。

墓石にもろうそくを灯した跡が見られる。(写真 324)

(82) بقعه سیده نساء (Boq'e Seyyede Nesā')

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Shahre Şoume'e Sarā - Khiyābāne Ja'farī

Seyyede Nesā' Omm al-Kheir az navādegāne Emām Ja'far Şādeq, Mādare Sheikh 'Abd al-Qāder Gīlānī¹²⁰

住宅街の中。塀に囲まれ、小路から見ると周囲の住宅と変わらない。(写真 325)

敷地いっぱい建てられた新しい廟。塀との間の非常に狭い通路に面して設けられた入り口から入ると、廟の中央から外れた位置にエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 326～328)

入り口前の塀際に多数のろうそくを灯した跡が見られる。(写真 329～330)

イラン国内だけでなく、パキスタンやアフガニスタン、バングラデシュなど海外からの巡礼者も多く訪れるという¹²¹。

(83) بقعه آقا سید حبیب (Boq'e Āqā Seyyed Ḥabīb)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Shahre Şoume'e Sarā - Zeid sarā Āqā Seyyed Ḥabīb b. Na'im b. Mīr ('Abd al-Şāleḥ) 'Abd al-Şāne' b. Seyyed Yūsuf b. Mīr Na'im b. Mīr Morād b. Mīr Vahāb b. Mīr Shams b. Mīr Moṭleb

(北緯 37 度 17 分 34 秒 東経 49 度 18 分 934 秒 高度 20 メートル)

¹²⁰ [Jaktāji : 42] Sheikh 'Abdollah Şoume'i の娘。

¹²¹ [Jaktāji : 42] カーディリーヤ(ペルシア語ではガーデリーイェ)教団の開祖の母親の墓廟であるため、同教団の信徒が訪れる。

マスジェド・ジャーメから 200 メートルほど離れた場所にある、小さな墓地の中。(写真 331)

敷地の一角に新しい小さな廟が作られている。(写真 332)

廟の中には小さな金属製ザリーが置かれている。(写真 333)

1342 年シャフリーヴァル月 14 日/1963 年 9 月 5 日に 8 歳で死んだ子供の墓。(写真 334)

ハージャトがあるため、墓参りの際にここを訪れる人も多いとのこと。

(84) بقعه آقا سید مهدی آقا (Boq'ē Āqā Seyyed Mahdī Āqā)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Shahre Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī

Āqā Seyyed Mahdī Āqā az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 18 分 448 秒 東経 49 度 49 分 964 秒 高度 8 メートル)

大規模な墓地の中に建つ、マスジェドと一連なりになった新しい廟。(写真 335~336)

礼拝時と木曜日の午後以外は鍵がかけられている。(写真 337)

廟内には金属製のザリー。その傍らにセイエドの墓が見られるが、どのような人物かは確認できなかった。

(85) بقعه سید عبدالله و سید ابراهيم (Boq'ē Seyyed 'Abdollāh va Seyyed Ebrāhīm)¹²²

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Kasmā

(北緯 37 度 19 分 658 秒 東経 49 度 49 分 413 秒 高度 11 メートル)

村の中心から外れた川沿いに建つ廟。

金のドームと二本のゴルダステを持つ新しい廟。(写真 338)

広い廟内はカーテンによって男女のスペースが分けられ、中央にエスファハーン様式のザリーが置かれている。

廟の前は小規模な墓地となっているが、タイルの間にわずかに墓石が見られる程度である¹²³。(写真 339)

(86) بقعه سید ابراهيم و سید سليمان (Boq'ē Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Soleimān)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Dahandeh

(北緯 37 度 120 分 421 秒 東経 49 度 17 分 747 秒 高度 10 メートル)

村の中心近くにある墓地の中。敷地に隣接してマスジェド。

銀のドームと二本のゴルダステを持つ新しい廟。(写真 340)

¹²² Rabino によると、Mazār Emānzāde 'Abdollāh. [Sotūde vol.1 : 168] 地元ではエマーム・ムーサーの息子たちと言われている。

¹²³ 以前は、廟の周囲には墓地が広がり、ジャンギアリー運動に加わった人々の墓が多く見られたという。

廟内はアーイーネカーリーで飾られ、エスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 341)

廟の入り口近くにナズルとして掘られた井戸がある¹²⁴。廟の外に水は引かれて、飲用水などに使用されている。

廟の周囲には墓地が広がっており、その中に立つ木の一本にダヒールが結ばれ、小石による占いが見られる。(写真 342～345)

(87) مزار (Mazār)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Pūstīn sarā

(北緯 37 度 21 分 133 秒 東経 50 度 49 分 447 秒 標高-8 メートル)

村の中を通る街道がカーブした地点に立つアーザードの巨木。(写真 346)

木の根元に多数の緑の布が巻かれ、ダヒールが結ばれている。(写真 347～350)

道路とは反対側に鉄柵が設けられているが、中へは自由には入れるようになっている。

木のすぐ近くに小さな建物があり、礼拝や集会などに利用できるようになっている。(写真 351)

周囲に墓地は見られない。

(88) بقعه آقا سيد عبدالله (Boq'e Āqā Seyyed 'Abdollah)¹²⁵

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Rāste Kenār

(北緯 37 度 21 分 291 秒 東経 49 度 19 分 122 秒 標高-4 メートル)

村はずれの川沿いに広がる墓地の中。

コンクリートのドームと二本のゴルダステを持つ新しい廟。(写真 352)

広いハラムの中央に金属製ザリーが置かれている。(写真 353～354)

(89) بقعه آقا سيد ابراهيم (Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Pīshkhān

(北緯 37 度 20 分 775 秒 東経 49 度 19 分 553 秒 高度-9 メートル)

村から離れた水田の中。数本の背の高いアーザードの木に囲まれた廟。(写真 355～356)

¹²⁴ ジャクタージーによると、以前はこの水を灌漑に利用しており、もしこの水が稲の苗床にいくらかでも引かれたなら神聖なものとなり、豊作となるであろうと信じられていた。しかし、用水路が作られてからはこうした考え方はなくなり、この水が様々な病気にシャファーを与えてくれると信じられているとのことである。[Jaktājī : 73-4]

¹²⁵ エマーム・ムーサーの息子と言われている。

廟内には緑の布で覆われた木製ザリー。布をめくるとダヒールがびっしりと結ばれている。(写真 357～358)

廟の前は小規模な墓地となっている。

廟の周囲のアーザードの木々にもダヒールが見られるが、この木々が神聖なものであると見なされているのではないという。(写真 359)

(90) بقعه آقا پیر شاه محمود (Boq'ē Āqā Pīr Shāh Maḥmūd)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Kharafkām

(北緯 37 度 20 分 591 秒 東経 49 度 20 分 766 秒 高度-8 メートル)

マスジェドに付属する墓地の中。マスジェドの傍らに建つ小さな廟。(写真 360～361)

廟内には大型の金属製ザリーが置かれ、周囲をめぐるためにはぎりぎりの隙間しかない。(写真 362)

入り口正面、ザリーの脇に二人のセイエドの墓。(写真 363)

普段は鍵がかかっており、木曜日の午後のみ扉を開ける。

(91) بقعه دو برادران (Boq'ē Do Barādarān)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Chamşeqāl

(北緯 37 度 22 分 116 秒 東経 49 度 21 分 861 秒 高度-10 メートル)

ラシュト-ハシュトバル街道からの分岐点近く。

背の低いコンクリートブロックに囲まれた小さな廟。(写真 364)

廟内にはザリー等を持たない背の低い墓石が置かれている。(写真 365)

敷地内に立つ木にダヒールが見られる。(写真 366)

廟の周囲に墓地は見られない。

(92) بقعه سيد ابراهيم و سيد حسين (Boq'ē Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Ḥosein)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Miyān deh

(北緯 37 度 22 分 725 秒 東経 49 度 18 分 361 秒 高度 6 メートル)

川沿いに広がる墓地の中。敷地内にマスジェド。

青いタイルのドームと二本のゴルダステを持つ新しい廟。(写真 367)

ハラムの三方をサロンが取り囲み、小さなハラムには金属製ザリーが置かれている。(写真 368)

(93) بقعه آقا سيد محمد معروف به بيچاره محمد (Boq'ē Āqā Seyyed Moḥammad Ma'rūf be Bīchāre Moḥammad)¹²⁶

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Khesht Pol

(北緯 37 度 20 分 097 秒 東經 49 度 15 分 802 秒 高度 11 メートル)

村はずれの墓地の中。マスジェドと一連なりになった廟¹²⁷。(写真 369)

廟内はマスジェド側の壁に寄せてエスファハーン様式のザリーが置かれ、マスジェド側からもザリーに触れることができるようになっている。(写真 370)

墓地のあるセイエドの墓の傍らに立つアーザードの木にダヒールが結ばれている。その他にも、墓地の入り口近くに立つシムシャードの木にもダヒールが結ばれている。(写真 371~375)

被葬者については明らかではないが、村の人たちによると、「昔からビーチャーレ (= 哀れな、かわいそうな意)・モハンマドと呼んできた。近年、ワクフ慈善庁はアーガー・セイエド・モハンマドと呼ぶよう指導しているが、村の人々は昔からの呼び名で呼び続けている」とのこと。

現在でも Zavvār keshī¹²⁸を行っている、ソウメエ・サラエでは唯一のボグエである¹²⁹。

(94) بقعه آقا سيد ابراهيم (Boq'ē Āqā Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Pāske

(北緯 37 度 19 分 337 秒 東經 49 度 16 分 846 秒 高度 21 メートル)

村の中心を少し外れた場所に建つマスジェドの傍ら。道路を挟んで墓地が広がる。(写真 376)

土台と柱だけが作られた廟の中にセイエドの墓。墓を囲う柵にダヒールが結ばれている。(写真 377~378)

50 年ほど前に亡くなった、この村に住んでいたセイエドの墓。現在も子孫や親戚が村に住んでいる。

それらの人々によると、「アーガー・セイエド・エブラーヒームはとても敬虔な人物で、村の人々は彼を尊敬していた。ある日、葬式があり、親戚や村の人々が集まっていた。式が終わり、人々が家に帰ろうとしたときには、辺りはすっかり暗くなってしまっていた。その時、セイエド・エブラーヒームが女性たちに、自分が送っていくから一緒に歩くようにと言った。セイエド・エブラーヒームはランプを持っているかのように明るく、女性たちは安

¹²⁶ エマーム・レザーの息子と言われているが、Mehr News の報道によると、エマーム・ムーサーの孫の一人である。(Mehr News, 1391/3/1S.H./2012/5/21)

¹²⁷ 以前の建物でもマスジェド内に木製サンドゥグが置かれていた。[Qolāmī 1384a : 29-30]

¹²⁸ エマームザーデやボグエに参詣者を集めるために行われる行事。参詣者を目当てに季節市が立つなど、非常に賑わいを見せる。

¹²⁹ Mehr News の報道の中で、「特に下記にズィヤラトの人が多く、就業の機会を作り出している」としているのは、このザヴヴァール・ケシーによる。

心して夜道を歩くことができた。どこからランプを持ってきたのだろうと不思議に思ったが、セイエド・エブラーヒームは何も手には持っていなかった。

死後、親戚の夢の中にセイエド・エブラーヒームが現れ、自分のために部屋を作ってくれるようにと言った。そうしたら村を見守ろう、と。

夢を信じた親族たちはお金を集め、村の顔役に事業を委託したが、彼らは廟を作らずマスジェドを作った。親族たちは抗議を下が、なかなか聞き入れられず、土台と柱を立てたところで工事が止まってしまっている」という。

(95) درخت (Derakht)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Pāske
(北緯 37 度 19 分 444 秒 東経 49 度 17 分 573 秒 高度 11 メートル)

水田の中の小さな土地に立つ木。(写真 379)

緑の布が巻かれ、ダヒールが結ばれているが、新しいものは少ない。(写真 380~381)
近くの村の人たちも、場所は認識していても訪れることはほとんどないという。

(96) بقعه پیر اشرف (Boq'e Pīr Ashraf)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye
Lādmakh

(北緯 37 度 18 分 066 秒 東経 49 度 17 分 842 秒 高度 9 メートル)

マスジェドに隣接した六角形の新しい廟。(写真 382)

広い廟内の中央に、ザリー等を持たない背の低い墓石が置かれている¹³⁰。(写真 383)
周囲に墓地は見られない。

(97) بقعه سیده حلیمه و سید اسماعیل (Boq'e Seyyede Ḥalīme va Seyyed Esmā'īl)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye
Lādmakh - Sīmbar

(北緯 37 度 17 分 626 秒 東経 49 度 16 分 992 秒 高度 13 メートル)

村はずれの墓地の中に建つトタンの小さな小屋。(写真 384~385)

廟内には蜘蛛の巣がはっているなど、人が常時訪れているようには見えない。(写真 386)

本当はもっとしっかりした廟を建てたいのだが、予算がないために叶わずにいるとのこと。

どのような人物が埋葬されているのかは村の人たちによると、埋葬されているという二人には血縁関係は全くなく、もともとハリメ・ハートゥーンだけが埋葬されているとされていたのが、いつのまにかセイエド・エスマーイールが加わっていたとのこと。

¹³⁰ 2013 年にザリーが置かれたということである。

(98) امامزادگان سید سلیمان و سید حمزه (Emānzādegān Seyyed Soleimān va Seyyed Ḥamze)¹³¹

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Nafūt
(北緯 37 度 16 分 243 秒 東經 49 度 17 分 378 秒 高度 53 メートル)
村のバーザール地区の裏手に広がる墓地の中。敷地内にマスジェド。
以前の廟を取り壊し、金色のドームを持つ新しい廟を建設中。(写真 387)
廟内には木製ザリーが置かれている。(写真 388)

(99) آرامگاه آقا نه نه (Ārāmgāhe Āqā Na Na)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Moṭahhar

(北緯 37 度 17 分 675 秒 東經 49 度 19 分 094 秒 高度 12 メートル)
現在新築中のマスジェドの隣。取り壊し途中の建物の半分が残され、残った部分が物置として利用されている。その建物の前にあるセイエデの墓を囲む鉄製ザリーに緑の布が巻かれ、ダヒールが結ばれ、南京錠がかけられている。(写真 389~390)
建築中のマスジェドの入り口扉前と半分残された建物前にもろうそくの跡が残る。(写真 391)

近所の人たちに尋ねてみたが、どのような人物なのかは不明。

(100) بقعه آقا سید علی (Boq'e Āqā Seyyed 'Alī)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Do gūr
(北緯 37 度 17 分 531 秒 東經 49 度 20 分 748 秒 高度 12 メートル)
村はずれの墓地の中に建つ廟。廟の前に立つ巨木が目印。枝に緑の布が巻かれているが、神聖な木ではないとのことである。(写真 392)
四方をエイヴァーンが取り囲み、廟内にはザリーを持たない背の低い墓石が置かれている。(写真 393~394)
敷地内にマスジェド。

(101) بقعه آقا سید میر شجاع الدین (Boq'e Āqā Mīr Shojā' al-Dīn)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Do gūr
(北緯 37 度 17 分 088 秒 東經 49 度 21 分 011 秒 高度 13 メートル)
村の墓地の中。マスジェドと一連りになった廟。入り口は別に設けられているが、中で行き来できるようになっている。(写真 395)
ハラムにはザリー等を持たない墓石。(写真 396)

¹³¹ エマーム・ムーサーの息子と言われている。

以前はもっと小さな廟・マスジェドであったが、数年前に建て替えられ、現在の形になったとのこと。

午後の礼拝時と木曜日の午後のみ扉を開けている。

(102) بقعه آقا سيد محمد (Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Kasmā - Rūstāye Chūbe

(北緯 37 度 18 分 929 秒 東経 49 度 21 分 589 秒 高度 11 メートル)

村はずれの低い丘の上に広がる墓地の中。

近年建て替えられた新しい廟。廟の前には屋根をかけた殉教者墓地。(写真 397)

広い廟内の中央に金属製ザリーが置かれている。(写真 398)

廟の扉にはダヒールが結ばれ、入り口前に置かれたコンクリートブロックにはろうそくの跡が多数見られる。(写真 399~400)

木曜日の午後のみ扉を開けるとのこと。

(103) بقعه آقا سيد ملاجان (Boq'e Āqā Seyyed Mollā Jān)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Ziyābar - Ziyābar

Seyyed Moulā Jān b. Seyyed Moḥammad Jān b. Emām Mūsā al-Kāzem¹³²

(北緯 37 度 25 分 551 秒 東経 49 度 14 分 592 秒 高度-5 メートル)

町を流れる川岸に建つ廟。(写真 401~402)

護岸工事が進む中、川岸に建つ廟の周囲では整備が進み、近所にマスジェドが建てられたり、道路拡張工事が行われたりしており、周囲に広がっていたという墓地はほとんど残っていない。

廟内には一方の壁に寄せて金属製の金網のザリーが置かれ、ダヒールが多数結ばれている。(写真 403~404)

何年前前に泥棒に入れられ、それ以後、入り口に鍵をかけるようになったとことで、普段は扉が閉められている。

(104) بقعه آقا سيد محمدجان (Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad Jān)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Ziyābar - Ziyābar

Seyyed Moḥammad Jān b. Emām Mūsā al-Kāzem¹³³

(北緯 37 度 25 分 510 秒 東経 49 度 14 分 745 秒 高度-5 メートル)

町のバーザールの裏手、住宅地の中。ブロック塀に囲われた墓地の中。敷地の隣にマスジェド。現在、廟を拡張するための工事中¹³⁴。(写真 405~406)

¹³² ソトゥーデは、Mollā ではなく Moulā としている。[Sotūde vol.1 : 193]

¹³³ [Sotūde vol.1 : 193]

¹³⁴ 現在の廟が建てられる前の廟は、煉瓦造りで廟内は床が張られておらず、むしろが敷かれていた。そこに通常より背の高い木製ザリーが置かれていた。[Sotūde vol.1 : 193]

廟内には大型のエスファハーン様式のザリーが置かれ、カーテンで男女のスペースが仕切られている。(写真 407)

アラム・バンディーがモハッラム月 1 日に、アラム・ヴァーチーニーが同月 10 日に行われる¹³⁵。

(105) درخت (Derakht)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Ziyābar - Rūstāye Chakābar

(北緯 37 度 24 分 196 秒 東経 49 度 17 分 538 秒 高度-15 メートル)

ラシュト-ハシュトパル街道沿いに立つアーザードの巨木。(写真 408)

二本の木の根元に緑の布が巻かれている。ダヒールやろうそくの跡は見られないが、近所の人々によると神聖な木で、人々の願いを非常に良く叶えてくれるという。(写真 409～410)

木の根元近くと 4~5 メートル離れたところに一基ずつ墓石が見られるが、現在は墓地としては使われていないとのこと。

(106) بقعه شاهپور يوسف (Boq'e Shāhpūr Yūsef)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Ziyābar - Rūstāye Lashmarzmakh

(北緯 37 度 23 分 860 秒 東経 49 度 17 分 976 秒 高度-12 メートル)

ズィヤーバル-ハシュトパル街道から分岐した小径沿い。村の外に建つマスジェド付属の墓地の中に、近年建てられた新しい廟。廟を取り囲むようにアーザードの巨木が立っている。(写真 412~413)

廟を入ると左手の覆いのかかった墓石。ハラムの奥に広いサロン。(写真 414~415)

村に住んでいたセイエドで、ハージャトを持っているので、木曜日の午後になると女性たちが集まってくるという。

(107) بقعه سيده كلثوم (Boq'e Seyyede Kolşūm)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Ziyābar - Rūstāye Lālom

(北緯 37 度 24 分 871 秒 東経 49 度 12 分 934 秒 高度 11 メートル)

村の住宅からは離れた場所に建つ廟。道路を挟んで墓地とマスジェド。

廟の周囲は柵で囲われ、廟の裏手は畑となっている。

また、廟の南東の角に、半分ほど壁に埋もれたアーザードの大木が見られると記述しているが[Sotūde vol.1 : 193]、現在は全く見られない。また、魚の目(あるいはいぼ)ができた場合、塩とこのアーザードの木に生えた苔を採って土に埋める。その塩が溶けると魚の目(あるいはいぼ)も取れると言われていた。[Sotūde vol.1 : 193]

¹³⁵ ソトゥーデは、このアーシューラーの日にガメザダンのダステがやってくるが、廟内では血を流さず、外に出て一斉に血を流す、としている。[Sotūde vol.1 : 193]

新築の廟は未完成で、壁が一部開いたままになっているため、廟内が外から見える。(写真 416)

廟内には金属製ザリーが置かれている。(写真 417)

(108) آرامگاه سید خروسه (Ārāmgāhe Seyyed Khorūse)¹³⁶

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Zīyābar - Rūstāye Haft Daghān

(北緯 37 度 27 分 850 秒 東経 49 度 11 分 766 秒 高度 4 メートル)

現在のハフト・ダグナーン村から林の中の道を歩いて 15 分ほど。背の高い木々に囲まれた中に緑色に塗られたザリーで囲われた墓石¹³⁷。(写真 418~420)

以前はここに町があったとのことで、周囲にハンマームの跡などが残るが、現在、この周囲に人は住んでいない。

ここに葬られているのは、今は亡びた町のマスジェドに住んでいた女性の墓と考えられている。

今でも、休日にはここを訪れる家族が見られる。

(109) پیر بخشعلی (Pīr Bakhsh'Alī)¹³⁸

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Tāher Gūrāb - Tāher Gūrāb

(北緯 37 度 20 分 060 秒 東経 49 度 31 分 073 秒 高度 3 メートル)

町のバーザール地区からはずれた位置にあるマスジェド付属の墓地の中。(写真 421)

現在は切り倒されてしまったが、以前はここにアナルの木が立っていて、人々はナズルの食事を取ったり、ダヒールを結ぶなどしていたという。革命後しばらくはここに木があったことは間違いないが、いつの間にかなくなってしまったと、案内してくれた老人は語っている。

(110) بقعه آقا سید ابراهیم (Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Tāher Gūrāb - Rūstāye Khānī Kenār - Sar Cheshme - Masjede Jāme'

(北緯 37 度 23 分 391 秒 東経 49 度 11 分 348 秒 高度 23 メートル)

村のマスジェド・ジャーメに付属した墓地の中。(写真 422)

¹³⁶ ソトゥーデによると、Amīr Sāsān Gaskarī(14 世紀初)の姉妹であり、レズヴァーン・シャフル郡に廟を持つ Seyyed Sharafshāh の妻。[Sotūde vol.1 : 190]

¹³⁷ ソトゥーデが訪れたときには、墓の傍らに二本の模様入りの柱が立ち、墓石は破壊されていたが [Sotūde vol.1 : 191]、現在、柱は見当たらず、新しい墓石が置かれている。

¹³⁸ [Qolāmī 1384a : 41]に名前が見られるが、町の人々にこの聖所を知る人がほとんど見つからず、また、記憶があるという人も名前は覚えていないと言うため、筆者が案内された場所がそれにあたるのかどうか確証は持てない。

廟の下から泉が湧いており、敷地の外へと引かれている。(写真 423)

小さな新しい廟が建てられており、廟内には木製サندوقグが置かれているが、現在、マスジェデ・ジャーメが建設中であることに関連してか、扉は閉められ、物置として利用されている。(写真 424)

廟の傍らに何基かのセイエドの墓があり、ダヒールが結ばれたり、ろうそくが灯されたりしている。(写真 425～426)

(111) بقعه آقا سيد حسين معروف به اكبر چشمه (Boq'e Āqā Seyyed Ḥosein Ma'rūf be Akbar Cheshme)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Tāher Gūrāb - Rūstāye Kalangestān

Āqā Seyyed Ḥosein az navādegāne Emām Ja'far Şādeq

(北緯 37 度 23 分 831 秒 東経 49 度 09 分 771 秒 高度 29 メートル)

水田に囲まれた中に建つ廟。

小さな新しい廟。廟の脇に泉が湧き、裏手を流れる水路に注いでいる。泉の傍らに立つ木にダヒールが多数結ばれている。(写真 427～429)

廟の中にはザリー等を持たない背の低い小さな墓石。葬られているのは子供であるとされる。(写真 430～431)

敷地内にマスジェド。敷地内に墓地は見られない。

(112) بقعه پير جليل (Boq'e Pīr Jalīl)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Tāher Gūrāb - Rūstāye Nou Kāsht

(北緯 37 度 22 分 495 秒 東経 49 度 11 分 292 秒 高度 25 メートル)

ターヘル・グーラフからマーサールへ向かって村を出て、橋を渡ってすぐ左手に広がる墓地の中。

近年建てられた、ドームを持つ廟。(写真 432)

廟内には金属製ザリーが置かれている。(写真 433)

(113) بقعه آقا پير قوام (Boq'e Āqā Pīr Qavām)¹³⁹

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Tāher Gūrāb - Rūstāye Zīgsār

(北緯 37 度 23 分 509 秒 東経 49 度 12 分 607 秒 高度 15 メートル)

村を通る街道沿い。

¹³⁹ ソトゥーデによると、Mazār。[Sotūde vol.1 : 197]

最近建てられたドームとゴルダステを持つタイル張りのマスジェドの中の一室。(写真 434~435)

入り口を入ってすぐに、エスファハーン様式のザリーが置かれ、その中央をパーティションが通り、男女を分けている。その奥に台所。(写真 436~437)

ハラムの両脇はマスジェド。

廟の周囲は広い墓地となっている。

(114) آرامگاه سيد محمود فاضل (Ārāmgāhe Seyyed Maḥmūd Fāzel)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Ṭāher Gūrāb - Rūstāye Pīshṭīr

(北緯 37 度 23 分 819 秒 東経 49 度 12 分 963 秒 高度 3 メートル)

村の保健所の正面、半ばゴミ捨て場のようにになっている空き地の中に、緑の布を巻いた金属製の柵が見える。中はセイエドの墓。両脇にもセイエドの墓が見られる。(写真 438~439)

柵にはダヒールが結ばれ、墓の前にはろうそくを灯した跡が見られる。(写真 440~441)

この墓のある場所に住んでいたセイエドが亡くなり、そのまま家のあった場所に葬られた。

現在もセイエドの子孫が近所に住んでいる。

(115) بقعه آقا چهار برادران (Boq'e Āqā Chahār Barādarān)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Ṭāher Gūrāb - Rūstāye Pāīn Maḥalle Pīshṭīr

(北緯 37 度 24 分 054 秒 東経 49 度 13 分 481 秒 高度 4 メートル)

水田の中を通る道路と用水路に挟まれた場所。道路がカーブした地点。

新しく建てられた廟。廟内にはアルミ製ザリーが置かれている。取り替えられた古い木製ザリーが解体され、廟の外に置かれている。(写真 442~444)

墓石も取り替えられ、新しいものとなっているが、その表面にも名前は刻まれていないため、四兄弟の名前は明らかではない。

周囲に墓地は見られない。

(116) بقعه بابا سعيد (Boq'e Bābā Sa'īd)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Ṭāher Gūrāb - Rūstāye Omandān

(北緯 37 度 23 分 787 秒 東経 49 度 14 分 793 秒 高度 7 メートル)

川沿いに広がる墓地の中。道路を挟んで新しいマスジェド。

以前の廟を取り壊し新築中の六角形の廟。(写真 445)

廟内には金属製ザリーが置かれているが、床を張るための工事中で墓石は取り外されている。(写真 446)

(117) درویش آقا (Darvīsh Āqā)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Ṭāher Gūrāb - Rūstāye Sādāt Maḥalle Omandān

(北緯 37 度 23 分 514 秒 東経 49 度 14 分 186 秒 高度 11 メートル)

道路が二股に分かれた場所に設けられた小さな広場に立つ巨木。裏手に小川が流れている。

ダルヴィーシュが葬られていると言われているが、廟や墓石は存在せず、地を這うように伸びた巨木に緑の布が巻かれ、ダヒールが結ばれている。(写真 447~450)

木の周囲には盗掘の跡が見られる。

有刺鉄線で囲まれた敷地内にはトイレも用意され、小規模な墓地となっているが、墓石の数はわずかである。

(118) بقعه آقا سید ابراهیم و آقا سید محمد (Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Ṭāher Gūrāb - Rūstāye Tanhā Savāl Kal Omandān

(北緯 37 度 27 分 282 秒 東経 49 度 15 分 322 秒 高度-3 メートル)

村はずれの小規模な墓地の中。敷地内にマスジェド。(写真 451)

前方にエイヴァーンを持つ小さな廟。(写真 452)

廟内には大型の金属製ザリーが置かれている。(写真 453)

(119) بقعه سیده کلثوم و سیده فاطمه (Boq'e Seyyede Kolşūm va Seyyede Fāṭeme)¹⁴⁰

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Ṭāher Gūrāb - Rūstāye Kelīd bar

(北緯 37 度 22 分 741 秒 東経 49 度 15 分 277 秒 高度 14 メートル)

現在のラシュト-アンザリー街道に近い村はずれ。

以前の廟を取り壊して金色のドームを持つ新しい廟を建設中。(写真 454)

廟内には、ドームの真下に当たる中央ではなく、入り口側の壁に寄せて金属製ザリーが置かれている。(写真 455)

廟の脇に立つ木にダヒールが結ばれ、ろうそくが灯されている。(写真 456~459)

敷地内に墓地は見られない。

¹⁴⁰ エマーム・ムーサーの娘たちであるといわれている。

(120) سیده مریم نوری (Seyyede Maryame Nūrī)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Tāher Gūrāb - Rūstāye Kelīd bar

(北緯 37 度 22 分 670 秒 東経 49 度 14 分 639 秒 高度 4 メートル)

街道沿いに立つ数本の背の高いアーザードの木に緑色の布が巻き付けられている。(写真 460)

これらの木が取り囲む小さな空間に向けて照明が取り付けられている。近所の住人がほとんど留守で、名前以外の情報が得られなかったため、これらの空間がどのような意味を持つのかは確認できなかった。(写真 461~464)

ナズルの食事を配るために使われる容器が散乱したり、木の幹に巻き付けられている布が時々取り替えられていることから、人々の崇敬の対象になっていることは明らかである。

(121) سيد (Seyyed)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Tāher Gūrāb - Rūstāye Pātāvān

(北緯 37 度 22 分 104 秒 東経 49 度 13 分 627 秒 高度 19 メートル)

ズィヤーバル-グーラーブ・ザルミーフ街道沿いに立つ巨木が目印。(写真 465)

木の根元に名前や来歴など明らかではないセイエドの墓があり、ズィヤーラトガーとなっている。(写真 466~468)

墓石の傍らにあるアーザードの木の幹にも緑の布が巻かれ、ダヒールが結ばれている。

(122) بقعه آقا سيد زكى (Boq'e Āqā Seyyed Zakī)¹⁴¹

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Tāher Gūrāb - Rūstāye Mināre Bāzār

(北緯 37 度 20 分 911 秒 東経 49 度 14 分 751 秒 高度 13 メートル)

村はずれの墓地の中。マスジェドと一連なりになった新しい廟¹⁴²。(写真 469)

ハラムとマスジェドはパーティションで区切られ、行き来ができるようになっている。

ハラムにはエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 470)

(123) قبرستان مسجد جامع (Qabrestāne Masjede Jāme')

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh Markazī - Dehestāne Tāher Gūrāb - Rūstāye Abātar

(北緯 37 度 22 分 095 秒 東経 49 度 15 分 882 秒 高度 2 メートル)

¹⁴¹ エマーム・ムーサーの孫の一人と言われている。

¹⁴² 以前は、マスジェドと一連なりになった、前方にエイヴァーンを持つ木造の廟であった。一部屋だけの廟内には布で覆われたサンドゥグが置かれていた。[Sotūde vol.1 : 195]

バーザール地区近くにあるマスジェド・ジャーメ付属の墓地の中に、二つの小さな建物がある。その中のセイエドの墓が崇敬の対象となっている。向かって右手の小さな方が、**Seyyed Nabī Qoreishī Kolūrī** と **Seyyed Valīollāh Qoreishī Kolūrī** のもの。向かって左手の大きな方にはいくつかの墓石が収められている。最も大きなものは **Āqā Seyyed Moḥammad**。(写真 471~473)

その他に、墓地の中にあるアルミ製の柵で囲った **Āqā Seyyed Khalīl** の墓を、住民の一人は「まだ廟が作られていない」と表現していた。実際、墓の脇にはコンクリートブロックが積まれており、何かを建設する予定であるように見える。(写真 474)

(124) بقعه آقا سيد خليل (Boq'ē Āqā Seyyed Khalīl)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Ṭāher Gūrāb - Rūstāye Abātar

(北緯 37 度 22 分 327 秒 東経 49 度 16 分 311 秒 高度-3メートル)

村の中心からは離れた川沿いの、墓地の中に建つ廟。敷地内にマスジェド。(写真 475)

小さな廟内には、ザリー等を持たない背の低い墓石。(写真 476)

以前は募金箱の足であったと思われる鉄パイプにダヒールが結ばれている。

(125) آرامگاه سيدان (Ārāmgāhe Seyyedān)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Markazī - Dehestāne Ṭāher Gūrāb - Rūstāye Kūdeh

(北緯 37 度 22 分 507 秒 東経 49 度 17 分 011 秒 高度-1メートル)

マスジェドに付属した墓地の中。小さな六角形の廟が作られ、**Seyyed Jalāl** の墓を中心に、**Seyyed Pūr Aḥmadī** 家の墓が収められている。(写真 477~478)

廟の近くには、ダヒールが結ばれた鉄製の柵で囲われた **Seyyed Ḥosein 'Ālam Bīn** の墓があり、墓地を訪れる人が触れ、敬意を表していくのが見られる。(写真 479~480)

(126) بقعه برج علی (Boq'ē Borj 'Alī)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Shahre Marjaghal - Masjede Emām Ja'far Şādeq

(北緯 37 度 16 分 673 秒 東経 49 度 22 分 376 秒 高度 11メートル)

トゥーレム-フーマン街道沿いの墓地の中。

マスジェドと一連なりになった廟。(写真 481) マスジェドとは別に入り口が設けられているが、マスジェドとはカーテンで仕切られているだけで、行き来は自由にできるようになっている。

緑の布で覆われた背の低い墓石が置かれている。(写真 482)

(127) بقعه آقا سيد حاجي زيمسار (Boq'e Āqā Seyyed Ḥājī Zīmsār)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Zīmsār

(北緯 37 度 16 分 794 秒 東経 49 度 23 分 705 秒 高度 3 メートル)

村の墓地の中。マスジェドと一連なりになった廟。(写真 483)

マスジェドとはパーティションで区切られ、マスジェド側からも触れることができるようにザリーが置かれている。(写真 484)

普段は扉が閉められ、礼拝時と木曜の午後のみ扉を開ける。

(128) بقعه سيد عباس (Boq'e Seyyed 'Abbās)¹⁴³

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Siyāh tan

(北緯 37 度 17 分 901 秒 東経 49 度 23 分 142 秒 高度-2 メートル)

川沿いに広がる墓地の中。

新しく廟を建てるために以前の廟は取り壊し¹⁴⁴、金属製ザリーだけが仮小屋に収められている。(写真 485~486)

(129) بقعه آقا جليل موسوى (Boq'e Āqā Jalīl Mūsavī)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Mātak

(北緯 37 度 18 分 584 秒 東経 49 度 24 分 224 秒 高度-9 メートル)

村の中、マスジェド付属の墓地の中。

一部屋だけの小さな廟。(写真 487)

廟内にはザリー等を持たない墓石が一方の壁に寄せて置かれ、入り口正面にはまた別な二人のセイエドの墓。(写真 488~491)

(130) بقعه آقا سيد محمد (Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Mātak

Bālā

(北緯 37 度 18 分 679 秒 東経 49 度 24 分 036 秒 高度-3 メートル)

以前は独立した村だったが、現在はマータク村の一部となっている。村を通る街道沿いに広がるバーザールの裏手。

墓地の中に建つ、マスジェドと一連なりになった廟。(写真 492) 入り口は別だが、中はカーテンで仕切られているのみ。

廟内には黒い布で覆われた金属製ザリーが置かれている。(写真 493)

特定の日にのみ開けるとのことで、木曜日や金曜日でもしまっていることが多い。を知らず、「ボグエ」とのみ呼んでいる。

¹⁴³ 本来、Pīr 'Abbās という名であるが、ワクフ慈善庁が Seyyed という名前で登録した。[Qolāmī 1384a : 36-37] [Jaktājī : 37]

¹⁴⁴ マスジェドを伴っていた。[Qolāmī 1384a : 36-37]

(131) بقعه پيله قرآن (Boq'e Pīle Qor'ān)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Şeiqalān

(北緯 37 度 18 分 872 秒 東経 49 度 23 分 041 秒 高度-1メートル)

墓地の中に置かれたマスジェドと一連なりになった廟。(写真 494)

以前は古いゴルアーン¹⁴⁵が保管され、人々の崇敬の対象となっていたが、数年前に盗まれてしまった。現在は、ゴルアーンがいつ戻ってきても良いように、金属製のザリーを置き、その中にゴルアーンを置いたナフルが置かれている。(写真 495～497)

ゴルアーンの盗難については、廟の管理人という人たちから次のような話が得られた。それによると、「マスジェドのヘイアトル・オマナーの一人の姉妹が結婚式を行った。その最中に、空が突然暗くなり、激しい風雨に見舞われた。異変を悟った村の人たちがマスジェドに駆けつけたときには既にゴルアーンは盗まれた後だった。結婚式があつて、マスジェドへの注意が途切れていることを知っていた人物が盗み、また、軍人が加わっていたことも明らかである。なぜなら、その軍人がいたからこそ、警察の捜査をかいくぐってゴルアーンを海外に売りさばくことができたのだ」¹⁴⁶

(132) بقعه ملك شميران (Boq'e Malek Shemīrān)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye

Delivandān

(北緯 37 度 18 分 571 秒 東経 49 度 22 分 060 秒 高度-1メートル)

村はずれの墓地の中。敷地内にマスジェド。

墓地の最も外側に建つ小さな廟。(写真 498)

廟内にはザリー等を持たない背の低い墓石。(写真 499～500)

(133) بقعه آقا پيران (Boq'e Āqā Pīrān)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Gūrāb

(北緯 37 度 19 分 616 秒 東経 49 度 23 分 697 秒 高度 8メートル)

村の中心、商店や村役場の集まる一画。墓地の中に建つ廟。(写真 501)

真新しく広い廟内の一方の壁に寄せて、ザリー等を持たない背の低い墓石が置かれている。(写真 502～503)

廟の裏手に立つ一本の木とチェシュメも人々の崇敬の対象となっている。(写真 504)

被葬者は人々の信心の対象となっているものの、ワクフ慈善庁は認めておらず、この廟は村の人々から集めた資金のみで建てられた。

¹⁴⁵ クーフィー体で書かれたもので、1ページ目と最終ページが欠けていた。[Sotūde vol.1 : 227]

¹⁴⁶ ゴラーミーは、「金庫に入れられ、モタヴァッリーの家で保管されていたが盗難に遭った」としている。[Qolāmī 1384a : 43]

(134) بقعه آقا سيد نورالله (Boq'e Āqā Seyyed Nūrollāh)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Gūrāb

(北緯 37 度 19 分 803 秒 東経 49 度 23 分 628 秒 高度-4 メートル)

村の外れに近い墓地の中、長方形の廟。(写真 505) 墓地の外、道路を挟んでマスジェド。廟内は壁がはげ落ちたり、亀裂が入っていたり、また埃が積もっているなど、人が余り訪れていない様子が見られる。(写真 506)

緑の布で覆われた金属製のザリーは錆が浮いているが、ダヒールが多数結ばれている。(写真 507)

廟内にはこのほかにもセイエドの墓がいくつか見られる。(写真 508)

(135) درخت (Derakht)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Gūrāb

(北緯 37 度 19 分 936 秒 東経 49 度 23 分 566 秒 高度 0 メートル)

ボグエ・アーガー・セイエド・ヌーロッラーとマスジェドの間の道を村の外へ。川にかかった煉瓦造りの橋を渡ってすぐの右手、道路より 1 メートルほど高くなった場所に立つ木。(写真 509~510)

近隣の人々に神聖な木と見なされ、枝に多数ダヒールが結ばれている。木の根元などに盗掘の後も見られる。(写真 511~513)

木の種類についてはよく分からないとのことであったが、この近隣には、これと同じ種類の木は見られないという。

(136) مقبره سیده خدیجه (Maqbare Seyyede Khadije)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye

Līfshāgerd

(北緯 37 度 19 分 363 秒 東経 49 度 25 分 011 秒 高度-7 メートル)

村のマスジェド・ジャーメ付属した墓地の中。背の高いアーザードの木に囲まれるようにして、緑色に塗られた小さな廟が建っている。(写真 514)

廟内にはザリー等を持たない背の低い墓石。(写真 515~516)

被葬者については名前も来歴も不明。名前を教えてくれた村の人たちも、正確には思い出せないがこういう名前だったはず、と自信がなさそうであった。

(137) بقعه آقا سيد حسين (Boq'e Āqā Seyyed Hosein)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye

Līfshāgerd Bālā

(北緯 37 度 19 分 776 秒 東経 49 度 25 分 118 秒 高度-9 メートル)

村はずれの墓地の中に建つ新築の廟。(写真 517)

廟内にはエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 518)
敷地内にマスジェドを建設中¹⁴⁷。

(138) بقعه آقا سيد زكى (Boq'ē Āqā Seyyed Zakī)¹⁴⁸

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Semes

(北緯 37 度 18 分 506 秒 東経 49 度 26 分 507 秒 高度 2 メートル)

広い墓地の中。マスジェドと一連なりになった廟。(写真 519)

マスジェドとはパーティションで区切られ、マスジェド側からもハラムに置かれたエスファハーン様式のザリーに触れることができるように置かれている。(写真 520~522)

廟内には他にも、セイエドの墓が数基見られる。

この廟には、人々の崇敬の対象となっていた古いゴルアーン¹⁴⁹が置かれていたが、現在は盗難を避けるため、マスジェドの管理責任者の自宅に保管され、Shabe Qadr (Lailat al-Qadr) の日にものみマスジェドで公開されている¹⁵⁰。

(139) مقبره سيد سادات (Maqbare Seyyed Sādāt)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Semes

(北緯 37 度 19 分 002 秒 東経 49 度 26 分 799 秒 高度-10 メートル)

村のマスジェド・ジャーメ付属の墓地の中。緑色に塗られた小さな廟。(写真 523)

廟内にはザリー等を持たない背の低い墓石。(写真 524)

どのような人物が埋葬されているのかは全く分からないが、人々は敬意を払っているとのこと。

(140) بقعه آقا سيد ابراهيم و سيد جمال (Boq'ē Āqā Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Jamāl)¹⁵¹

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Tūlem - Rūstāye Fallāh ābād¹⁵²

(北緯 37 度 15 分 731 秒 東経 49 度 21 分 776 秒 高度 11 メートル)

ラシュト-フーマン旧街道沿いの村の墓地の中。(写真 525)

マスジェドと一連なりになった新しい廟がセイエド・ジャマール。(写真 526) 墓地側から見てマスジェドの左手の扉の奥。小さなハラムの天井はドーム状になっており、金属製のザリーでほぼいっぱいになってしまっている。(写真 527)

¹⁴⁷ 以前はマスジェドと一連なりになった廟であった。[Sotūde vol.1 : 229]

¹⁴⁸ ソトゥーデによると Mazār。[Sotūde vol.1 : 229]

¹⁴⁹ 9(noh) man の重さがある大きくて重いもので、その重さからノマーンという名で知られている。[Qolāmī 1384a : 44-45]

¹⁵⁰ ソトゥーデはこのゴルアーン存在に触れているが、自身は目にしていない。[Sotūde vol.1 : 229]

¹⁵¹ ソトゥーデによると、Mazār Seyyed Ebrāhīm。[Sotūde vol.1 : 168]

¹⁵² ソトゥーデによると、Falābā。[Sotūde vol.1 : 168]

マスジェドと墓地を挟んで向かい合っている建物がセイエド・エブラーヒーム。(写真 528) 簡単な台所を備えた広い廟内に、金属製のザリーが置かれている。(写真 529~530) 道路から墓地への入り口近くに、半ば朽ちてしまった木が立っており、ダヒールが結ばれている。(写真 531) もともとは、この木を合わせて三人のエマームザーデと見なされていたとのこと。現在もこの木にダヒールを結び、願い事をする人が見られる。普段は鍵がかけられており、礼拝の時間帯と木曜日の午後のみ鍵を開けるとのこと。

(141) بقعه سيد قاسم (Boq'e Seyyed Qāsem)¹⁵³

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Hende Khāle - Rūstāye Hende Khāle

(北緯 37 度 22 分 272 秒 東経 49 度 26 分 692 秒 高度-12 メートル)

バーザールの裏手、マスジェド・ジャーメの敷地内。

近年建て替えられた新しい廟。(写真 532)

廟の入り口から見て左手奥に、背が低く大きな墓石が置かれている。(写真 533)

敷地内に墓地は見られない。

(142) آقا بزنگه (Āqā Bozorge)¹⁵⁴

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Hende Khāle - Rūstāye Sādāt Maḥalle Hende Khāle

(北緯 37 度 21 分 282 秒 東経 49 度 26 分 605 秒 高度-15 メートル)

ピール・バーザール-ハシュトバル街道沿いに立つ木。(写真 534)

特別背が高かったり、周囲に同じ種類の木がないといったような外見上の特徴は見られないが、周囲の人々の信心の対象となっており、緑の布が根元に巻かれ、枝にダヒールが結ばれている。(写真 535~536)

(143) بقعه درویشعلی آقا (Boq'e Darvīsh'Alī Āqā)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Hende Khāle - Rūstāye Lāksār

(北緯 37 度 21 分 618 秒 東経 49 度 24 分 561 秒 高度-8 メートル)

村はずれにある墓地の中。敷地内にマスジェド。

新しく建てられた大きな廟。(写真 537)

廟内には 에스ファハーン 様式のザリーが置かれている¹⁵⁵。(写真 538)

¹⁵³ ソトゥーデはこの村の Bālā Maḥalle のマスジェドの近くに、Chehel tanān という聖所があると記しているが[Sotūde vol.1 : 228]、村の人たちによるとそのような名前の聖所は存在していないし、これまでも存在していなかったという。

¹⁵⁴ アーザードの木ではないように見えるので、ゴラーミーが Āqā Nīkān という名で紹介しているアーザードの木[Qolāmī 1384a : 88]と同じものかどうか分からない。

(144) بقعه آقا سيد رضا (Boq'ē Āqā Seyyed Rezā)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Hende Khāle - Rūstāye Nargestān

(北緯 37 度 22 分 074 秒 東経 49 度 23 分 748 秒 高度-9 メートル)

村の外、街道から分かれた枝道の突き当たりの墓地の中。

前方にエイヴァーンを持つ廟。(写真 539)

正面右側の入り口を入ると大型の金属製ザリーが置かれ、その隣の小部屋は物置のよう
に使われている。(写真 540)

エイヴァーンの奥に積まれた絨毯の下に、蠟燭の古い跡が見られる。(写真 541~542)

(145) مقبره سيده زهرا موسوی (Maqbare Seyyede Zahrā Mūsavī)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Hende Khāle - Rūstāye Nargestān

(北緯 37 度 22 分 006 秒 東経 49 度 22 分 835 秒 高度-6 メートル)

ラシュト-ハシュトバル街道沿い。村のマスジェデ・ジャーメに付属した墓地に入ると、
緑のタイルを貼った小さな廟が目に入る。(写真 543)

扉が閉められていて中は確認できなかった。

窓枠にダヒールが結ばれ、入り口前にはシャムダーンも設けられている。(写真 544~545)

村に住んでいた女性で、非常に良い人であったことから人々の崇敬を集めているとのこ
とであったが、詳しい話を聞くことはできなかった。

(146) بقعه آقا سيد ابراهيم (Boq'ē Āqā Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Hende Khāle - Rūstāye Nou Khāle

(北緯 37 度 20 分 498 秒 東経 49 度 26 分 599 秒 高度-11 メートル)

村はずれに置かれた墓地の中。

マスジェドと接した、新しいタイル張りの六角形の廟。(写真 546)

タイルやアーイーネカーリーで飾られた廟内の、中央から少し外れたところにエスファ
ハーン様式のザリーが置かれている。(写真 547~548)

(147) مقبره شيخ محمد طالقانی (Boq'ē Sheikh Moḥammad Ṭāleqānī)¹⁵⁶

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Tūlem - Dehestāne Hende Khāle - Rūstāye Kīshestān

¹⁵⁵ 以前は正方形の廟の中に木製サンドゥグが置かれていた。[Sotūde vol.1 : 229]

¹⁵⁶ アーガー・シェイフと呼ばれる、ガージャール朝末期に、村でゴルアーンの教育に当たっていたルー
ハーニー。死後、生前住んでいた家に葬られた。[Qolāmī 1384a : 38-39]

(北緯 37 度 20 分 371 秒 東経 49 度 29 分 698 秒 高度-19 メートル)

村はずれに置かれた墓地の中に建つマシエド。

以前の建物を取り壊し、新しいマシエドを建設中。(写真 549) そのマシエドの敷地内に、人々の敬意を集めていたというシェイフの墓があった¹⁵⁷。関係者によると、マシエドの完成後も、墓石を置きたいと考えている。しかし、エマームや血統のはっきりしたエマームザーデ以外の人物、それも、血統もよく分からない人物に対してそうした信心を持って良いものかどうか悩んでいることであった。(写真 550)

(148) بقعه سيد عزيز گشتی (Boq'e Seyyed 'Aziz Gashti)

Gilān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Hende Khāle - Rūstāye Nou Khāle Ja'fari

(北緯 37 度 21 分 105 秒 東経 49 度 27 分 709 秒 高度-13 メートル)

村はずれの川沿いに建つ、最近立て直されたコンクリートブロックによる新しい廟。(写真 551)

廟に入るとすぐに大型の木製ザリー。その傍らにセイエドの墓。(写真 552~553)

セイエド・アズィーズは、この村に住んでいたセイエドであった。近隣の村と水争いが起こったときに、ノウハーレの人々と共に、村の代表として争いの場に赴いた。争いは激しくなり、その中でセイエドは殺されてしまった。人々はセイエドの亡骸をここに運び、葬った。そして今でも人々の崇敬の対象となっている。

(149) بقعه آقا پير مؤذن (Boq'e Āqā Pīr Mo'azzen)¹⁵⁸

Gilān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhsh-e Tūlem - Dehestāne Hende Khāle - Rūstāye Şūfiyān deh

(北緯 37 度 22 分 078 秒 東経 49 度 27 分 416 秒 高度-2 メートル)

村の墓地の中。背の高い木の傍らに建つ新しい廟¹⁵⁹。敷地内に墓地。(写真 554~555)

廟を入るとすぐに金属製ザリーが置かれ、奥に広くスペースが取られてる。(写真 556)

ここに埋葬されている人物についての資料は残されていないが、この村でイスラームの教えを広め、礼拝を行うように呼びかけていた人物であるとされている¹⁶⁰。

廟の傍らに建つ巨木にはダヒールが結ばれ、根元にシャムダーンが設けられている。(写真 557)

¹⁵⁷ 以前は木製サンドウグが置かれていた。[Qolāmī 1384a : 38-39]

¹⁵⁸ ソトゥーデによると、Mazāre Mīr Mo'azzenān。[Sotūde vol.1 : 228] ジャクタージーは Mīr Mo'azzen としている。[Jaktāji : 70] ゴラーミーは埋葬されている人物を、939A.H/1532-3 年に亡くなったアーレブであるとしている。[Qolāmī 1384a : 22-23] 地元の人によると、Pīr Moḥammad Mo'azzen。

¹⁵⁹ 以前の建物は火災により焼失したが[Sotūde vol.1 : 228] [Jaktāji : 70]、このときに焼け残った花柄のタイルを利用して新しい廟を建てた。この古いタイルが神聖なものであるとして、土地の老女たちは廟を訪れた際に、タイルに顔をすりつける。[Jaktāji : 70]

¹⁶⁰ このことから、Mo'azzen と呼び習わされるようになったとされる。

(150) بقعه سيده كلثوم (Boq'e Seyyede Kolšūm)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrżā Kūchak Jangalī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Shahre Gūrāb Zarmīkh

(北緯 37 度 18 分 846 秒 東経 49 度 13 分 347 秒 高度 28 メートル)

町の中心から離れた墓地の中。裏手を小川が流れている。

新しいマスジェドと一連なりになった廟。(写真 558)

廟内にはエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 559)

埋葬されているのは少女であるとされるが、どのような経緯でここに葬られているのかは不明。

廟の正面に、土地の言葉でズィンドと呼ばれる巨木が立っているが、ここにダヒールが結ばれ、シャムダーンも作られている。しかし、この木そのものを神聖なものを見なしているわけではないと廟の管理人たちからは説明があった。(写真 560~563)

(151) بقعه سيد ابراهيم (Boq'e Seyyed Ebrāhīm)¹⁶¹

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrżā Kūchak Jangalī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Shahre Gūrāb Zarmīkh¹⁶²

Seyyed Ebrāhīm b. Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 18 分 294 秒 東経 49 度 13 分 273 秒 高度 38 メートル)

町の中心部、バーザール地区の中央部。

以前の廟を取り壊し、緑のドームを持つ新しい廟を建てた。廟にマスジェドが隣接している。(写真 564)

廟はパーティションで区切られ、礼拝用の絨毯が敷き詰められた広い空間が女性用、男性用のスペースはごく小さいものとなっている。その間にエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 565~566)

廟の周囲は殉教者墓地を含む墓地となっている。

(152) بقعه سيد ابو طالب و سيده فاطمه (Boq'e Seyyed Abū Ṭāleb va Seyyede Fāṭeme)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrżā Kūchak Jangalī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Rūstāye Taṭof

(北緯 37 度 17 分 493 秒 東経 49 度 12 分 534 秒 高度 53 メートル)

街道沿いの墓地の中。敷地内にマスジェド。(写真 567)

比較的新しい廟の中には破損の目立つ、背の低い木製ザリー。ザリーの中にはタイルが敷かれ、小さな墓石が置かれている。(写真 568~569)

¹⁶¹ ソトゥーデによると Mazār. [Sotūde vol.1 : 168]

¹⁶² ソトゥーデは Zarmīkh ではなく、Zarmakh と表記している。[Sotūde vol.1 : 168]

被葬者は 1270A.H./1853-4 年に亡くなった母子とされるが、なぜ死後、人々の信仰の対象となったのかについては情報が得られなかった。

(153) بقعه سيد فخرالدين (Boq'è Seyyed Fakhr al-Dīn)¹⁶³

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrzā Kūchak Jangalī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Rūstāye Taţof

(北緯 37 度 16 分 892 秒 東経 49 度 11 分 819 秒 高度 54 メートル)

村の中を通る道沿いに立つ小さな廟。(写真 570～571)

建物はそれほど古くないが、扉が一部壊れるなどしている。しかし、廟内は清掃が行き届き、整えられている。

廟内にはザリー等を持たない背の低い墓石。(写真 572)

窓枠の外に、小石が並べられている。聖樹の幹に置かれる一種の占いの石と同じような意味を持つと思われる。(写真 573)

(154) بقعه شيخ سمیع (Boq'è Sheikh Samī')

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrzā Kūchak Jangalī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Rūstāye Vald

(北緯 37 度 19 分 962 秒 東経 49 度 11 分 444 秒 高度 34 メートル)

村はずれの墓地の中。以前の廟を取り壊し、新しい廟を建設中。敷地内にマスジェド。(写真 574)

廟内には背の低い木製サンドウグが置かれている。墓地の片隅には古いザリーが放置されている。(写真 575～576)

廟の傍らに立つ背の高い木にダヒールが結ばれているが、この木が神聖なものと思われているわけではないとのことであった。(写真 577)

墓地の中に、Maqbare Seyyed Asadollāh という小さな廟が見られる。(写真 578) 廟内には緑の櫛覆われた木製サンドウグが置かれているが、どのような人物が埋葬されているのかは確認できなかった。(写真 579)

(155) امامزادگان عينعلى و زينعلى (Emānzādegān 'Ein 'Alī va Zein 'Alī)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrzā Kūchak Jangalī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Rūstāye Pīshṭar

(北緯 37 度 16 分 733 秒 東経 49 度 13 分 465 秒 高度 39 メートル)

村はずれ、廟の奥は水田という場所。敷地の脇を川が流れている。(写真 580)

マスジェドと一連なりになった新しい廟。(写真 581)

¹⁶³ ワクフ慈善庁のリストによると、この村に「Seyyede Roqaiye va Seyyede Fāṭeme」という廟があるとされているが、村の人によるとそのような名前の廟は存在せず、この廟だけであるとのこと。この廟の名前は近所に住む人達でも知らないという人が多かった。

パーティションでマスジェドと区切られたハラムにはアルミ製ザリーが置かれている。
マスジェドとハラムは行き来ができるようになっている。(写真 582)

農繁期は礼拝時や木曜日の午後以外は扉が閉められている。

廟の前に *derakhte moqaddas* と見なされるアーザードの木が立っており、ダヒールが結ばれたり、小石が置かれたりしている。(写真 583)

(156) درخت (Derakht)¹⁶⁴

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrzā Kūchak Jangalī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Rūstāye Pīshtar

(北緯 37 度 16 分 709 秒 東経 49 度 13 分 425 秒 高度 39 メートル)

Emāmzādegān 'Ein 'Alī va Zein 'Alī から水田の中をあぜ道を 50 メートルほど歩いたところ。(写真 584)

二本の木の幹に緑の布が巻き付けられ、ダヒールが結ばれたり、小石が置かれたりしている。(写真 585~586)

(157) بقعه میر شمسعلی (Boq'e Mīr Shams'Alī)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrzā Kūchak Jangalī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Rūstāye Pīshtar - Raḥīn ābād

(北緯 37 度 16 分 022 秒 東経 49 度 13 分 064 秒 高度 60 メートル)

村の墓地の中。マスジェドと一連なりになった廟。(写真 587)

廟の中央からずれた場所に緑の布で覆われた大型の木製ザリーが置かれている。(写真 588) 現在、エスファハーン様式のザリーに取り替えるための寄付を募っているとのこと。
礼拝時や木曜日の午後以外は扉は閉められている。

(158) بقعه آقا سید ابراهیم و سید محمد معروف به گل امام (Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Moḥammad Ma'rūf be Gol Emām)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrzā Kūchak Jangalī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Rūstāye Pīr sarā

(北緯 37 度 19 分 409 秒 東経 49 度 13 分 778 秒 高度 24 メートル)

村の墓地の中。マスジェドと一連なりになった廟。(写真 589)

マスジェド側の壁に寄せるように金属製のザリーが置かれている。(写真 590)

墓地の中に立つ木に古いダヒールが見られるが、この木が神聖なものと思われているかどうかについては、確認が取れなかった。(写真 591)

¹⁶⁴ ゴラーミーは、Emāmzādegān 'Ein 'Alī va Zein 'Alī の姉妹の、'Ein Bānū va Zein Bānū であるとしている。[Qolāmī 1384a : 89]

(159) بقعه آقا سيد على اكبر و آقا سيد على اصغر (Boq'ē Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Aşghar)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrzā Kūchak Jangālī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Rūstāye Taniyān

Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Aşghar az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem¹⁶⁵

(北緯 37 度 18 分 275 秒 東經 49 度 06 分 163 秒 高度 444 メートル)

村の後背の山の中。村から見ると山の裏側にあたる。山の途中まで道路が整備されているが、そこからは徒歩で 30 分ほど。(写真 592) 現在、自動車道を廟まで通すための工事中。

新旧の墓が斜面に広がる中に建つ新しい廟。(写真 593~594)

広いハラムの中央に、ダヒールがびっしりと結ばれた大型の木製サンドウッグ。兄弟である二人が葬られているとされる。(写真 595~597)

ハラムの隣に小部屋が設けられ、そこにセイエドの墓が置かれている。(写真 598~599)

(160) بقعه سيد على محمد (Boq'ē Seyyed 'Alī Moḥammad)

Gīlān - Shahrestāne Şoume'e Sarā - Bakhshē Mīrzā Kūchak Jangālī - Dehestāne Gūrāb
Zarmīkh - Rūstāye Davāl kūhe Āliyān

(北緯 37 度 17 分 220 秒 東經 49 度 09 分 630 秒 高度 595 メートル)

村の後背に迫る山の上。村から見ると頂上の裏側にあたる。村から徒歩で一時間弱。大きなエイヴァーンを持つ廟。(写真 600~601) それに比してハラムは小さく、ハラムに隣接する小部屋は礼拝などにも使われる¹⁶⁶。

ハラムにはハラムいっぱいになるほどの大型の木製ザリー。ザリーや窓枠には多数のダヒール。天井からもダヒールが下がる。(写真 603~609)

廟の前に立つ木は神聖なものと思なされ、ダヒールが結ばれたり、小石が置かれていたりする。

廟の前にチェシュメがあるが、これは他所から水を引いてきているもので、この場所自身は水は出ないとのこと。

廟の近くに一家族が家を構えており、廟の管理などを行っている。

廟の周囲には古い墓地が見られるが、どのくらいの規模なのかは確認できない。新しい墓は少ない。(写真 610~611)

村を朝早く出て廟に参詣し、その後村に戻って農作業を行うが、普段はそれほど人は訪れない。最も参詣者が多いのは、スイーツダ・ベ・ダル¹⁶⁷の日とのこと¹⁶⁸。

¹⁶⁵ [Jaktāji : 28]

¹⁶⁶ ソトゥーデによると、四方にエイヴァーンを持ち、西側にマスジェドがある。[Sotūde vol.1 : 165]

¹⁶⁷ イランの元旦(ノウルーズ)の13日目。この日に家の中にいることは不吉で、外に出ることが良いとされている。ジャクタージーはこの他に、チャハールジャンベ・スーリーの夜(ノウルーズの直前の水曜日の夜、日本的には火曜日の夜、家の外で火を焚いてそれを飛び越えながら新年の幸福を祈るなど、)

3. フーマン郡 (Shahrestāne Fūman)

行政区分としては、フーマンとシャフトという二つのシャフレスタンであるが、ワクフ慈善庁はこの二つを合わせてフーマン郡として管理を行っている。しかし、重要性を鑑みて、Emānzāde Ebrāhīm と Emānzādegān Eshāq va Nesā'の二つの廟に関しては、ラシュト郡事務所が管理を行っている。

フーマン郡（ワクフ慈善庁）は北から、ソウメエ・サラール、マーサール、ザンジャーン州、ラシュトと接している。フーマン郡は約 978 平方キロメートルの面積に、マルキャズイーとサルダール・ジャンギアルの二つの Bakhsh の下に 6 つの Dehestān を持つ。シャフト郡は、約 681 平方キロメートルの面積に、マルキャズイーとアフマド・サル・グーラーブの二つの Bakhsh の下に 6 つの Dehestān を持つ。

平野部では米が、平野部から山間部に向かって茶、果実、生花の栽培が行われ、牧畜も盛んである。

3-1. フーマン郡 (Shahrestāne Fūman)

(161) امامزاده میرزا (Emānzāde Mīrzā)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh Markazī - Shahre Fūman - Khiyābāne Yād āvarī

Emānzāde Mīrzā az navādegāne Emām Mūsā al-Kāẓem

フーマン-ギャシュト街道への出口近く、フーマンの公共墓地の中。

新しいマスジェドと一連なりになった廟。(写真 612)

廟とマスジェドはパーティションで区切られ、マスジェド側からも触れることができるよう、パーティションに寄せてエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 613 ~614)

(162) امامزاده آقا سيد علی (Emānzāde Āqā Seyyed 'Alī)¹⁶⁹

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh Markazī - Shahre Fūman - Khiyābāne Entezāmī - rū-be-rūye Kalāntarī 11

以前の廟を取り壊し、マスジェド・ミールサラールという名の新しいマスジェドを建設中。(写真 615)

建設現場には、緑の布で覆われたザリーが置かれている。(写真 616)

廟は新しいマスジェドの一室になる予定。

にも人が集まってくるとしている。

¹⁶⁸ ジャクタージーも同様に述べている。[Jaktājī : 87]

¹⁶⁹ Āqā Mīr sarā という名でも知られている。

(163) بقعه پير جلودار (Boq'e Pīr Jeloudār)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Shahre Fūman - Bālā Maḥalle

Bāzār

バーザール地区の一角、ハンマームに隣接して建つ。

以前の廟を取り壊して建てられた、銀色のドームを持つタイル張りの廟¹⁷⁰。(写真 617)

ハラムの四方をサロンが取り囲む。

入り口は男女別に分けられ、ハラムも男女別となっている。

ハラムにはエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 618～619)

周囲に墓地は見られない。

被葬者の人物を特定する資料はないが、人々はエマーム・レザーのヤーラーンの一人であったシェイフ、あるいはアーレフと信じている¹⁷¹。

(164) سقاخانه ابوالفضل (Saqqākhāne Abū al-Faḥl)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Shahre Fūman - Bālā Maḥalle

Bāzār - rū-be-rūye Masjede Valī 'Aṣr

マスジェド・ヴァリー・アスルの向かい、集会場として使われている建物の壁に作り付けられたサッカーハーネ。(写真 620) アボルファズルのタイル画が貼られている。(写真 621)

水飲み用の器をつないでいる鎖にダヒールが結ばれているのが見られる。(写真 622～623) 何らかのシャファーが得られるということなのかと尋ねたところ、その通りであるという返答と、ただの水飲み場だよという返答とがあった。

(165) سقاخانه مسجد ولی عصر (Saqqākhāne Masjede Valī 'Aṣr)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Shahre Fūman - Bālā Maḥalle

Bāzār - Masjede Valī 'Aṣr

マスジェドの入り口前に置かれた水飲み場。(写真 624)

緑の布が巻かれ、水の汲み上げ口のふたにダヒールが結ばれたり、ろうそくを灯した跡が見られたりする。(写真 625～626)

マスジェドを訪れた人やマスジェド前を通りかかった人などが手を触れ、祈っていく姿が見られる。

(166) زیارتگاه امام بر (Ziyāratgāhe Emām bar)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Shahre Fūman - Khiyābāne

Shahīd Beheshtī - Khiyābāne Majīd Mar-āt - Khiyābāne Shahīd Parvīz Qorbānzāde

¹⁷⁰ ソトゥーデによると、以前は瓦屋根の廟で、ハラムにはアーザードの木で作られた古いサンドゥーグが置かれ、それを木製ザリーが覆っていた。[Sotūde vol.1 : 162]

¹⁷¹ [Qolāmī 1384a : 32]

(北緯 37 度 07 分 702 秒 東経 49 度 25 分 820 秒 標高 34 メートル)

現在はアパートが建つ。(写真 627)

革命以前は、この場所に二本の木が立ち、その間に、誰のものかは分からないが、土地の人々が崇敬の対象としていた墓石があった。シャファーがあるとされ、木曜日などには人々がそこを訪れていたという。

革命後、木は切り倒され、墓石は埋め立てられ、住宅が建てられてしまった。かろうじて通りの名前をしてエマーム・バルが残っていたが、それも後にシャヒードの名前に変えられてしまった。しかし、現在でもこの通りは一般にはエマーム・バルと呼ばれ、革命前後を知っている人であれば、ここにズィヤーラトガーがあったことは記憶しているが、名前も分からない墓であったということは偽物だったのだろうという人も見られた。

(167) بقعه پیر ولی خان معروف به پوریا ولی (Boq'ē Pīr Valī Khān Ma'rūf be Pūriyā Valī)¹⁷²

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Lūlemān - Rūstāye Komāmardakh

(北緯 37 度 17 分 211 秒 東経 49 度 15 分 026 秒 標高 29 メートル)

村の墓地の中。新しいマスジェドの一角¹⁷³。(写真 628)

床面から一段高くなったハラムに緑の布で覆われた金属製ザリーが置かれている。ザリーにはびっしりとダヒールが結ばれている。(写真 629~630) 廟の中に古い木製ザリーの一部が置かれ、これにもダヒールが大量に結ばれている。(写真 631)

ザリーの傍らに石が二つとスプーンが置かれている。スプーンで石を削り、その粉を飲むと病気が治ると信じられている。(写真 632)

墓地の中に立つ四本の木に緑の布が巻かれ、釘の上に小石が載せられているのが見られる。(写真 633~635)

埋葬されている人物については、イランの国民的英雄であるプーリヤー・ヴァリー自身であると信じられている¹⁷⁴。

(168) بقعه سيد حسن غريب (Boq'ē Āqā Seyyed Ḥasane Gharīb)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Lūlemān - Rūstāye Eshkelane Pāīn

(北緯 37 度 15 分 977 秒 東経 49 度 15 分 860 秒 標高 45 メートル)

¹⁷² 本来の名前は Pīr Yāvālī. [Sotūde vol.1 : 166] [Qolāmī 1384a : 32] ジャクタージーは、土地の発音では、Pīl Pīle Khān (=非常に偉大なハーンの中のハーンの意) であり、敬虔な勇士であったとしている。[Jaktājī : 38]

¹⁷³ 以前は四方にエイヴァーンを持ち、建物の中央に木製格子のサンドウグが置かれていた。[Sotūde vol.1 : 166]

¹⁷⁴ プーリヤー・ヴァリーの墓については、西アゼルバイジャン州のホイにも土地の人々がプーリヤー・ヴァリーの墓と信じる墓が存在している。以前は、廟の前に広い空間があり、特に木曜日と金曜日には、人々が集まり、コシュティー (イランの伝統的格闘技) が行われていたという。しかし、1350 年以降、次第に寂れ、革命後、この空間は水田になってしまった。[Jaktājī : 38]

村を通る道沿いに立つ、比較的新しい廟。(写真 636)

前方にエイヴァーンを持ち、廟内は、向かって左手の壁に寄せて、ザリー等を持たない背の低い墓石が置かれている。(写真 637)

普段は扉が閉められ、木曜日などにのみ開けられる。窓ガラスの一部が切り取られており、お金などをそこから投げ込むことができるようになっている。(写真 638)

周囲に墓地は見られない。

(169) بقعه بو سعید میر معروف به سبز قبا (Boq'ē Bū Sa'īd Mīr Ma'rūf be Sabz Qabā)¹⁷⁵

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Lūlemān - Rūstāye Shanbe Bāzār

Bū Sa'īd Mīr az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 15 分 183 秒 東経 49 度 15 分 183 秒 標高 51 メートル)

村の墓地の中。敷地の外には門前バーザールが軒を並べる。

敷地内に立つ二本のアーザードの巨木¹⁷⁶に挟まれるようにして新しい廟が建っている。

(写真 639)

廟は向かって右側の扉が廟への入り口。その他は事務室などに使われている。ハラムには金属製のザリーが置かれている。(写真 640)

廟の下からチェシュメが湧いているが、近年、水量が減ってしまったとのこと。水を敷地の外へ引いている水路¹⁷⁷近くにはろうそくを灯した跡が見られる。(写真 641~643)

墓地の中に、ラーヒージャーンのシェイフ・ギーラーニーの廟に似せた建物が作られ、そこに殉教者墓地が置かれている。そこに埋葬されている殉教者の中でも特に、Seyyed Javād Mūsavī¹⁷⁸の墓に人々の信仰が集まっており¹⁷⁹、墓を囲う鉄柵には、びっしりとダヒールが結ばれている。(写真 645~646)

現在廟へ向かう道路には、サブズ・ガバーの案内板はなく、セイエド・ジャヴァードの墓への大きな看板だけが置かれている。(写真 647)

(170) بقعه آقا سید علی (Boq'ē Āqā Seyyed 'Alī)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Lūlemān - Rūstāye Se Pīrān

(北緯 37 度 15 分 602 秒 東経 49 度 19 分 897 秒 標高 15 メートル)

¹⁷⁵ ソトゥーデによると、Maqbare Ābāye Bū Sa'īd Mīr。[Sotūde vol.1 : 169]

¹⁷⁶ この二本の巨木については、エマーム・ムーサーの息子のセイエド・アリーが眠っているという説と、名前は分からないが二人の兄妹が眠っているという二つの説がある。[Jaktāji : 66]

¹⁷⁷ 廟の周囲の水田を潤していた。また、この水は皮膚の病に効くと信じられている。[Jaktāji : 74]

¹⁷⁸ この村で生まれ、イラン・イラク戦争中、1364 年バフマン月 25 日 S.H./1986 年 2 月 14 日に 19 歳で亡くなったセイエド。[Qolāmī 1384b : 86]

¹⁷⁹ ギーラーン州内で放送された番組がきっかけとのこと。不治の病にかかっていた子供がシャファーを得て助かったという内容であったという。

村の外、水田が広がる中に設けられた墓地の中。(写真 648)

新しい大きなマスジェドの一部をカーテンで仕切ったハラムに、ザリー等を持たない背の低い墓石が置かれている。(写真 649～650)

以前はずっと小さな廟だったが、数年前に取り壊してこの大きなマスジェドを建設したとのこと。

普段は鍵がかけられ、木曜日の午後など以外は閉められている。

(171) بقعه سيد احمد آقا مير محمد علي معروفی (Boq'ē Seyyed Aḥmad va Āqā Mīr Moḥammad 'Alī Ma'rūfī)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Lūlemān - Rūstāye Kaldeh Bālā

(北緯 37 度 16 分 147 秒 東経 49 度 20 分 703 秒 標高 8 メートル)

村の中心となる広場の中央、小さな墓地の傍らに立つ廟。地元ではモハンマド・アリーと呼ばれている。(写真 651)

廟内には二つのサンドウグが置かれているが、どちらが誰のものかは分かっていない。(写真 652) このサンドウグの他に、マアルーフイー家の人々、男女合わせて 10 人の墓が置かれており、これらの人々にも参詣の人たちは敬意を表していく。(写真 653～654)

(172) بقعه سيده زهرا (Boq'ē Seyyede Zahrā)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Lūlemān - Rūstāye Kaldeh Bālā

(北緯 37 度 16 分 127 秒 東経 49 度 20 分 662 秒 標高 20 メートル)

村の中心の広場の近く、村の墓地の中。モハンマド・アリーとは広場を挟んだ向かい。新しい煉瓦造りの廟。(写真 655)

廟内にはザリー等を持たない背の低い墓石が置かれている。(写真 656)

(173) بقعه آقا سيد احمد مجاز كسماری (Boq'ē Seyyed Aḥmad Majāz Komsārī)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye Rūdpīsh

(北緯 37 度 14 分 073 秒 東経 49 度 23 分 269 秒 標高 17 メートル)

現在の町の中心部、商店が並ぶバーザール地区の裏手にある墓地の中。敷地内にマスジェド。

近年建て替えられたばかりの新しい廟。(写真 657) 廟内には金属製ザリーが置かれている。(写真 658)

以前の廟に比べると面積が広がっているため、墓地にあった墓のいくつかは廟内に取り込まれてしまった。この墓の被葬者らの名前は廟の正面上部のタイルに残されている。

墓地の中には、緑色のサンドウーグを持ち、ダヒールが結ばれたセイエドの墓も見られる。
(写真 659)

(174) بقعه مير شمس الدين (Boq'ē Mīr Shams al-Dīn)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye
Rūdpīsh

(北緯 37 度 13 分 676 秒 東経 49 度 24 分 000 秒 標高 29 メートル)

町の中心から外れた場所に広がる墓地の中。敷地内にマスジェド。(写真 660)

廟に入るとすぐに村の人々の墓が並ぶ小部屋があり、その奥にハラム。ハラム内にも幾つもの村の人々の墓が見られる。(写真 661)

ハラムにはエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 662)

(175) بقعه آقا پيله آقا (Boq'ē Āqā Pīle Āqā)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye Mīr
Maḥalle va Ma'āf Maḥalle

(北緯 37 度 13 分 321 秒 東経 49 度 24 分 360 秒 標高 25 メートル)

村の墓地の中。敷地内にマスジェド。

長く庇を伸ばした、新しく建てられたばかりの広い廟。(写真 663) 廟内にはかまぼこ形屋根を持つ金属製ザリー。(写真 664)

マスジェド前に錆の浮いた金属製ザリーが置かれ、更にその傍らに緑に塗られた墓石があり、ダヒールやろうそくの跡が見られる。ザリーは Karbalāī Mīr Qabā のもの、墓石は Karbalāī Seyyed Hājī と Seyyed Zakī Mortazavī のもので、人々の崇敬の対象になっているとのこと。(写真 665~667)

(176) بقعه آقا مير نظام (Boq'ē Āqā Mīr Nezām)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye
Kiyābān

(北緯 37 度 14 分 199 秒 東経 49 度 22 分 066 秒 標高 26 メートル)

村はずれの墓地の中に立つ新しい廟。(写真 668) 敷地内にマスジェド。

木曜の午後以外は鍵がかけられているが、入り口のガラスの一部が切り取られ、中を覗いたりお金を放り込んだりできるようになっている。(写真 669)

広い廟内には金属製ザリーが置かれている。(写真 670)

(177) بقعه آقا سيد ابراهيم (Boq'ē Āqā Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye
Makhsar

(北緯 37 度 14 分 874 秒 東経 49 度 22 分 686 秒 標高 23 メートル)

村はずれの墓地の中。新しく建てられたマスジェドの中の一室。(写真 671~672)
ハラムの奥に緑の布で覆われた金属製のザリーが置かれている。(写真 673)

(178) درخت آقادر (Derakhte Āqādār)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye
Send Bālā

(北緯 37 度 14 分 757 秒 東経 49 度 20 分 271 秒 標高 25 メートル)

通りに並ぶ民家の裏側に立つアーザードの巨木¹⁸⁰。(写真 674)
根元に緑の布が巻かれ、少数のダヒールが見られる。ハージャトを与えてくれるため、以前は人々が多く訪れていたが、最近では訪れる人が減っているとのこと¹⁸¹。(写真 675~676)

(179) بقعه آقا سيد يحيى (Boq'ē Āqā Seyyed Yahyā)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye
Send Bālā

(北緯 37 度 14 分 390 秒 東経 49 度 20 分 436 秒 標高 29 メートル)

ラシト-フーマン街道からの分岐点のすぐ近くに広がる墓地の中。(写真 677)
新しいマスジェドの中、女性用のスペースに置かれたザリー等を持たない墓石が置かれている。(写真 678~679)

葬られているのがどのような人物なのかははっきりとは分からないとのこと¹⁸²。
墓地の中に、人々の崇敬の対象となっているセイエドの墓が二基見られる。一つは Seyyed Morteżā のもので、墓地の敷地の奥にある緑色に塗られた鉄のサンドウグの中。その周囲を柵が取り囲んでいる。事故死をした子供の墓とのこと。もう一つは Seyyed Āle Nabī のもので、マスジェドに接する場所にある。マスジェドの近所に住んでいたセイエドで、非常に良い人であったという。(写真 680~681)

(180) بقعه سيد سليمان (Boq'ē Seyyed Soleimān)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye
Send Bālā

¹⁸⁰ ジャクタージーは、「マスジェドの傍ら、墓地の中」としているが[Jaktājī : 66]、村のマスジェド付属の墓地の中にはアーガーダールはなく、この位置に見つかった。ジャクタージーが記録しているものと同じかどうかは分からないが、村の中に他のアーガーダールはないとのことであった。

¹⁸¹ ジャクタージーによると、タースーアー、アーシューラー、その他の日に、スィーネザニーを行うダステがアラムを持った人とマルスィーエ・ハーンを先頭に木の周囲をめぐっていた。女性たちはアーガーダールの下のランプを常に灯している義務があり、そのために見張り番を行っているというが[Jaktājī : 66]、現在、そうした習慣は確認できなかった。

¹⁸² ジャクタージーはこの人物について次のように述べている。「村の老人の話によると、老人が子供の頃、ハルハールからギーラーンへやって来て、この村に住み着いた人物である。無害な人物で、緑色のシャールを腰に巻いていた。死後、その墓に人々がズィヤーラトに来るようになった」[Jaktājī : 32]

ジャクタージーが、現在は失われてしまったというこの廟について記録しているが、村の人たちは老人ですらそのような廟はなかった、知らない、という反応で、確認が取れなかった。

ジャクタージーによると、木製の格子のマクバレと、その傍らに一基のマザール、アーガーダールがあった。村の老人たちによると、第一次大戦やジャンギアリー運動¹⁸³の中で、ボグエの敷地内の木々は冬の寒さに枯れ、また、モハンマド・エスマーイールという人物により切り倒され、マクバレの木材も燃料として使われてしまった¹⁸⁴。

(181) آرامگاه سیده نساء (Ārāmgāhe Seyyede Nesā')¹⁸⁵

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye Halqe Maḥalle

(北緯 37 度 14 分 106 秒 東経 49 度 20 分 878 秒 標高 37 メートル)

村の住宅が集まる中を通る道路沿い。小さな空き地の中に置かれた、緑に塗られた鉄製のザリーに覆われた墓石。(写真 682)

墓石にセイエデ・ネサーという名前は刻まれているが、近所の女性たちもどのような人物が埋葬されているのか全く情報を持っていなかった。(写真 683~684)

(182) آرامگاه سید شفیع (Ārāmgāhe Seyyed Shafī')

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye Halqe sar

(北緯 37 度 14 分 022 秒 東経 49 度 20 分 888 秒 標高 33 メートル)

サラヴァーン-フーマン新街道沿いのマスジェド付属の墓地の中。緑に塗られた鉄柵に囲われたセイエドの墓。柵などにダヒールが多く結ばれている。(写真 685~687)

村に住んでいた良い人だったということだが、それ以上の具体的な情報は得られなかった。

(183) بقعه سید مرتضی (Boq'eh Seyyed Morteżā)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye Goushalvandān

(北緯 37 度 13 分 332 秒 東経 49 度 21 分 047 秒 標高 43 メートル)

村の墓地の中。敷地内にマスジェド。

¹⁸³ 1215 年頃から始まった、ギーラーンにおけるガージャール朝専制体制反対運動、対ロシア、対英パルチザン活動。フーマンは活動拠点の一つであった。

¹⁸⁴ [Jaktājī : 80]

¹⁸⁵ [Nāṣer al-Sharī'e : 225]によると、Shāh-zāde 'Abd al-Raḥman。

新しく立て直された廟。(写真 688) 広い表内にザリー等を持たない墓石が置かれている。墓石の両端に立つ柱に結びつけられたパンジ・タンにダヒールが結ばれている。(写真 689)

ワクフ慈善庁によると、ここにサッカーハーネがあるとのことだったが見当たらず、近所の人たちに確認したところ、予算不足のためまだ作られていないとのことであった。

墓地にある青い小さなドームの乗った建物は殉教者墓地。(写真 690)

(184) بقعه حاجی رستم (Boq'ē Ḥājī Rostam)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye Sang Bījār

(北緯 37 度 13 分 123 秒 東経 49 度 19 分 632 秒 標高 39 メートル)

村を通る道路沿い、マスジェド付属の墓地の一角。

墓地と道路とを隔てるコンクリートブロック塀に接し、道路にはみ出た形で作られた小さなコンクリートブロックの廟。(写真 691~692)

廟内にはザリー等を持たない背の低い墓石。(写真 693~695)

どのような人物なのかは不明¹⁸⁶。

マスジェドは、以前はこの廟と同名であったが、現在はエマーム・ジャアファル・サーデグと名前が変わっている。

(185) بقعه پیر یوسفعلی (Boq'ē Pīr Yūsef 'Alī)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye Chīrān

(北緯 37 度 11 分 757 秒 東経 49 度 22 分 174 秒 標高 57 メートル)

村はずれの墓地の中。敷地内にマスジェド。

四方をエイヴァーンが取り囲む木造の廟。(写真 696) 壁が落ち、扉は壊れ、窓枠は外され、また、エイヴァーンの手すりも一部壊れている状況。(写真 697) 小さな廟内の床も土がむき出しのままで、そこに置かれている緑に塗られた木製ザリーも一部が破損している。ザリーの中には墓石は見られない。(写真 698~700)

近所の人によると、廟を修理したいという気持ちはあるがお金を集めるのが難しいし、ワクフ慈善庁は支援をしてくれない。また、廟そのものに対する人々の関心も以前ほどではないので、改修は難しいのではないかとのことであった。(写真 701)

(186) بقعه آقا درویش محب علی (Boq'ē Āqā Darvīsh Moḥeb 'Alī)¹⁸⁷

¹⁸⁶ ジャクタージーはこの人物について次のように記している。「ピールであり、賢明で敬虔な人物であった。死後も地域の人々の崇敬の対象となった。彼の墓の上に大きな木が立っていたが、それを切り倒し、現在の廟を作った」 [Jaktājī: 80]

¹⁸⁷ 現地の発音では Āqā Dūsh Mālī。土地の農夫であり、ダルヴィーシュであり、Ḥasan Solūk という名で知られていた。彼は、礼拝の最中に ghāyeb (=お隠れ) となったと信じられている。 [Jaktājī: 40]

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Markazī - Dehestāne Rūdpīsh - Rūstāye Būin

(北緯 37 度 11 分 420 秒 東経 49 度 20 分 285 秒 標高 53 メートル)
フーマン-シャフト街道沿いの大規模な墓地の中。敷地内にマスジェド。
大きなマスジェドの裏手に建つ小さな廟。(写真 702)
広いハラムにエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 703)

(187) بقعه سيد ابراهيم (Boq'eh Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Markazī - Dehestāne Gūrāb pas - Rūstāye Seyyed sarā

(北緯 37 度 08 分 179 秒 東経 49 度 15 分 120 秒 標高 182 メートル)
周囲を茶畑に囲まれた墓地の中。敷地内にマスジェド。
近年建て替えられたばかりの新しい廟。(写真 704)
廟内にはエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 705)

(188) امامزادگان هاشم، قاسم و كاظم (Emānzādegān Seyyed Hāshem, Qāsem va Kāzem)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Markazī - Dehestāne Gūrāb pas - Rūstāye Tang darre

(北緯 37 度 08 分 119 秒 東経 49 度 13 分 589 秒 標高 209 メートル)
村を通る街道から小路を入った突き当たり。マスジェド付属の墓地の中。(写真 706)
比較的新しい廟を入ると物置に使われている小部屋。右手にハラムへの入り口。ハラムにはかまぼこ形の屋根を持つ大型の木製ザリーが置かれている。(写真 707)
非常にハージャトがあるため参詣の人も多く、多くのダヒールやシテムシャードの小枝が結ばれている。(写真 708~709)

(189) بقعه سه امامزاده (Boq'eh Se Emānzāde)¹⁸⁸

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Markazī - Dehestāne Gūrāb pas - Rūstāye Se Emānzāde

Seyyed Ḥamze va Ḥazrate Ebrāhīm b. Emām Mūsā al-Kāzem
Emānzāde Ḥasan b. Emām Zein al-'Ābedīn¹⁸⁹

(北緯 37 度 07 分 231 秒 東経 49 度 10 分 935 秒 標高 297 メートル)
村から山へ入る道路のほぼ突き当たり。川沿いに建つ廟。
マスジェドと一連なりになった廟。向かって右側部分がマスジェド。(写真 710)

¹⁸⁸ 現地の発音では Se Īmāze。[Jaktājī : 31]

¹⁸⁹ 廟外のポスターによるとハサンであるが、ジャクタージーはホセイんと記録している。[Jaktājī : 105]

二方向にエイヴァーンを持ち、木の格子窓を持つ広い廟内には三つの木製ザリーが置かれている。入り口前のザリーがハムゼ、左手奥の壁側がハサン、窓側がエブラーヒームと
のこと。(写真 711～715)

廟の前には古い墓も多く見られる墓地と、樹齢数百年になるというシェムシャードの
大木が見られる。

アーシューラーの時には近隣の村からも多くのダステがこの廟に集まってくる¹⁹⁰。

(190) زیارتگاه دستخط حضرت امیرالمؤمنین (Ziyāratgāhe Dastkhaṭṭe Ḥāzrate Amīr al-Mo'menīn)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh Markazī - Dehestāne Gasht - Shahre Gasht
(北緯 37 度 10 分 899 秒 東経 49 度 17 分 051 秒 標高 88 メートル)

村の中心部、バーザール地区の中。マスジェドに隣接した小さな廟。(写真 716)

比較的新しい廟内に、中に何も無い小さな木製ザリーが置かれている¹⁹¹。ゴルアーンは
なくとも、ハージャトを与えてくれる場として人々の篤い信心を集めている。(写真 717)

廟の奥にはろうそくを灯した跡が見られる。(写真 718～719)

(191) امامزاده تقی (Emānzāde Taqī)¹⁹²

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh Markazī - Dehestāne Gasht - Rūstāye
Emānzāde Taqī

Emānzāde Taqī b. Emām Mūsā al-Kāẓem¹⁹³

(北緯 37 度 10 分 143 秒 東経 49 度 16 分 066 秒 標高 101 メートル)

村の中を通る通り沿い。マスジェドの中の一室。(写真 720)

廟内は男女をパーティションで分けた小部屋。中心に 에스ファハーン 様式のザリーが置
かれている。(写真 721)

女性側のスペースには、廟のハーダムであった女性の墓石が置かれている。

廟の前にチェシュメがあり、その水を利用するための洗い場が設けられている。そこ
では、今でも村の人々が野菜を洗いに来ているのが見られる。また、チェシュメに対する信
心から、パイブなどにダヒールが結ばれている。(写真 722～723)

¹⁹⁰ 三人のエマームザーデがそれぞれにアラムを持ち、アラムバンディーをモハッラム月 7 日に、アラム
ヴァーチャーニーを同月 13 日に行う。[Jaktājī : 105]

¹⁹¹ Rabino は、クワフィー体で書かれた古いゴルアーンがあるとしているが[Sotūde vol.1 : 170] [Qolāmī
1384a : 191]、現在、ゴルアーンは存在していない。[Qolāmī 1384a : 45]

ソトゥーデによると、彼がここを訪れ、モタヴァッリーにゴルアーンについて尋ねたところ、「ゴルア
ーンはザリーの中の箱に収められている。ザリーを掘り返し、箱にたどり着いて開けてみたところ、箱
の中のゴルアーンは印刷されたものであった」と答えたという。[Sotūde vol.1 : 166-167]

¹⁹² 大工の職を持つ敬虔な人物で、地域の人々の崇敬の対象となっていた。村の人々は、彼が亡くなった
とき、彼のために廟を建てたと伝えられる。[Jaktājī : 74]

¹⁹³ [Jaktājī : 74]

(192) بقعه شيخ محله يا شيخ معلم (Boq'ê Sheikh Maḥalle yā Sheikh Mo'allem)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshê Markazī - Dehestāne Gasht - Shahre Kord
Maḥalle Rūdbāre Chīre

(北緯 37 度 10 分 010 秒 東経 49 度 17 分 680 秒 標高 92 メートル)

街道沿いの茶畑の中。廟の裏手には川が流れている。

数年前に建て直されたという、茶畑の中に建つコンクリートブロックの新しい廟。(写真 724)

廟内には緑の布で覆われたコンクリートブロックによる墓が置かれている。(写真 725)

どのような人物が埋葬されているのかは村の人も情報を持っておらず、名前も「シェイフ・マハッレか、シェイフ・モアッレムのどちらか分からないが、村でゴルアーンを教えた人物だったと思う」という人ばかりであった。

壁の何カ所かに釘が打たれ、ダヒールが結ばれている。(写真 726)

廟の周囲に、数基の墓が見られるが、新しいものはない。(写真 727)

(193) بقعه سیاہ پوش (Boq'ê Siyāh Pūsh)¹⁹⁴

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshê Markazī - Dehestāne Gasht - Rūstāye
Komsar

(北緯 37 度 11 分 444 秒 東経 49 度 17 分 866 秒 標高 66 メートル)

マスジェデ・ジャーメ付属の墓地の中。マスジェデ・ジャーメは建設中。(写真 728)

新しく建てられた廟内には、緑と黒の布で覆われた背の低い墓石が置かれている。(写真 729) どのような人物であったかは分からない。

廟内には廟のハーダムをはじめとする村の人々の墓石が見られる。(写真 730～731)

(194) بقعه شاه ميرزا آقا (Boq'ê Shāh Mīrzā Āqā)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshê Markazī - Dehestāne Gasht - Rūstāye
Shekāl gūrāb

(北緯 37 度 12 分 124 秒 東経 49 度 17 分 005 秒 標高 107 メートル)

水田の中、木に覆われた島のように残る土地の中。(写真 732)

木々の間に建つ廟。廟内外の壁はひびが入ったり壁が落ちたりして、傷みが目立つ。(写真 733)

広い廟内には緑の布で覆われた木製サンドゥーグ。(写真 734～735)

壁にはシェムシャードの小枝が何本も貼り付けられている。新しいものも見られるが、近所の人たまに訪れる程度で、以前に比べると参詣の人は非常に減っているとのこと。そのため、宗教的行事はここではほとんど行われなくなっている。(写真 736)

¹⁹⁴ ジャクタージーによると、昔からサンドゥーグが黒い布で覆われていたことからこの名で知られていた。通常、シェイフには白、セイエド・エマームザーデには緑を用いる。[Jaktāji : 26]

現在、サンドゥーグはなく、黒い石を使った背の低い墓石が置かれている。

(195) بقعه شیخ جمال (Boq'ē Sheikh Jamāl)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Markazī - Dehestāne Gasht - Rūstāye Fūshe¹⁹⁵

(北緯 37 度 04 分 222 秒 東経 49 度 11 分 141 秒 標高 537 メートル)

フーシェ村から川沿いに森の中を約 4 キロメートルの上流へ向かう。徒歩 1 時間ほど。

川沿いの斜面の上に建つ木造の廟。(写真 737)

川とは反対側に広いエイヴァーンを持ち、ハラムには木製サンドゥグが置かれている。

(写真 738~743)

もともとこのあたりはエイラグ (=夏當地) で、夏になると多くの人が集まっていた。しかし、最近人が集まらなくなり、廟も寂れる一方であるとのこと。

埋葬されていると伝えられる人物については、村に住んでいたシェイフであったという説や、ジャラルッディーン・アシュラフに従って時の压制者と戦った人物の一人であるという説があるとのこと¹⁹⁶。

(196) بقعه شیخ زاهد گیلانی دافیہ (Boq'ē Sheikh Zāhed Gīlānī Dāfiye)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Sardār Jangal - Dehestāne Āliyān - Rūstāye Siyāhvarūd

(北緯 37 度 15 分 461 秒 東経 49 度 09 分 925 秒 標高 105 メートル)

村の中心部。商店等が集まった一角にある墓地の中。(写真 744)

マスジェドの中に設けられたハラム¹⁹⁷。女性用の二階席の下の空間に置かれた金属製ザリー。二階席からザリーを見下ろすことができる。(写真 745~748)

土地の人々は、ラーヒージャーンではなく、こここそがシェイフの本当の生誕地であり、シェイフが葬られた場所であると信じている¹⁹⁸。

マスジェドの裏手に以前はチェシュメが湧き、人々が崇敬の対象としていたが、村の水道の水源として使用するようになったために失われてしまった。今では泉のあった場所はゴミ捨て場のようになっている。(写真 749)

また、墓地の中に立つアーザードの巨木も願いを叶えてくれると言われ、ダヒールが結ばれたり、幹に打ち付けた釘に小石を乗せたりしている。根元にはろうそくを灯した跡も数多く見られる。(写真 750~754)

¹⁹⁵ ソトゥーデは、ガルエ・ルードハーン溪谷の Shāhvīzān としている[Sotūde vol.1 : 168]が、現在、この地名は使われていない。

¹⁹⁶ [Jaktājī : 109]

¹⁹⁷ ソトゥーデによると、以前は独自の廟を持っていた。[Sotūde vol.1 : 165]

¹⁹⁸ これについてゴラーミーは、被葬者を 16 世紀末に生きたアーレフであるとし[Qolāmī 1384a : 61-61]、廟が簡素すぎることを指摘し、否定している。[Qolāmī 1384a : 25] 一方、ソトゥーデは、シェイフ・ザーヘド・ギーラーニーが 700A.H./1300-1 年にギーラーンで没し、Siyāhvarūd に葬られたという Qāzī Nūrullūh の記述を引用し、可能性を指摘している。[Sotūde vol.1 : 165]

(197) بقعه آقا سيد عبدالله (Boq'ē Āqā Seyyed 'Abdollāh)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Sardār Jangal - Dehestāne Āliyān - Rūstāye Siyāhvarūd

(北緯 37 度 15 分 461 秒 東経 49 度 09 分 925 秒 高度 105 メートル)

シェイフ・ザーヘド・ギーラーニー廟と同じ墓地の中。(写真 755)

新しく小さな廟内に、背の低い木製ザリーが置かれている。(写真 756)

どのような人物が葬られているのかは明らかではない。

(198) بقعه سيد حنفيه (Boq'ē Seyyed Ḥanafiye)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Sardār Jangal - Dehestāne Āliyān - Rūstāye Masjede Pīsh

(北緯 37 度 14 分 014 秒 東経 49 度 09 分 411 秒 標高 155 メートル)

村の裏手の山の中を 500 メートルほど徒歩で登った突き当たり。

新しく建てられた小さな廟。緑と白に塗り分けられている。(写真 757)

廟内には木製ザリーが置かれている。(写真 758)

被葬者については、詳しいことは分かっていないが、ハージャトがあるので村の人たちがよく訪れているという。

廟の周囲には新旧の墓が見られるが、新しいものは少ない。(写真 759)

(199) بقعه آقا سيد عبدالله (Boq'ē Āqā Seyyed 'Abdollāh)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal - Rūstāye Kelerm

Emāmzāde Āqā Seyyed 'Abdollāh b. Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 12 分 182 秒 東経 49 度 13 分 037 秒 標高 148 メートル)

フーマン-マースレー街道沿いの広い墓地の中。敷地内にマスジェド。

金色のドームを持つタイル張りの新しい廟¹⁹⁹。(写真 760)

入り口、廟内は男女別に分けられ、中央部に四本の柱を立ててその中がアーイーネカーリーで飾られたハラムとなっている。その中にエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 761)

墓地の中、マスジェドの外壁に接して、セイエド夫婦の墓を覆って、緑の屋根の東屋が作られている。とても良い人物だったので、死後も人々の信仰を集めているという。入り口の柵などにダヒールが多く結ばれている。(写真 762~764)

¹⁹⁹ 以前は、一本のゴルダステと、四方にエイヴァーンを持つ瓦屋根の廟であった。ハラムには木製サンドゥグが置かれていた。[Sotūde vol.1 : 163-4] [Javādī vol.2 : 398]では、四隅に背の低いゴルダステを持つ廟となっている。

(200) بقعه آقا سيد ابراهيم (Boq'ē Āqā Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal - Rūstāye Ābrūd

Āqā Seyyed Ebrāhīm az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 09 分 988 秒 東經 49 度 10 分 127 秒 標高 308 メートル)

フーマン-マースレー街道から分岐した枝街道沿いの村の奥に広がる墓地の中。敷地内にマスジェド。この墓地前までがアスファルト道となっている。

墓地の最も高い地点に建つ、緑の円錐ドームを持つ廟。(写真 765)

廟内の中央に四本の柱が立ち、その中に、ダヒールがびっしりと結ばれた背の低い木製ザリーが置かれている。(写真 766~768)

廟の建つ斜面の下にチェナルの巨木が立つ。以前は村の人々の崇敬の対象になっていたというが、現在はそういった様子は見られない。(写真 769)

(201) قدمگاه (Qadamgāh)²⁰⁰

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal - Rūstāye Qadamgāh

(北緯 37 度 09 分 689 秒 東經 49 度 04 分 023 秒 標高 60 メートル)

フーマン-マースレー街道沿い。

村の人たちの説明によると、以前は、人々が集まり、ナズリーの食事を振る舞ったり、願掛けを行うための小さな小屋があったが、盗掘が行われたり、街道の拡張が行われたりで失われてしまったという²⁰¹。(写真 770)

(202) امامزاده زين علی (Emānzāde Zein 'Alī)²⁰²

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal - Rūstāye Eshkelet

Emānzāde Zein al-Dīn Qāsem b. Seyyed Ḥamze b. Seyyed 'Alī b. Seyyed Ja'far²⁰³

(北緯 37 度 09 分 710 秒 東經 49 度 00 分 378 秒 標高 912 メートル)

フーマン-マースレー街道沿いを流れる川岸に建つ廟。(写真 771)

比較的円錐ドームを持つ比較的新しい廟とそれに付属する建物²⁰⁴。(写真 772)

²⁰⁰ エマームの一人、あるいはマースレーに廟を持つエマームザーデ・オウンが、緑の多いこの場に足を止め、楽しんだとされる。[Jaktājī : 44]

²⁰¹ ジャクタージーは「洪水のため」に失われてしまったとしている。[Jaktājī : 44]

²⁰² 道路沿いの建つ看板には、Zeid b. 'Alī と表記されているが、これはまちがいで、Zein が正しい。

²⁰³ 廟内のシャジャレ・ナーメによる。しかし、一般的には、エマーム・アリーの息子として、Emānzāde Zein al-Dīn 'Alī と呼ばれる。[Sotūde vol.1 : 139-140][Javādī vol.3 : 381]

²⁰⁴ ソトゥーデは、ドームを乗せた日干し煉瓦と石作りの廟と、廟に隣接したマスジェドとしているので [Sotūde vol.1 : 139-140]、この建物がマスジェドと思われるが、現在、内部は絨毯は取り去られ、タイルブロックがむき出しのまま、墓石がいくつか見られるだけの空間となっている。村には一軒しか残っていないため、マスジェドとしては機能しておらず、人が集まったときのみ使用されている。

入り口脇に水道を備えた小部屋。その横にハラム。ハラムには、一方の壁に寄せて大型の木製ザリーが置かれている。(写真 773)

廟の傍らに殉教者墓地。川と山に挟まれ、利用できる土地が少ないため、墓地はごく小規模なものになっている。

廟の周囲には何軒かの住宅跡が見られるが、現在人が住んでいるのは川を挟んだ向かい側に建つ一軒のみ。この家が廟の管理を行っている。

(203) بقعه عين على (Emānzāde 'Ein 'Alī)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal - Rūstāye Eshkelet

Emānzāde 'Ein al-Dīn 'Alī

(北緯 37 度 09 分 585 秒 東経 49 度 00 分 163 秒 標高 904 メートル)

ゼイン・アリー廟からマースレーへ向かい、右手の斜面の上に見える廟²⁰⁵。ゼイン・アリーの兄弟²⁰⁶。(写真 775)

街道沿いに車を止め、徒歩で斜面を登る。(写真 776)

廟は損傷が激しく、外壁の一部は崩れ、内部の漆喰が落ちたり窓が壊れたりしている²⁰⁷。(写真 777)

廟に入ると小部屋があり、いくつかの墓が見られる。その奥にあるハラムは床がむき出しになり、木製ザリー²⁰⁸も壊れてしまい、その中に煉瓦の小山が見られる。ハラム内にはその他にいくつかの墓石が見られる。ザリーには新しそうに見えるダヒールが結ばれているが、全体に、人が訪れ、手入れをしているようには見えない。(写真 778～779)

(204) امامزاده عون (Emānzāde 'Oun)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal - Māsūle

Emānzāde 'Oun b. Moḥammad Ḥanafīye b. 'Alī b. Abī Ṭāleb²⁰⁹

(北緯 37 度 09 分 277 秒 東経 48 度 59 分 391 秒 標高 976 メートル)

村の中心、バーザール地区の下に建つ廟。別名カランダール・ハーネ (Qalandar khāne)。マージェデ・ジャーメと一体になっている。(写真 780)

²⁰⁵ ソトゥーデは 250 メートルの高さとしているが[Sotūde vol.1 : 139-140]、実際には 2~30 メートル。ゼイン・アリー廟とエイン・アリー廟は、911A.H./1505-6 年に、当時この地を支配していたジャムシード・ソルターンによって立てられた。

²⁰⁶ 出自ははっきりしていない。

²⁰⁷ 美しい透かし窓を持っていたという。[Banāhāye Ārāmgāhī : 124] [Javādī vol.3 : 381]

²⁰⁸ ソトゥーデは木製サンドウグが置かれているとしている。[Sotūde vol.1 : 139-140]

²⁰⁹ ゴラーミーは、このシャジャレ・ナーメには欠損があり、正しい血統は明らかではないとしている。[Qolāmī 1384b : 87-88]

緑のドームと二本のゴルダステを持ち²¹⁰、廟の周囲には小規模な墓地²¹¹と、廟に付属した施設。(写真 781~782)

廟を入ると広いサロンが広がり、その奥に小さなハラム。二階には女性用の部屋とテラスが設けられている。

ハラムにはエスファハーン様式のザリーが置かれている²¹²。(写真 783~786)

アラムバンディーをモハッラム月 7 日に、アラムヴァーチーニーをサファル月 28 日に行う。

(205) زیارتگاه مسجد حضرت ابوالفضل (Ziyāratgāh Masjede Abū al-Faḍl)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal - Māsūle

村の入り口近く。マスジェデ・アボルファズルの入り口脇に設けられたズィヤーラトガー。

現在は水飲み場としての機能はなくなっており、ズィヤーラトガーとして残されている。

近年、格子の下に寄付金を入れるための場が設けられた。(写真 787~790)

その他にも、墓地のサッカーハーネにダヒールが結ばれていた。

(206) امامزاده سيد ابراهيم (Emānzāde Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal - Māsūle - Kharīye bon

(北緯 37 度 09 分 559 秒 東経 48 度 59 分 223 秒 標高 1216 メートル)

マースレー・ハルハール街道沿い。村を見下ろす山の中腹。(写真 791)

銀色の細いドームを持つ、新しい廟。窓は鉄板でふさがれ、扉には鍵がかけられていて廟内を確認することはできなかった²¹³。外壁は落書きが多数見られる。(写真 792)

廟の周囲には墓石がいくつか見られる。

廟の傍らに小屋が作られ、チェシュメの水を汲むことができるように水道の蛇口が用意されている。(写真 793~795)

(207) امامزاده هاشم (Emānzāde Hāshem)

²¹⁰ 八角形の煉瓦造りの塔状の廟で[Sotūde vol.1 : 133-135] [Qolāmī 1384b : 87-88] [Banāhāye Ārāmgāhī : 196-197]、ガージャール朝時代に改修が行われているとされる。[Qolāmī 1384b : 87-88] 東側に入り口があり、西側の扉は、カラダル・シャーの宮殿から持ってこられたものと言われている。[Banāhāye Ārāmgāhī : 196-197]

²¹¹ 1060A.H./1650 年や 1262A.H./1846 年の日付を持つ古い墓石も見られる。廟周辺の古い墓石の多くはサファヴィー朝からガージャール朝期のもの。[Banāhāye Ārāmgāhī : 196-197]

²¹² ソトゥーデによると碑文の掘られたサンドゥグとそれを覆う木製ザリーが置かれていたが[Sotūde vol.1 : 133-135]、1015A.H./1606-7 年の日付の入った金属製のザリーという

²¹³ 何度訪れても廟の鍵を持つ管理人が村にいないため。ソトゥーデによると、四方にエイヴァーンを持つ廟で、建物の中央に木製のザリーとサンドゥグが置かれていた。[Sotūde vol.1 : 139]

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal -
Māsūle

(北緯 37 度 09 分 233 秒 東経 48 度 58 分 714 秒 標高 1158 メートル)

マースーレの出口、ハルハール街道の入り口近くから、川沿いに山の中へ。徒歩で 30 分弱²¹⁴。

川沿いの急斜面の上に建つ大きな廟。廟の周囲は墓地。民家が二軒見られるが、どちらも人は住んでいない。(写真 796)

川側から見ると二層だが、墓地側から見ると一層。(写真 797) 墓地側にある入り口を入ると、道具類が置かれた小部屋。(写真 798~799) その奥の扉の向こうに六角形のハラムがあり、中央に木製のサンドウグが置かれている²¹⁵。(写真 800)

気が狂った人を連れて行くと、エマームザーデのシャファーにより治るとされている²¹⁶。

マースーレからの道中に、エマームザーデ・ハーシェムが逃亡中に刀で割り、その間に隠れたという岩が見られる。(写真 801)

(208) بقعه آقا سید شمس الدین (Boq'ē Āqā Seyyed Shams al-Dīn)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal -
Rūstāye Doulī Chāl

Āqā Seyyed Shams al-Dīn az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 34 度 13 分 01 秒 東経 50 度 31 分 36 秒 標高 1340 メートル)

マースーレ-ハルハール街道沿い。道が大きくカーブした地点。廟の脇を水が流れていた跡と見られる小さな谷。現在もごく少量の水が湧き、流れている。(写真 802)

廟は屋根組しか残っていない屋根に、トタンを貼った壁という粗末なもの。しかし、まだ新しい緑の布が見られるなど、人が訪れている形跡は見られる。(写真 803~805)

入り口から見ておくの壁に寄せて木製サンドウグが置かれているが、中に墓石は見られない。(写真 806)

廟の周囲に墓地は見られない。

(209) زیارتگاه کوه شاه معلم (Ziyāratgāhe Kūhe Shāh Mo'allem)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhshē Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal -
Kūhe Shāh Mo'allem

²¹⁴ ソトゥーデによると 3 キロメートル。[Sotūde vol.1 : 139]

²¹⁵ ソトゥーデによると、四方にエイヴァーンを持つ廟内にシンプルな木製ザリーに覆われた木製サンドウグが置かれていた。[Sotūde vol.1 : 139]

²¹⁶ [Jaktāji : 83] 病人の首にひもをかけてハラムの中へ連れて行く。もし病人がその瞬間、意識があったなら、病人を治してくれるようエマームザーデに願いをかける。病人の両親あるいは同行者もまた、病人が快癒するよう願いをかける。それからひもをエマームザーデのザリーに結び、安らげるよう病人を眠らせる。親しい人が一人、病人の傍らに留まる。病人に何かあったときのために。そしてその間ずっと、病人が病気から解放されるよう、エマームザーデと神に願う。

筆者未見。

(210) زیارتگاه دشت پلگاه (بلغاه) (Ziyāratgāhe Dashte Pelgāh)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal - Dashte Pelgāh

筆者未見。

(211) امامزاده ابراهیم (Emāmzāde Ebrāhīm)²¹⁷

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Fūman - Bakhsh-e Sardār Jangal - Dehestāne Sardār Jangal - Māsūle

筆者未見。

3-2. シャフト郡 (Shahrestāne Shaft)

(212) مقبره قاضی جلال (Maqbare Qāzī Jalāl)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Shahre Shaft - Khiyābāne Valī 'Aṣr - rū-be-rūye Masjede Jāme' - Kūcheye Naşrollāhī

(北緯 37 度 10 分 127 秒 東経 49 度 24 分 266 秒 標高 46 メートル)

シャフトのマスジェデ・ジャーメ正面の小路を歩いてすぐの空き地。緑に塗られた土台に載った小ぶりの墓石。(写真 807~808)

墓の傍らに電灯と募金箱が置かれ、墓の縁には多数のろうそくの跡が見られる。(写真 809)

どのような人物であったかははっきりと分からない。また、隣に置かれているセイエドの墓はガーズィー・ジャラルとは関係ないものとのこと。

以前は、マスジェデ・ジャーメからこのあたりまで墓地が広がっていたが、再開発に伴い、この墓を残して埋め戻されてしまったとのことであった。

(213) مقبره سیده زهرا حسنی (Maqbare Seyyede Zahrā Ḥasanī)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Jīrdeh - Masjede Jāme'

(北緯 37 度 10 分 773 秒 東経 49 度 28 分 919 秒 標高 23 メートル)

川沿いの高台に建つマスジェデ・ジャーメ付属の墓地の中。他の墓よりも一段高くなった場所に置かれ、緑の布で覆われている。(写真 810~811)

²¹⁷ ソトゥーデの作成した簡便な地図の中に名前が見られるが[Sotūde vol.1 : 141]、土地の人たちに聞いても所在は完全には確認できなかった。

墓石の周囲にはろうそくの跡が見られる。(写真 812)
セイエド・ザフラーの墓の両脇にもセイエドの墓が置かれている。

(214) بقعه شاه درویشان (Boq'e Shāh Darvīshān)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Takram

(北緯 37 度 10 分 559 秒 東経 49 度 28 分 382 秒 標高 20 メートル)

村はずれの川沿い²¹⁸に広がる墓地の中。敷地内にマスジェド・ジャーメ。

マスジェドよりも少し高くなった墓地の外れ、アーザードの巨木に囲まれて建つ、緑色に塗られた新しい廟²¹⁹。(写真 813~814)

廟内には金属製ザリーが置かれている。(写真 815)

敷地内にはダヒールを結ばれた柵を持つ、セイエドの墓がいくつか見られる。(写真 816~820)

(215) بقعه آقا سید ابراهیم و آقا سید محمد (Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Moḥammad)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye

Chousar

(北緯 37 度 10 分 072 秒 東経 49 度 27 分 994 秒 標高 27 メートル)

村の墓地の中。敷地内にマスジェド。(写真 821)

近年建てられた新しい廟。廟内には金属製ザリー。

村の私物なので、外の人間は立ち入ることを許さないし、強引に入るのならその人物を殺すことも厭わないとのことで、廟内に立ち入ることは許されなかった。

(216) بقعه سید رضا و سیده معصومه (Boq'e Seyyed Rezā va Seyyede Ma'sūme)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye

Kharṭūm

(北緯 37 度 09 分 145 秒 東経 49 度 29 分 110 秒 標高 45 メートル)

村はずれの小さな墓地の中。敷地内にマスジェド。

六角形の明かり取りを持つ新しい廟。(写真 822)

廟に入ると正面に大型の金属製ザリー。手前にセイエドの墓が並んでいる。(写真 823)

(217) بقعه حاج مؤمن (Boq'e Hāj Mo'men)²²⁰

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye

Kharṭūm

²¹⁸ ゴラーミーによるとタキャロム川。[Qolāmī 1384a : 34] ソトゥーデはパスイーハーン川としている。
[Sotūde vol.1 : 219]

²¹⁹ 以前は、エイヴァーンを一つ持つ古い木の、瓦屋根を持つ建物であった。[Sotūde vol.1 : 219]

²²⁰ Pīr Mo'men とも。村に住んでいたビールであるという。

(北緯 37 度 08 分 842 秒 東経 49 度 29 分 732 秒 標高 48 メートル)

村はずれの墓地の中。敷地内にマスジェド。

近年建て替えられた新しい廟。(写真 824) 広い廟内の中央に金属製サンドゥグが置かれ、サンドゥグの手前に立てられた柱に大量のダヒールが結ばれている²²¹。(写真 825～827)

(218) بقعه سيد زكريا (Boq'ē Āqā Seyyed Zakariyā)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Noudeh Klāch Khandān

(北緯 37 度 07 分 446 秒 東経 49 度 29 分 417 秒 標高 77 メートル)

村はずれの低い丘の上に広がる墓地の中。(写真 828) 隣接してマスジェド。丘の向こうには貯水池が広がっている。

四角形の角を落とした形の新しい廟。(写真 829)

廟内には金属製ザリーが置かれている。盗難防止のため、廟に警報装置が取り付けられている。

(219) درخت کیش (Derakhte Kīsh)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Chamāchāh

(北緯 37 度 07 分 497 秒 東経 49 度 31 分 187 秒 標高 67 メートル)

畑の中に並ぶキーシュ (ペルシア語でシエムシャード) の木の一本。(写真 830)

特別巨木であったり珍しい種類の木であったりするわけではないが、緑の布が巻かれ、ダヒールが結ばれている。また、既に使われていない古くさびたランプも吊されている。(写真 831～833)

なぜこの木が神聖なものを見なされているかについて、近所の人も詳細は知らなかった。

(220) امامزاده احمد (قرآن نعمان) (Emānzāde Aḥmad (Qor'āne No'mān))²²²

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Chamāchāhe Dastkhāṭṭ

(北緯 37 度 06 分 421 秒 東経 49 度 30 分 970 秒 標高 86 メートル)

村はずれの墓地の中。周囲には茶畑が広がる。

²²¹ ジャクタージーによると、ものもらいなど、目の病気にかかった人がいくつかのガンド (=砂糖の小さな塊) を嘗め、それを悪い場所にこすりつける。そしてそれを廟の傍らに置く。ガンドが時と共に水になると悪いところが消えると信じられている。[Jaktājī : 85]

また、家禽の天然痘を駆除するため、穀類を廟へ持って行って聖別し、それをえさとして与える。それを病が消えるまで続けるという。[Jaktājī : 85]

²²² ソトゥーデによると、Mazār Shāhzāde Aḥmad va Qor'āne No'mānī。[Sotūde vol.1 : 220] ゴラーミーは、Shāhzāde Aḥmad あるいは Āqā Seyyed Aḥmad としている。[Qolāmī 1384a : 46]

マスジェドと一連なりになった廟。(写真 834) 廟内には金属製ザリーが置かれている。
(写真 835)

以前、このマスジェドには9マンの重さがある古いゴルアーンが保管され、人々の崇敬を集めていた。しかしそれは盗まれてしまったとのこと。このゴルアーンにちなみ、この廟は、「エマームザーデ・ノマーン(=9マン)」と呼ばれていた²²³。

(221) بقعه آقا سيد ذوالپيران (Boq'ē Seyyed Zū al- Pīrān)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Zū al- Pīrān

(北緯 37 度 09 分 564 秒 東経 49 度 35 分 300 秒 標高 48 メートル)

シャフト-ジールデ街道沿いに広がる墓地の中。二本のアーザードの巨木が目印。敷地内にマスジェド。(写真 836)

廟は近年建て替えられた新しいもの。(写真 837)

広い廟内の中央より壁に寄せて、金属製ザリーが置かれている。(写真 838)

墓地の中に二本のアーザードの巨木が立つが、その一本が特別に神聖であるとされ²²⁴、人々の信仰を集めている。枝には多数のダヒールが結ばれ、二股に分かれた根元部分、洞になった部分にろうそくの跡が多数見られる。(写真 839~841)

ハージャトを持つ井戸も敷地内にあるということであったが、確認できなかった。

(222) بقعه آقا ملا علی (Boq'ē Āqā Mollā 'Alī)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Komsār

(北緯 37 度 08 分 197 秒 東経 49 度 26 分 836 秒 標高 50 メートル)

村はずれの周囲を水田に囲まれた中に立つ廟。

マスジェドと一連なりになった廟。廟の入り口には囲いが作られている。(写真 842)

廟内には木製サンドウグが置かれている。(写真 843)

廟の前に、それほど新しくない墓石がいくつか見られるが、それ以外には、廟の周囲に墓地は設けられていない。

(223) زیارتگاه آقا سيد يعقوب (Ziyāratgāh Āqā Seyyed Ya'qūb)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Mīr

Maḥalle Posht sarā

(北緯 37 度 09 分 199 秒 東経 49 度 24 分 781 秒 標高 55 メートル)

²²³ クーフィー体で書かれたもので、1331A.H./1913年には存在しており、ソトゥーデによると、最初の7ページと最後の1ページが欠落し、製本し直されているとのことである。[Sotūde vol.1 : 220] [Javādī vol.3 : 357] グラーミーは、シャーザーデ・アフマドが、このゴルアーンの持ち主ではないかと推測している。[Qolāmī 1384a : 46]

²²⁴ [Qolāmī 1384a : 88]

水田に囲まれた中に立つキーシュの木。(写真 844～845)

それほど大きくもなく、また特徴のある木でもないが、以前は、人々がここを訪れてダヒールを結び、夜の間中ランプを灯し続けるなど、この木に対する信心が強かったという。しかし、現在は、訪れる人もなく、近所の人ですら存在を忘れてしまっている。(写真 846)

(224) بقعه آقا درویش جعفر (Boq'ē Āqā Darvīsh Ja'far)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Posht sarā

(北緯 37 度 09 分 028 秒 東経 49 度 24 分 668 秒 標高 63 メートル)

村はずれのマスジェドに隣接する新しい廟²²⁵。(写真 847)

廟内には金属製ザリーが置かれている。(写真 848)

周囲に墓地は見られない。

(225) امامزاده سيد ابوالقاسم (Emānzāde Seyyed Abū al-Qāsem)²²⁶

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne J Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye deh - Rūstāye Nehzom (Şeiqal Koume)

Emānzāde Seyyed Abū al-Qāsem b. Ḥamze b. Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 09 分 564 秒 東経 49 度 35 分 300 秒 標高 39 メートル)

村の中を通る街道沿いに広がる墓地の中。敷地内にマスジェド。

二階建ての煉瓦造りの廟。二階のエイヴァーン部分に木の扉が並ぶ。窓も木製の格子。(写真 849～850)

12 メートルの長さのエイヴァーンの中央部にハラムへの入り口。小さなハラムには、木製のザリーを覆って金属製のかまぼこ形屋根の大型ザリーが置かれている²²⁷。(写真 851～855) ハラムの奥に小部屋があり、ハラムとはカーテンで区切られている。そこには、泊まり込みができるよう、布団なども用意されている。(写真 856～857)

(226) بقعه سلطان پير حسن (Boq'ē Solṭān Pīr Ḥasan)²²⁸

²²⁵ ゴラーミーは 45 平方メートルの廟としている。[Qolāmī 1384a : 32]

²²⁶ ソトゥーデは、Seyyed Abū al-Qāsem va Seyyed Aḥmad としているが[Sotūde vol.1 : 221]、ワクフ慈善庁のリストや廟内のシャジャレ・ナーメにはセイエド・アフマドの名前は見られない。しかし、地元の人によると、この二人の兄弟がこの廟に埋葬されているとのことである。

²²⁷ ソトゥーデは、かまぼこ形ザリーの中に、アブールガーセムとセイエド・アフマドの二人の墓を覆うゆりかご型のシンプルで古いサンドゥッグが置かれているとしている。[Sotūde vol.1 : 220] 1391 年ティール月 18 日・2012 年 7 月 8 日付けの報道によると、4 億リヤール(約 140 万円)をかけてザリーを交換し、交換の際には、地元行政府やギーラーン州のワクフ慈善庁、文化遺産・手工芸・観光産業庁ギーラーン支部の関係者だけでなく、中央からも出席して式典が行われたとのことである。

²²⁸ 名前は、ハサンなのかホセインなのか分かっていない。そのため、廟の入り口上の表示も、ハサンともホセインともとれるように書かれている。

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Pīr sarā

(北緯 37 度 10 分 349 秒 東経 49 度 23 分 852 秒 標高 67 メートル)

現在はシャフトの拡大に伴って町の一部となっている村の墓地の中。

マスジェドと一連なりになった廟。出入口は別だが、中でも行き来ができるようになっている。(写真 858)

広いハラムの中央からずれた場所に、かまぼこ形の大型木製ザリーが二つ置かれている。どちらが誰のものかは分かっていないとのこと。ハサンとホセインなのではないかと尋ねたが、よく分からないため、廟の表示は一人分となっているとのことであった。(写真 859)

二つのザリーよりもマスジェド側の壁寄りに、一人のルーハーニーの墓が置かれ、簡単な鉄製の柵で囲われている。柵には多数のダヒールが結ばれており、ルーハーニーのハージャトに期待する人々や、ピールのハージャトに期待する人々が結んでいったものであるとのこと。(写真 860)

木曜日の午後と礼拝の時間のみ扉を開けるが、非常に排他的であり、「地域の住民のボグエなので外の間人は中に入れない」とのことで、扉を開けることを拒まれた。しかし、「地域の住民のボグエ」という考え方はあり得ないと、ワクフ慈善庁はこうした態度を否定している。

(227) بقعه آقا سيد میران (Boq'ē Āqā Seyyed Mīrān)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye

Mardakhe

(北緯 37 度 09 分 588 秒 東経 49 度 22 分 307 秒 標高 64 メートル)

村はずれの墓地の中。敷地内にマスジェド。

墓地の中に建つ白壁の小さな廟。(写真 861) 一方の扉の寄せるように、緑の布が何重にも分厚くかけられている小型の木製サンドウグ。(写真 862)

どのような人物が埋葬されているのかは明らかではない。

墓地の外れに青く塗られた木製ザリーで覆われた墓があり、真新しい札が置かれていたり、新旧のダヒールが結ばれていたりする。これも、どのような人物かは明らかではない。(写真 863~864)

(228) بقعه پير مؤمن (Boq'ē Pīr Mo'men)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye

'Oṣmāvandān

(北緯 37 度 09 分 313 秒 東経 49 度 23 分 516 秒 標高 76 メートル)

村の中心、商店などが集まる地点に建つマスジェドの中。周囲は墓地。(写真 865)

マスジェドの中の一部屋がハラムとして割り当てられている。小さな廟内には緑の布で覆われた木製ザリーが置かれている。(写真 866)

ヘイアトル・オマナーによると、昔は人々が訪れていたが、最近では訪れる人もほとんどいなくなっているとのこと。そのためか、廟内はマスジェドで使う道具類が置かれる物置のようになっている。

埋葬されている人物は、ピールであることは分かっているが、具体的にどのような人物かは分かっていない。

(229) بقعه آقا وسون دوج (Boq'e Āqā Vasūn Dūch)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye 'Osmāvandān

(北緯 37 度 09 分 194 秒 東経 49 度 23 分 462 秒 標高 88 メートル)

Boq'e Pīr Mo'men から 300 メートルほど離れたマスジェド付属の墓地の中。(写真 867～868)

墓地の最も外れ、通りと敷地を隔てる塀際に、放棄され、崩れ始めているように見える小さな土作りの廟。(写真 869)

廟内の床は土がむき出しで、緑の布で覆われた墓石が部屋の中央に置かれている。廟の修理をしたいと思うのだが、資金の面で大変に問題があるため叶わないとのこと。(写真 870)

村の人々は、これまで、Pīr Mo'men よりもこちらにより強い信仰を持っていたし、現在も持っている。昔は願い事のある人が泊まり込みをしていたくらいだと、案内してくれた男性は語っていた。廟内の清掃は行き届き、墓を覆う緑の布も新しいものであることから、定期的にここを訪れている人がいることが分かる。

(230) بقعه شاهزاده اسماعیل و نساء (Shāhzāde Esmā'īl va Nesā'²²⁹)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Vāli sarā (Tāze Boq'e)

(北緯 37 度 07 分 050 秒 東経 49 度 21 分 233 秒 標高 93 メートル)

村はずれの墓地の中。二段になっており、新しい墓の多い上段にマスジェド。そこから 5 メートルほど下った場所に、古い墓の多い墓地と廟。(写真 871～872)

長方形の廟は、マスジェド側とその反対側の二箇所に入出口があるが、現在使われているのは村に近い、マスジェドとの通路の反対側のみ。

広い廟内の入り口側にエスマーイーユル、奥にネサーが埋葬されている。背の高い墓石を囲い上部が開いた木製のザリーが置かれている。ザリーにはダヒールが多数結ばれている。(写真 873～874)

二人はきょうだいであったとされる。これについては、次のような話が伝えられている。

²²⁹ エマーム・ムーサーの孫であるとされる。

ある村の人が、夜、目が覚め、外を見ると、エマームザーデ・エスハークの方から炎が村の方へと動いてくるのを目にした。別な日、今度は男女を夢の中に見た。彼らは「自分たちは、この地に葬られたきょうだいである。目が覚めたら私たちの墓を探し、人々の助けを借りて墓を覆う建物を建てて欲しい」と言った。その後、地震で建物は壊れたが²³⁰、村の人々が協力して再建した。

近年、人口の減少により、廟の維持が大変になってきているということである。

(231) بقعه سيد پيله آقا (سيد كامال) (Boq'ē Seyyed Pīle Āqā (Seyyed Kamāl))

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Jīrdeh - Rūstāye Kūzān

(北緯 37 度 12 分 411 秒 東経 49 度 28 分 445 秒 標高 19 メートル)

村の中心近く、商店が集まっている一面に広がる墓地の中。

近年建てられた大型のマスジェドと一連なりになった、ドームとゴルダステを持つ廟。

(写真 876~877)

正面入り口を入るとハラム。両脇にサロン、奥にマスジェド。

ハラムには金属製ザリーが置かれている。(写真 878~879)

(232) بقعه درویشان (Boq'ē Darvīshān)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Mollā Sarā - Rūstāye

Shāh Khāl (Shād Khāl)

(北緯 37 度 12 分 223 秒 東経 49 度 26 分 772 秒 高度 29 メートル)

村の外れ、水田の中を通る小道沿いに立つ廟。

新しく建てられた廟。(写真 880) 廟内はカーテンによりハラムとサロンに分けられている。ハラムにはダルヴィーシュの徴であるキャッシュクールのプレートが飾られた金属製ザリーが置かれている。(写真 881)

ザリーにかけられたプレートによると、ダルヴィーシュ・モッラー・モハンマド・アリーの墓であるが、どのような人物であったかの具体的な情報は得られなかった。(写真 882)

(233) بقعه سيده فاطمه سادات (Boq'ē Seyyede Fāṭeme Sādāt)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Markazī - Dehestāne Mollā Sarā - Rūstāye

Shāh Khāl (Shād Khāl)

(北緯 37 度 12 分 989 秒 東経 49 度 26 分 974 秒 高度 24 メートル)

村はずれの墓地の中。敷地内にマスジェド。

新しく建てられた廟内に、金属製ザリーが置かれている。(写真 883~884)

1343S.H./1964年に亡くなったセイエデの墓とされるが、どのような人物だったかについては確認が取れなかった。

²³⁰ 1990年のマンジールの地震を指すと思われる。

(234) بقعه سیده حلیمه خاتون (Boq'e Seyyede Ḥalīme Khātūn)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh Markazī - Dehestāne Mollā Sarā - Rūstāye
Nou deh Pasīkhān

(北緯 37 度 14 分 698 秒 東経 49 度 27 分 543 秒 高度 16 メートル)

シャフト-ラシュト街道から分かれ、村に入ってからすぐの墓地の中。道路を挟んでマスジェド。

以前の廟取り壊して新しい廟を建設中。(写真 885)

廟内には、中央の四本の柱に囲まれて木製ザリーが置かれている。(写真 886)

廟の傍らに、シャヒードのための小さな廟が作られている。(写真 887)

(235) بقعه سیده خانم (Boq'e Seyyede Khānom)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh Markazī - Dehestāne Mollā Sarā - Rūstāye
Nou deh

(北緯 37 度 14 分 905 秒 東経 49 度 26 分 874 秒 高度 13 メートル)

村はずれの墓地の中に建つ、金色の小さなドームを持つ新しい廟²³¹。(写真 888) 敷地内にマスジェド。

廟内には金属製ザリーが置かれている。(写真 889)

セイエデ・ハーノムと呼ばれているが、名前や来歴は不明。

木曜日の午後以外は扉を閉めている。

(236) بقعه سید کاظم موسوی (Boq'e Seyyed Kāzem Mūsavī)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh Markazī - Dehestāne Mollā Sarā - Rūstāye
Kūzegarān

(北緯 37 度 15 分 398 秒 東経 49 度 26 分 536 秒 高度 15 メートル)

村はずれの周囲を水田に囲まれた墓地の中。敷地内にマスジェド。(写真 891~892)

新しい廟を立てるため、現在の廟を囲うように鉄筋が立てられ、壁が作られつつある。

廟内には金属製ザリーが置かれ、その周囲に、緑の布で覆われたセイエドたちの墓が並んでいる。(写真 893~894)

(237) بقعه سیده زهرا و فاطمه حسینی (Boq'e Seyyede Zahrā va Fāṭeme Ḥoseinī)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh Markazī - Dehestāne Mollā Sarā - Rūstāye
Goldaste Maḥalle (Goldasht)

(北緯 37 度 15 分 264 秒 東経 49 度 25 分 291 秒 高度 9 メートル)

村はずれに広がる墓地の中。敷地内にマスジェド。

²³¹ 建て替え前の廟の写真が廟内に展示されている。(写真 890)

以前の廟を取り壊し、新しく建てられた廟。(写真 895)

二箇所に入出口を持ち、廟内には緑の布で覆われた背の低い墓石が二基置かれている。
(写真 896)

どのような女性たちかは確認ができなかった。

普段は鍵が閉められ、木曜日の午後など、特定の日にしか扉を開かない。

(238) بقعه آقا سيد ابراهيم (Boq'ē Āqā Seyyed Ebrāhīm)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshe Markazī - Dehestāne Mollā Sarā - Rūstāye
Kalāshom Bālā

(北緯 37 度 16 分 212 秒 東経 49 度 25 分 269 秒 高度 7 メートル)

ラシュト-フーマン街道沿いの墓地の中。

マスジェドと一連なりになった、二本のゴルダステを持つ廟。(写真 897) パーティションでハラムとマスジェドを分けているが、マスジェド側からもザリーに触れることができるようになっている。(写真 898)

ハラムにはエスファハーン様式のザリーが置かれている。

(239) بقعه آقا سيد يعقوب (Boq'ē Āqā Seyyed Ya'qūb)²³²

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshe Markazī - Dehestāne Mollā Sarā - Rūstāye
Āqā Seyyed Ya'qūb

(北緯 37 度 16 分 152 秒 東経 49 度 26 分 329 秒 高度 8 メートル)

ラシュト-ソウメエサラー街道沿いに立つ廟。街道を挟んでグーラーブ(=沼)が広がり、廟の裏手には墓地が広がっている。

マスジェドと一連なりになった新しい廟。(写真 899) 入り口と廟は男女のスペースが分けられ、中心にエスファハーン様式のザリーが置かれている。(写真 900)

廟の傍らに、枯れて倒れてしまった木の根元部分が残っている。以前は大木がここに立ち、人々の崇敬の対象となっていた²³³。(写真 901)

(240) بقعه شهيدان (Boq'ē Shahīdān)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshe Markazī - Dehestāne Mollā Sarā - Rūstāye
Rāste Kenār Pīshkhān

(北緯 37 度 17 分 754 秒 東経 49 度 26 分 762 秒 高度-7 メートル)

村から離れた畑の中。マスジェドと一連なりになった廟。周囲は墓地。(写真 902)

廟の向かって右側が廟の扉。廟内には、金属製ザリーが置かれている。(写真 903)

²³² ソトゥーデによると、Mazār. [Sotūde vol.1 : 168]

²³³ 1331A.H./1913 年に廟が建てられ、エマームザーデとなった。[Sotūde vol.1 : 168]

埋葬されているとされる人物は二人の子供とされているが²³⁴、具体的にどのような子供だったのかについては情報が得られなかった。

(241) ام‌امزاده ابراهيم (Emānzāde Ebrāhīm)²³⁵

Gīlān - Fūmān - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Choubar -
Bālātar az Rūstāye Ṭāleqān

Emānzāde Ebrāhīm b. Emām Mūsā al-Kāzem

(北緯 37 度 58 分 935 秒 東経 49 度 18 分 633 秒 高度 594 メートル)

川沿いに走る街道を山の奥へと走った突き当たり。谷の上に建つ、銀色のドームと二本のゴルダステを持つ廟。(写真 904)

廟内はアーイーネカーリーで飾られたハラムの中央にエスファハーン様式のザリーが置かれている²³⁶。ハラムはパーティションで男女が分けられている。ハラムの奥に、男女別のマスジェド²³⁷。(写真 905)

ギーラーンで最も巡礼者を集める廟の一つで²³⁸、高台にあることから、特に夏に巡礼者が多く集まる。廟の周囲には巡礼者のための宿泊施設や、土産物屋が軒を並べる。(写真 906～909) また、様々な奇跡譚でも知られている²³⁹。

エマームザーデ・エブラーヒームに向かう街道沿いには、エマームザーデに毒入りのアーシュ (スープの一種) を食べさせたという老女の墓があり²⁴⁰、この墓に石を投げつけたり小便をかけたりして老女を呪う²⁴¹。(写真 910～911)

また、廟の下を流れる川の上流にある滝は、エマームザーデが絶命した場所 (Qatlgāh) として、巡礼者たちが訪れる場所となっている²⁴²。

以前は、廟内に **Khamīr sang** という名で知られる 2 kg ほどの黒い石があり、薬として用いられていたというのが²⁴³、現在は見られなくなっている。

(242) درخت (Derakht)

²³⁴ [Jaktāji : 27]

²³⁵ Emānzāde Abū al-Faḍle Gīlā, あるいは Shāh-zāde Ebrāhīm とも。[Jaktāji : 46]

²³⁶ 以前は、アーザードの木で作られたザリーが置かれていた。[Javādī vol.2 : 104]

²³⁷ [Sotūde vol.1 : 218]

²³⁸ ギーラーン州内でも著名なエマームザーデであることから、エマームザーデ・エブラーヒームのタアズィエがギーラーン各地で行われるほどである。[Qolāmī 1384b : 81]

²³⁹ 病気が治ったというものも多いが、例えば、この聖所の域内で盗みやすり、人に色目を使うこと、嘘、不正な誓いをするなど、あらゆる醜悪な行為に対して、エマームザーデから厳し罰が下される。例えば、聖域内で盗みを働いた者は手が腐り、色目を使ったり嘘を言ったり、不正な誓いをした者は、目が見えなくなると信じられている。[Jaktāji : 79]

²⁴⁰ この場所は、**Pīr zan** (=老女の意味) と呼ばれている。

²⁴¹ ジャクタージーによると、この場所を **Pīrzan**(=老女)と呼ぶ。[Jaktāji : 108]

²⁴² 滝の周囲の赤い石は、エマームザーデの血であると信じられていた。以前はこの石を拾って持ち帰り、米びつに入れたり、家の井戸に投げ込んだりした。[Qolāmī 1384b : 57]

²⁴³ [Qolāmī 1384a : 69]

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Choubar -
Rūstāye Ṭāleqān

(北緯 37 度 59 分 888 秒 東経 49 度 19 分 760 秒 高度 398 メートル)

エマームザーデ・エブラーヒーム街道から川に向かって数メートル斜面を降りたところに建つ大木。(写真 912~913)

近隣に同じ種類の木が見当たらないという。

近隣の人々がズィヤーラトに訪れるというが、ダヒールやろうそくの跡などは見られない。

(243) بقعه بابا ركاب (Boq'eh Bābā Rekāb)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Choubar -
Rūstāye Bābā Rekāb

(北緯 37 度 00 分 453 秒 東経 49 度 20 分 381 秒 高度 319 メートル)

エマームザーデ・エブラーヒーム街道沿い。街道がカーブした地点に建つ廟。(写真 914~915) エマームザーデ・エブラーヒームに向かう人々が足を止め、ズィヤーラトを行っているのが見られる。

二箇所に出入り口を持つ新しい廟。廟内には大型の金属製ザリー。(写真 916)

エマームザーデ・エブラーヒームのレカーブダール (=従者) として知られる²⁴⁴。

道路を挟んで、巡礼客目当ての商店が並んでいる。

(244) امامزادگان اسحق و نساء (Emānzādegān Eshāq va Nesā')²⁴⁵

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Choubar -
Rūstāye Mobārak ābād

Emānzādegān Eshāq va Nesā' b. Emām Mūsā al-Kāzem²⁴⁶

(北緯 37 度 03 分 112 秒 東経 49 度 19 分 391 秒 高度 1037 メートル)

エマームザーデ・エブラーヒームの兄弟の廟。マスジェドを兼ねる²⁴⁷。

丘の頂上にそびえる廟。(写真 917~918) 男性と女性の入り口が別に設けられているが、ザリーは女性用の入り口から入った部屋にあり、部屋の中で再度男女を分ける仕切りがしつらえられている。(写真 919)

ハラムにはアルミ製ザリーが置かれ、その中に二人の墓石があるとのこと。

女性用の入り口上部にひもが渡され、南京錠がびっしりと取り付けられている。(写真 920~921)

²⁴⁴ エマームザーデ・エブラーヒームの参謀の地位にあり、エマームザーデの旅や戦いに随伴したビール。
[Jaktājī : 46]

²⁴⁵ kheir al- Nesā'あるいは、Fāṭeme Ṣoghrā. [Javādī vol.2 : 104]

²⁴⁶ エマーム・ムーサーの子孫という説や[Qolāmī 1384b : 81-81]、エマーム・レザーの 13 歳の弟とエマーム・レザーの 9 歳の妹であり、エマームザーデ・エブラーヒームのおじとおばという説がある。[Jaktājī : 46]

²⁴⁷ 2013 年、廟を取り壊し、新しい廟の建設が始まった。

廟の周囲や、丘の斜面は墓地。丘の下の村は、ザーエルサラーやお土産物屋が軒を並べる。(写真 922)

廟の建つ丘の下に、一本の背の高い木が立ち、その根元に小さな廟が作られている。この場所で二人が殺害されたとされ、人々が祈りを捧げる場の一つとなっている²⁴⁸。(写真 923～926)

廟内に、エブラーヒームのお立ち台石と呼ばれる大理石があったとされるが²⁴⁹、現在はその石は見られない。

(245) بقعه آقا نور سه تن (Boq'e Āqā Nūr Se tan)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Choubar - Miyāne Rūstāhāye Choubar va Chenār Rūdkhān

(北緯 37 度 04 分 862 秒 東経 49 度 26 分 362 秒 高度 190 メートル)

村と村の間。谷に面した廟。周囲は墓地。

マスジェドと一連なりになった廟。ハラムには大型の金属製ザリーが置かれている。(写真 927～928)

Balāl al- Nūr, Kamāl al- Nūr, Jamāl al- Nūr²⁵⁰の若い三兄弟が葬られているという。この三人がどのような人物かは明らかではないが、エマーム・レザーが殺害された後、アッバース朝のエマームザーデ抹殺令を遁れてこの地までやって来たものの、ここで殺されてしまったと伝えられている。

(246) بقعه آقا میر عزیز (Boq'e Āqā Mīr 'Azīz)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Choubar - Rūstāye Mīr sarā

(北緯 37 度 06 分 732 秒 東経 49 度 24 分 903 秒 高度 70 メートル)

村はずれの墓地の中。敷地内にマスジェド。

以前の廟を取り壊して建てられた新しい廟。(写真 929)

広い廟内に大型の金属製ザリーが置かれている。(写真 930)

どのような人物が埋葬されているのかは明らかではない。

(247) بقعه حاج علی آقا (Boq'e Hāj 'Alī Āqā)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Choubar - Rūstāye Kāẓem ābād

(北緯 37 度 06 分 904 秒 東経 49 度 25 分 662 秒 高度 56 メートル)

²⁴⁸ この木の洞に隠れていた二人に暗殺者が矢を射込み、二人を殺害した。家を持ちたいと願う巡礼者が、幾つもの石をこの木の周囲に積み上げている。[Qolāmī 1384a : 57] [Qolāmī 1384b : 81-82]

²⁴⁹ [Qolāmī 1384a : 69]

²⁵⁰ [Jaktājī : 31] 地元の人たちは、バラール、キャマール、ジャマールと言っている。

村はずれの丘の上に広がる墓地の中。丘の下には川が流れる。
前方にエイヴァーンを持つ新しい廟。(写真 931)
広い廟内は、大型のかまぼこ形の屋根を持つ金属製ザリーが置かれている。(写真 932)
ザリーを覆う布のフリンジや、廟内に置かれた募金箱の足などにダヒールが結ばれている。(写真 933)
廟の床の一部が抜けており、下を流れる川の流が見える。

(248) آرامگاه آقا سید رضا (Ārāmgāhe Seyyed Reḏā)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Choubar - Rūstāye Tānī Maḥalle

(北緯 37 度 07 分 702 秒 東経 49 度 25 分 820 秒 高度 34 メートル)

村を通る街道沿いに建つマスジェド・エマーム・ジャアファル・サーデグ付属の墓地の中。緑に塗られた鉄のザリーで囲われた墓石。二つ並ぶ墓石のうち、マスジェド側はアーガー・セイエド・レザーのおじのもの。(写真 934～935)

非常にハージャトがあるとされ、村の女性たちのズィヤーラトガーのようにになっている。セイエド・レザーの子どもたちは、現在、ラシュトに住んでいるとのこと。

(249) بقعه سید منصور (Boq'ē Seyyed Manṣūr)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Choubar - Rūstāye Līfkūkhāndān

(北緯 37 度 05 分 774 秒 東経 49 度 27 分 607 秒 高度 71 メートル)

村から離れた水田の中。二軒の民家に挟まれた、マスジェドと一連なりになった廟。(写真 936～937)

廟内は、中央をカーテンで仕切り、ハラムとサロンに分けている。(写真 938)

廟内には、ろうそくが立てられていたり、願い事を書いた紙が貼られていたりする。(写真 939)

普段は鍵がかけられている。

(250) بقعه پیر مختار (Boq'ē Pīr Mokhtār)

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhsh-e Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Aḥmad Sar Gūrāb - Aḥmad Sar Gūrāb

(北緯 37 度 08 分 163 秒 東経 49 度 22 分 277 秒 高度 85 メートル)

町外れの墓地の中。敷地内にマスジェド。

前方にエイヴァーンを持つ廟。エイヴァーンにも数基の墓石が見られる。(写真 940～941)

廟内にはかまぼこ形の屋根を持つ金属製ザリーが置かれている。(写真 942～943)

墓地内にもう一つ新しい小さな廟が建てられている。廟内には金属製のサンドウグが置かれている。これは *Seyyed Marziyā Hājīpūr* のものとのこと。サンドウグの奥に、ザリー等を持たない、*Seyyed Esmā'īl Hājīpūr* の墓。ダヒールが多数結ばれ、ズィヤーラトの人が多く訪れていることが分かる。(写真 944～946)

(251) بقعه سالک معلم (Boq'ē Sālek Mo'allem)²⁵¹

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Aḥmad Sar Gūrāb - Rūstāye Sālek Maḥalle²⁵²

Sālūk b. Vaḥb b. Manīyeh²⁵³

(北緯 37 度 06 分 599 秒 東経 49 度 18 分 486 秒 高度 147 メートル)

村はずれの丘の上。丘の斜面は墓地となっている。(写真 947)

廟の前面は壁を持たず解放されている。(写真 948)

廟内にはかまぼこ形の屋根を持つ木製サンドウグが置かれ、廟の脇に立つ柱に多数のダヒールが結ばれている。(写真 949～950)

丘の下にはチェナールの巨木が立ち、人々の崇敬の対象となり、ダヒールが結ばれている²⁵⁴。(写真 951～952)

(252) بقعه سالک (Boq'ē Sālek)²⁵⁵

Gīlān - Fūman - Shahrestāne Shaft - Bakhshē Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Aḥmad Sar Gūrāb - Rūstāye Sālek Maḥalle

(北緯 37 度 06 分 539 秒 東経 49 度 19 分 012 秒 高度 108 メートル)

村の中心に広がる墓地の中。敷地内にマスジェド。

長方形の建物の半分が廟。残りはホセイニーエ。入り口はそれぞれ独立している。(写真 955～956)

廟内にはザリー等を持たない、タイルを貼った背の高い墓石。(写真 957)

ガージャール朝中期に生きた学者の墓²⁵⁶。

²⁵¹ ソトゥーデによると Mazār. [Sotūde vol.1 : 221]

²⁵² ソトゥーデによると、Allāh vardī Maḥalle Qeshlāqe Shaft. [Sotūde vol.1 : 221]

²⁵³ [Sotūde vol.1 : 221] [Jaktājī : 59] [Javādī vol.3 : 342] 預言者のヤーラーンの一人の息子とされるが、どのような人物かは具体的には分からず、いくつかの伝承が存在する。その伝承の一つとして次のような物が伝えられる。エマーム・レザーの死後、ターレシュ・デイラム連合軍 7 千人に加わり、シェミラーン砦の麓で対立者を打ち破り、キャフダムに向かった。その後、ギーラーンの支配者であったアブール・ゲイス・ハーレジーが彼を打ち破り、破れた彼ははへイル・サング山に向かい、一人で信仰の生活を送り、280A.H./893-4 年にこの地で亡くなり、埋葬された。[Javādī vol.3 : 342] [Sotūde vol.1 : 221-2]

また、エマーム・レザーと共にマシュハドに行き、エマームの死後、エマームのヤーラーンの長となりギーラーンへ移住。280A.H./893-4 年にギーラーンの支配者との戦いの中で殺された。[Jaktājī : 59]

²⁵⁴ グラーミーによると、ズィヤーラトの人々は、ザクロの枝を持ってきて、木の幹に据え付ける、ととなっているが[Qolāmī 1384a :34]、シェムシャードの小枝しか見当たらない。近所の人たちによると、このクルミの木に捧げる枝は種類を問わないとのことであるが、ギーラーンで一般的に行われているようにシェムシャードの小枝を持っていくことが多いとのことである。

²⁵⁵ Sālūk とも。

(253) بقعه کاس آقا واحدی (Boq'e Kās Āqā Vāhedī)

Gīlān - Fūmān - Shahrestāne Shaft - Bakhshe Aḥmad Sar Gūrāb - Dehestāne Aḥmad Sar Gūrāb - Rūstāye Touse Siyāhmazgī

(北緯 37 度 01 分 800 秒 東經 49 度 17 分 037 秒 高度 327 メートル)

谷沿いに位置する村の墓地。

マスジェドと一連なりになった、緑の小さなドームを持つ新しい廟。(写真 958)

男女別の入り口を持ち、廟内も男女別に分けられている。しかし、平日は男性側のみが開けられ、女性もそちらから出入りする。木のパーティションで男女別に分けられたハラムには、大型の木製ザリーが置かれている。(写真 959～960)

ザリーの格子の他にも、窓枠にも外からダヒールが結ばれている。(写真 961～962)

彼については次のような話が伝えられているという。

彼は生前、手編みの籠に家畜の乳を入れて運んでいたが、決して乳がこぼれることはなかった。

また、ある日、彼の妻が「物置の中にもう米がない」と言ったが、彼は冷たい態度で座ったまま、妻の言葉に耳を貸さず、「心配するな。私たちに日々の糧を与えてくれる方が私たちに届けてくれるだろう」と言った。妻は彼のこの言葉に驚いた。何かを取りに物置へ行くと、そこが米でいっぱいになっているのを見た。

4. ギーラーン州の<聖所>をめぐって

(1) <聖所>に埋葬されている人々

a. エマームザーデ/セイエド/セイエデ

聖所には、ハージャトを与えてくれ、敬意を払われるべき人物が埋葬されていると見なされていることが多い。12 イマーム・シーア派住民が多数を占めるイランにおいては、エマームザーデと呼ばれる 12 人のイマーム (現代ペルシア語の発音ではエマーム) の血を引く人物であることがほとんどである。そしてその正統性は、廟内のズィヤーラト・ナーメやシャジャレ・ナーメ、墓石に刻まれた碑文、文献資料などで明らかにされる。

しかし、ギーラーン州では、「シャジャレ (Shajare=血統) もはっきり分らないから、エマームザーデではなくセイエド (あるいはセイエデ)」と、エマームザーデとセイエドを現地の人々がはっきりと区別することが多い。名前すらはっきりせず、また、廟内にシャジャレ/ナーメを持たず²⁵⁷、信頼できる文献資料も少ないことから、「エマームザーデ」と

²⁵⁶ [Qolāmī 1384a :34]

²⁵⁷ 他の廟から持ち出されたシャジャレ・ナーメが置かれていたケースもあるという。

伝えられていても出自がはっきりしない被葬者も見られる。

とりあえず、現段階で確認できたエマームザーデ/セイエドの血統については以下の通りである。

一つの廟に葬られている兄弟姉妹については一人としてカウントしている。

初代	Emām 'Alī	2
第二代目	Emām Ḥasan Mojtabā	0
第三代目	Emām Ḥosein	0
第四代目	Emām Zein al-'Ābedīn	1
第五代目	Emām Moḥammad al-Bāqer	0
第六代目	Emām Ja'far al-Ṣādeq	4
第七代目	Emām Mūsā al-Kāzem	39
第八代目	Emām Rezā	1
第九代目	Emām Moḥammad al-Taqī (Emām Javād)	0

第七代目イマーム・ムーサーの子供あるいは子孫とされるエマームザーデ/セイエドが多いことは、イランの他の地域と同じであるが、他の州では、エマーム・ムーサーに次いで多いゼイノル・アーベディーンの子孫が少なく、エマーム・ジャアファルの方が多い。

b. エマームあるいはエマームザーデ/セイエドと血縁・婚姻関係を持つ人々

テヘラン州で見られたような、エマームザーデの母や妻などが同じ廟内に埋葬され、信仰の対象となっているという例は、今回の三郡では見られないようである。

c. エマームあるいはエマームザーデ/セイエドと関係を持つ人々

エマームあるいはエマームザーデ/セイエドに仕えていた人々の墓と伝えられる聖所も見られる。今回、調査の対象とした三郡では、アースターネ・アシュラフィーエ郡が含まれていることもあってか、Jalāl al-Dīn Ashraf の関係者が多かった。

また、預言者ムハンマドのヤーラーンの一人の息子とされるフーマン郡 Sālek Maḥalle 村の Sālūk、Jalāl al-Dīn Ashraf の従者であったアースターネ・アシュラフィーエ郡 Kīsom の Seyyed Rekābdār、Jalāl al-Dīn Ashraf 軍の司令官の一人であったアースターネ・アシュラフィーエ郡 Amīr Hende 村の Seyyed Amīr Solṭān、同 Dākhel 村の Boq'e Seyyed 'Abd al-Raḥmane Azhdar、フーマン郡マースーレの 'Oun b. 'Alī、などがあげられる。

d. Sheikh/Pīr/Darvīsh

シェイフは 5 箇所、ピールは 12 箇所、ダルヴィーシュは 5 箇所であった。

(2) <聖所>の種類

a. Qadamgāh

フーマン-マースレー街道沿いに一箇所存在するが、現在は失われてしまっている。

b. Derakhte Moqaddas

ギーラーン州には、前書きでも紹介したソトゥーデの言葉にあるように、樹木に対する特別な感情があり、樹木を中心とした聖所も、他の地域に比べると多い。しかし、近年、様々な理由から、こうした聖樹は減少している。また、今回調査したよりも多くの聖樹が存在していて、また、現在も存在していると考えられる。現地での継続的な聞き取り調査を今後も行いたい。現在、3郡で27箇所である。

c. Cheshme/Cāh

イランの他の地域に比べて水資源の豊かなギーラーン州であるが、生きるために必要な水に対する信心は他の地域と変わらない。ギーラーン州では、川など表流水は汚染されている可能性があるからと、飲料には地下から汲み上げた水を使う。チェシュメと言うと、地表に湧いた水を思い起こすが、地下水を引いた出口や井戸もチェシュメと呼ぶことが多い。

今回調査した3郡では、アースターネ・アシュラフィーエ郡 Bāzān 村の Cheshme、ソウメエ・サラール郡 Khānī Kenār 村の Boq'e Seyyed Ebrāhīm、Kalangestān 村 Boq'e Āqā Seyyed Hōsein、Gūrāb 村 Boq'e Āqā Pīrā、フーマン郡 Shanbe Bāzār 村 Boq'e Sabz Qabā、Emānzāde Taqī 村 Emānzāde Taqī に今でもチェシュメ (=泉) が、Dahandeh 村に井戸が、神聖な、人々にハージャト (シャフアー) を与えてくれるものとして人々の信仰の対象となっていた。

フーマン郡 Siyāhvard 村の泉は、村の水道の水源として使われ、泉のあった場所はゴミ捨て場ようになっていて、既に信仰の対象ではなくなっていた。

こちらも、聖樹と同じく調査を継続したい。

d. 岩窟

今回調査を行った3郡では、岩窟の聖所は見られなかった。

e. マスジェド

本来は礼拝を行う場所という機能が最も重要であるマスジェドが、<聖所>としての機能を持つことがある。アースターネ・アシュラフィーエ郡 Jū posht 村のマスジェド・エマーム・ハサン・モジュタパーでは、村の人たち自身は否定するものの、願い事のある人がマスジェドにひもを結びつけ、願い事が叶ったらマスジェドへの寄付を行うという行為が見ら

れる。これは、聖所での行為と変わらないことから、聖所と見なすことができるように思われる。

f. その他

今回の調査で見られた、これまで調査を行ってきた他の地域とは異なる聖所としては、古く大きなゴルアーンそのものが信仰の対象となっている聖所がある。ソウメエ・サラール郡に二箇所、フーマン郡に二箇所見られるこの聖所は、どれも信仰の対象となっていたゴルアーンは失われてしまっていたり、他所に保管されていたりするが、ゴルアーンの置かれていた場所が聖所となり、人々がズィヤーラトを行う場として残っている。

もう一つは、聖所に埋葬されていると信じられている人物が殺害された場所 (qatlgāh) の聖所化である。殺害された場所であって、遺体が埋葬されている場所ではないのだが、そこを訪れ、祈りを捧げたり一種のまじないを行ったりという行為が見られる。Emānzāde Ebrāhīm と Emānzādegān Eshāq va Nesā' の二箇所である。

(3) <聖所>にまつわる伝承

聖所にまつわる伝承として最も多いものは、その起源に関するものである。

「村人某の夢に従って発見された」と伝えられる聖所の他、今回の調査では、アースターネ・アシュラフィーエ郡が含まれていることから、Jalāl al-Dīn Ashraf の関係者と関連づけられた聖所も見られる。

a. Jalāl al-Dīn Ashraf に関わる人たちの伝承

Jalāl al-Dīn Ashraf がターロムで敗北したとき、彼と共にいた‘Oun b. Moḥammad b. ‘Alī も負傷した。彼は Jalāl al-Dīn Ashraf と分かれ、マースレーへやって来て、そこで一人のチューパーン (牧童) に会った。彼はチューパーンに自分の死体をどこでも構わないので埋葬するように言った。埋葬後、チューパーンは、自分の家を彼の墓の傍らに建てた。そうしてマースレーの村が生まれた²⁵⁸。

Sheikh Jamāl は、マースレーに葬られているシェイフ・ユースフの兄弟である。この兄弟は時の圧制者たちと戦った。彼らの父は、バーバー・ユージュといい、ザンジャンの住民の一人であり、Jalāl al-Dīn Ashraf の麾下にいた。Jalāl al-Dīn Ashraf が殺害された後、二人の兄弟の一人はマースレーへ、一人はガルエ・ルードハーンへと逃げた。Sheikh Jamāl は、この地で人々の中に紛れ、チューパーンの仕事をした。隠棲生活の中で人々に敬意を払われ、死後もエマームザーデの列にまで高められた²⁵⁹。

²⁵⁸ [Sotūde vol.1 : 129]

²⁵⁹ [Jaktājī : 109]

b. Sālūk Mo‘allem に関わる人たちの伝承

Sālūk Mo‘allem は、エマーム・レザーの死後、ターレシュ・デイラム連合軍 7 千人に加わり、シェミーラーン砦の麓で対立者を打ち破り、キャフダムに向かった。その後、ギーラーンの支配者であったアブール・ゲイス・ハーレジーが彼を打ち破り、彼はヘイル・サング山に向かい、一人で信仰の生活を送り、280A.H./893-4 年にこの地で亡くなり、埋葬された。

Sālūk Mo‘allem がシェミーラーン砦で敗北した後、その弟子であった二人の兄弟、**Zein b. ‘Alī** と **‘Ein ‘Alī** は、マースーレへと遁れた。そして、この土地の人々にイスラームの教えを授けた。新しくムスリムとなった人々は、この二人の墓の周囲に集まり、少しずつそこはズィヤーラトガーへと変わっていった。

c. Sheikh Jamāl に関する伝承

Sheikh Jamāl に関しては、もう一つの伝承がある。それは次のようなものである。

彼は、他のガーレシーの人々やチューパーンとは異なり、放牧の際に牛や子牛と一緒に連れて行った。チューパーンは本来、牛を朝から放牧に連れて行き、夕方連れて帰り、乳を搾る。それから、一日中小屋の中にいた子牛が母牛から乳を飲むことを許していた。しかし、シェイフ・ジャマールは、全ての牛をまとめて放牧に連れて行き、森の中で乳を搾り、その後、子牛に乳を飲ませた。子牛たちは彼の仕事の邪魔をすることがなかった。このことはシェイフ・ジャマールの奇跡の一つと見なされていた。彼の死後、地域の人々の崇敬の対象となった²⁶⁰。

d. Hāj Mo‘men に関する伝承

Hāj Mo‘men は水田を持ち、そこで働いていた。そして信仰の生活を行っていた。このピールの水田の傍らには小さな流れがあった。彼が牛を使って水田を耕していたある日、一匹の魚が流れの中をやって来た。神は、彼に魚を捕り、油で揚げて食べるよう、しかしその尾とひれは残して水の中に放り込むようにと伝えた。ピールはそのようにした。魚は神の名により生き返り、去って行った。この出来事は何度か繰り返された。

ピールの妻はこの出来事を知り、それを自分の兄弟に打ち明けた。二人は秘密を教えるようピールに迫ったがピールは拒んだ。ピールは二人の追求を遁れ、耕作用の牛を動かしていた棒を地面に落とし、そこに姿を消した。その棒は後に巨木となり、人々はそこにダヒールを結んだ。何年か前にそれを切り倒し、廟が作られた²⁶¹。

e. 二人の子供に関する伝承。

²⁶⁰ [Jaktājī : 109]

²⁶¹ [Jaktājī : 110-111]

シャフト郡の **Rāste Kenāre Pasikhān** 村にあるシャヒーダーン廟には、二人の子供のセイエドが葬られているとされる。この子供たちについては次のような話が伝えられているという。

稲の刈り入れの時期、農夫たちは昼食をとりたと思った。彼らは自分たちが家に昼食をとりに行っている間、子どもたちに稲刈りを任せた。しかし、仕事に慣れていない子どもたちは、まだ熟していない稲も刈り取っていた。農夫は、自分の数ヶ月間の苦労が台無しになっているのを見て狂気に駆られ、稲刈り用の鎌で二人の首を落としてしまった。しかし、鎌は彼の手から落ち、一本の木に刺さった。この木はその後もそこにあり、人々はその木に信心を持っていた。この木から赤い樹液がしたたり落ち、人々はそれを神聖なものを見なした。後に土地の人々は、この二人の子供のために廟を建てた²⁶²。

土地の老人によると、廟内には緑色に塗られた碑文があり、子供を殺した鎌と共にサンドゥグの中に収められていた。しかし、後にそれは盗まれてしまった²⁶³。

おわりに

2009年からはギーラーン州での聖所調査を始めた。調査を始める前は、聖所の数が多い州であるということは知っていたものの、小さな州でもあり、それほど時間はかからず調査を終えることができるだろうと考えていた。しかし、調査を始めてみると、調査前に手に入れていたリスト以外の聖所が、他の州に比べて随分と多いことに気がついた。村の人との世間話の中で、「そういえば、あそこにはこんなものがあるよ」と知らされたり、目的地に向かって車を走らせている途中、木の幹に巻き付けられている緑の布に気がついたりした聖所も多い。

ワクフ慈善庁に登録されている聖所は、廟を持ち、昔から人々の信仰の対象となっていたものが多い。これはよほどのことがなければ失われることはない。しかし、その一方で、公的に登録されることもない路傍の木や墓石、泉などは、住民の意識の変化で生まれたり消えていったりする。特に、住民の移動が激しくなり、教育の普及が進んだイラン・イスラーム革命以後、聖所を支えてきた人々の意識は大きく変化し、それに伴い聖所に対する意識も変化したように見える。信仰の対象となっていた木や泉だけでなく、ワクフ慈善庁に登録されている聖所すら、その所在を知らないという住民が増えてきている。

古くからの信仰の形を知り、残しているのは女性たちである。高学歴の女性は少なく、標準ペルシア語を聞いて理解することはできるが話すことはできない、という女性も多い。しかし男性たち、あるいは老人たちですら知らない聖所の場所と名前を記憶しているのは

²⁶² [Jaktājī : 27-28]

²⁶³ [Jaktājī : 107]

彼女たちである。調査を始めた頃は、まだそれを十分に理解していなかったため調査の効率も悪く、また、見落とししたこと・ものも多かったと思う。これからの調査で補っていけるようにしたい。

これまで調査を行ってきた他の地域では気がつかなかったことに、セイエド/セイエデに対する信心がある。墓地の中のあるセイエド/セイエデの墓にダヒールが結ばれ、ろうそくが灯され、墓や墓を覆うザリーに手を触れ、祈っていくという行動は、ギーラーンで調査を始めてしばらくして気がついた。そうして改めて墓地を見てみると、こうした行為がごく普通に見られるということが分かってきた。ダヒールがたくさん結ばれたセイエドの墓の写真を見せながら、「こういう墓がこの近所にはない？」と尋ねると、こんなのはどこの墓地にもあるという答えが返ってくる。

なぜ、あるセイエド/セイエデの墓が選ばれて信心の対象となるのか、例をできる限り多く集め、地元の人たちからも話を聞いていきたいと思う。

現在、ギーラーン州東部を中心に、半分以上の地域の調査を終えている。調査時期の問題で山間部の聖所の多くがまだ調査し残している状況であるが、できるだけ効率良くしかし必要などころでは詳細に調査を行っていきたい。第一巻は、アースターネ・アシュラフィーエ郡、ソウメエ・サラ郡、フーマン郡の3郡の報告を行ったが、第二巻では、ラーヒージャーン郡(含スィヤーフキヤル郡)、ランゲルード郡、ルードサル郡(含アムラシュ郡)の3郡、第三巻は、ラシュト郡(含ルードバール郡、アースターラー郡)、ターレシュ郡(含レズヴァーン・シャフル郡、マーサール郡)の2郡の調査報告を行う予定である。本巻の調査は2年前に終わっていたのだが、他の地域にはなかったギーラーンの聖所についての考察や、技術的なトラブルにより報告書のとりまとめが遅れてしまった。第二巻以降はそのようなことがないようにしたい。

参考文献

- 'Abbāsī, Hūshang (1380S.H./2001-2) Derakht dar Farhange Mardome Gīlān, *Farhange Gīlān*, No.9-10, pp.63-73
- Abiyāne, 'Alī Akbar Nārī (1384S.H./2005-6) Vajhe Tasmīyeyr Nām va Shohrate Emānzādegān : bā Negāhī be Manābe'e Tārīkhī va Joghrāfiyāī, *Mīrāthe Jāvīdān*, No.52 , pp.133-158.
- Bālāī Langerūdī, 'Alī (1381S.H./2002-3) Āīneye 'Alam Vāchīnī dar Āīneye Ete Kū, *Farhange Gīlān*, No. 13-14, pp.58-63.
- Bāstānī Pārīzī, Moḥammad Ebrāhīm (1344S.H./1965-6) *Khātūne Haft Qal'e*, Tehrān.
- Bazin, Marcel and Bromberger, Christian (ed.), Farshchian, Mozafar Amin (tr.) (1365S.H./1987-8) *Gīlān va Āzarbāijāne Sharqī : Naqshehā va Asnāde Mardom Shenāsī*, Tehrān.
- Dādmehr, Manṣūr (1378S.H./1999-2000) *Pazhūheshī dar bareye Saqqākhānehā va Sangābhāye Eṣfahān*, Eṣfahān.
- Edāreye Kolle Āmūzeshe Enteshārāt va Toulīdāte Farhangī (1380S.H./2001-2) *Simāye Mīrāthe Farhangīye Gīlān*, Tehrān.
- Ejtehdādī, Moṣṭafā (ed.) (1382S.H./2003-4) *Dāyerat al-Ma'ārefe Zane Īrānī*, 2vols., Tehrān.
- Gholāmī, Qāsem (1376S.H./1997-8) *Tārīkhe Enqelāb : Seyyed Jalāl al-Dīn Ashraf*, Rasht.
- _____ (1380S.H./2001-2) Ramzvārehāye Emānzāde Ebrāhīm dar Ābgīneye Engārhāye Qoumī, *Farhange Gīlān*, No.9-10, pp.74-83.
- _____ (1384S.H./2006-7a) *Ziyāratgāhhāye Gīlān*, Dāneshnāmeye Farhang va Tamaddone Gīlān 14, Rasht.
- _____ (1384S.H./2006-7b) *Emāzādehāye Gīlān*, Dāneshnāmeye Farhang va Tamaddone Gīlān 20, Rasht.
- Jahānī, Valī (1386S.H./2008-9) *Jāzbehāye Tārīkhīye Gīlān*, Dāneshnāmeye Farhang va Tamaddone Gīlān 13, Rasht.
- Jaktājī, Moḥammad Taqī Pūr Aḥmad (1385S.H./2007-8) *Farhange 'Āmiyāneye Ziyāratgāhhāye Gīlān*, Dāneshnāmeye Farhang va Tamaddone Gīlān 19, Rasht
- Kheirkhāh Ḥasan Kiyādeh, Akbar (1389S.H./2009-10) *Bandare Kiyā shahr va Negāhī be Sefīd rūd*, Rasht.
- Maḥmūdī Nezhād, Aḥmad (1388S.H./2008-9) *Naqqāshīhāye Dīvāriye Boq'ehāye Gīlān*, Dāneshnāmeye Farhang va Tamaddone Gīlān 25, Rasht.
- Mīr Abū al-Qāsemī, Seyyed Moḥammad Taqī (1383S.H./2004-5) Eḥṭerām be Ṭabī'at az parastesh tā Ezdevāj bā Derakht : Kohantarīn va Shegeft angīztarīn Bāvarhāye Tūtōmī, *Farhange Mardom*, No.10, pp.106-109.
- Mokhtāriyān, 'Alī (1390S.H./2010-11) Marammat va Behsāziye Beqā'e Motabarreke, *Mīrāse Jāvīdān*, No.73, pp.145-152.
- Pandī, Keivān (1384S.H./2006-7) *Sarzmīn va Mardome Fūmānāt*, Rasht.
- _____ (1388S.H./2008-9) *Māsūle : Negīne Īrān Zamīn*, Rasht.

- Partou, Afshīn (1388S.H./2009-10) *Tārikhe Gīlān : az Āghāz tā Barpāiye Jonbeshe Mashrūte*, Rasht.
- Pazhūheshgāhe Farhang va Honare Eslāmī (1378S.H./1998) *Dāyerat al-Ma'ārefe Banāhāye Tārikhiye Doureye Eslāmī (Banāhāye Ārāmgāhi)*, Tehrān.
- Rabino, H.L., Khomāmzāde, Ja'far (tr.) (1391S.H./2012-3) *Velāyate Dār al-Marze Īrān : Gīlān*, Rasht.
- Şadr Hāj Seyyed Javādī, Aḥmad and Two Others (ed.) (1375S.H./1996-7) *Dāyerat al-Ma'ārefe Tashayyo'*, vol. 1-3, Qom.
- Sotūde, Manūchehr (1349S.H./1969) *Az Āstārā tā Astār ābād*, vol.1-2, Tehrān.
- 赤堀雅幸 (2004) 「イスラームの聖者と聖者のイスラーム～民衆信仰論の一環として」『宗教研究』第78巻第2号, pp.229-250.
- 伊東未来 (2009) 「イスラーム「聖者」概念再考への一考察～マリ共和国ジェンネの *alfa* を事例に」『年報人間科学』30, pp.83-100.
- 大稔哲也 (2005) 「「聖者」と「聖者崇拜」」 赤堀雅幸・東長靖・堀川徹編『イスラームの神秘主義と聖者信仰』(イスラーム地域研究叢書7) 東京大学出版会, pp.240-248.
- 上岡弘二 (1987) 「イランの民間信仰の聖所をめぐって～その理解のための仕分けの試み」片倉もとこ編『人々のイスラーム～その学際的研究』日本放送出版協会.
- _____ (1984) 「イラン人の宗教世界～イラン・イスラム革命に関連して」 上岡弘二、中野暁雄、日野舜也、三木亘編『イスラム世界の人々～1 総論』東洋経済新報社.
- 小松久男、梅村坦、宇山智彦、帯谷知可、堀川徹編 (2005) 『ユーラシアを知る事典』平凡社.
- 斉藤剛 (2010) 「聖者信仰の「本質化」を超えて～モロッコにおけるフキーの治療の事例から」『アジア・アフリカ言語文化研究』80, pp.61-96.
- 桜井啓子 (2006) 『シーア派：台頭するイスラーム少数派』 中公新書.
- 佐島隆 (2013) 「トルコ共和国ハジベクタシ町に見られる「呪術」の変化～イスラームと「民間信仰」を考える」『近畿民俗』180, pp.5-22.
- 佐島隆 (2013) 「呪術とイスラームの軋轢について～ハジベクタシ町の事例から」『異文化コミュニケーション研究：連携・連想・連帯』 pp.13-37.
- 清水直美・上岡弘二 (2009) 『テヘラン州の聖所』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- _____ (2010) 『ゴム州の聖所』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 三浦徹・黒木英充・東長靖編 (1995) 『イスラーム研究ハンドブック』(講座イスラーム世界別巻) 栄光教育文化研究所.
- 森本一夫 (2010) 『聖なる家族～ムハンマド一族』 山川出版社.

資料編



図1 イラン全国図

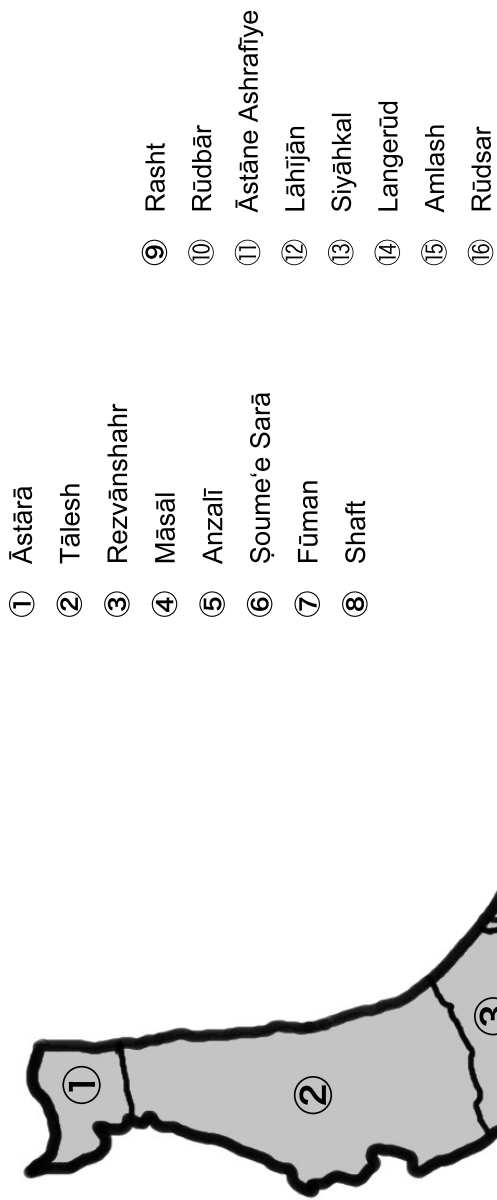


図2 ギラーン州行政区分図 (Shahrestān)

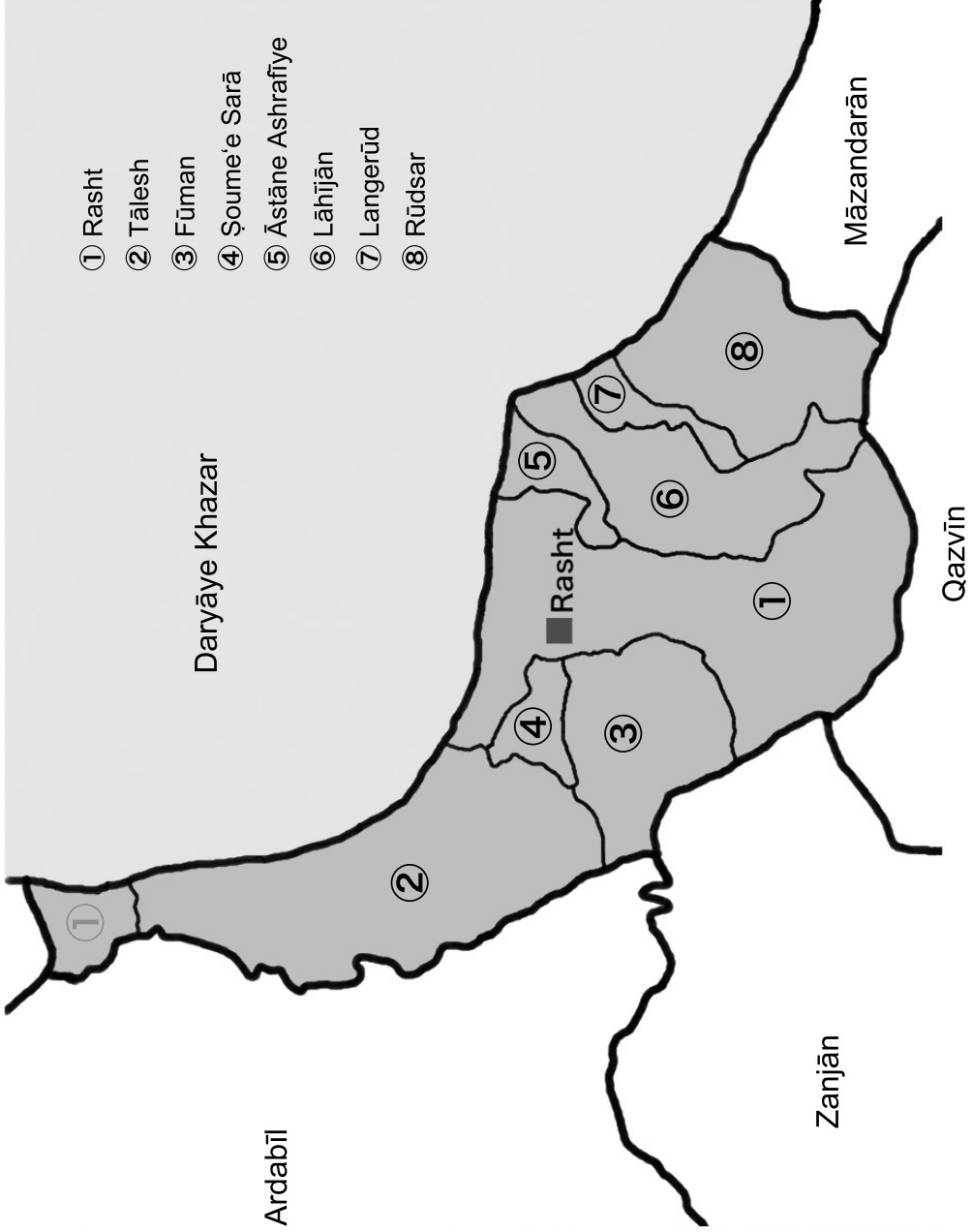
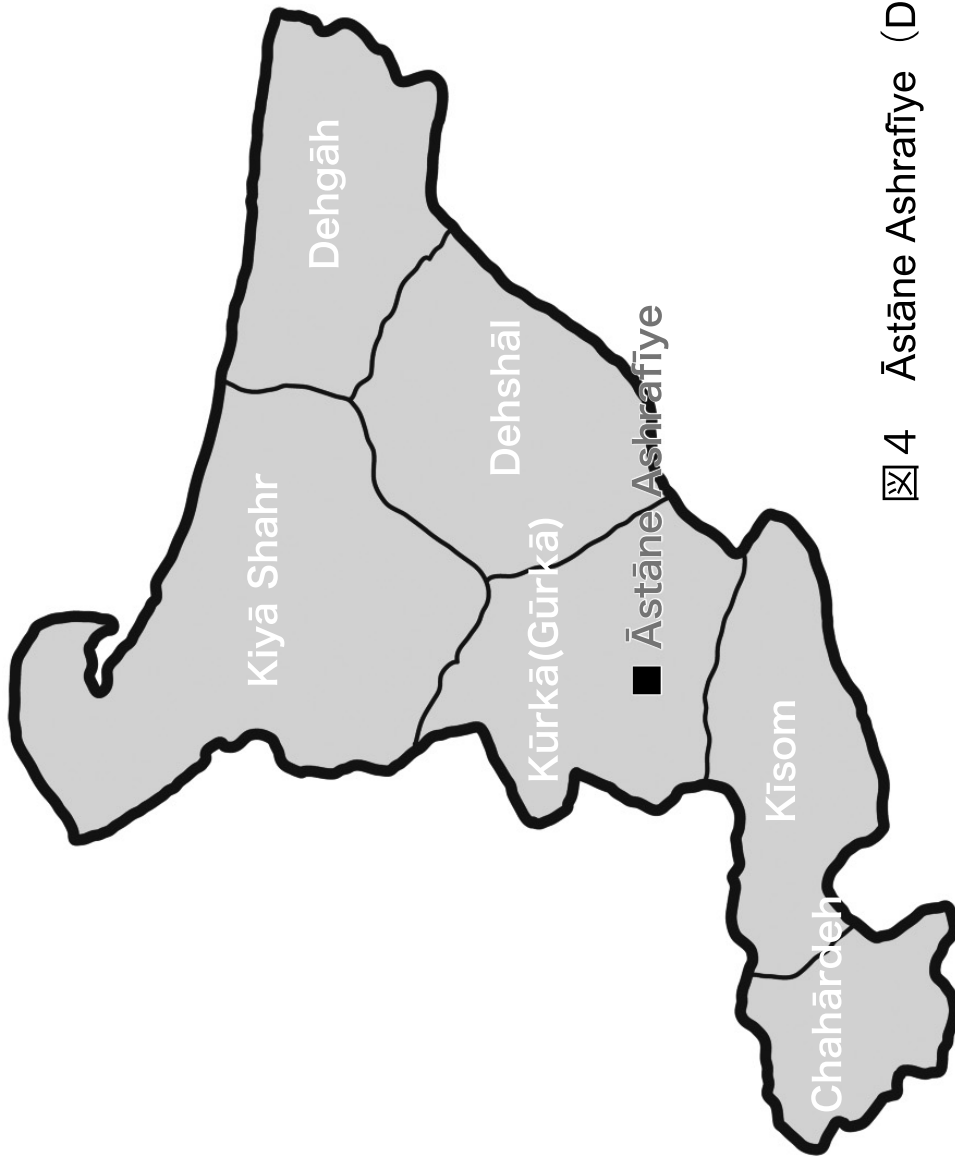
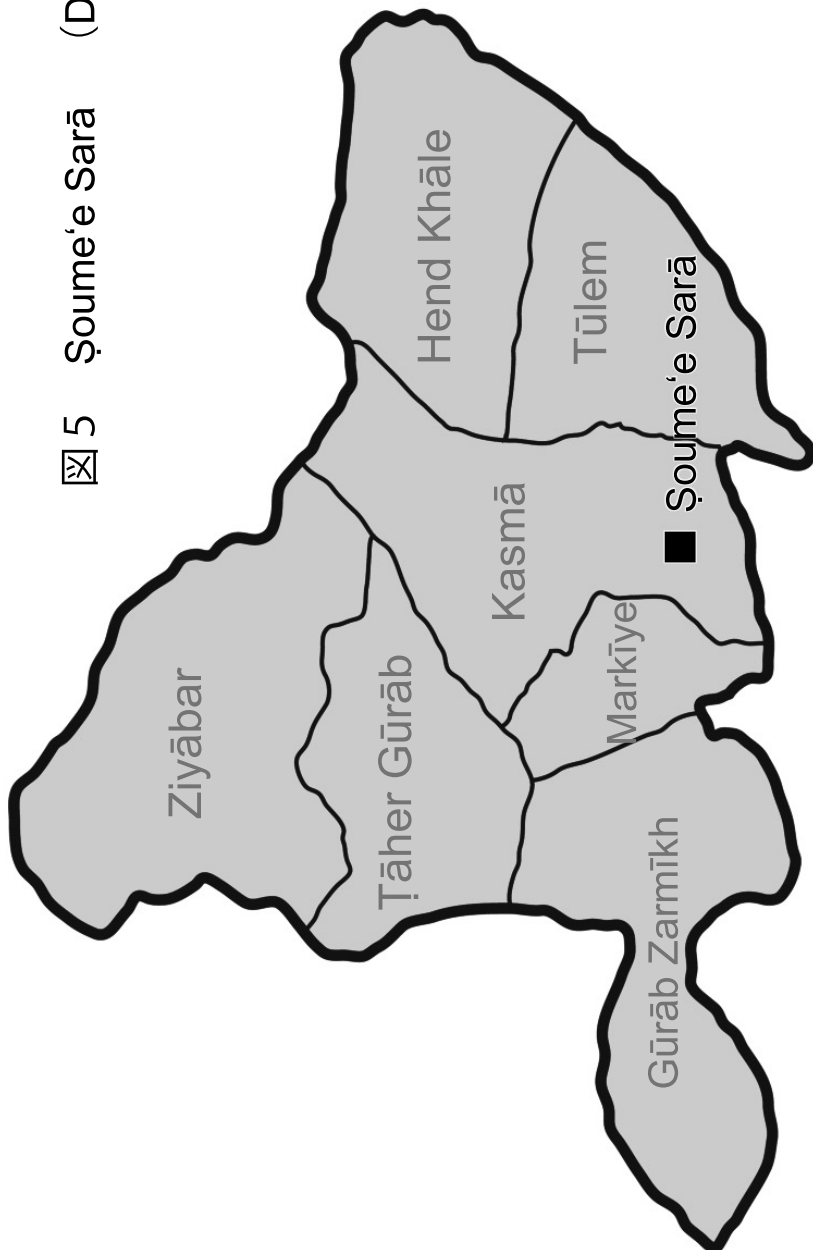


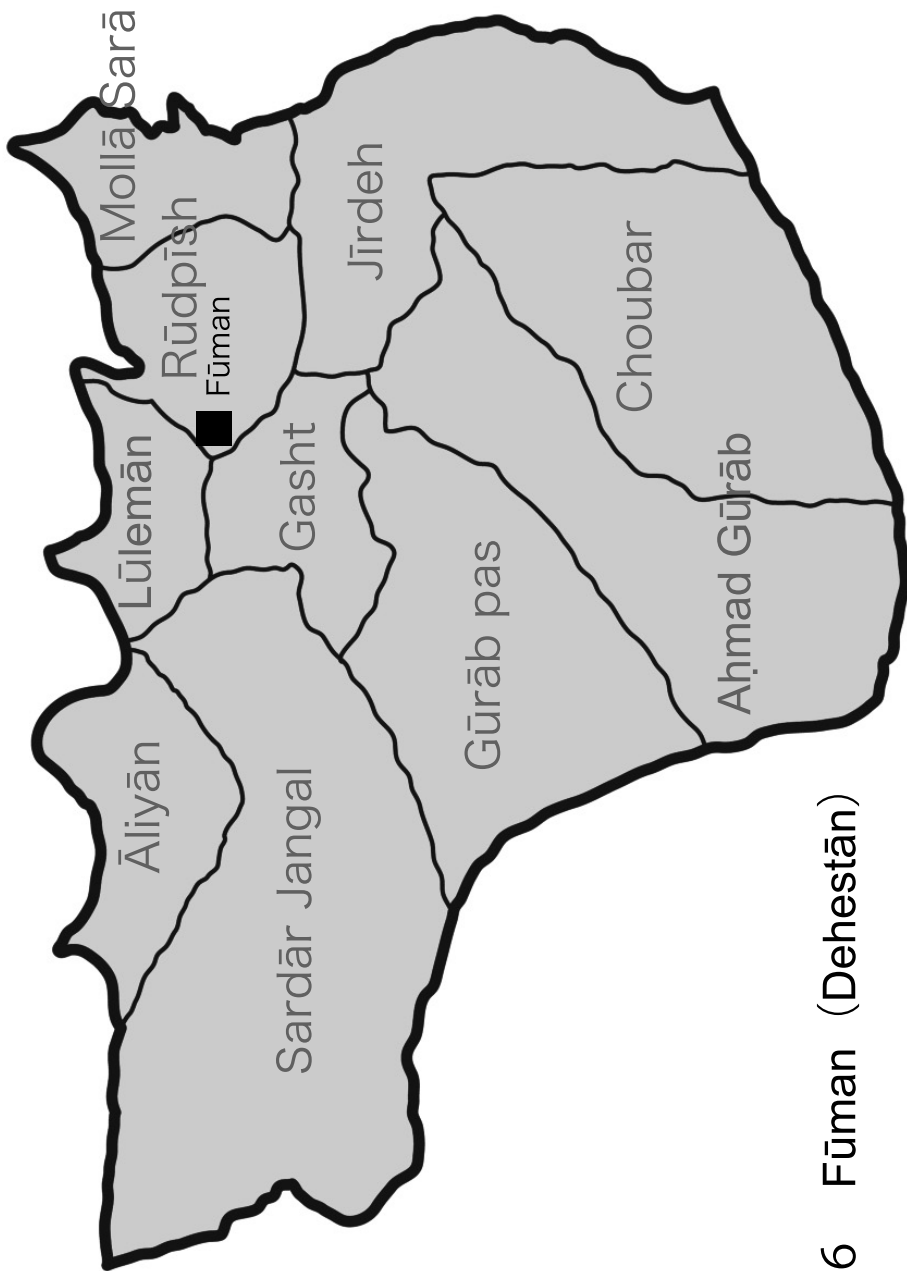
図3 ワクワク慈善庁管理区分図



☒ 4 Āstāne Ashrafiye (Dehestān)

☒ 5 Şoume'e Sarā (Dehestān)





⊠ 6 Fūman (Dehestān)

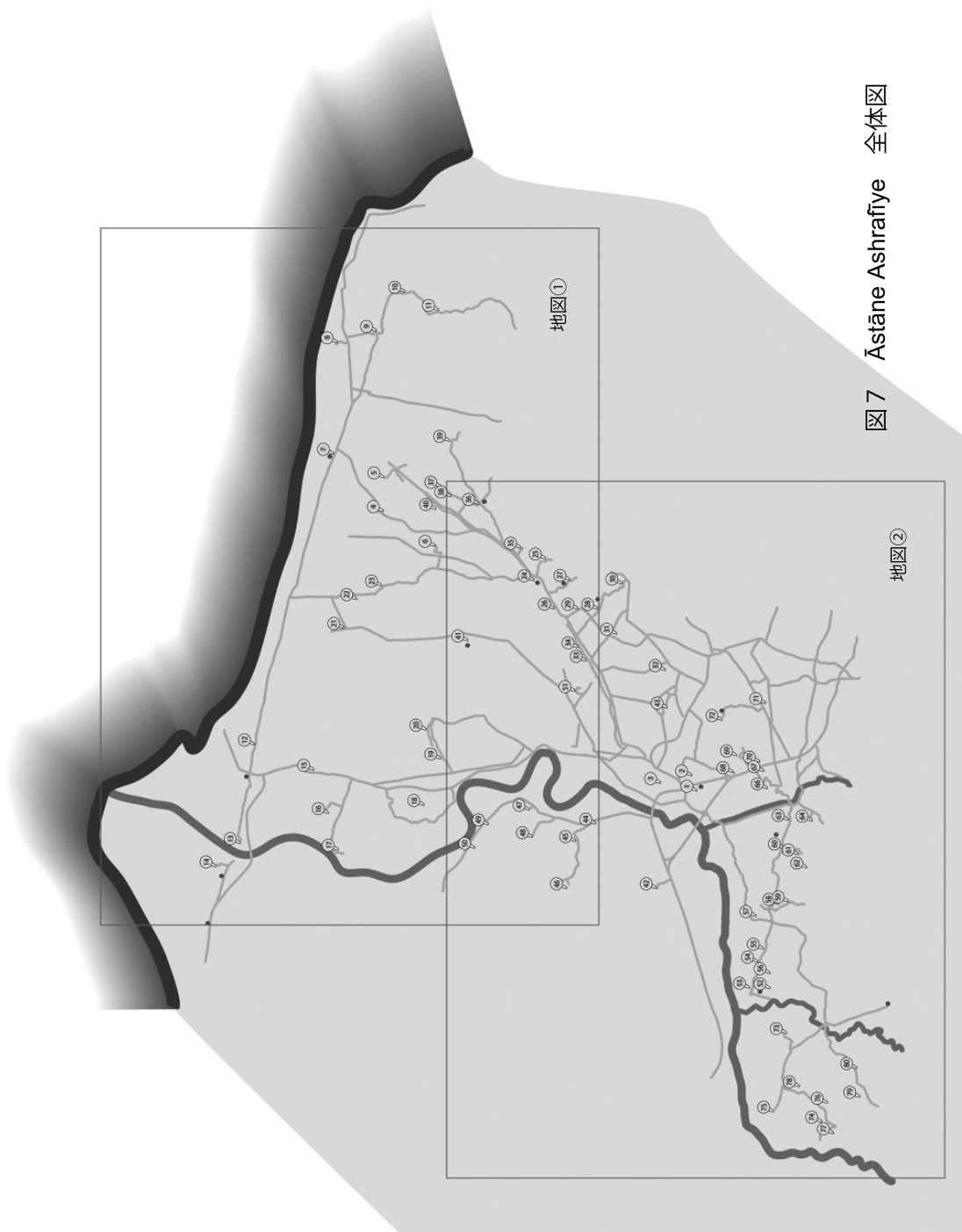
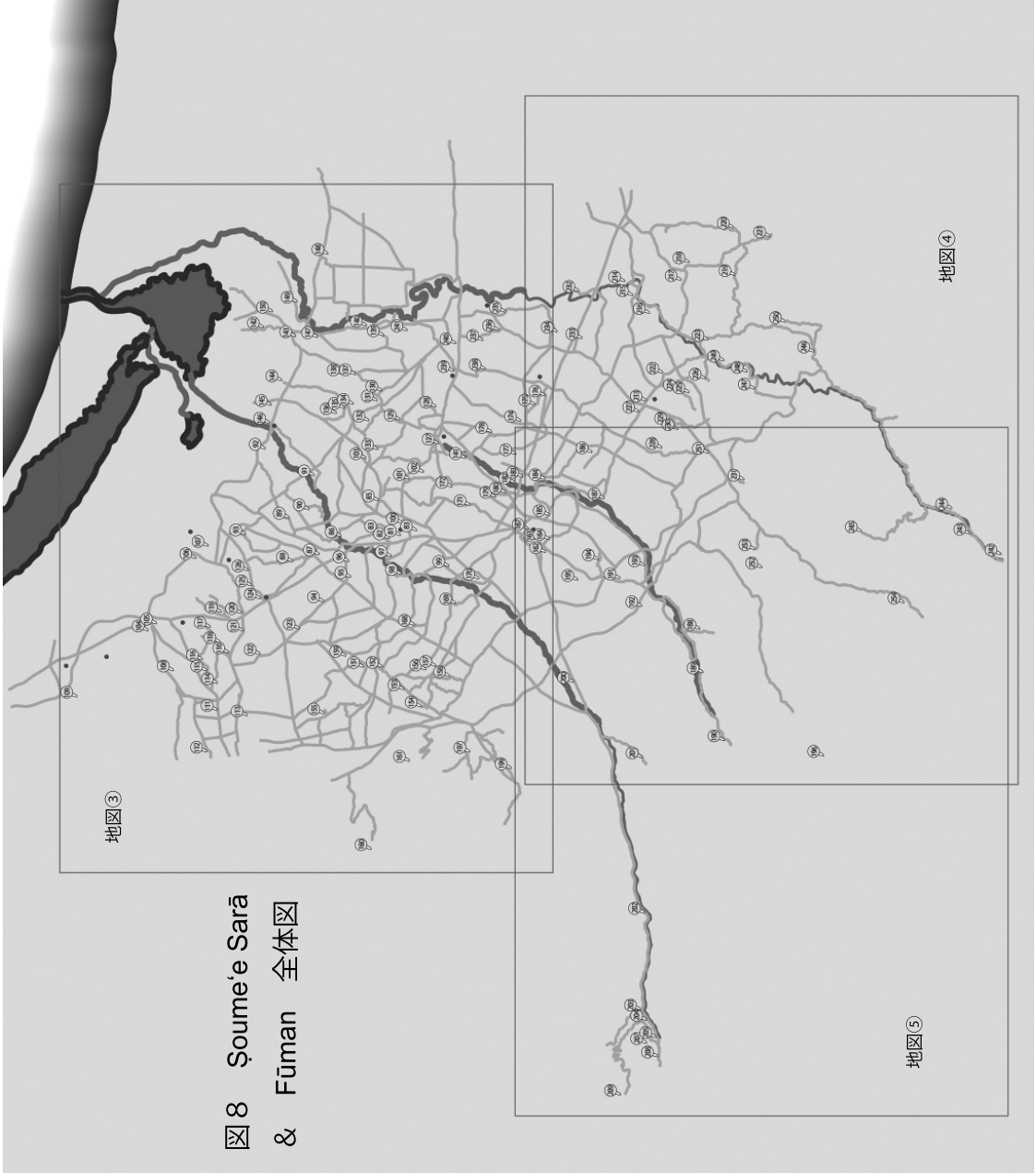
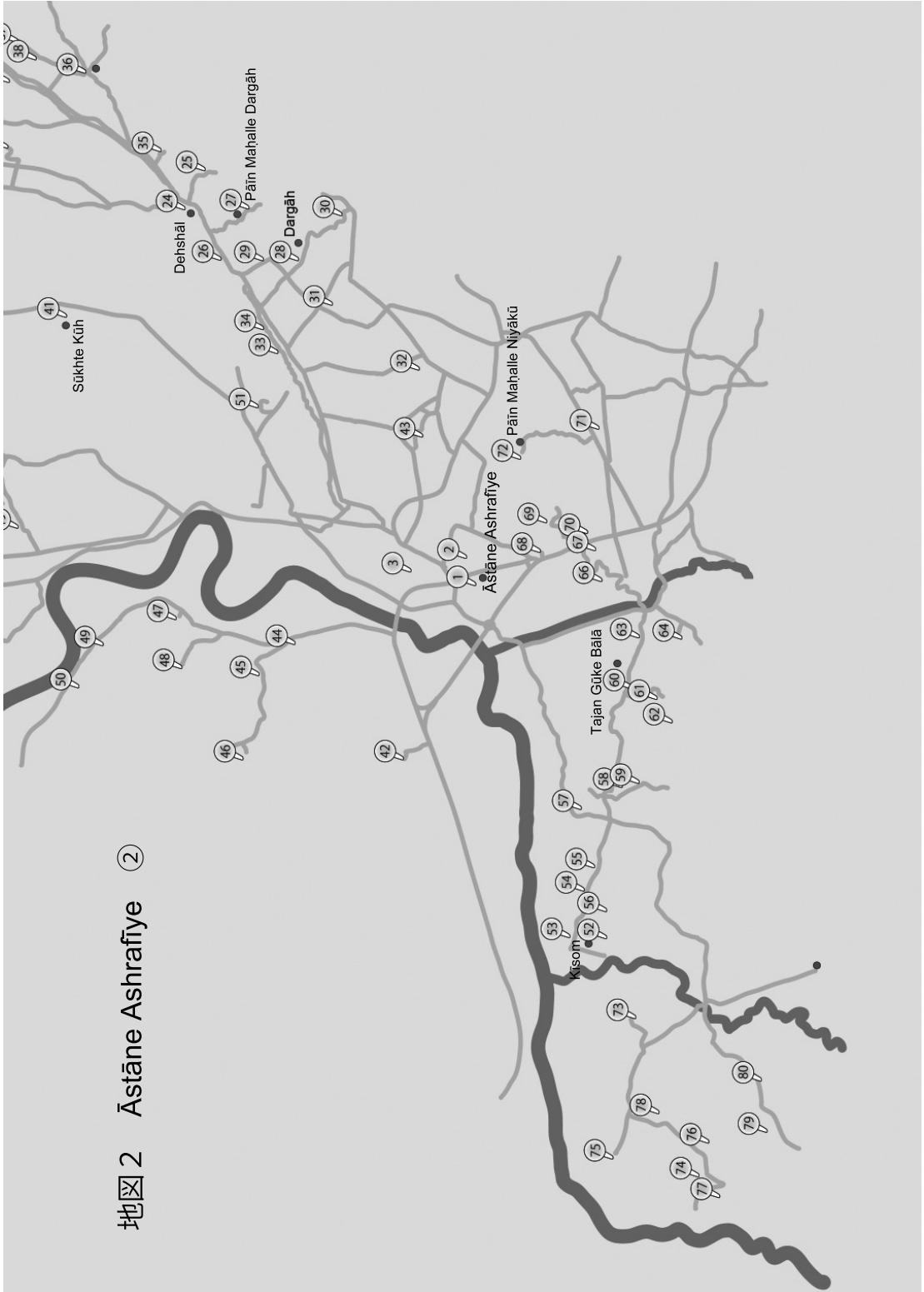


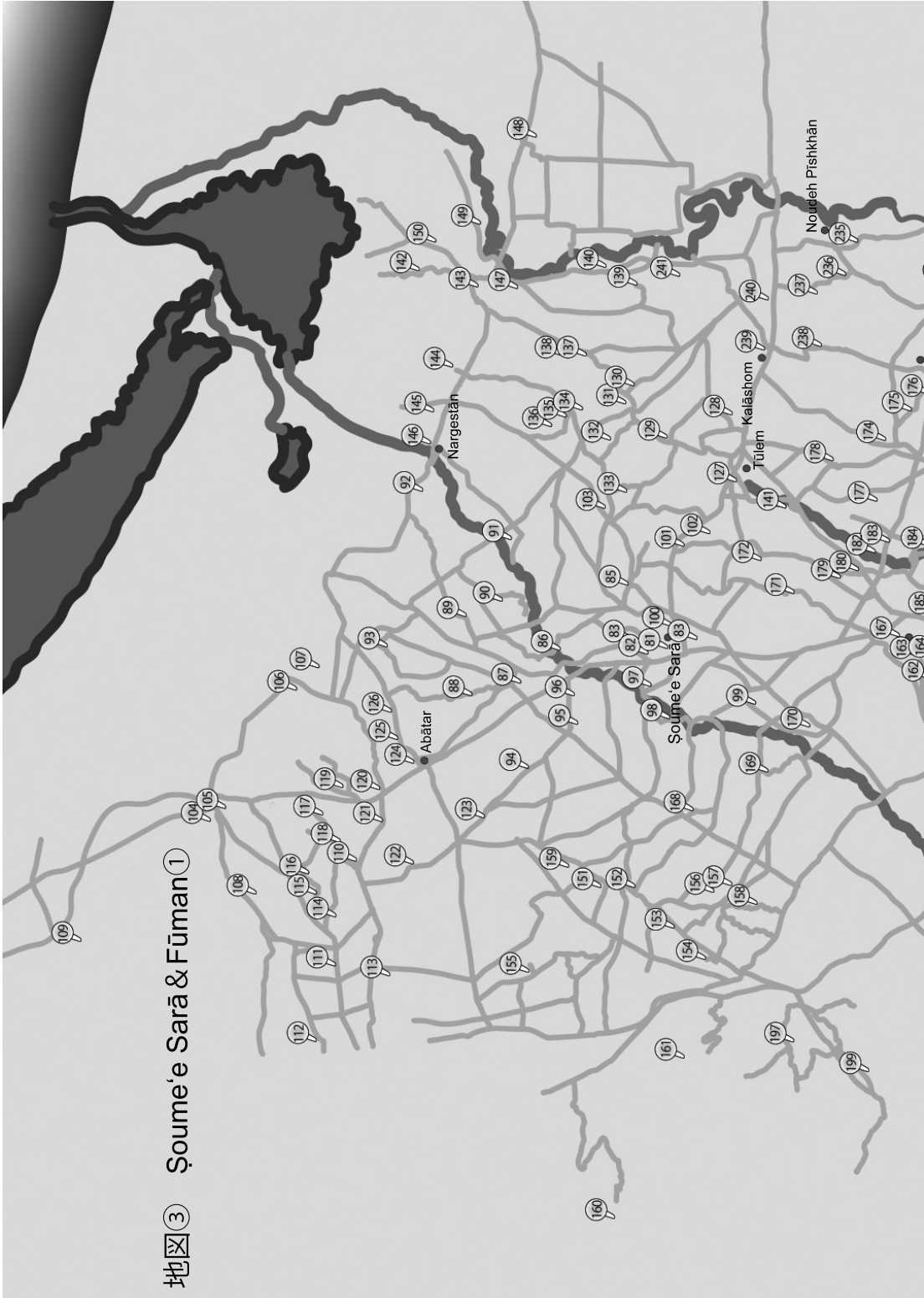
图7 Āstāne Ashrafiye 全体图



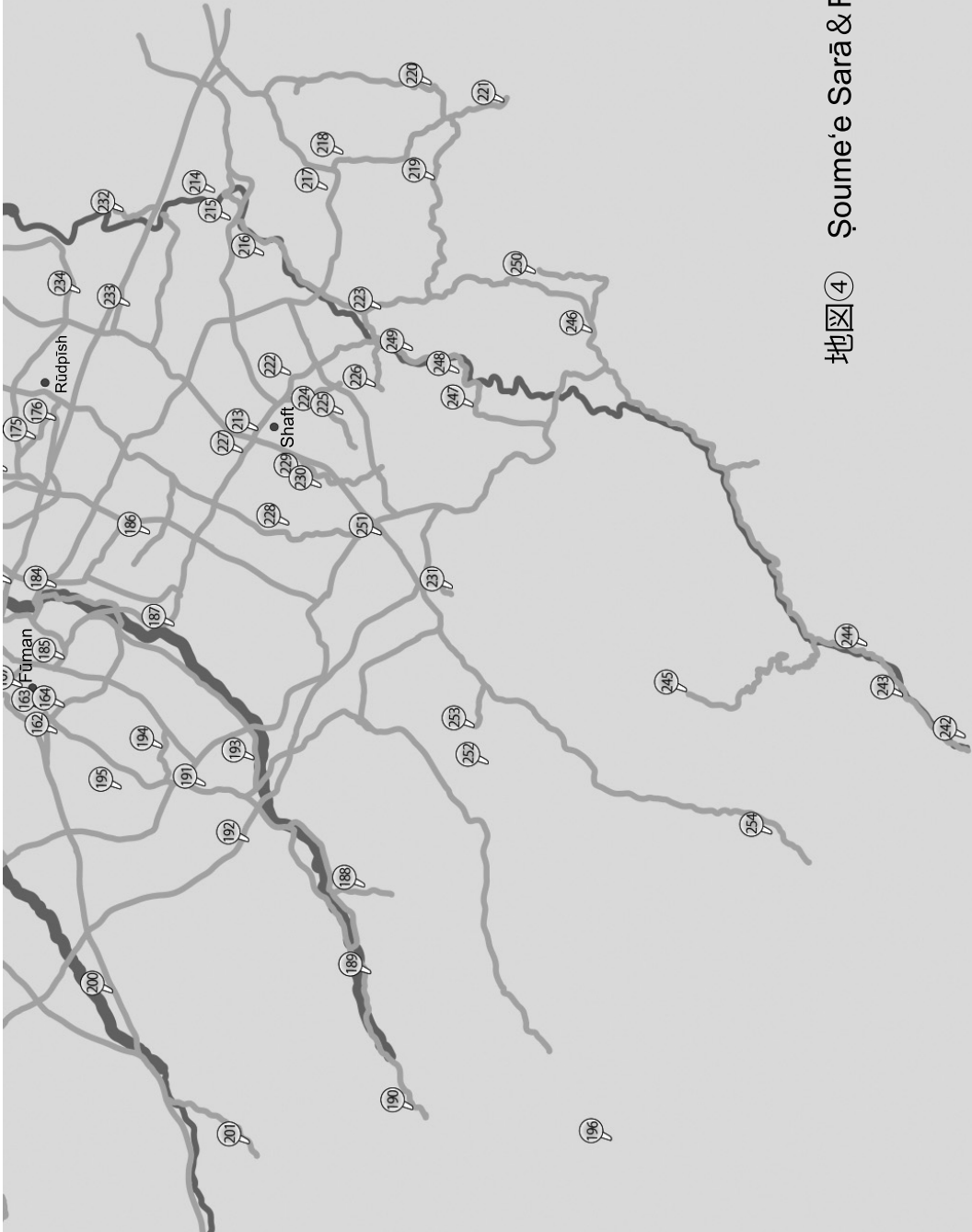


地图 2 Āstāne Ashrafīye ②

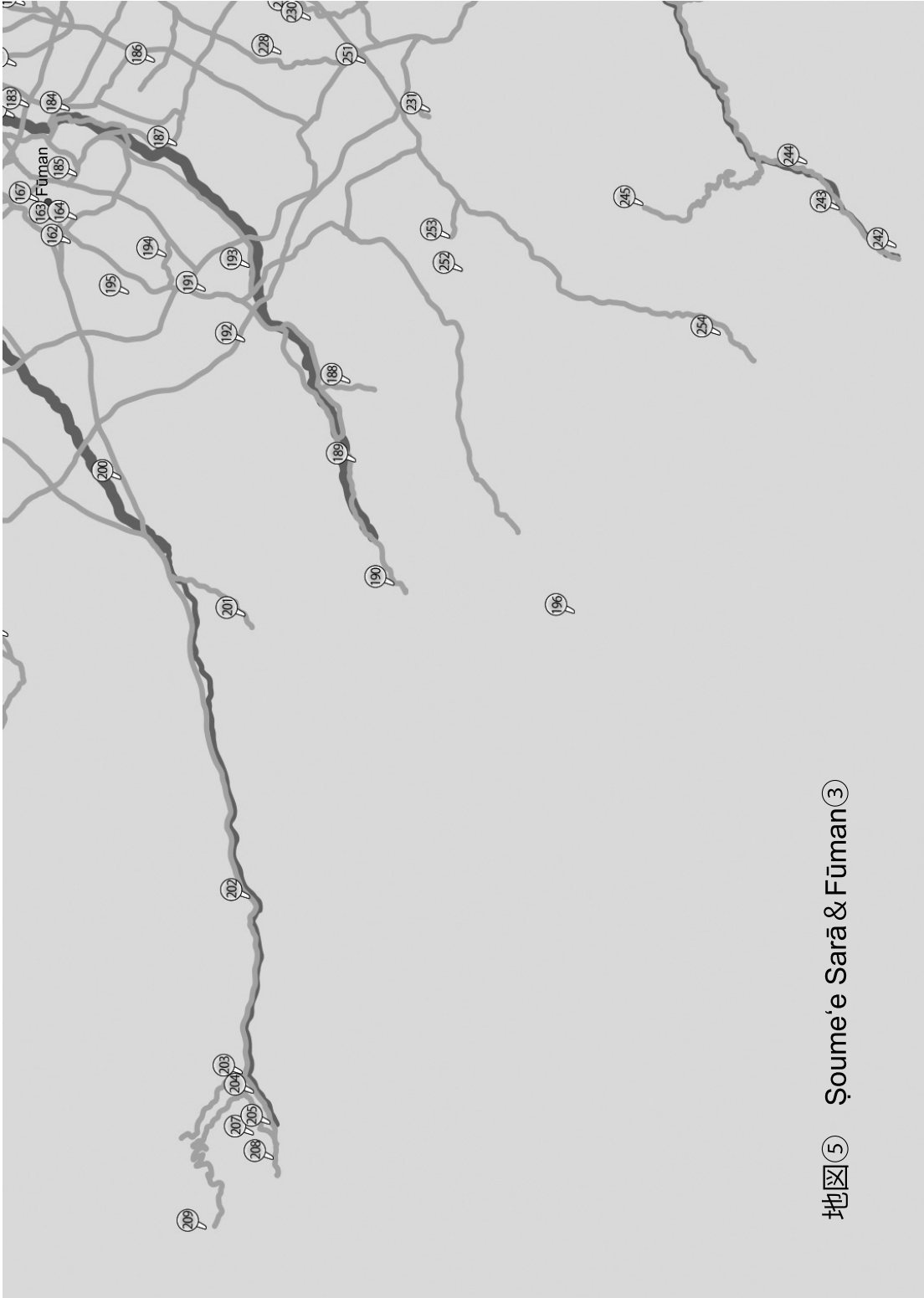




地圖 ③ Şoume'e Sarā & Fūman ①



地圖 4 Şoume'e Sarā & Fūman ②



地圖⑤ Şoume'e Sarā & Fūman③

※2	※1	地	شهرستان آستانه	بقعه سلطان جلال الدین اشرف	1
○	②	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش مرکزی - شهر آستانه اشرافیه	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش مرکزی - شهر آستانه اشرافیه	بقعه سلطان جلال الدین اشرف	1
○	②	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش مرکزی - شهر آستانه اشرافیه - خیابان ابونذر	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش مرکزی - شهر آستانه اشرافیه - خیابان ابونذر	بقعه سید محمد آخوند مزار	2
○	②	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش مرکزی - شهر آستانه اشرافیه - حسین آباد	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش مرکزی - شهر آستانه اشرافیه - حسین آباد	بقعه آقا سید حسن	3
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای آباد	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای آباد	بقعه آقا سید حسن	4
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای صیقله	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای صیقله	بقعه سیده گوهر خانم	5
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای بالا محله گیاده	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای بالا محله گیاده	بقعه آقا سید محمد	6
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای انبارسر	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای انبارسر	بقعه سه برادران	7
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای دستک تهر انچی	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای دستک تهر انچی	بقعه سید رضا	8
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای محسن آباد	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای محسن آباد	قبرستان روستای محسن آباد	9
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای پایین محله رودپشت	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای پایین محله رودپشت	بقعه سید محمد	10
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای پایین محله رودپشت	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان دهگه - روستای پایین محله رودپشت	آرامگاه سیدان	11
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیشهر - شهر بندر کیشهر	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - شهر بندر کیشهر	بقعه آقا سید ابو جعفر	12
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای میان کوه	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای میان کوه	بقعه سید ذکریا	13
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - کوی شهید رجایی	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - کوی شهید رجایی	بقعه سید علی کیا	14
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای لاکوژده	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای لاکوژده	بقعه سید طاهر	15
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای نوبیجار محله	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای نوبیجار محله	بقعه سید کوچک آقا	16
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای محسن آباد	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای محسن آباد	بقعه سید محمد هاشمی نژاد	17
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای نبی دهگه	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای نبی دهگه	بقعه سید ذکریا	18
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای دهر	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای دهر	بقعه بی بی هبیت	19
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای اشمن کماچال	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای اشمن کماچال	بقعه سید علی کیا	20
○	①	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای انبارسر سالکده	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرافیه - بخش کیشهر - دهستان کیا شهر - روستای انبارسر سالکده	بقعه سید سه برادران	21

22	بقعه سيد محمد	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش کياشهر - دهستان کيا شهر - روستای لسکو کلايه	○	①
23	بقعه سيده مينيا	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش کياشهر - دهستان کيا شهر - روستای بالا محله لسکو کلايه	○	①
24	امامزاده سيد حسن و سيد آقا	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای دهشال	○	①
25	آرامگاه آقا سيد زينور	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای کليدسر		①
26	آرامگاه سيده بيگم	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای درگاه		①
27	بقعه شيخ محمد زيد	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای پايين محله درگاه	○	②
28	بقعه آقا سيد حسن	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای چاليجگاه درگاه		②
29	بقعه آقا سيد ابراهيم	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای درگاه		②
30	بقعه سيد حسن، آقا سيد جليل و آقا سيد جواد	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای صيقل سرا		②
31	بقعه آقا سيد عبدالرحمن اژدر	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای پايين محله داخل	○	②
32	بقعه آقا سيد محمد	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای بالا محله داخل	○	②
33	بقعه آقا سيد آقاچان	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای کارسيديان		①
34	بقعه آقا سيد روح الله	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای بخش درگاه		①
35	بقعه سيد حميد	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای فوشازده	○	①
36	آرامگاه سيديان و شهيدان	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای امير هنده بالا		①
37	بقعه بی بی زينب	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای تاسنده	○	①
38	زيارتگاه	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای تاسنده		①
39	بقعه آقا سيد محمد	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای ششکل	○	①
40	بقعه بی بی سيده فيروزه	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای جبر سو ششکل	○	①
41	بقعه سيد امير کيا	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان دهشال - روستای سوخته کوه		①
42	بقعه سيده کافيه	استان گیلان - شهر ستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان گورکا - روستای خوشکاوندان	○	②

43	بقعه آقا سید محمد صادق	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان گورکا - روستای گوهردان	○	②
44	بقعه سید ابراهیم	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان گورکا - روستای کشل آزادسر	○	①
45	مسجد امام حسن مجتبی و سید موسوی	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان گورکا - روستای جویشت	○	①
46	بقعه سید احمد یمنی	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان گورکا - روستای ماشک	○	①
47	بقعه آقا پیر محمد	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان گورکا - روستای نازک سرا	○	①
48	بقعه آقا سید زکریا	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان گورکا - روستای لغوت پایین	○	①
49	بقعه سیده زهرا میر حسینی	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان گورکا - روستای کینچاه	○	①
51	بقعه سید روح الله	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان گورکا - روستای گوراجوار	○	①
52	بقعه آقا سید رکابدار	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای بالا محله کیسم	○	②
53	بقعه آقا سید محمد یمنی	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای میان محله کیسم	○	②
54	بقعه سید نور محمد	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای پایین محله کیسم	○	②
55	بقعه آقا سید حسین کیا	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای پایین محله کیسم	○	②
56	بقعه سید ابراهیم و سید اسماعیل	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای گورابسر	○	②
57	بقعه سید رسول	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای تجن	○	②
58	بقعه آقا سید عبدالله	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای بازان	○	②
59	چشمه	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای بازان	○	②
60	بقعه آقا سید علی	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای تجن گوکه بالا	○	②
61	بقعه سید محمود	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای تجن گوکه پایین	○	②
62	بقعه سید ملک شهمیران	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای تهم	○	②
63	بقعه آقا سید حسین	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای تجن گوکه	○	②
64	بقعه امیر سلطان	استان گیلان - شهرستان آستانه اشرفیه - بخش مرکزی - دهستان کیسم - روستای امیر هنده	○	②

65	بقعہ آقا سید ابراہیم	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای امیر ہندہ	②	
66	بقعہ آقا سید محمد	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای پنجہ	②	○
67	بقعہ آقا سید جنید	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای سیاہ کوچہ	②	○
68	بقعہ سید علی	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای بالا محلہ نیاکو	②	○
69	بقعہ سید محمد آقا پور نور	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای پابین محلہ نیاکو	②	○
70	بقعہ آقا سید علی کیا	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای نیاکو	②	○
71	آرامگاہ آقا سید علی کیا	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای بالا محلہ کماچال	②	○
72	بقعہ آقا سید محمد	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای پابین محلہ کماچال	②	○
73	بقعہ آقا سید عبدالرضا	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای کاجاچہ بالا	②	○
74	سیدہ مریم	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای کاجاچہ بالا	②	○
75	بقعہ سید ناصر الدین	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای کاجاچہ پابین	②	○
76	مزار آقا سید اسماعیل	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای کاجاچہ پابین	②	○
77	بقعہ آقا سید یوسف	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای کاجاچہ بالا	②	○
78	زیارتگاہ آغا سید خورشید	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای شبرکوه	②	○
79	بقعہ آقا سید جلیل	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای کاجاچہ بالا	②	○
80	بقعہ آقا سید حسین	استان گیلان - شہرستان آستانہ اشرفیہ - بخش مرکزی - دہستان کیسم - روستای کاجاچہ پابین	②	○
شہرستان صومعہ سرا				
81	بقعہ سید جعفر آقا	استان گیلان - شہرستان صومعہ سرا - بخش مرکزی - شہر صومعہ سرا - خیابان جعفری	③	○
82	مقبرہ سیدہ خدیجہ	استان گیلان - شہرستان صومعہ سرا - بخش مرکزی - شہر صومعہ سرا - خیابان جعفری	③	○
83	بقعہ سیدہ نساء	استان گیلان - شہرستان صومعہ سرا - بخش مرکزی - شہر صومعہ سرا - خیابان جعفری	③	○
84	بقعہ آقا سید حبیب	استان گیلان - شہرستان صومعہ سرا - بخش مرکزی - شہر صومعہ سرا - زیدہ سرا	③	○
85	بقعہ آقا سید مہدی آقا	استان گیلان - شہرستان صومعہ سرا - بخش مرکزی - شہر صومعہ سرا - بخش مرکزی	③	○

86	بقعه سيد عبدالله و سيد ابراهيم	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای کسماه	○	③
87	بقعه سيد ابراهيم و سيد سليمان	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای دهنده	○	③
88	مزار	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای پوستين سرا	○	③
89	بقعه آقا سيد عبدالله	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای راسته کنار	○	③
90	بقعه آقا سيد ابراهيم	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای پيشخان	○	③
91	بقعه آقا پير شاه محمود	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای خر فکام	○	③
92	بقعه دو برادران	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای چمقال	○	③
93	بقعه سيد ابراهيم و سيد حسين	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای ميانه	○	③
94	بقعه آقا سيد محمد	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای خست پل	○	③
95	بقعه آقا سيد ابراهيم	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای پاسکه	○	③
96	درخت	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای پاسکه	○	③
97	بقعه پير اشرف	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای لادمخ	○	③
98	بقعه سيده حليمه و سيد اسماعيل	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای لادمخ - سيمبر	○	③
99	بقعه سيد سليمان و سيد حمزه	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای نفوت	○	③
100	آقا نه نه	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای مطهر	○	③
101	بقعه آقا سيد علي	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای دو گور	○	③
102	بقعه آقا سيد مير شجاع الدين	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای دو گور	○	③
103	بقعه آقا سيد محمد	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان کسماه - روستای چوبه	○	③
104	بقعه آقا سيد ملاجان	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان ضيابر - ضيابر	○	③
105	بقعه آقا سيد محمد جان	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان ضيابر - ضيابر	○	③
106	درخت	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان ضيابر - روستای چکاور	○	③
107	بقعه شاهپور يوسف	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان ضيابر - روستای لشمر زمخ	○	③

108	بقعه سیده کلثوم	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان ضیابر - روستای لالم	③	
109	آرامگاه سید خروسه	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان ضیابر - روستای هفت دغنان	③	
110	مزار پیر بخشعلی	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - طاهر گوراب	③	
111	بقعه سید ابراهیم	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای خانی کنار - سرچشمه - مسجد جامع	③	
112	بقعه آقا سید حسین	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای کلنگستان	③	○
113	بقعه پیر جلیل	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای نوکاشت	③	○
114	بقعه آقا میر قوام	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای زیگسار	③	○
115	آرامگاه سید محمود فاضل	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای پیشتیر	③	
116	بقعه آقا چهار برادران	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای پالین محله پیشتیر	③	
117	بقعه بابا سعید	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای امدان	③	
118	درویش آقا	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای سادات محله امدان	③	
119	بقعه سید ابراهیم و سید محمد	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای تنها سوال کل امدان	③	○
120	بقعه سیده کلثوم و سیده فاطمه	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای کلیدر	③	○
121	سیده مریم نورانی	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای کلیدر	③	
122	سید	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای پاتوان	③	
123	بقعه آقا سید زکی	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای مناره بازار	③	○
124	قبرستان مسجد جامع	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای اباتر	③	
125	بقعه آقا سید خلیل	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای اباتر	③	
126	آرامگاه سیدان	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش مرکزی - دهستان طاهر گوراب - روستای کوه	③	
127	بقعه برج علی	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش تولم - شهر مرجفل - مسجد امام جعفر صادق	③	
128	بقعه آقا سید حاجی زیمسار	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای زیمسار	③	○

129	بقعه سيد عباس	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای سپاه تن	○	③
130	بقعه آقا جليل موسوی	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای ماتک		③
131	بقعه آقا سيد محمد	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای ماتک بالا		③
132	بقعه پيله قرآن	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای صيقلان		③
133	بقعه ملک شميران	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای دليو ندان		③
134	بقعه آقا پيران	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای گوراب		③
135	بقعه آقا سيد نورالله	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای گوراب		③
136	درخت	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای گوراب		③
137	مقبره سیده خدیجه	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای ليشاگرد		③
138	بقعه آقا سيد حسين	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای ليشاگرد بالا		③
139	بقعه آقا سيد زکی	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای سمس		③
140	مقبره سيد سادات	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای سمس		③
141	بقعه آقا سيد ابراهيم و سيد جمال	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان تولم - روستای فلاح آباد	○	③
142	بقعه سيد قاسم	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان هنده خاله - روستای هنده خاله	○	③
143	آقا بزرگه (آقا بيگمان)	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان هنده خاله - روستای سادات محله هنده خاله		③
144	بقعه درويشعلی آقا	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان هنده خاله - روستای لاکسار		③
145	بقعه آقا سيد رضا	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان هنده خاله - روستای نرگستان		③
146	مقبره سیده زهرا موسوی	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان هنده خاله - روستای نرگستان		③
147	بقعه آقا سيد ابراهيم	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان هنده خاله - روستای نوخاله	○	③
148	مقبره شيخ محمد طالقانی	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان هنده خاله - روستای کيستان		③
149	بقعه سيد عزيز گشتی	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان هنده خاله - روستای نوحاله جعفری		③
150	بقعه پير مؤذن	استان گيلان - شهر ستان صومعه سرا - بخش تولم - دهستان هنده خاله - روستای صوفيان ده	○	③

		○	③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - شهر گوراب زرمیخ	بقعه سیده کلثوم	151
		○	③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - شهر گوراب زرمیخ	بقعه سید ابراهیم	152
			③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - روستای تطف	بقعه سید ابو طالب و سیده فاطمه	153
			③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - روستای تطف	بقعه سید فخرالدین	154
		○	③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - روستای ولد	بقعه شیخ سمیع	155
		○	③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - روستای پیشتر	امامزادگان عینعلی و زینعلی	156
			③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - روستای پیشتر	درخت	157
		○	③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - روستای پیشتر - رحیم آباد	بقعه منیر شمسعلی	158
			③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - روستای پیرسرا	بقعه آقا سید ابراهیم و سید محمد	159
			③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - روستای تنیان	بقعه آقا سید علی اکبر و آقا سید علی اصغر	160
			③	استان گیلان - شهرستان صومعه سرا - بخش میرزا کوچک جنگلی - دهستان گوراب زرمیخ - روستای نوالکوه آلیان	بقعه آقا سید علی و آقا سید محمد	161
شهرستان فومن						
		○	③	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - شهر فومن - خیابان یاد آوران	امامزاده میرزا	162
			③	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - شهر فومن - خیابان انتظامی - روبروی کلاشتری 11	امامزاده آقا سید علی	163
		○	③-164	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - شهر فومن - داخل بازار	بقعه پیر جلودار	164
		○	③-164	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - شهر فومن - بالا محله داخل بازار - روبروی مسجد ولی عصر	سقاخانه ابو الفضل	165
			③	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - شهر فومن - بالا محله داخل بازار	سقاخانه مسجد ولی عصر	166

167	زیارتگاه امام بر	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - شهر فومن - خیابان شهید بهشتی - خیابان مجید مرآت - خیابان شهید پرویز قریبازاده	③	
168	بقعه پیر ولی خان	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان لولمان - روستای کامردخ	③	○
169	بقعه سید حسن عربیب	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان لولمان - روستای اشکل پایین	③	○
170	بقعه بو سعید معروف به سبز قبا	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان لولمان - روستای شنبه بازار	③	○
171	بقعه آقا سید علی	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان لولمان - روستای سه پیران	③	○
172	بقعه سید احمد و آقا میر محمد علی معروفی	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان لولمان - روستای کلاه بالا	③-172	
173	بقعه سیده زهرا	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان لولمان - روستای کلاه بالا	③-172	○
174	بقعه آقا سید احمد مجاز کمساری	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای رودپیش	③	○
175	بقعه میر شمس الدین	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای رودپیش	③	○
176	بقعه آقا پیله آقا	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای میر محله و معاف محله	③	○
177	بقعه آقا میر نظام	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای کبابیان	③	○
178	بقعه آقا سید ابراهیم	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای محسر	③	○
179	آقادر	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای سند بالا	③	
180	امامزاده نجیبی	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای سند بالا	③	
181	بقعه سید سلیمان	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای سند پایین	③	
182	مقبره سیده نساء	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای حلقه محله	③	
183	آرامگاه سید شفیغ	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای حلقه سر	③	
184	بقعه سید مرتضی	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای گوشلوندان	④	○
185	بقعه حاجی رستم	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای سنگ بیجار	④	
186	بقعه پیر بوسفعلی	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای چیران	④	

187	بقعه آقا درویش محب علی	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان رودپیش - روستای بونین	○	④
188	بقعه سید ابراهیم	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای سید سرا	○	④
189	امامزادگان هاشم، قاسم و کاظم	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای تنگدره	○	④
190	بقعه سه امامزاده	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای سه امامزاده	○	④
191	زیارتگاه دستخط حضرت امیر المومنین	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان گشت - گشت	○	④
192	امامزاده تقی	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای امامزاده تقی	○	④
193	بقعه شیخ محله یا شیخ معلم	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای کردمحل رودبار چیره	○	④
194	بقعه سیاه پوش	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای کمسر	○	④
195	بقعه شاه میرزا آقا	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای شکالگوراب	○	④
196	بقعه شاه جمال (شیخ جمال)	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای فوشه	○	④
197	بقعه شیخ زاهد گیلانی دافیه	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای سیاهورود	○	③-196
198	بقعه آقا سید عبدالله	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای سیاهورود	○	③-196
199	بقعه سید حنفیه	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای مسجد پیش	○	③
200	بقعه آقا سید عبدالله	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای کرم	○	④
201	بقعه آقا سید ابراهیم	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای آبرود	○	④
202	قصبگاه	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای قدمگاه	○	⑤
203	بقعه زین بن علی	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای اشکلت	○	⑤
204	بقعه عین علی	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - روستای اشکلت	○	⑤
205	امامزاده عون بن علی	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان سردار جنگل - ماسوله	○	⑤-205
206	سقاخانه	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان سردار جنگل - ماسوله	○	⑤-205
207	بقعه آقا سید ابراهیم	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش مرکزی - دهستان سردار جنگل - خربه بن	○	⑤

208	امامزاده هاشم	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش سردار جنگل - دهستان سردار جنگل - ماسوله	⑤	
209	بقعه آقا سید شمس الدین	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش سردار جنگل - دهستان سردار جنگل - روستای دولی چال	⑤	○
210	زیارتگاه کوه شاه معلم	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش سردار جنگل - دهستان سردار جنگل - ماسوله - کوه شاه معلم		
211	زیارتگاه رشت پلگاه	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش سردار جنگل - دهستان سردار جنگل - ماسوله		
212	امامزاده ابراهیم	استان گیلان - فومن - شهرستان فومن - بخش سردار جنگل - دهستان سردار جنگل - ماسوله		
213	مقبره قاضی جلال	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - شهر شفت - خیابان ولی عصر - روبروی مسجد جامع - کوچه نصر الهی	④	○
214	مقبره سیده زهرا حسنی	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - جبرده - مسجد جامع	④	○
215	بقعه شاه درویشیان	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای تکرم	④	○
216	بقعه آقا سید ابراهیم و آقا سید محمد	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای چوسر	④	
217	بقعه سید رضا و سیده معصومه	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای خرطوم	④	
218	بقعه حاج مؤمن	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای خرطوم	④	
219	بقعه سید زکریا	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای نوده کلاچ خندان	④	○
220	درخت کیش	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای سقاکسار (چماچاه)	④	
221	بقعه احمد	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای چماچاه دستخط	④	
222	بقعه آقا سید نو الپیران	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای نو الپیران	④	○
223	بقعه آقا ملا علی	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای کسار (کومسار)	④	○
224	زیارتگاه آقا سید یعقوب	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای میر محله پشت سرا	④	
225	بقعه آقا درویش جعفر	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای پشت سرا	④	
226	امامزاده سید ابوالقاسم	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای نهرم (صیقل کومه)	④	○
227	بقعه سلطان پیر حسن	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای پیرسرا	④	○
228	بقعه آقا سید میران	استان گیلان - فومن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای مرده	④	

229	بقعه پیر مؤمن	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای عثمان‌ندان	○	④
230	بقعه آقا و سون دوج	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای عثمان‌ندان	○	④
231	شاهزاده اسماعیل نساء	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای والیسرا (تازه بقعه)	○	④
232	بقعه سید کمال	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان جبرده - روستای کوزان	○	④
233	بقعه درویشان	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان ملاسرا - روستای شاه خال (شادخال)	○	④
234	بقعه سیده فاطمه سادات	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان ملاسرا - روستای شاه خال (شادخال)	○	④
235	بقعه سیده حلیمه خاتون	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان ملاسرا - روستای نوده پسبخان	○	③
236	بقعه سیده خانم	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان ملاسرا - روستای نوده	○	③
237	بقعه آقا سید کاظم	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان ملاسرا - روستای کوزه گران	○	③
238	بقعه سیده زهرا و فاطمه حسینی	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان ملاسرا - روستای گلدمسته محله (گلشفت)	○	③
239	بقعه آقا سید ابراهیم	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان ملاسرا - روستای کلاشم بالا	○	③
240	بقعه آقا سید یعقوب	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان ملاسرا - جاده رقت-فرمن - روستای آقا سید یعقوب	○	③
241	بقعه شهیدان	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش مرکزی - دهستان ملاسرا - روستای راسته کنار پسبخان	○	③
242	امامزاده ابراهیم	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش احمدسر گوراب - دهستان چوبر - بالا تر از روستای طالقان	○	④
243	درخت نظر کرده	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش احمدسر گوراب - دهستان چوبر - روستای طالقان	○	④
244	بقعه بابا رکاب	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش احمدسر گوراب - دهستان چوبر - روستای بابا رکاب	○	④
245	امامزادگان اسحق و نساء	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش احمدسر گوراب - دهستان چوبر - روستای مبارک آباد	○	④
246	بقعه نور سه تن	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش احمدسر گوراب - دهستان چوبر - میان روستاهای چوبر و چنار رودخان	○	④
247	بقعه آقا میر عزیز	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش احمدسر گوراب - دهستان چوبر - روستای میرسرا	○	④
248	بقعه حاج علی آقا	استان گیلان - فرمن - شهرستان شفت - بخش احمدسر گوراب - دهستان چوبر - روستای کاظم آباد	○	④

		④	روستای تانی محله - دهستان چوبر - روستای چوبر - دهستان گوراب - بخش احمدسر گوراب - شهرستان شفت - شهرستان شفت - فومن - شهرستان شفت - فومن - گیلان - استان گیلان	آرامگاه آقا سید رضا	249
	○	④	روستای لیفکوختدان - دهستان چوبر - روستای لیفکوختدان - بخش احمدسر گوراب - شهرستان شفت - شهرستان شفت - فومن - گیلان - استان گیلان	بقعه سید منصور (میر) منصور	250
		④	احمدسر گوراب - دهستان احمدسر گوراب - بخش احمدسر گوراب - شهرستان شفت - شهرستان شفت - فومن - گیلان - استان گیلان	بقعه پیر مختار	251
	○	④	روستای سالک معلم - دهستان احمدسر گوراب - بخش احمدسر گوراب - شهرستان شفت - شهرستان شفت - فومن - گیلان - استان گیلان	بقعه معلم	252
		④	روستای سالک معلم - دهستان احمدسر گوراب - بخش احمدسر گوراب - شهرستان شفت - شهرستان شفت - فومن - گیلان - استان گیلان	بقعه سالک	253
		④	روستای توسه - دهستان احمدسر گوراب - بخش احمدسر گوراب - شهرستان شفت - شهرستان شفت - فومن - گیلان - استان گیلان	بقعه کاس آقا واحدی	254
			سیاهرزگی		

地図 聖所所在地地図①～⑤上での位置

※1 ワクフ慈善庁が管理している廟

※2 文化遺産・観光庁が文化遺産登録をしている廟

所在地は、州-ワクフ慈善庁による区分によるシャフレスターン-行政区分によるシャフレスターン-行政区分バフシユ-デヘスターン-村の順に記載 (アースターネ・アシユラフイーエとソウメエサラーは、ワクフ慈善庁と行政によるシャフレスターンが一致している)

ギーラーン州の〈聖所〉について



写真1 Boq'e Aqa Seyyed' Abdollah
写真1 ボグエの周囲に広がる墓地の中に、緑のザリーに覆われた墓が見られる。7年前に村で亡くなった老女のもので、いまでも人々に敬意を払われているとのこと、ルードサル郡で。



写真2 Boq'e Aqa Seyyed' Abdollah
写真2 ザリーの一部、ダヒールがびっしりと結ばれているのが分かる。「とてもハージャトがあるから」とのこと。



写真3 Boq'e Aqa Seyyed' Yahya
写真3 ボグエの前に広がる墓地の中にある、緑に塗られた鉄のサンドウーグ、若い女性の墓で、村の人々の中には彼女に敬意を表すると同時にダヒールを結んでいくとのこと、ルードサル郡で。



写真4 Aranghahe Aqa Seyyed' Madri Musavi
写真4 マスジエの前の墓地の中に置かれた緑の鉄製ザリー。少年の墓とのことであるが、非常にハージャトがあるとのこと。ラシュトアンザリー旧街道から村へ入る入り口に、村の人々の立てたこの墓への案内板が見られる。ラシュト郡で。



写真6
写真6 数年前に亡くなった、非常にハージャトを持つセイエデの墓。廟を作るための準備中とのこと。ラシュト郡で。



写真5 Boq'e Soltan Pir Hasan
写真5 廟の中に置かれたモッラーの墓。セイエドであり人々の敬意を集める人物であると、死後もこのように多くの人が詣で、願い事のかげうことを願ってダヒールを結んでいく。フーマン郡で。



写真7 四方にエイヴァーンをめぐらせた廟の一例。ギーラーンの平野部に特に多い形。墓地の中にこうした小さな廟が建てられて、人々が日常的に訪れる信仰の場として機能していた。



写真8 墓地の中のセイエドの墓が聖所化し、写真のような小さな建物を持つことがある。家族が建てる場合も、地域の人がお金を出し合う場合もあり、そのセイエドあるいはセイエドに何らかのハージャトがあると認められ、家族以外の人たちも訪れるようになったものである。



写真9 町の再開発などで古い住宅が取り壊された際に、家の中庭などに埋葬されていた人物の墓が見つかることがある。写真の東屋は、ラシュトの再開発に伴い見つかったセイエドの墓。ハージャトがあるということで墓はそのままバイパス道の脇に残され、墓を覆う屋根もかけられた。近所の人などが訪れ、祈っていく様子が見られる。



写真10 マザール。誰かが埋葬された墓であると説明される樹。写真のように、幹に緑の布が巻かれ神聖なものであることを示す。



写真11 大木の下に人々にハージャトを与えてくれるセイエドの墓が置かれ、人々の信心の対象となることがある。これは、樹木に対する信仰が先で、その後、墓石が置かれるようになったと考えられている。写真はサンギアルにある聖所の一つ、アーザードの大木の下にセイエドの墓が置かれている。傍らに立つ木にはダヒールを結ぶなど、人々の信心を表すものは見られない。



写真12 写真は、聖所の近くに立つ木にダヒールが結ばれた例。木そのものも大きいのだが、地元の人によると、手近にあった木にダヒールを結んでいるだけとの説明であった。



写真13 茶畑が広がる中に湧く神聖な力を持つ水の泉。水資源の豊かなギーランであるが、澄んだ水を与えてくれる泉に対しては特別な感情があるという。ラーヒージャーン郡。



写真14 エマーム・ザマーンの井戸。緑色の囲いの下に井戸がある。この囲いに触れながら祈りの言葉を呟いたり、願い事を書いた紙を投げ込んだり、お金を投げ込んだりして願い事の成就を祈る。ズィヤーートを訪れるのはほとんどが女性たち。パーザールの一面にあることから、常に人でいっぱい。ラシュト市内。



写真15 民家の外壁に作られたサッカーハーネ。水飲み場としての機能は失われ、ろうそくを灯すための場所になっている。外にまでろうが垂れているのが見える。ラシュト郡



写真16 緑の布が巻かれた木の後ろに見える岩の下から泉が湧いている。岩の割れ目にも、ランプが置かれたり、緑の布を巻き付けたゆりかごが置かれ、信心の対象となっている。泉に対する信心の場であると同時に、岩に対する信心も見られる聖所の一つ。ラーヒージャーン郡。



写真17 マスジドのmenbar(アラビア語のminbar)にすがりつき祈る女性。メンバルの手すり部分にいくつものダヒールが結ばれている。マスジドではあるが、火曜日の午後になると人々がズィヤーートに集まってくるため、マスジドの前には市が立つほどである。イーラーム市。



写真18 写真では少々分かりにくいですが、木の幹に打たれた釘に新旧何本ものダヒールが結ばれている。釘はすっかりさびている。ランゲルド郡。



写真19 緑色の布が巻き付けられた木の幹に、小石が幾つも差し込まれている。これは幹の隙間などを利用して、釘を打ってそこに乗せるケースも見られる。ソウメエ・サラール郡



写真20 エイヴァーンの外側に差し込まれたシテムシャードの枝。この廟では、このようにエイヴァーンを囲む板の割れ目を利用して、廟をぐるりと新しいものから枯れかけたものまで何本ものシテムシャードの枝が差し込まれていた。ランゲルード郡。



写真21 木の枝に結びつけられた何本ものシテムシャードの枝。この木自身が信心の対象となる聖所であるが、そこに別な場所から持ってきたシテムシャードの小枝が結ばれている。この木のあちこちに、新旧何本もの枝が結ばれたり差し込まれたりしていた。ソウメエ・サラール郡。



写真22 廟の軒先につり下げられた雄山羊の角と羚羊の角。山間部の廟の中には、このように軒からつり下げられたり、エイヴァーンの柱に結びつけられた野生動物の角が見られることもある。ルードサル郡



写真23 室内に下げられた羚羊の角。青く塗られている理由は不明。屋外に置かれている角の中には、廟の色に合わせて緑に塗られているものも見られる。ルードサル郡



写真24 廟内の窓際に置かれたシャムダーン（献灯台）。近年は防火上の理由から廟内でろうそくを灯すことを禁ずる廟も増えているが、人が多く訪れる廟には蠟燭の明かりが絶えない。アースターネ・アシュラフイーエ郡



写真25 廟内に用意されたランプ。蠟燭の代わりにランプを灯す。ランプは廟に備え付けのものが使われる。ランプの炎を見ながら願い事を行う。燃料は寄付されたものが置かれていることも多い。



写真26 ギーラーン州でよく見られるアラム。アラムバンダーンに使われることも多い形で、そのため、普段からダヒールが結ばれたりする。



写真27 アラムの一種。ティークと呼ばれることもある。アーシューラーのダステが通りを練り歩く際に持たれる。



写真28 四方に向かって作られたアーチ型のエイヴァーン。ギーラーンでは中庭様式はあまり見られず、アーチ型エイヴァーンを作る際もこのような形になることが多い。



写真29 ハラムの四方にエイヴァーンをめぐらせた廟。外側をめぐらせた柱で張り出した屋根を支える。エイヴァーン部分には絨毯などを敷き、休んだりできるようになっていることも多い。ラーヒージャン郡



写真30 墓地の中、マスジェドと隣り合って建つボグエ。ギーラーンでは、聖所単独で置かれている所は少なく、多くは墓地の中、マスジェドと同じ敷地内に建てられている。アースターネ・アシュラフイーエ郡



写真31 マスジェドと一連なりになった廟。向かって右の入り口はマスジェドの入り口。左手のひさしがでている部分が廟への入り口。廟とマスジェドの間は壁で完全に仕切られている場合と、行き来ができるようになっている場合とがある。ラーヒージャン郡



写真32 古いボグエの一部を取り壊し、新たにマスジェドを付け加えた例。ボグエとマスジェドの間に扉がもうけられているが、通常、それぞれの入り口が使われている。ラーヒージャン郡



写真33 独立した廟を持たず、マスジェド・ジャーメの中に置かれたサンドゥーク。サンドゥークの両脇に見えるカーテンは、男女のスペースを分けるためのもの。ラシュト郡



写真34 ハラムをめぐる回廊部に絨毯を敷き、ボシュティーを置き、くつろぐことができるようになっている。文献によってはこうしたスペースを「マスジェド」と表現している。ランゲルド郡



写真35 宗教画の一例。セラートの橋の場面。セラートの橋を渡ることで人間と、渡ることができずに化物に飲み込まれる人間、天秤を持った天使などが描かれている。ラーヒーザン郡



写真36 宗教画の一例。廟の外から見た、アリー・アスガルを胸に抱いたエマーム・ホセインの出陣図。レードサル郡

(1) Āstāne Ashrafiye郡の聖所



写真37 Boq'e Jalāl al-Dīn Ashraf. アースターネ・アシュラフィーエ市の名前がこの廟から採られていることから分かるように、この町はこの廟を中心に発展してきた。巡礼者たちの寄付により廟は継続的に手を加えられている。廟の外にはJalāl al-Dīn Ashrafの近くに葬られることを望んで各地から運ばれてきた人たちの墓石がびっしりと並ぶ。



写真38 Boq'e Jalāl al-Dīn Ashraf. ハラムの内側は、巡礼者たちの寄付により、この数年で、全てアーイーネカーリーで飾られた。天井から下がるシャンデリアも、寄付されたもの。費用のかかるアーイーネカーリーは、寄付の多さを示すハロメーターの一つとも言える。



写真39 Boq'e Jalāl al-Dīn Ashraf. ハラムに置かれたエスファハーン様式のザリー。ザリーに触れ、Jalāl al-Dīn Ashrafからシャファアを得ようとする人が絶えない。



写真40 Boq'e Moḥammad Ākhond Mazār. ゴルダステを持つ門を二箇所にし、敷地内に様々な関連施設を持つ大規模な廟。Boq'e Jalāl al-Dīn Ashrafと同じく、継続的に増改築が行われている。



写真41 Boq'e Moḥammad Ākhond Mazār. 青いタイル張りのドームを持つ廟。以前は、廟の州には墓地が広がっていたというのが、現在は整地され、敷地を取り囲むホジュレに一部残るだけになっている。廟に接してホセイニーエや管理事務所。近所で木曜市が立ち、買い物客が廟にも参詣して行く。



写真42 Boq'e Moḥammad Ākhond Mazār. アーイーネカーリーで飾られたハラム。自分の信仰する廟がタイルや大理石、アーイーネカーリーで華やかに飾られることを願って、参詣の人々は折々にお金を投じていく。



写真43 Boq'e Moḥammad Ākhond Mazār. ハラムの両脇には、礼拝や休息に使うための部屋が設けられている。敷き詰められている絨毯もボシュティー（メクッション）も全て寄付されたものか寄付金から購入されたもの。



写真44 Boq'e Āqā Seyyed Hasan. 広い墓地の中に建つ大型の廟。マスジェドを兼ねている。アースターネ・アシュラフィーエ市に接する良好なロケーションではあるが、資金繰りには苦勞していて、建設が途中で止まってしまったとモタヴァッリーは、説明してくれた。



写真45 Boq'e Āqā Seyyed Hasan. 廟の内部。本来なら壁でハラムをマスジェドと区切るはずが、資金難から建材を購入できず、この高さに留まっている。ザリーは非常に高価なエスファハーン様式のザリーが置かれ、アラム（ティーク）もテヘランなどで使われている大型のものが置かれており、決して資金調達力に難があるわけではないと推測できる。



写真46 Boq'e Āqā Seyyed Hasan. ハラムに置かれた鏡。聖廟において鏡は非常に大きな意味を持ち、廟内に置かれることが多い。



写真47 Boq'e Āqā Seyyed Hasan. 広い墓地の中に建つタイル張りの廟。アルボルズ以南のように美しいタイルで廟を飾ることは、ギーラーンの人々にとってもあこがれてあるが、多雨多湿の気候のため、タイルが剥落したり汚れたりしやすいのが悩みとのこと。



写真48 Boq'e Āqā Seyyed Hasan. アーイーネカーリーで飾られたハラムの天井と壁、エスファハーン様式のザリー、ザリーを置く大理石、色ガラスをはめ込んだ窓、どれもが収入のある廟であることを示している。



写真49 Boq'e Āqā Seyyed Hasan. 廟の前に広がる墓地の中にガラスケースに収められたセイエドの墓がある。非常に良い人だったので、死後も人々が敬意を表しに訪れるとのことであった。ギーラーンでは、墓地の中にこうした墓が見られることが多く、その位置付けに悩む。



写真51 Boq'e Seyyede Gouhar Khānom. この写真だけを見ると村はずれの空き地に見えるが、廟の正面は村の中心となるバーザール地区。ギーラーンでは、廟を中心とした墓地が町や村の中心に広がっていることは珍しくない。



写真50 Boq'e Āqā Seyyed Hasan. 2013年春に訪れたときには、ドームとゴルダステが金色の金属に変わっていた。また、墓地も整備のために墓石をはがし、整地を行っていた。これまで土がむき出しだったのを、ブロックタイル張りにするのだという。何本もの短い杭が立っているのが見えるのは、墓石が置かれていた場所を示すためのもの。墓石を戻すための目印。



写真52 Boq'e Seyyede Gouhar Khānom。ハラムの中には三段になった墓石。ドームの内側はまだレンガがむき出しになったまま。



写真53 Boq'e Seyyede Gouhar Khānom。廟の脇に数本の細い木が立っている。この木に囲まれた空間も、廟と同じく神聖な空間と見なされている。



写真54 Boq'e Seyyede Gouhar Khānom。柵の外にある一本は倒れかかっているが、コンクリートブロックと木の棒で支えられている。その上で、結びやすい場所にあることから枝にダヒールが結ばれている。



写真55 Boq'e Seyyede Gouhar Khānom。枝に結ばれたダヒール。囲いの外から手の届く枝にはほとんどダヒールが結ばれている。

写真56 Boq'e Seyyede Gouhar Khānom。写真の中央部、草が生えていない箇所が光を発するという最も重要な場所。



写真57 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad。村の共同墓地の中。墓地の外には住宅が広がっている。農繁期は廟を訪れる暇もないが、秋から冬にかけては廟を訪れる人が増えるという。



写真58 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad。ハラムはザリーでほぼいっぱいになってしまう。ザリーやサンドゥーク、墓石の大きさも被葬者への敬意の表れ。



写真59 Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad. 廟内は、ハラムの四方を写真のような空間が取り囲み、ハラムの壁には装飾画が描かれている。ギーラーン東部には廟の壁の一面に宗教画を描く文化が見られるが、この廟のものはそれらに比べると題材や密度が異なっており、比較的新しいものと思われる。



写真60 Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad. 壁に描かれた、剣を持つ太陽獅子。イランのシンボル。1979年のイラン・イスラム革命以後もその概念は残されているが、革命以前の王朝を思い起こさせるということから公共の場から姿を消している。



写真61 Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad. 預言者ムハンマド。中央に浮かんでいるのは水差し。手の先にあるものは不明。



写真62 Boq'e Se Barādarān. 広い墓地の中。右手に見える塀の外は海岸近くを走る
ダスタク-キヤーフル街道とアースターネ・アシュラフイーエ街道の合流点。



写真63 Boq'e Se Barādarān. 正面入り口側から。エマームザーデやボグエによく使わ
れる緑色がほとんど見られないため、一見、奥に見えるマシエドの物置にも見える。



写真64 Boq'e Se Barādarān. 廟の中は広い部屋になっている。入り口の扉を開けると
目の前にザリーが置かれている。写真奥の壁際に見える肖像写真は、廟内に葬られてい
るセイエドたちのもの。廟に対し強い信心を持っていた人たち、周囲の人たちに敬意を
払われていたセイエドなどが廟内に埋葬されることは珍しくない。



写真65 Boq'e Aqā Seyyed Rezā. 魚市場で有名なバーザルから住宅街に入ってく、
広い墓地の中。壁に掲げられた看板は、廟ではなくホセイニーエのもの。



写真66 Boq'e Aqā Seyyed Rezā. 現在はホセイニーエとして使われている建物は広々としている。廟の三分の一を区切るように
ひかれているカーテンは、男女のスペースを分けるためのもの。女性用のスペースに、集まった女性たちの邪魔にならないよう、
ザリー等を持たない背の低い墓石が置かれている。



写真67 Boq'e Aqā Seyyed Rezā. 廟内に置かれた墓石。緑の布で丁寧に覆われている。ダヒールを結ぶ場所がないので、傍らに置かれている募金箱の取っ手にダヒールが結ばれている。



写真68 Boq'e Aqā Seyyed Rezā. 墓地の中に設けられた小さな廟。村出身で、人々に尊敬されていたセイエドの墓とのこと。



写真69 Boq'e Aqā Seyyed Rezā. 廟内を覗いてみると、ひかれていたはずの絨毯は外され、緑の布が散乱し、ブロックタイルがもき出しになっていた。



写真71 Aqā Seyyed Hādīの墓を覆うガラスケースの扉に結ばれたダヒール。願い事を叶えてもらうために訪れる人の多さを物語っている。

写真70



写真70 Mohsen ābādの墓地にあるAqā Seyyed Hādīの墓。ドームとゴルダステを持つ緑色のガラスケースに覆われて、墓地の中でもひときわ目立つ。墓地の中に葬られているセイエドの中でも特に大きなハージャトを持ち、人々の信心の対象となっている。



写真72 Mohsen ābādの墓地にあるセイエドの墓の一つ。Aqā Seyyed Hādīと同じく、ハージャトを持つことから、村の人たちの信心の対象となっている



写真73 写真74を正面から見る。普段は鍵がかかっているため中を見ることはできなかった。廟前の緑の箱は募金箱。
Qabrestān-e Rūstāye Mohsen ābād



写真74 同じく墓地の中にある小さな廟。緑色に塗られていないが、セイエドの墓をおさめた廟。
Qabrestān-e Rūstāye Mohsen ābād



写真75 写真74の中。雨漏りがないようビニールシートで覆われ、中には二人のセイエドの墓。正面に見えるのは募金箱。向かって右がハビブ・イーサールバフシュ、左がフーリー・イーサールバフシュの墓。
Qabrestān-e Rūstāye Mohsen ābād



写真76 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad. 空き地の中にぽつんと建つ小さな廟。扉は常に開けられ、目隠しの緑の布が風に翻っている。
Boq'e Āqā Seyyed Mohammad



写真77 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad. 丈の短い緑の布で覆われたザリー。布で全体を覆ってしまうことが多いが、ここでは墓石に直接触れることができるようになっている。
Boq'e Āqā Seyyed Mohammad



写真78 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad. ザリーに結ばれたダヒール。ザリーの中に、丁寧に布で包まれたゴルアーンが積まれているが見える。
Boq'e Āqā Seyyed Mohammad



写真79 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad. 2013年に通りかかると、空き地の整地が始まっていた。整地した後どのようになるのかについては、近所の人も情報を持っていなかった。
Boq'e Āqā Seyyed Mohammad



写真80 墓地の中に並ぶ小さな廟。手前の白い壁の廟は、今は使われていないが、奥の緑と白に塗り分けられた壁の廟には、セイエドの墓が収められ、人々が訪れる場所になっている。
Marbatāye Seyyedān



写真81 廟内の様子。どの墓石もきれいに緑の布で覆われ、廟内も手入れが行き届いている。ここに葬られている人物の子孫がまだ村に残っているというが、それ以外の人々もここを訪れている。



写真82 廟内の様子。全部で5人のセイエドとセイエデが葬られているが、5人に血縁関係はないという。



写真83 Boq'e Seyyed Abū Ja'far。墓地の側から廟を見て。墓地には新旧様々な墓石が見られる。



写真85 Boq'e Seyyed Abū Ja'far。廟の周囲のホジュレにも墓石が並ぶ。墓石の間に見られる小さな石のブロックは、スペースの予約者がいることを示している。



写真84 Boq'e Seyyed Abū Ja'far。ギーラーン州のカスピ海岸沿岸にあるボグエの中でも、最も大規模な廟の一つ。海岸リゾート地にも近く、観光客も多く訪れるとのこと。



写真86 Boq'e Seyyed Abū Jafar. このくらい大規模な廟でもハラムはごく狭く、大人数が留まるのは難しい。ハラム内は漆喰が塗られているだけのシンプルなものだが、今後アーイーネカーリーで飾りたいとのことであった。



写真89 Boq'e Seyyed Zakariyā. 廟への入り口。建物の向かって左側がボグエで、右側部分はホセイニエとして使われている。入り口は共通。



写真90 Boq'e Seyyed Zakariyā. 廟内にはアルミ製のザリーが置かれている。窓はごく小さく、灯りも多くないため、昼でも薄暗い。



写真87 Boq'e Seyyed Zakariyā. 村のパーザールから住宅街へ入ってすぐに見える、二本のゴルダステを持つ門。これは墓地への入り口となっている。村の共同墓地は別の場所にあり、廟付風の墓地は他所に共同墓地があるため、今はあまり使われていない。



写真88 Boq'e Seyyed Zakariyā. 門とは反対側から。三方向にエイヴァーンが見える。こちら側の門は、普段は使われていない。



写真91 Boq'e Seyyed 'Ali Kiyā. 海岸に近い場所にあるため地面は砂に。廟の周囲も砂の小山が連なっている。廟はエイヴァーンを四方にめぐらせているが、他の廟で多く見られるようにそこでつろぐための空間ではなく、通路。



写真92 Boq'e Seyyed 'Ali Kiyā. コーラン学校などにも使われる廟の中は広々とした空間。中央に建てられた四本の細い柱の間にザリーが置かれている。



写真93 Boq'e Seyyed 'Ali Kiyā. 廟内の隅に壁をたて、小部屋が作られているが、小部屋の外、廟に面した壁には、殉教者を称揚する大きなポスターが貼られている。近年、政府の方針として、エマームザーデやボグエが地域の文化センターとして、イスラム精神の発信・教育の場となっている。



写真94 Boq'e Seyyed Tāher. 廟へと続く門。そこには、マスジェド建設のための寄付を呼びかける横断幕が張られているが、必要な資金が集まらず数年になる。



写真95 Boq'e Seyyed Tāher. 右側の建設途中の建物はマスジェド。左側がボグエ。ボグエは、特別なときしか扉を開かず、木曜日ですら閉められたままであった。



写真96 Boq'e Seyyed Tāher. 右手の壁に見えるコンクリートブロックは、以前ここにあった扉をふさいだもの。マスジェドが完成した暁には、ここを開いて、マスジェドとつなげる予定。



写真97 Boq'e Seyyed Tāher. 窓枠にはダヒールが結ばれているが、古いものばかりで新しいものはほとんどない。ズィヤラートの人が少ないのではないと思われる。



写真98 Boq'e Āqā Seyyed Kūchak Āqā. マスジェド付属の墓地の端に作られたばかりのコンクリートブロックの廟。外装には手を加える余裕がまだないのだが、地元の女性たちの廟に対する信心は強いので、週末にはズィヤラートの人が多く訪れるという。



写真99 Boq'e Āqā Seyyed Kūchak Āqā. 木曜日の午後、いつものように廟の掃除にやって来た女性たち。彼女たちの両親も熱心に廟を訪れていたという。木曜日毎に廟を訪れ、一時を過ごす。



写真100 Boq'e Seyyed Moḥammad Hāshemi Nezhād. マスジェド付属の墓地の中に建てられた小さな廟。村の人は誰もが存在を知っているが、木曜日にもかかわらず、扉は閉められたまま。管理人を見つけることもできなかった。



写真101 Boq'e Seyyed Moḥammad Hāshemī Nezhād. 廟の鍵は閉まっていたが、窓が開けられて中を見ることができるようになっている。サンドゥッグの上にアリー・アスガルのシャツが並べられているのが目に付く。



写真102 Boq'e Seyyed Moḥammad Hāshemī Nezhād. 開けられたままの窓の窓枠に、新旧のダヒールが結ばれている。



写真104 Boq'e Seyyed Zakariyā. コンクリートブロックの壁を通り抜けるとオリジナルの廟が見える。周囲が高くなってしまったのか、扉は周囲よりも30センチほど低くなっている。



写真103 Boq'e Seyyed Zakariyā. 水田の中を通り、小さな砂の空き地に出ると、古い廟を覆うようにコンクリートブロックの壁が建てられているの見える。レンガやコンクリートブロックが置かれているが、工事が進められているように見えない。



写真105 Boq'e Seyyed Zakariyā. 廟の中は掃除が行き届いているが、天井の板には隙間も見られ、改修が必要なが分かる。



写真106 Boq'e Seyyede Bībī Heibat. 村と村の間、周囲には何も無い中にぽつんと建つ小さな廟。木曜日以外には扉が閉められているが、立派な募金箱（写真左端）が用意されていたり集会所、トイレなどが用意されていたりと、集まってくる人たちの設備が整えられている。



写真107 Boq'e Seyyede Bibi Heibat. アルミ製の大型ザリー。壁際にはびっしりとボシューティ（クッション）が並べられ、くつろぐことができるようになっているが、礼拝に使える場所は限られてしまう程度の広さしかない。



写真108 Boq'e Seyyede Bibi Heibat. ザリーが無断で開けられないよう、太い鎖が巻かれているが、その鎖を利用して南京錠をかけているのが見られる。一番上の金色の鍵はザリーの扉を閉じるためのもので、鎖を止めているのは一番左の南京錠。



写真109 Boq'e Āqā Seyyed 'Ali Kiyā. 銀色の大きなドームを乗せた廟。近年、農村部での廟の大型化が目立つ。この村は人口400人に満たない（2006年統計資料）が、どのように建設費用を捻出したのかと不思議なくらいである。



写真110 Boq'e Āqā Seyyed 'Ali Kiyā. 鍵の近くのガラスが外してあり、そこから手を入れて鍵を開けることができるようになっている。日が落ちると写真右に見える南京錠をかける。



写真111 Boq'e Āqā Seyyed 'Ali Kiyā. 広い廟内に大きなザリー。廟内は窓に色ガラスがはめ込まれている以外はシンプル。



写真112 Boq'e Āqā Seyyed 'Ali Kiyā. 広い墓地の片隅に、緑に塗られた小さな建物が見える。ギャーランによく見られる、小さな廟を持つセイイドの墓。



写真113 Boq'e Āqā Seyyed 'Ali Kiyā. 墓地の最も外れに位置する緑色の廟。セイエドの墓を覆ったもので、ギーラーンの墓地ではよく見られる。家族により建てられたものや、村の人たちが建てたものなどいろいろだという。家族以外の人たちもハージャトを求めて訪れるのであれば、こういった墓所も聖所と言える。



写真114 Boq'e Āqā Seyyed 'Ali Kiyā. 廟内には大きなコンクリートで形を取った大きな墓。墓石の大きさも、敬意を示す基準の一つ。



写真115 Boq'e Āqā Seyyed 'Ali Kiyā. 墓石の上に置かれた写真。若くして亡くなったこの墓の主と思われる。ここだけではなく、イランの墓地では、墓になくなった人の写真を飾ることがごく一般的に行われる。



写真116 Boq'e Se Barādarān. 緑色が使われていないため、一見、マスジドやホセニーエに見える広い廟。



写真117 Boq'e Se Barādarān. 広い廟内に絨毯が敷き詰められ、その中に三兄弟とされる人物たちそれぞれの墓が置かれている。三つの墓はそれぞれ様式が異なっているが、理由ははっきりしなかった。一番手前のものは、平たい墓石を緑の布で覆い、足元に明るい色の絨毯が置かれている。中央がアルミ製ザリーに覆われた墓。奥が背の高い墓石。こちらが入り口になっている。



写真118 Boq'e Se Barādarān, 三兄弟の墓の一つ。平たい墓石の上に緑の布や絨毯を敷き詰めているために墓石を見ることはできない。ゴルアーンの置かれている方が頭。参詣の人は、ゴルアーンに接吻するなどして敬意を表す。



写真119 Boq'e Se Barādarān, 廟の入り口側から三人の墓を見る。背の高い墓石の周囲に幾つもの墓石があるのが分かる。これは村の人のもので、三兄弟とは関係がない。



写真120 Boq'e Se Barādarān, 墓地の中に見られるセイエドの墓。低い壁を作り、屋根をかけて覆うことで、特別な墓であることを示している。墓地の中でこうした扱いを受ける墓は、セイエドのものかシャヒードのものが多い。



写真121 Boq'e Se Barādarān, 木材に結ばれたダヒーール。古いものから新しいものまで何種類が見られる。



写真122 Boq'e Se Barādarān, 墓の上に残るろうそくの跡。まだろうが新しく、誰かが訪れ、祈りを捧げていったことが分かる。

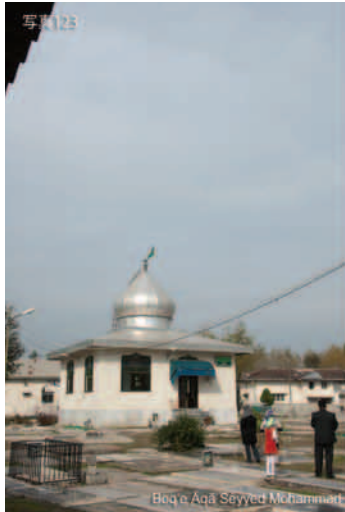


写真123

写真123 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. 村のバーザール近くの墓地の中。銀色のドームを持つ新しい廟。木曜日の午後には多くの墓参の人たちが立ち寄る。

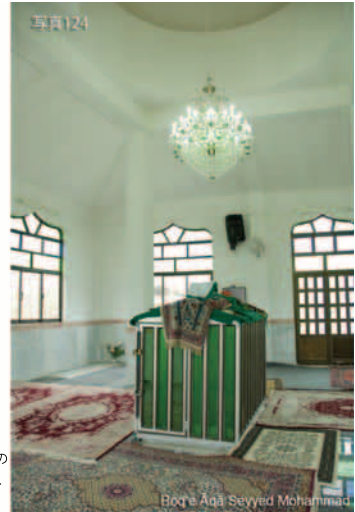


写真124

写真124 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. 新しい石張りの廟内に敷かれている絨毯の数はまだ少なく、床がむき出しのところが目立つ。



写真125

写真125 Boq'e Seyyede Minā. マスジドと一連りになった廟。元々は別々だった建物を最近、つなげたのだという。そのため、壁や屋根の材質や色が異なる。

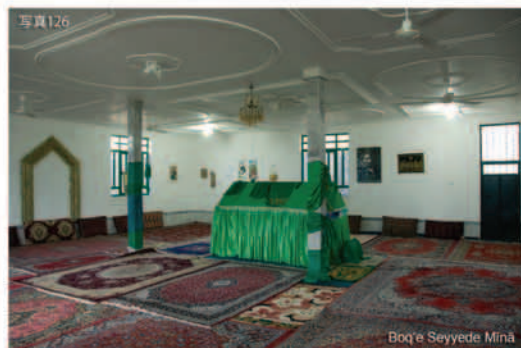


写真126

写真126 Boq'e Seyyede Minā. 広い廟内の中央から少し入り口に近い側に寄せられたザリー。本来なら二本の柱の間に置かれるはずがずれているが、その理由は明らかではない。写真左端の壁に見える長五角形はゲブレ(=キブラ)のしるし。

写真129 Boq'e Seyyed Ḥasan va Seyyed Aqā. ハラム内。よく見ると、墓石は、ハラムの壁と平行になるようには置かれていない。



写真128

写真128 Boq'e Seyyed Ḥasan va Seyyed Aqā. 入り口を入って正面に見えるハラム。緑の布に覆われた墓石が幾つも並ぶが、墓碑を見るとセイイェド・ハサンやセイイェド・アーガーのものではない。



Boq'e Seyyed Ḥasan va Seyyed Aqā



写真130

写真130 Boq'e Seyyed Ḥasan va Seyyed Aqā. ろうそくを灯すための器が墓石の上に用意されている。その傍らにはマッチも置かれているのが見える。

Boq'e Seyyed Ḥasan va Seyyed Aqā



写真127 Boq'e Seyyed Hasan va Seyyed Āqā。背の高いチェナールとバーザールの間に建つ。買い物客が廟を訪れたり、通りがかりに敬意を表して行ったりする様子が見られる。



写真131 Boq'e Seyyed Hasan va Seyyed Āqā。墓石の上に大量に置かれたバンジ・タン（アボルファズルの手とも）。寄付として人々が持ち込んだもの。気に入った一つにダヒールを結んだり、接吻して祈りを捧げる。



写真132 Boq'e Seyyed Hasan va Seyyed Āqā。ハラムに置かれた募金箱。ここにダヒールを結ぶ人も。



写真133 Boq'e Seyyed Hasan va Seyyed Āqā。チェナールの幹に結ばれたダヒール。チェナールそのものは神聖なわけではないとすることで、廟内の方がダヒールは圧倒的に多い。



写真134 Ārāmgāhe Āqā Seyyed Zeinūl. ソトウデが記録していた廟を探しても見つからず、村の人たちに、「こういうスィヤールトガーもあるぞ」と案内された墓地の中に村の人たちの崇敬を集めているセイエドの墓がある。募金箱が置かれ、墓の維持のために使われている。



写真135 Ārāmgāhe Āqā Seyyed Zeinūl. 廟を作るなどする予定はないが、とても良いセイエドだったので、墓参の人たちが敬意を表し、祈りを捧げていくとのことであった。



写真136 Ārāmgāhe Seyyede Beigom. マスジェド付属の墓地の中に、緑に塗られた鉄製のサンドウッグが置かれている。扉は壊れているが、現在も人が訪れていることが分かる。村に住み、独身のまま亡くなったセイエドの墓であるとのこと。



写真137 Ārāmgāhe Seyyede Beigom. 墓石を覆う緑の布は埃をかぶっておらず、ダヒールが結ばれたり、造花が供えてあったりする。



写真138 Ārāmgāhe Seyyede Beigom. サンドウッグの奥にあるシャムダーン。新しいろうそくの跡が大量に残っている。



写真139 Boq'e Sheikh Mohammad Zeid. 村の外れ、水田が広がる中に建つ、シェイフの廟なので、緑色に塗られていない。

写真140 Boq'e Sheikh Mohammad Zeid. 敷地内から見た廟。それほど大きくない敷地内には墓地は見られない。コンクリートがむき出しになったままの外壁には地面からの湿気の跡がはっきりしている。それを避けるため、階段の高さまで床が上げられていることが分かる。





写真141 Boq'e Sheikh Mohammad Zeid. 廟内はハラムを取り囲むようにサロンがめぐらされている。ポシュティーがあちこちに置いてあるが、絨毯は少ない。



写真146 Boq'e Aqā Seyyed Ebrāhīm. 切り落とされた側には壁が作られている。



写真142 Boq'e Sheikh Mohammad Zeid. 四方に出入り口が作られているが、ポシュティーが並べられ、使える出入り口は一箇所だけになっている。

写真143 Boq'e Aqā Seyyed Hasan. 村はずれに建つマスジドと一連なりになった廟。廟とマスジドの間の出入りはできないようになっている。



写真144 Boq'e Aqā Seyyed Hasan. 装飾のほとんどないシンプルな細長いハラムの角に寄せて、ザリーが置かれている。

写真145 Boq'e Aqā Seyyed Ebrāhīm. 細長い建物のこの部分だけを切り落としたような廟。土台は崩れかき、壁もひびが入るなど、傷みが目立つ。



写真147 Boq'e Aqā Seyyed Ebrāhīm. 緑の布と、エマームたちの肖像画で覆われた墓石。



写真148 Boq'e Aqā Seyyed Ebrāhīm. 水田の中に建つ廟。以前は、もっと多くの木々に取り囲まれていたのだが、森を切り開き、水田や住宅へと変えていき、その結果、このように水田の中に廟が残されたのだという。



写真149 Boq'e Aqā Seyyed Ebrāhīm. コンクリートの壁がむき出しのままの新しい廟。マスジェドと墓地は水田を挟んでいるため、天気の良い日にここまで足を伸ばす人は少ない。



写真150 Boq'e Aqā Seyyed Ebrāhīm. こうした廟内には寄進された絨毯がびっしりと敷き詰められていることが多いのだが、ここでは数が足りないため、ザリーの周囲と廟の奥、ポシュティーが並べられている場所のみに。



写真152 Boq'e Seyyed 'Abd al-Rahmāne Azhdar. あとから付け加えたことが明らかかな廟の入り口。本来は建物に入り口があったのだが、靴を脱ぎ、預けるための場所を作るために、外側に新しく空間を付け足すことになったことから、このような形になった。



写真151 Boq'e Seyyed 'Abd al-Rahmāne Azhdar. 周囲を水田に囲まれたマスジェドと廟。墓地は付属していないのが珍しい。廟は右手に付き出している扉から入る。



写真153 Boq'e Seyyed 'Abd al- Raḥmāne Azhdar. 細長い廟の入り口側のマスジェドとの壁に寄せてザリーが置かれている。



写真154 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. 村はずれの、広い敷地を持つマスジェド。マスジェドの前には墓地が広がっている。



写真155 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. L字になったマスジェドの、写真右手、窓が二層になっている部分がマスジェド、左手の空間が廟となっている。



写真156 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. マスジェドの広い空間の一部に、写真のように四角い小部屋を作り、三片がマスジェドと接しているハラムとしている。



写真157 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. 小さな部屋いっぱい、大型の木製ザリーが置かれている。写真では分かりにくい、ザリーの内側に、鉄板のサンドックがびったりと収まっていて、中を覗くことはできない。



写真158 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. ザリーの扉を開めるために巻かれた鎖に南京錠がかけられている。ザリーは中にザリーが入っているためにダヒールを結んだり南京錠をかけたといったことができなくなっている。それでも、可能な場所を見つけては南京錠をかけたリダヒールを結んだりする。



写真159 Boq'e Aqā Seyyed Aqā Jān. 墓地の敷地から道路にはみ出して建てられた小さな廟。廟の前には募金箱も置かれている。ギーラーンの人は、こういった小さな廟を「こんなのギーラーンの墓地のどこにでもあるよ」と言うが、その通りで、かなりの割合でその土地のセイエドの墓がこのような形で小さな聖所となっているのを目にする。



写真160 Boq'e Āqā Seyyed Āqā Jān. 廟には鍵がかかっており、鍵を持っている人が出かけてしまったため、ガラス越しに中を覗く。敷物が敷き詰められ、ポシュティーも用意され、ここで時間を過ごすことができるような快適な空間となっている。



写真161 Boq'e Āqā Seyyed Āqā Jān. 扉に結びつけられた緑の布。エフダー (efda=贈り物) で、この端を割いてダヒールに使ったりする。



写真162 Boq'e Āqā Seyyed Āqā Jān. 扉の前に並べられたコンクリートブロック。一部、ブロックの中でろうそくを灯した跡が見られる。



写真163 Boq'e Seyyed Rūhollāh. 小さな空き地の中に建てられた小さな廟。コンクリートがむき出しのままではあるが、鍵はかけられておらず、いつでも誰でもここを訪れることができるようになっている。



写真164 Boq'e Seyyed Rūhollāh. きれいに整えられたハラム。ハージャトを与えけると信じられていることから、近所の女性たちがよく訪れるという。



写真166 Boq'e Seyyed Hamīd. アーイーネカーリーが施されたハラムに置かれたザリーに触れ、祈る女性。セイエド・ハミドをとても信じているので、毎週参詣に訪れ、清掃を行い、ハラムの扉に薔薇水をふりかけているという。



写真168 Boq'e Seyyed Hamīd. 廟の前に立つチェナールの大木。以前はこのチェナールに対して信心を持つ人も多かったというが、現在ではそうした信仰を示す行為はほとんど見られない。



写真165 Boq'e Seyyed Hamid. 青いドームを持つ廟は、廟の拡張工事が行われている。廟の前に背の高いチェナールが立ち、廟の周囲には墓地が広がる。このような廟の拡張工事は各地で行われているが、インフレの激しいイランでは、完成まで費用がもつかどうか問題となることも多い。



写真167 Boq'e Seyyed Hamid. ザリー上部にはガラスがはめ込まれておらず、奥にあるバーにびっしりと南京錠が取り付けられている。バーに届かなかった人は、他の鍵に更に鍵をかけている。これは、ザリーの四面全てにおいて同様である。



写真169 Boq'e Seyyed Hamid. 増改築が進んだ廟。ドームがタイル張りから銀色のものになっている。近年、設置が容易で雨に対する耐久性もあり、また見栄えもする金色や銀色のドームを持つ廟が増えている。



写真170 Seyyedân va Shahidân. 村の墓地の中に置かれたザリー。三人のセイエドの墓であるが、ハージャトがあるので人々が多く訪れるという。どんな人物であったのかについては知られていない。

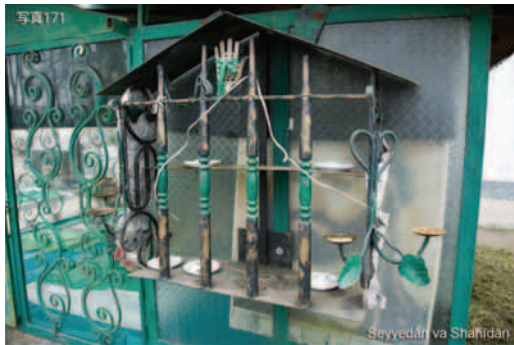


写真171 Seyyedân va Shahidân. ザリーの前に設けられたシャムダーン。ろうそくを灯した跡は見られないが、これはろうそくを灯す人がいないのではなく、すすなどの残り具合から、定期的に清掃が行われているのであらうと思われる。



写真172 Seyyedân va Shahidân. ザリーを開けると、飲みかけのお茶が残っていた。誰かがここでくつろいでいたらしい。それほど広さはないが、敷物がひかれ、ザリーにはガラスがいれてあるので、中でくつろぐのには問題はない。



写真173 Seyyedân va Shahidân. 墓地の外れに立つチェナールの巨木。以前は同じような木が墓地を取り巻いていたというが、現在はそのほとんどが切り倒されてこの一本が残るのみ。今では行われていないが、以前は、この木にダヒールを結ぶなどして祈る人が多くいたという。



写真174 Boq'e Mâdare Faqih. アースターネ-キヤーシャフル街道から分かれた街道が、村に入る地点。マスジェド付属の墓地の中に建つ廟。



写真175 Boq'e Mâdare Faqih. 廟は街道に向かって張り出して建てられている。そのため、道路の方が大きくカーブをしている。



写真176 Boq'e Mâdare Faqih. 廟内いっばいに大きなザリーが置かれ、廟内で写真を撮ることは難しいほど。



写真178 Ziyaratgâh. 鉄製のサンドウッグ。中に墓石が収められている。廟を立て直したいのだが財政的に難しいとのこと。



写真177 Ziyaratgah。村を通る道路の分かれ道に置かれた鉄製のサンドゥーク。本来ここには小さな廟があったのだが、朽ちて倒れる危険が出てきたため取り壊さざるを得なかった。新しい廟を建てたかったのだが、建築費用を集めることができず断念し、とりあえず、このような形で墓石を保護することにしたという。



写真179 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad。二本のゴルダステを持つ大型のマスジェド。もともと、マスジェドと廟が一体であったということだが、マスジェドを新築するにあたって、廟の大きさはそのままに、マスジェドの規模を大きくした。



写真180 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad。マスジェドに入ってすぐ左手の一室。廟であることを示すものは見られない。



写真181 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad。窓のない薄暗い部屋にテント型の屋根のついたザリーが置かれている。



写真182 Boq'e Seyyede Bibi Firūze。マスジェドと同じ敷地に建つ、銀色のドームを持つ廟。資金の問題が、大きな看板はあげているが、外装はまだ終わっていない。



写真184 Boq'e Seyyed Amir Kiyā. 廟を拡張するために、現在の廟の外側に柱を立てている。現在の廟も、建てられたのは最近のことだが、再度、拡張工事が始まった。



写真185 Boq'e Seyyed Amir Kiyā. エイヴァーン部分に置かれた墓石。ハラムの四方を囲むエイヴァーンには全て、このように村の人々の墓が見られる。再拡張の際には、廟内に墓石が取り込まれることになる。



写真187 Boq'e Seyyede Kāfiye. 建て替えられたばかりの東屋風の廟。青緑のガラスを入れた大きな窓が目立つ。



写真189 Boq'e Por Nūr. 村の中心近くに広がる墓地の中。村の人たちにとってはこの廟はボレ・ヌールであり、他の名前では呼ばれてもこの廟のことだと認識できないらしい。

写真188 Boq'e Seyyede Kāfiye. 廟の改築が完全には終わっていないので、墓石もコンクリートの当座のもの。廟が完成したらザリーを置く予定。



写真183 Boq'e Seyyede Bībī Firūze. 真っ白に塗られた壁と天井の明るいハラムに、大型の金属製ザリーが置かれている。



写真186 Boq'e Seyyed Amir Kiyā. ドームを支えるように四本の柱が建つ中央に、大型の金属製ザリーが置かれている。





写真191 Boq'e Por Nür. ハラムいっぱい大型の金属製ザリーが置かれている。周囲をめぐるのが精一杯なほど。



写真190 Boq'e Por Nür. 廟内はハラムをサロンを取り囲む。ハラムには窓がたくさん取り付けられていて、晴れていれば、外からの光でとても明るい。



写真192 Boq'e Seyyed Ebrāhīm. アースターネラシウトネシャー街道の分岐点に建つ廟。マスジェドに接して建てられているが、廟の方が新しく、目立つ。将来、ゴルダステを設置する予定であるとのこと。



写真193 Boq'e Seyyed Ebrāhīm. 着色した蛍光灯が使われているため、不思議な色の空間となっているハラム。四本の柱を立て、背の低い仕切りを設けているが、部屋を作っていない。



写真194 Boq'e Seyyed Ebrāhīm. ハラム内で最近埋葬された人物。他にも、このボグエの中には多くの墓石が見られるが、ほとんどが絨毯の下である。イランでは、墓石の上に座ることにタブー感はない。



写真195 Masjede Emâm Hasan Mojtabâ. 村を通る道路沿いの墓地を持つマスジェド。小さなマスジェドだが、墓地があるので木曜日になると墓参の人が集まってくる。



写真196 Masjede Emâm Hasan Mojtabâ. マスジェドの窓に取り付けられた鉄柵に結ばれたダヒール。村の人たちはダヒールではないと言うが、話を聞くと、願い事がある人がこれを結び、願い事が叶ったなら、マスジェドに寄付を行うということなので、一種のズィヤートガーと見なすことにした。



写真197 Masjede Emâm Hasan Mojtabâ. マスジェド付属の墓地の中。台座の上に置かれ、緑の布を巻いたザリーがある。墓参の人たちは、このセイエドの墓にも触れたり、接吻したりしている。



写真199 Boq'e Aqâ Seyyed Ahmad Yamani. 墓地の中で目立ったセイエドの墓。目立っているが、ダヒールやろうそくを灯した跡などは見られなかった。



写真198 Boq'e Aqâ Seyyed Ahmad Yamani. 銀色のドームと銀色の二本のゴルダステを持つ大きな廟。予算の問題か、この廟も外壁がむき出しのまま残されている。



写真200 Boq'e Aqâ Seyyed Ahmad Yamani. 壁も天井、ドームも全てアーイーネカーリーで飾られているハラム。ハラムが広いのと、窓が多く外の光が入るため、ぎらぎらした感じは少ない。



写真201 Boq'e Aqâ Pîr Mohamamad. 新しく建てられた廟。出入り口が二箇所あるが、使われているのは向かって左のもの。ワクフ慈善庁に登録された廟ではないが、ハージャトがあるため、地元の人々の信心の対象となっているという。



写真203 Bo'q'e Aqā Pir Mohāmmad. ハラムの中にはガラス張りのザリー。ザリーが緑色に見えるのは、ザリーの中に緑色の蛍光灯があるため、



写真202 Bo'q'e Aqā Pir Mohāmmad. ハラムの四方をサロンが取り囲んでいるが、一部は写真のように墓石が残っている。墓石の上の脚立は壁のペンキを塗るためのもの。



写真205 Bo'q'e Aqā Seyyed Zakariyā. 外のタイルとは異なり、白く塗られたハラム。廟の大きさに比べると小さく感じる。



写真204 Bo'q'e Aqā Seyyed Zakariyā. 青いタイル張りのドームと外壁を持つ廟。予算に問題がなかったと思われる。



写真206 Boq'e Āqā Seyyed Zakariyā. 墓地の中に建つ銀色のドームを持つ小さな廟。セイドたちが葬られているとされ、墓参の人たちの一部は、彼らがハージャトを持つからと、アーガー・セイエド・ザカリヤーと共にこの小廟にも参詣する。



写真207 Boq'e Āqā Seyyed Zakariyā. 廟の扉を開けると緑の布が敷き詰められている。布の下には墓石が置かれているが、名前は書かれていない。



写真208 Boq'e Āqā Seyyed Zakariyā. セイドたちの墓の上に置かれたパンジ・タン。ダヒールが結ばれているのは、ダヒールを結びやすいザリーなどを持たないから。



写真209 Boq'e Āqā Seyyed Zakariyā. 扉の取っ手に結ばれたダヒール。結ぶことができる場所ならどこにでも結んでしまう。



写真210 Boq'e Seyyede Zahrā Mir Hoseini. 村はずれの小径の突き当たり。廟の横手には小川が流れている。近年建て替えられたコンクリートの廟。外壁はコンクリートのまま。

写真211 Boq'e Seyyede Zahrā Mir Hoseini. 廟の裏手から。村はずれの木立の中にあることが分かる。



Boq'e Seyyede Zahrā Mir Hoseini



写真212

Bo'q'e Seyyede Zahrā Mir Hoseini

写真212 Bo'q'e Seyyede Zahrā Mir Hoseini. 廟内は何の飾りもないシンプルなもの。床も長いロール状の、廊下などに敷くための機械織り絨毯を切って敷いている。



写真213

Bo'q'e Seyyed Rūhollāh

写真213 Bo'q'e Seyyed Rūhollāh. マスジェドと一連なりになった廟。廟の敷地の周りには水田が広がっている。廟は向かって左手の一部のみで、残りは全てマスジェドとその付属施設。



写真214

Bo'q'e Seyyed Rūhollāh

写真214 Bo'q'e Seyyed Rūhollāh. 一部屋だけのハラム。マスジェドとはつながっておらず、独立した部屋となっている。ここも、セイエド・ザフラーと同じく、ロール絨毯を切って敷き詰めている。



写真215

Bo'q'e Seyyed Rūhollāh

写真215 Bo'q'e Seyyed Rūhollāh. 廟の扉の前は小規模な墓地となっている。村の共同墓地は他の場所にあるとのことなので、この廟に対して信仰心を持つ人が、ここに葬られることを願って、埋葬されたと思われる。



写真216

Bo'q'e Seyyed Rekābdār

写真216 Bo'q'e Seyyed Rekābdār. 村のバーザル地区の近く。敷地の中にアーザードの巨木が並ぶ。大規模なマスジェドや関連施設が並ぶ墓地の端に、白く新しい廟が見える。



写真218

Bo'q'e Seyyed Rekābdār

写真218 Bo'q'e Seyyed Rekābdār. 金属製のザリーが置かれたハラム。四方はサロンが取り囲むが、窓がいつもあり、派手さはないが、明るい雰囲気ハラムとなっている。



写真217

Bo'q'e Seyyed Rekābdār

写真217 Bo'q'e Seyyed Rekābdār. 窓際に置かれたアラム。アラムのあちこちにダヒールや緑の布が結ばれている。

写真219



Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad Yamānī

写真219 Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad Yamānī。アースターネ・キーソム街道沿いに建つ小さな廟。屋根は吹き替えられ、エイヴァーンの柱は新しくなっているが、廟本体にはほとんど手が入っていない。アースターネ・アシュラフィーエ郡ではほとんど残っていない、宗教画の描かれた廟。



Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad Yamānī

写真220 Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad Yamānī。入り口とは反対、西側から見たハラムの宗教画。こちら側は全体的に色あせが目立つ。



Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad Yamānī

写真225 Boq'e Āqā Seyyed Moḥammad Yamānī。廟内に置かれた木製サンドゥグ。周囲をめぐるのも難しい小さなハラム。その中にも宗教画が描かれている。モタヴァッリーは、こんな古くさい廟は建て替えたいが、(ボグエには)お金がないので難しいし、修理すままならないと嘆いていた。



Boq'e Seyyed Nūr Moḥammad

写真226 Boq'e Nūr Moḥammad。アースターネ・キーソム街道沿い、草地の中に建つ廟。廟の前に大きな木が立っているが、神聖なものが見なされているものではない。右端の扉が廟への扉だが、さび付いていて開けるのに助けを呼ばなくてはならないほどであった。



Boq'e Seyyed Nūr Moḥammad

写真227 Boq'e Nūr Moḥammad。扉もさび付いていたが、ハラムもしめった埃の匂いがするほどしけていて、靴下が湿ってしまうほどであった。締め切ったまま、空気の入れ換えがないのではないかとと思われる。



写真221 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad Yamani. 廟の外壁に描かれた絵。騎乗の人物に髪をつかんで振り回される人物。馬の足元には切り落とされた首が転がっている。廟の北面。



写真222 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad Yamani. 廟の外壁に描かれた絵の一つ。駱駝に乗った預言者ムハンマド。周囲には動植物が描かれている。廟の北面。



写真224 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad Yamani. 廟の外壁に描かれた廟。預言者ムハンマドのミラーージュの図。下に怪物が口を開けている。



写真223 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad Yamani. 廟内に描かれた絵の一つ。預言者ムハンマドが孫にあたるハサンとフサインを膝に抱いている図。



写真228 Boq'e Aqā Seyyed Hosein Kiyā. 金色の細いドームを持つ新しい廟。入り口を入れて正面に小さなハラムがあり、その両脇にサロンがある。左端に見えるのはマズジェド。



写真230 Boq'e Aqā Seyyed Hosein Kiyā. 広い墓地の中に建つ新しい廟とチェナールの大木。チェナールは、神聖な木と見なされていたが、今はそうした信仰は薄れてしまい、信仰の跡はほとんど全く見られない。女性たちに尋ねると、今でもこのチェナールが神聖なものだとは思っているものの、行動に出すことはなくなっているようである。



写真231 Boq'e Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Esmā'īl. 水田に囲まれた廟。写真右の屏の部分、ひさしが出ている範囲がハラム。廟の前に立つ背の高いアーサードの木は、以前は神聖な木と見なされていたが、今はその痕跡は見られない。



写真229 Boq'e Aqā Seyyed Hosein Kiyā. 小さなハラムに置かれた細長いザリー。長辺の部分はハラムの壁に近く、ザリーの周囲を回るのは大変なほど。

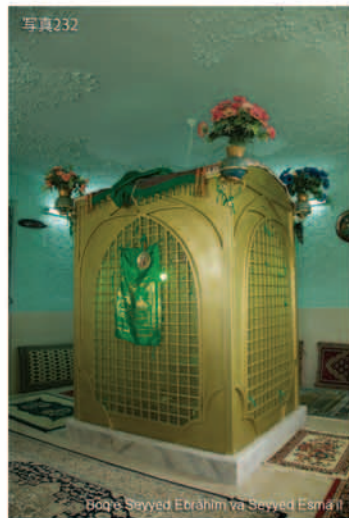


写真232 Boq'e Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Esmā'īl. ハラムに置かれたザリー。長方形でなく、正方形に近いザリーはあまり見られない。



写真233 Boq'e Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Esmā'īl. 廟の前に立つアーサードの木には信心の跡は残っていないが、廟の脇に生えている背の低い木にはいくつかのダヒールが見られる。この木が神聖だと見なしてのことなのかどうかははっきりとした答えは得られなかったが、単にダヒールを結びやすい木が手近にあるからではないかということであった。



写真234 Boq'e Seyyed Rasul. 銀色の大きなドームを持つ新しい廟。まだ工事は完全に終わっておらず、廟内などまだ工事が続いている。



写真237 Boq'e Seyyed Rasul. 廟の脇に立つ木はそれほど大きなものではないが、ダヒールが幾つも結ばれている。



写真238 Boq'e Aqā Seyyed 'Abdollah. 村の端、墓地が広がる中に建つ白い廟。廟の後ろは建設中のマَسْجِد。周囲には水田が広がる。



写真235 Boq'e Seyyed Rasul. ドームの下の空間を何本もの柱が取り囲み、中央にザリーが置かれている。今は真っ白に塗られているが、将来的にはアーイーネカーリーなどにしたいとのことであった。



写真236 Boq'e Seyyed Rasul. 廟内に置かれた殉教者墓地。今は、絨毯をここだけはずしているが、今後どうするのかについては確認が取れなかった。



写真239 Boq'e Aqā Seyyed 'Abdollah. 比較的新しい廟。二方向に入り口が設けられているが、実際に使われているのは向かって右のもの。大きなハーシャットを持つため、セイエド・アブドラーに対する信心を持つ人が多く、宗教的な祭日には多くの人が集まってきて、食事が振る舞われたりするという。



写真240 Boq'e Aqa Seyyed 'Abdollah. ハラムの入り口は広々としていて、ハラムの中のザリーを完全に見ることができる。ハラムも二方向に出入り口が作られているが、普段使用されているのは廟の入り口の正面にあるこの扉。



写真242 Cheshme. 泉と傍らの木には緑の布が巻かれ、神聖なものであることを示しているが、神聖なのは泉だけ。



写真244 Cheshme. 泉の傍らに立つアーザードの木は神聖な木というわけではないが、ダヒールが幾つも結ばれているのが見られる。

写真245 Boq'e Seyyed 'Ali. マスジェドの一部となった廟。マスジェドの右手に設けられた入り口からマスジェドに入り、マスジェド中央にあるハラムへ。ハラムの両側がそれぞれ男女別のマスジェドになっている。



写真241 Cheshme. アーガー・セイエド・アブドラーから水田の間の小径に入ると、水田の中に一本だけ立っている大木が目に入る。木の元に作られた小さな東屋風の建物が井戸を覆っている。ハージャトを与えてくれるというチェシュメ=泉がこれである。



写真243 Cheshme. 備え付けの紐付きバケツで水を汲む。2メートルほどの深さなので、これで十分。水は、遠く、テヘランなどからも汲みに来る人がいるほどハージャトを与える。しかし、水の品質を保つため、一年に一度、薬による殺菌消毒を行っているとのこと。偶然、筆者が訪れた前日に殺菌を行ったばかりとのことで、汲み上げた水は少し濁っていた。





写真246 Boqe Seyyed 'Ali. マスジエドの規模から想像するよりも小さなハラムに、大型の金属製ザリーが置かれている。ザリーの奥に見えるのはアラム。



写真247 Boqe Seyyed Mahmud. 村の住宅の裏手に建つ廟。道路からは見えず、看板も出ていないため、見つけるのが難しい。



写真249 Boqe Seyyed Malek Shahmiran. 村の墓地の中に建つ廟。入り口が何カ所かあるように見えるが、開いているのは右手に見える扉のみ。



写真250 Boqe Seyyed Malek Shahmiran. ハラムの四方をサロンが取り囲む。真っ白に塗られた壁を持つサロンには、絨毯がびっしりと敷かれ、ポシュティーがやはりびっしりと並べられている。



写真248 Boqe Seyyed Mahmud. 六角形の廟内には大型のザリーが置かれている。写真の女性は廟の鍵を預かっているモタヴァッリー。



写真251 Bo'q'e Seyyed Malek Shahmirān. ハラムも真っ白に塗られ、天井にはギャッチポリリー（＝漆喰細工）まで施されている。そしてハラムにもボシュティーがびっしりと並べられているが、足を伸ばして座るのは難しいように見える。



写真252 Bo'q'e Āqā Seyyed Hosein. 広々とした墓地の中、この墓地は墓石をタイルのように平らに敷き詰めるタイプの墓地。最近、このような墓地は増えてきている。写真左に見える建物はマスジェド。廟の裏側から右手にかけてアーザードの大きな木が取り囲んでいる。



写真253 Bo'q'e Āqā Seyyed Hosein. ハラムは決して狭くないのだが、ザリーは、入り口から向かって左手奥に寄せて置かれている。ザリーの奥にもボシュティーが置かれているが、人が座ることのできるスペースはない。



写真254 Bo'q'e Āqā Seyyed Hosein. ハラムの入り口脇にガラスケースに入ったルーハーニーの墓石が置かれている。絨毯が敷かれ、ボシュティーが用意されているが、この廟を訪れる人がどの程度このルーハーニーに関心を持っているかははっきりしなかった。

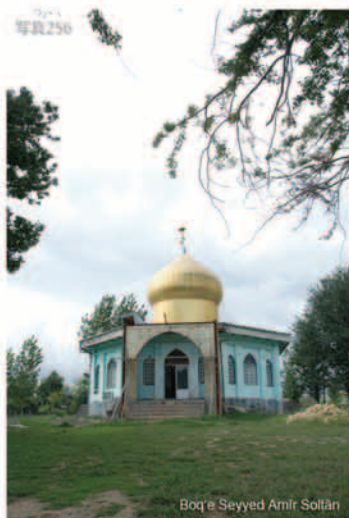


写真256 Bo'q'e Seyyed Amir Soltān. 正面入り口から、反対側にも入り口。入り口前にエイヴァーンを作るための工事中。



写真255 Bo'q'e Seyyed Amir Soltān va Āqā Seyyed Ebrāhīm. 中央の金色のドームを持つ廟がセイイド・アミール・ソルターン、向かって右の小さな廟がアーガー・セイイド・エブラーヒーム、左がマスジェド。中央に立つ背の高い木とマスジェドを隠すように建っている木は、神聖な木として人々の信心の対象となっていたが、今ではそうした風習は忘れられてしまっている。



写真257 Boq'e Seyyed Amir Solţān. アイーナカーリーで飾られたハラム。ザリーも資金が許せば、エスファハーン様式のものに取り替えたいという。



写真258 Boq'e Aqā Seyyed Ebrāhīm. アミール・ソルターンに比べると、小さく簡素な廟。



写真259 Boq'e Aqā Seyyed Ebrāhīm. 廟内に置かれたザリー。それほど広いはないが、明るくこぎざっぱりとした空間。



写真260 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. 壁絵が描かれていたという古い姿が想像できない、銀色のドームとハラムを取り巻く回廊を持つ現代的な廟。

写真262 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. ザリーにかけられた南京錠。人がかけた錠に新しく自分のものをかけている。



写真261 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. パーティションで区切られた廟。漆喰を塗っただけのシンプルで明るい廟内。



写真263 Boq'e Aqā Seyyed Moḥammad. ソトゥーデは「二本の大木」があるとしているが、現在見られるのは一本のみ。



写真263 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad. ソトゥーデは敷地内に「二本の大木」があるとしているが、現在見られるのは一本のみである。



写真265 Boq'e Āqā Pīr Joneid. ソトゥーデは「木々に取り囲まれた廟」と記録しているが、今ではほとんどが切られ、広々とした墓地となってしまう。四方にエイヴァーンを持つ廟という部分は変わらない。



写真267 Boq'e Dānā Āqā. マスジドと一連りになった廟。この裏手には川が流れ、レンガ造りの橋が架かっている。ソトゥーデはこの川の畔、この廟の近くにもう一つ廟があるとしているが、ダーナー・アーガーの管理責任者たちをはじめとするそんな廟は見たことも聞いたこともない、という反応であった。



写真266 Boq'e Āqā Pīr Joneid. 小ぶりなエスファハーン様式のザリー。木材を使った天井はギーラーンらしさを見せている。



写真268 Boq'e Dānā Āqā. マスジドの端にある廟の入り口。マスジドの扉は閉まっていますが、こちらは開けてあり、いつでも誰でも訪れることができる。



写真269 Boq'e Dānā Āqā. ハラム入り口の前に置かれた金属製のザリー。そのため、ハラム中央ではなく、壁際に寄っている。ザリーあるいはサンドゥグなどはハラムの中心に置かれることが一般的だが、ギーラーンでは中心からずれた場所に置かれることも珍しくない。その理由は明らかではない。



写真270 Boq'e Seyyed Mohammad Aqâ Pür Nür. 墓地の中に建つマスジェデ・ジャーメ。ソトゥーデがダーナー・アーガーの近くにあると記述していたが地元の人には否定されていた廟はこれではないかと考えられている。上村、下村の違いはあっても同じ名前の村であること、ソトゥーデの記述している名称がこの廟とほぼ同じであることなどからである。



写真272 Boq'e Seyyed Mohammad Aqâ Pür Nür. 二方向に扉を持つハラムに大型の木製ザリー。イランでは、礼拝の時間以外はマスジェドの扉を閉めていることが多いが、ここはこの廟があることから日中は常に扉を開いている。



写真271 Boq'e Seyyed Mohammad Aqâ Pür Nür. マスジェデ・ジャーメの角の一つに壁を立ててハラムを作っている。村の人によると、建物は新しくなっているが、以前からこのような形であったという。



写真275 Boq'e Aqâ Pür Mazâr. ハラムに置かれたザリー。ハラムにもボシュティーが並べられているが、敷いてあったはずの絨毯などは取り去られている。



写真273 Boq'e Aqâ Pür Mazâr. 現在のアースターネラーヒージャン街近く。水田に囲まれた廟。建て替えられているが、それ以前の形を維持し、三方にエイヴァーンを持っている。



写真274 Boq'e Aqâ Pür Mazâr. エイヴァーンには絨毯などが敷かれ、ボシュティーが置かれ、くつろぎの空間とされていることが多いが、ここはボシュティーなどが置かれてはいても、そのように機能しているようには見えない。



写真276 Boq'e Āqā Pīr Mazār. びっしりといたずら書きのされたザリー。真剣な願い事が書いてあることもあれば、単なる記念落書きもありさまざま。



写真277 Āqā Seyyed 'Alī Kiyā. 村の共同墓地、墓石が並ぶ向こうに、緑の布を巻いた木とザリーが見える。植え込みで区切られ、他の墓とは区別されている。



写真278 Āqā Seyyed 'Alī Kiyā. ザリーの傍らに立つシテムシャードの木には、根元からびっしりと分厚く緑の布が巻かれている。ザリーもシテムシャードに近い側には多くの布が結びつけられている。



写真279 Āqā Seyyed 'Alī Kiyā. ザリーの中には、バンジ・タンがずらりと並べられており、その下のバーはシャムダーンとなっている。



写真280 Āqā Seyyed 'Alī Kiyā. ザリーの床に墓石は見られず、側面に並べきれなかったバンジ・タンや緑の布、シテムシャードの小枝が散らばっている。



写真281 Āqā Seyyed 'Alī Kiyā. シテムシャードの木には、緑の布の他に、幾つものバンジ・タン、タスピーフ（数珠）などが結びつけられている。



写真282 Āqā Seyyed 'Alī Kiyā. ザリーの中のシャムダーンだけではなく、外でろうそくを灯す人もいる。ザリーの傍らに積まれたコンクリートブロックの一つがシャムダーンとして利用されている。



写真283 Boq'e Aqā Seyyed Mohammad. 村の外れ、住宅が並ぶがこの外は水田が広がるロケーション。マَسْجِدと一連なりになった廟。二本の木に挟まれた扉がハラムへの入り口であるが、マَسْجِد側からも出入りができる。



写真284 Boq'e Aqā Seyyed Mohammad. マَسْجِد側。ミフラーブの隣に設けられた扉がハラムへの入り口。



写真285 Boq'e Aqā Seyyed Mohammad. 細長いハラムの中央にザリーが置かれ、アラムが飾られている。

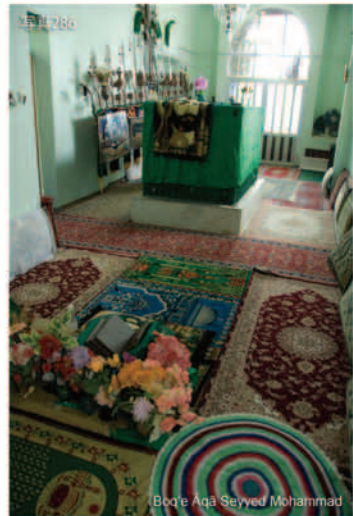


写真286 Boq'e Aqā Seyyed Mohammad. ハラムには、アーガー・セイエド・モハンマドに強い信仰を持っていた女性が葬られている。ズィヤラトの人の中には、ザリーに触れた後、この墓にも敬意を表していく人も見られる。



写真287 Boq'e Aqā Seyyed Reza. 銀色のドームを持つ新しい廟。太陽の位置と敷地の広さの問題から、廟の裏手の敷地の外から、ドームは完成しているが、外装はまだこれから。



写真288 Boq'e Aqā Seyyed Reza. 廟の入り口。普通は木を彫り込み、文様やゴルアーンの句を浮き上げさせるのだが、これは焼きこてにより木を焼いて書いた珍しいもの。



写真290 Boq'e Aqā Seyyed Reza. 廟の片隅に置かれた、取り替えられたザリー。これから、新しいザリーを必要としているが、購入資金に問題がある廟へと贈られる。廟内で使われるものは、基本的に使えなくなってしまうまでは使うのだという。



写真289 Boq'e Āqā Seyyed Rezā. 広い廟内に置かれたザリー。最近は、廟の立て替えの時にハラムとサロンを分けず、広い空間に人が集まれるようにしている廟も多い。



写真292 Seyyede Maryam. 幹に巻かれた様々な布。よく見ると、女性のスカーフが多い。これらの布は、結びつけてはあるが、ダヒールではなく、「エフダー (=寄付)」。こうして寄付されたものは、それを必要とする人に配られる。



写真294 Seyyede Maryam. セイエデ・マルヤムのすぐ近くには、このように家庭ゴミが散乱している。神聖な存在を汚すことになるのではないかと心配しますが、土地の人たちは全く平気である。



写真291 Seyyede Maryam. 集落と水田の間の空き地に立つ木。太い幹に緑の布をはじめとする色とりどりの布が巻き付けられている。男性たちは名前を知らないが、女性たちは何の迷いもなく名前を教えてくれた。



写真293 Seyyede Maryam. セイエデ・マルヤムの隣に、同じような大木の倒れた跡が残っている。聞いてみると、以前は双子の木だったという。しかし、片方は幹が腐って、倒れてしまった。



写真295 Boq'e Seyyed Nāser al-Dīn. 村の外れ、瓦屋根が残る貴重な廟。改修は行われているが、廟全体を取り壊すようなものでなく、エイヴァーンに壁を作り、サロンに変える程度のものであった。



写真296 Boq'e Seyyed Nāser al-Dīn. ハラムの周囲をめぐるサロン。窓が少ないためにそれほど明るくないが、ズィヤラトや墓参の人たちに場を提供している。



写真297 Boq'e Seyyed Nāser al-Dīn. 青く塗られた天井ドームを持つハラム。外光が取り入れられ、意外と明るい。ザリーの上の電光掲示板は最新式。



写真298 Boq'e Seyyed Nāser al-Dīn. 廟の前に建っていた歴史的建造物のタズィイーエ・ハーニーは解体修理中。敷地内のマズジェドを含め、歴史的建造物が集まっていた。



写真300 Āqā Seyyed Esmā'īl. マズールの前に置かれた募金箱、その上に緑の布が結びつけられ、タスピーフがかけられたりしている。



写真301 Āqā Seyyed Esmā'īl. 木の根元を覆う緑の布。何枚もの布を結びつけることで、細い木が広がることを押さえつける力を作っている。



写真302 Āqā Seyyed Esmā'īl. くぼみや枝を利用して、小石を挟み込んでいる。ここでは、ダヒールよりも小石が好まれているように見える。



写真303 Āqā Seyyed Esmā'īl. 木の周囲に巻かれた緑の布に石が挟み込んである。石が落ちてしまわないよう、布がきつく張り渡され、更に細い枝で支えが作られている。



写真299

Āqā Seyyed Esmā'īl

写真299 Āqā Seyyed Esmā'īl。マズジェド付属の墓地の中、背の高いアーザードの木に囲まれた中に立つ、アンジュール（いちじく）の木を取り囲むアーザードの細い幹の集まり。そこに緑の布が巻き付けられ、人々の信心の場となっている。



写真304

Boq'e Āqā Seyyed Yūsof

写真304 Boq'e Āqā Seyyed Yūsof。墓地の中に建つ廟。金色の小さなドームが屋根に乗っている方がアーガー・セイイド・ユースフ。左の建物はマズジェド。墓地の中には、一番手前に見えるようなコンクリートを墓石の形にしたものから、石に詩や肖像画を彫り込んだものまで新旧様々なものが見られる。



写真305

Boq'e Āqā Seyyed Yūsof

写真305 Boq'e Āqā Seyyed Yūsof。前方にエイヴァーンを持つ新しい廟。モタヴァッリーは、新しい廟を建てたいのにお金がない、と嘆いていたが、現在の廟も外壁は石張りであり、決してみずばらしいようなものではないように見える。



写真306 Boqe Aqā Seyyed Yūsuf. 広い廟内に金属製ザリ一。飾り気の一切ないハラム。



写真307 Āghā Seyyed Khorshīd. 同名のマスジェド付属の墓地の中に、基礎だけ作られた場所がある。以前はそこにマザールがあったが、切られてしまい、代わりに廟を建てようとしているところ。



写真308 Āghā Seyyed Khorshīd. 基礎だけ作られ、工事が進んでいないように見える。以前ここにあった木の切り株は、分厚く重ねた緑の布で保護されている。



写真309 Āghā Seyyed Khorshīd. 切り株。中が朽ちてしまったため切り倒されたということが分かる。廟の基礎の内側に、写真左上に見える古い墓が入ったままになっている。



写真311 Boqe Aqā Seyyed Jalīl. マスジェドと一体になった廟。外壁や屋根の色が完全に違っているので、別々に建てられたものであることが分かる。マスジェドの方は、コンクリートの壁がむき出しのままである。



写真310 Āghā Seyyed Khorshīd. 墓地の一角に、マザールに捧げられていた緑の布やバンジ・タンが集められている。特に緑の布は大変な量で、地域の人たちがどれだけマザールに対する信心を持っていたかが分かる。



写真312 Boqe Aqā Seyyed Jalīl. 廟の中心ではなく、壁に寄せてあるが、その脇に立つ二本の柱との位置関係を考えると、もともと壁はなく、もう二本の柱がそこにあったか、二本の柱の間にあったザリをずらしたかのどちらかではないかと思われる。

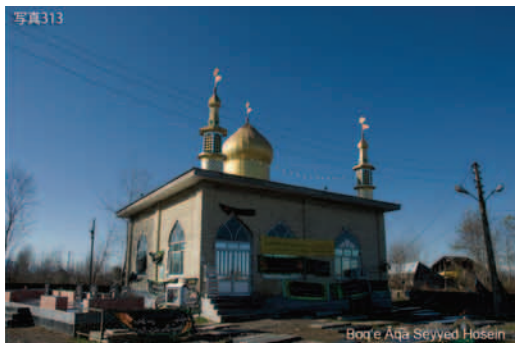


写真313 Boqe Aqa Seyyed Hosein. 近年建て替えられたばかりの新しい廟だが、雨の翌日に訪れたところ、雨漏りをしている箇所があって驚かされた。



写真314 Boqe Aqa Seyyed Hosein. 廟の拡張工事をした際に、廟の周囲にあった墓を廟内に取り込むことになったのか、絨毯の下には幾つもの墓石が見られる。廟を囲むように四本の柱を立てたり、ドームの下に柱を立てることがあるが、この廟は随分と廟内に柱が多い。



写真315 Boqe Aqa Seyyed Hosein. 窓枠に見られるろうそくを灯した跡。廟内のあちこちに、新しいろうそくの跡が見られることから、人が多く訪れていることが分かる。



写真316 Boqe Aqa Seyyed Hosein. 埋葬されたばかりの墓。廟内、あるいはシャファアの持ち主により近い場所に眠ることは来世での幸福につながるため、一般の墓地に比べて数倍の費用がかかる。

(2) Şoume'e Sarā郡の聖所



写真317 Boqe Seyyed Ja'far Aqa. パーザール地区近く、町の中心に建つ廟。マスジェドと隣接しており、ソウメエ・サラアの宗教的中心となっている。その割に廟内のキャバンティーが小さいと考えたのが、2013年にこの廟は取り壊され、新しい廟を建設するための工事が始まった。



写真318 Boq'e Seyyed Ja'far Aqā. ハラムの女性用スペース。壁の腰板には大理石が張られ、絨毯が敷き詰められている小さなスペース。ザリーの中にある緑の蛍光灯が照明の代わりになっている。



写真319 Boq'e Seyyed Ja'far Aqā. ハラムの男性用スペース。女性用に比べると面積は小さいが、ハラムに長居するのは女性の方が多いからと思われる。



写真320 Boq'e Seyyed Ja'far Aqā. ボグエと接して建てられているマスジド。右手の壁に見える黒い石段と壁龕は殉教者墓地。一般の墓地はここには置かれていないが、殉教者墓地より写真の手前側に、黄土色のザリーが見える。



写真321 Boq'e Seyyed Ja'far Aqā. マスジドの壁に掘えられたセイイド・ハサン・バーゲリーの墓。なぜここに葬られているのかは確認できなかった。



写真322 Boq'e Seyyed Ja'far Aqā. セイエド・ジャファル・アーガーから500メートルほど南に行くと、左手の道路脇、タブリーガーテ・エスラーミーのオフィス前に青緑色に塗られた、廟を持たないザリーが見える。町の中心に近いことから往来が多いが、胸に手を当て、このザリーに敬意を表して行く人も見られる。



写真323 Maqbara Seyyede Khadije. よく見ると、ザリーは道路と平行にはなっていない。



写真324 Maqbare Seyyede Khadije. ザリーの中に見られるろうそくを灯した跡。まだ新しく、このように人通りが多い場所でも折りを捧げる人が見られることが分かる。



写真327 Boq'e Seyyede Nesā'. 廟の中心よりも入り口側に寄せて小さなザリーが置かれている。その周囲にはレースをあしらったクッションが置かれ、清潔なカーテンがひかれ、それなりにお金と手間をかけている廟であることがよく分かる。

写真328 Boq'e Seyyede Nesā'. 廟の一面に置かれたランプ。非常に数が多く、また、全て使用できるようになっていることから、使用する人が多いと推測される。



写真329 Boq'e Seyyede Nesā'. 廟の入り口へと続く通路。塀と挟まれ、とても狭い空間。



写真325 Boq'e Seyyede Nesā'. 廟は民家が並ぶ中であり、それ自身、一般の民家のように見える建物。大通りと小路の交わる角地。



写真326 Boq'e Seyyede Nesā'. 敷地はとても狭く、建物の周囲はごくわずかな土地しかない。マスジドや墓地などは敷地内、近所にはない。



写真330 Boq'e Seyyede Nesā'. 廟の入り口前の階段下に備けられたシャムダーン。色とりどりのろうそくが重なり、多くの人を訪れ、日常的にろうそくを灯していることが明らか。

写真332



Boq'e Aqā Seyyed Habib

写真332 Boq'e Aqā Seyyed Habib. 墓地の中から廟を見る。現在の村の墓地は廟の近所のマスジェド・ジャーメの中。ここは古い墓が多い一角。塀の外、道路を挟んで向かいにも同様の墓地が広がっている。

写真333



Boq'e Aqā Seyyed Habib

写真333 Boq'e Aqā Seyyed Habib. 廟の奥、向かって左に寄せて置かれたザリー。子供のものなので、小型である。

写真334



Boq'e Aqā Seyyed Habib

写真334 Boq'e Aqā Seyyed Habibの写真。ギーラーンでは、廟を作る作らないは別として、身近に生きていた人物の墓所がズィヤラトガーとなるケースが見られる。墓所を訪れるのが家族だけでなく、また、ズィヤラトの目的が何らかのハージャトを得ることであるということがギーラーンの聖所の特徴の一つになるのではないかとと思われる。



Boq'e Aqā Seyyed Habib

写真331 Boq'e Aqā Seyyed Habib. マスジェド・ジャーメから移動して、道路がカーブした地点の両側に古い墓地が見られる。塀で囲まれた方に、小さな正方形の廟がある。子供が葬られている廟だから小さく小型のもの。セイエドの廟だが、緑ではなく、青で塗られている。



Boq'e Aqā Seyyed Mahdi Aqā

写真335 Boq'e Aqā Seyyed Mahdi Aqā. ソウメエ・サラの共同墓地の中。前面にタイルを貼ったアーチを用いたマスジェドの一部。金色のドームが乗っている部分。木曜日の午後や礼拝の時間、催し物のあるとき以外は鍵がかかっている。ソウメエ・サラの人たちが、墓参の際に立ち寄る。



Boq'e Aqā Seyyed Mahdi Aqā

写真336 Boq'e Aqā Seyyed Mahdi Aqā. ギーラーン各地の墓地には、写真のような屋根をかけた、緑色の柵をめぐらしたりしたセイエドの墓が多数見られる。その多くは、家族が訪れる程度であるが、時々、家族以外の人たちもハージャトを得るために訪れるようになる墓がある。なにがのきっかけて、「ハージャトを持つ」と認定されるのだろうが、そのシステムについてはまだはっきりとしない。



Boq'e Aqā Seyyed Mahdi Aqā

写真337 Boq'e Aqā Seyyed Mahdi Aqā. 広い廟内は、マスジェドの女性席も兼ねている。広い廟内に、大型のザリーが置かれ、その傍らにセイエドの墓が見られる。このセイエドがどのような人物かということについては分からなかった。



写真338 Boq'e Seyyed 'Abdollah va Seyyed Ebrahim. 川岸近くに建つ新しく大規模な廟。建物の工事の後は、廟の前の墓地の整備や廟の付属設備などを整備する予定とのこと。



写真339 Boq'e Seyyed 'Abdollah va Seyyed Ebrahim. 廟内もタイルで裝飾され、四本のタイルを貼った柱の間にザリイが置かれている。男女を分けるパーティションは、女性席の方が狭くなっているが、これは、この廟がマスジェドを兼ねているからだという。



写真340 Boq'e Seyyed Ebrahim va Seyyed Soleiman. 新しく建てられたばかりの廟。ハージャトのあるチェシュメで有名であり、仕事帰りの人がここで水を汲んだり、飲んだりしていくのが見られる。



写真341 Boq'e Seyyed Ebrahim va Seyyed Soleiman. ハラムはアーイーネカーリーで飾られ、大型のザリイが置かれている。写真手前に見える円筒に四角いふたが付いているのは、廟の下から湧いているチェシュメ。



写真342 Boq'e Seyyed Ebrahim va Seyyed Soleiman. 廟の裏手に墓地が広がり、神聖な木と見なされている木が立っている。



写真345 Boq'e Seyyed Ebrahim va Seyyed Soleiman. 廟の前に作られたシャムダーン。後ろの壁にもろうの垂れた跡が見える。



写真343 Boq'e Seyyed Ebrahim va Seyyed Soleiman. 墓地の中に立つ木の一本が神聖なものと思われ、ダヒールが結ばれるなどしている



写真344 Boq'e Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Soleimān. 木の枝に釘を打ち込みダヒールを結んだり、幹にめぐらせた緑のひもと幹の間に小石を挟んだり、幹の隙間に小石を差し込んだりと、様々な方法で願掛けを行っているのが分かる。



写真346 Mazār. 村を通る道路がカーブした地点。マザールの所在を尋ねた女性たちも、この先を曲がったところ、と説明してくれた。一本の木ではなく、何本もが集まっているように見える。



写真347 Mazār. 道路と反対側から。こちら側には柵が設けられている。墓地等は見られず、また、このマザールが誰のものなのかは知らないとのことであった。



写真348 Mazār. 道路側から。色あせた古い布から真新しいものまで、また、アボルファズルの横断幕も見られる。こちら側にはダヒールは少ない。



写真349 Mazār. 道路の反対側。こちらには柵が設けられているが、出入りは自由に見える。こちらも、緑の布が木の根元を覆い隠している。こちら側には手の届く枝にダヒールが結ばれているのが見られる。



写真350 Mazār. 枝に結ばれたダヒール。手の届く範囲の結びやすそうな枝にはほとんど、色あせたものから新しいものまで、何本ものダヒールが結ばれている。



写真351 Mazār. マザールの傍らに設けられた小さな集会場。マザールを ziyārat する人のためなのか、他に目的があったのかは分からないが、中に入ってみると、絨毯が湿っていたり、蜘蛛の巣が張っていたりと、しばしば使われているようには見えない。



写真352 Boq'e Āqā Seyyed 'Abdollah. 墓地の中に建つ新しい廟。ドームはコンクリートのままで、外壁も煉瓦がむき出しのままである。工事が行われている様子はないので、しばらくはこのままなのかと思われる。また、入り口が二箇所あるので、男女が分けられているのかと思ったが、向かって右側の入り口だけが開けられていた。



写真353 Boq'e Āqā Seyyed 'Abdollah. ハラムは男女分けられてはいない。壁はタイルで飾られているが、天井は鉄骨と煉瓦がむき出しのままとアンバランスである。四本の柱で支えられたドーム下にザリーが置かれている。



写真354 Boq'e Āqā Seyyed 'Abdollah. ドームを見上げてみると、天井の上、ドームの基礎部分に何枚も鏡が貼ってある。何のためにこのような場所に鏡を貼ったのかについては回答を得ることができなかった。



写真356 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. 二方向にエイヴァーンを持つ廟の前にはセイエドの墓が置かれているが、墓地と言えるような墓地は周囲には見られない。



写真355 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. 水田が広がる中、背の高いアーザードの木々に寄り添うようにしてシンプルな廟が建っている。



写真357 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. 廟の中心にザリーが置かれ、部屋をボジューティーが取り囲んでいる。村から離れた場所にあるが、ズィヤラトの人は多く訪れる。



写真358 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. ザリーを覆う緑の布を持ち上げると、ザリーにダヒールが大量に結ばれている。ここでは、全てダヒールで、南京錠やシェムシャードの小枝は見られない。ザリーが南京錠をかけるのに適さない形状であることも一因であると思われるが、それでも南京錠をかけたり、安全ピンを通したりするのを見ると、廟によって何かしらの傾向があるようにも思われる。



写真359 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. 木の枝の先に結びつけられたダヒール。廟の周囲のアーサードの木のほとんどにダヒールがごく少数見られるが、ダヒールを結ぶ場所ならこの廟の場合、ザリーがあるので、わざわざ木に結ぶ必要がないようにも思える。しかし、アーサードの木が神聖なものとなされているのなら、もっとダヒール等の数が多くて良いはずである。近所の村の若者たちが居合わせたので尋ねてみたが、「分からない」という返事であった。



写真363 Boq'e Āqā Pīr Shāh Maḥmūd. 普段は扉が閉まっているため、入り口の扉にダヒールが結びつけてある。ギーラランの米作地帯では、農繁期に人手が必要なため、廟の管理人なども農作業にかり出され、廟の管理ができないので鍵を開けていることが多い。廟によっては、農閑期もその習慣のまま、ほとんど廟の鍵を開かないということがある。



写真360 Boq'e Āqā Pīr Shāh Maḥmūd. マスジドと接するごく小さな廟。木曜日であったが扉は開ままでも、モタヴァッリーを探して鍵を借りたのだが、扉を開けた途端、墓参りに来ていた家族連れがすぐにやって来て、廟内で祈りを捧げていた。

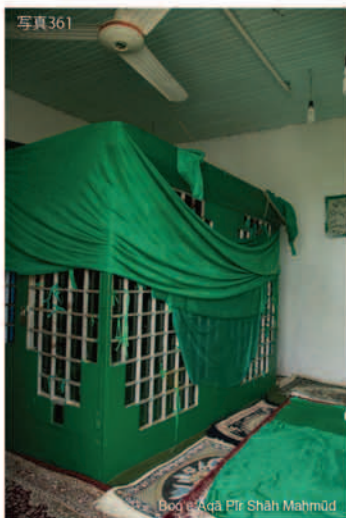


写真361 Boq'e Āqā Pīr Shāh Maḥmūd. 入り口左手の壁に寄せるようにして大型のザリーが置かれ、ザリーで廟がいっぱいになってしまい、ザリーの周囲を回るのが大変なほどである。



写真362 Boq'e Āqā Pīr Shāh Maḥmūd. 入り口正面に見えるセイエドの墓。廟を訪れた人は、このセイエドにも敬意を表して行く。



写真364 Boq'e Do Barādarān. 小さな敷地の中に建つ、小さな新しい廟。後ろに見える背の高いアーザードの木は敷地の外にあるが、廟に関係があるのかどうか確認できなかった。



写真365 Boq'e Do Barādarān. 入り口から見て左手の壁に寄せて墓石が置かれている。村の女性たちが木曜日の午後になると集まってくる。



写真366 Boq'e Do Barādarān. 敷地内に立つ木の幹に緑の布が巻かれている。神聖なものと見なされているということだが、最近はそのような信心は薄れているという。



写真367 Boq'e Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Hosein. 広い墓地の中に建つ、タイル張りの青いドームを持つ石張りの廟。右手奥に見えるのはマスジェド。



写真368 Boq'e Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Hosein. ドーム基部に設けられた窓から光が差し込むハラム。扉や壁で閉ざされていないので、ハラムを取り囲むサロンからもザリーがよく見える。

写真369 Boq'e Bichāre Moḥammad, 広い敷地を持つマスジェド。写真中央に立つアーザードの木は神聖なものとなされていた。その前の良い場所をセイイドの墓が占めている。

写真370 Boq'e Bichāre Moḥammad. ハラムとマスジェドは煉瓦を積んだ背の低い壁とカーテンで仕切られているが、ザリーと接している箇所はパーティションとなっており、マスジェド側からもザリーに触れることができるようになっている。



写真371 Boq'e Bichâre Moḥammad. 古いザリー。ゴミ捨て場のようにになっているマスジェドの敷地の端に無造作に置かれている。神聖なものなのだから、丁重に扱わなくてはいけないという意見もあれば、このようにゴミとして扱われる実態もある。



写真372 Boq'e Bichâre Moḥammad. 墓地に立つアーザードの木の幹。何本もの釘が打たれ、ダヒールが結ばれたり、シテムシャードの小枝がかけられているのが分かる。更に、釘を折り曲げて小石を支えたり、珍しいことに、100リヤール硬貨が差し込まれている。



写真375 Boq'e Bichâre Moḥammad. 木の幹に緑の布が巻かれ、ダヒールが結ばれ、シテムシャードの小枝が何本も挿げられている。



写真373 Boq'e Bichâre Moḥammad. 幹に打ち込まれた釘が引っかけ、シテムシャードの小枝が挿げられている。そのすぐ上には結ばれた枝も見え、継続的に行われていることが明らかである。



写真374 Boq'e Bichâre Moḥammad. 敷地の外にも緑の布が巻かれ、ダヒールやシテムシャードの小枝が見られる木が立っている。



写真376 Aqâ Seyyed Ebrâhim. マスジェドと、道路を挟んで広がる墓地の間に土台と柱だけつけられ放置されている廟が見える。工事が途中で止まっているのは、集められた資金を持ち逃げされてしまったため。



写真377 Aqa Seyyed Ebrāhīm. 作りかけのまま工事が止まっている廟内には、緑の布で覆われた墓石が置かれている。墓石の周囲の草は生い茂るに任せたまま。



写真378 Aqa Seyyed Ebrāhīm. 緑の布で覆われた墓は、雨の日にはビニールで覆いをかけられており、誰かがこまめに訪れ、世話をしているのが明らか。



写真379 Derakht. 水田が広がる中、ぼつんと残された木が神聖なものに見なされている。神聖なものだから残されたのか、何らかのきっかけが残ったから神聖なのかは分からないが、以前はこうした木はあちこちにあったという。今は木そのものも、信仰も減ってしまい、少なくなってしまう。

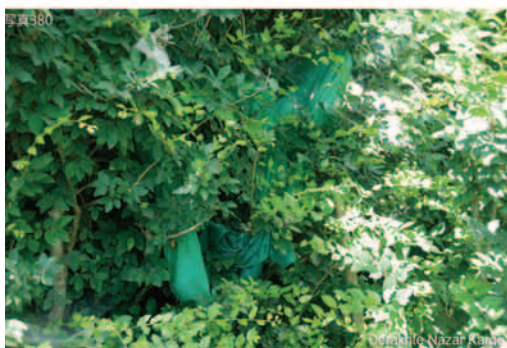


写真380 Derakht. かるうじて緑の布が残っているが、近所の人たちですらここに信心の対象としていた木があったことを覚えていない人も多い。



写真381 Derakht. 枝に残ったダビール。色あせ、新しいものは見られない。20年くらい前までは、折々、ここを訪れたものだし、夜中ランプを灯すといったことも行われていたという。



写真382 Boq'e Pîr Ashraf. 工事が終わったばかりの新しい廟。村に唯一のマスジエドとボグエはゴルアーン学校や様々な文化的・宗教的催しの中心となっている。



写真383 Boq'e Pîr Ashraf. 廟の中央に置かれた墓石。壁際にはずらりとボシュティーが並び、絨毯が敷き詰められている。集会場としては、マスジエドよりもこちらが使われることが多いという。2013年現在、墓石は、金属製のザリーで覆われているとのこと。



写真384 Boq'e Seyyede Halîme va Seyyed Esmâ'îl. 墓地のはずれに建つ小さな廟。緑の屋根がなければ物置にも見える。



写真385 Boq'e Seyyede Halîme va Seyyed Esmâ'îl. トタンで囲われた小さな廟。村の人たちによると、きちんとした廟を建てたいが、お金を集めるのが難しくてできずにいるという。

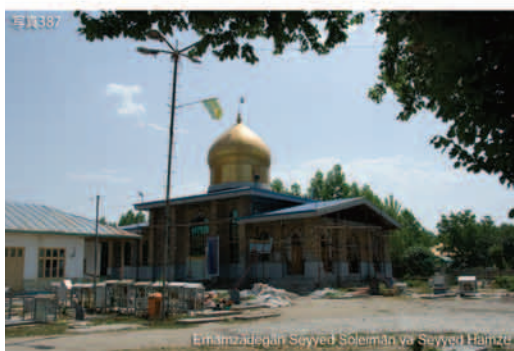


写真387 Emâmzâdegân Seyyed Soleimân va Seyyed Hamze. 村のバーザール地区の裏。金色のドームを持つ大規模な廟の建設が進められている。マスジエドを兼ねる予定とのこと。



写真386 Boq'e Seyyede Halîme va Seyyed Esmâ'îl. 入り口の上にはハリームとエスマーイールの名前が見えるが、村の人たちによると、ハリーム人しかいないという。ワクフ慈善庁がエスマーイールを加えたということである。



写真388 Emâmzâdegân Seyyed Soleimân va Seyyed Hamze. 工事中の現場に木製ザリーが置かれているが、これも工事が終わったら、新しいものに取り替える予定とのことである。

写真389



写真389 Āqā Na Na. 道路脇に忽然と現れる緑色の布。よく見ると、緑色の布で覆われたザリーが置かれていて、周囲にもいくつかの墓石が見える。近所の人たちに尋ね回って、名前は分かったものの、どういう人物なのか、この墓がアーガー・ナ・ナの墓なのかははっきりとしなかった。



写真390 Āqā Na Na. 緑の布で囲われ、緑の布が多数結びつけられたザリー。ザリーに囲われた墓は女性のもので、アーガー・ナ・ナとは関係ない人物。



写真391 Āqā Na Na. 現在建築中のマスジェドとアーガー・ナ・ナ。マスジェドの入り口（予定）の前にはろうそくを灯した跡が見られるが、理由は確認できなかった。

写真392



写真392 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī'. 墓地の中に立つ巨木が目印となる。ギーラーンでは、廟の傍らにこのように大木が一本立っていることが多い、各地の廟の管理者たちによれば日陰を提供するためとのこと。



写真393 Boq'e Aqā Seyyed 'Alī. 正面から。緑の多い小さな墓地の中の小さな廟。緑色が見られないので、エイヴァーンがなければ物置にも見えるほど。



写真395 Boq'e Aqā Mir Shoja' al-Dīn. 墓地を持つマスジェドの一角。向かって左端の扉が廟の入り口だが、マスジェドからも出入りできる。マスジェドは新しくなったので、次はボクエの墓石にザリーを置けたらと、モタヴァッリーは話していた。



写真397 Boq'e Aqā Seyyed Mohammad. 村はずれの低い丘の上。廟の向こう側には用水池が広がっている。廟の前の赤い屋根は殉教者墓地。



写真399 Boq'e Aqā Seyyed Mohammad. 入り口の扉に結ばれたダヒール。廟は木曜の午後以外は扉を閉めているので、ここにダヒールを結ぶ人も見られる。



写真394 Boq'e Aqā Seyyed 'Alī. 廟の向かって左手奥に寄せて置かれた墓石。黒板が置かれたりして、日常的に、参詣だけでなく訪れる人がいて、ここでくつろいでいる様子がうかがえる。



写真396 Boq'e Aqā Mir Shoja' al-Dīn. 一方の壁に寄せて墓石が置かれている。墓石の隣の開いている扉の向こうは台所。一番奥、水色のカーテンの奥は物置。木曜日の午後のみ扉を開いているが、墓参の人たちが多く訪れるとのことであった。



写真398 Boq'e Aqā Seyyed Mohammad. 広い廟内にはびっしりと絨毯がひかれ、廟の中央ではなく、入り口に近い場所にザリーが置かれている。



写真400 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad. 廟の前に置かれたコンクリートブロック。シャムダーンとして使われ、煤と新しいうで汚れている。



写真401 Boq'e Āqā Seyyed Mollā Jān. 川岸に建つ廟。以前は廟の周囲に墓地が広がっていたというが、町の再開発に伴い墓地はほとんどが撤去され、更地にされてしまった。現在は、近所に建つマスジェドの近くにわずかに残るだけ。



写真402 Boq'e Āqā Seyyed Mollā Jān. 塀に囲まれた小さな敷地。その中に数基の墓石が見られる。廟は、何年か前に泥棒に入られてしまい、それ以後、廟に鍵をかけるようになったという。



写真403 Boq'e Āqā Seyyed Mollā Jān. 川側の窓に寄せて置かれたザリー。泥棒が入るだけあって、お金が規模の割には投げ込まれていた。また、床には絨毯が何重にも敷かれていて、寄付の多さを物語るように見える。



写真404 Boq'e Āqā Seyyed Mollā Jān. ザリーに結ばれたダヒール。金網状のザリーで、ダヒールが非常に結びやすいため、たくさんのダヒールが結ばれている。結び目がたくさんあるのは、人が結んだダヒールを他の人も利用して結ぶため、結び目が増えていったもの。



写真405 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad Jān. ほぼ正方形の廟を拡張するための工事が始まり、柱が立てられたところ。現在建っている廟の内側も外側も、煉瓦がむき出しのままである。



写真407 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad Jān. 廟内には大型のザリー。ザリーの向こうに見えるカーテンは男女のスペースを分けるためのもの。



写真406 Boq'e Aqā Seyyed Mohammad Jān. 廟の扉の一枚。アラビア語が掘られている。このような扉は珍しくなかったはずが、新陳代謝の早いギーラーンではあまり見られなくなっていました。



写真409 Derakht. 幹に巻かれた緑の布。何枚もの布をつないでいることが分かる。このように緑の布を巻いて神聖な木であることを示していることが多い。



写真411 Derakht. 木の傍らに置かれた墓。コンクリートを流し固め、表面に名前や没年を書いただけの簡単なもの。現在、この場所は埋葬が禁じられている。



写真408 Derakht. スィヤーバル-ハシュトバル街道沿いに立つアーザードの大木。幹に巻かれた緑の布が目印。ハージヤトがあり、地元の人たちは今でもこの木に対する信心を持っているという。



写真410 Derakht. 双子の木よりも道路よりもう一本の神聖な木。こちらにもしっかりと緑の布が巻かれている。この二本は、ナザル・キアルデ、アーガーダール、マザールといった呼び方はされず、「デラフト=木」とだけ呼ばれている。



写真412 Boq'e Shāhpūr Yūsuf. アーザードの大木に囲まれるようにして建つ廟。珍しくペルシア語の名前を持つ。アーザードの木には敬意は表すが神聖なものというわけではないということであった。



写真413 Boq'e Shāhpūr Yūsuf. ひさしの出ている部分が入り口。写真中央に見える緑の筒は井戸。今はその左に見えるように水道が引かれたので井戸は使用していない。ボグエには井戸が掘られていることが多いが、これはギーラーンでは飲用水としては井戸水を用いていたことによる。



写真414 Boq'e Shāhpūr Yūsuf. ゲブレとの関係で、周囲の壁とは平行になっていない。絨毯が敷かれ、ボシュティーが置かれ、壁には様々なポスターなどが貼られている。とてもイランの廟らしい廟。



写真415 Boq'e Shāhpūr Yūsuf. ハラムの隣に設けられたサロン。木曜日や金曜日には、人が集まってくるという。



写真416 Boq'e Seyyede Kolshūm. 村はずれに新しく建てられた廟。とはいえ、壁がまだ中途半端で、廟前面では壁の高さが半分以下であったり、屋根との間に隙間が残っていたり、窓にガラスが入っていないなどいろいろ。いつ完成するのかについては、予算がきたらとのことであった。



写真417 Boq'e Seyyede Kolshūm. 雨や埃が入り込みやすそうな廟ではあるが、ハラムの様子を見ると、床もザリーも清掃が行き届いており、管理人がスイヤーラトの人が手入れを怠っていないということが分かる。



写真419 Seyyed Khorūse. 以前は墓の脇に二本の石の柱が立っていたというが、今は新しい墓石と新しいザリー。

写真418



Seyyed Khorūse

写真418 Seyyed Khorūse。現在のハフト・ダグナーン村から人工林を抜けて、かつての村へ。そのはずれに緑に塗られた屋根付きのザリーが見られる。気持ちの良いところなので、参詣を兼ねてピクニックに訪れる家族連れも週末には見られるとのこと。周囲にはかつての村の遺跡が散らばっている。

写真420



Seyyed Khorūse

写真420 Seyyed Khorūse。ソトゥーデが描写していた割れた墓石は取り替えられ、新しいものになっている。この聖所のワクフ代行者でありモタヴァッリーであるサブズアリー・アリーザーデ氏によると書かれている。



Pir Bakhsh 'Alī

写真421 Pir Bakhsh 'Alī。ターヘル・グーラープ在住の老人によると、革命の頃までこの空間に神聖な木があって、町の人が集まってナスルの食事などを取ったものだったが、名前は知らないとのことであった。



Boq'e Seyyed Ebrāhīm

写真422 Boq'e Seyyed Ebrāhīm。村のマスジェド・ジャーメ付属の墓地の中に小さな煉瓦造りの廟が建っている。扉は閉められたままで、モタヴァッリーも見つからなかったため情報は得られなかった。



Boq'e Seyyed Ebrāhīm

写真423 Boq'e Seyyed Ebrāhīm。廟の下からは水が湧き出し、敷地の外へと流れていく。泉への信仰は特に見られないようである。



写真424 Boq'e Seyyed Ebrāhīm. マスジェド・ジャーメの改築に伴い、様々なものが運び込まれ、物置のようになっている



写真425 Boq'e Seyyed Ebrāhīm. 墓地の中にセイエドの墓が囲まれている一角がある。中でも、右側、緑の布を巻かれたセイエドに対しては強い信心が向けられているように見える。



写真426 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. セイエドの墓石の縁に大量に残るろうそくを灯した跡。墓石の上にはランプが置かれているのも見える。



写真428 Akbar Cheshme. 廟の横手に湧いている泉。ここから周囲の水田へと流れて行く。大変にハージャトがあると信じられている。



写真427 Akbar Cheshme. 周囲を水田に囲まれた中に建つ小さな廟。廟の名前ではなく、チェシュメ（＝泉）の名前であるアクバル・チェシュメで知られている。また、廟の前ではなく、泉の脇にシャムダーンが設けられているのも、泉に対する信心のため。



写真429

Akbar Cheshme

写真429 Akbar Cheshme。チェシュメの脇に立つ木に結びつけられたダヒール。



写真430

Akbar Cheshme

写真430 Akbar Cheshme。廟内には小さな墓石が置かれている。墓石が小さいのは被葬者が子供であるため。



写真431

Akbar Cheshme

写真431 Akbar Cheshme。墓石の上に置かれたゆりかごの模型にびっしりとダヒールやタスビーフが結ばれている。ゆりかごは聖廟、特に子供や女性の関係する廟には比較的多く見られる。



写真432

Boq'e Pir Jall

写真432 Boq'e Pir Jall。村の入り口近くに広がる墓地の中。銀色のドームを持つ新築の廟。外装はまだ手がつけられていない。限られた予算での優先順位の問題であろうが、ギーラーンではこういう状態の廟が非常に多い。

写真434 Boq'e Āqā Pir Qavām。タイル張りの小さなドームを持つ廟。前面のエイヴァーンも外壁もタイルで飾られている。



写真433

Boq'e Pir Jall

写真433 Boq'e Pir Jall。広い廟内には大型の金属製ザリー。壁もコルアーンの章句で飾られたタイルがはられているが、天井はまだ煉瓦がむき出しのまま。

写真435 Boq'e Āqā Pir Qavām。墓地側から廟を見ると、側面の途中でタイルが終わっている。廟の裏側もタイルは貼られていない。



写真434

Boq'e Āqā Pir Qavām



写真435

Boq'e Āqā Pir Qavām



写真436 Bo'q'e Āqā Pīr Qavām. 廟の入り口からパーティションで男女に分けられ、ザリーに至る。ザリーの左右は広々とした、礼拝絨毯を敷き詰めたマスジェド。ザリーの後ろには部屋が作られ、台所となっている。



写真437 Bo'q'e Āqā Pīr Qavām. 1年後、廟の前を通りかかると、ゴルダステが乗せられていた。しかし、外壁のタイルはまだ工事が進んでいなかった。写真のような銀色や金色のゴルダステやドームは、マーザンダラーン州で生産が盛んであり、注文を受けてイラン各地に出荷している。



写真438 Ārāmghāhe Seyyed Mahmūd Fāzel. 村にある保健所の前の空き地の中。緑の布で覆われた小さなザリーがぼつんと見える。今は空き地に見えるが、以前は、この墓の持ち主が住んでいた家があったという。死後、墓地ではなく、家のあった場所に葬られ、生前、とても良い人だったことと、ハージャトを与えてくれるということから人々が訪れるようになった。



写真439 Ārāmghāhe Seyyed Mahmūd Fāzel. 現在、中心となるこの墓の他に、家族のものとされる墓が数基残っている。



写真440 Ārāmghāhe Seyyed Mahmūd Fāzel. ザリーに取り付けられた募金箱。扉が壊れているので役に立たなくなってしまう。ザリーなどにダヒールが結ばれているが見える。



写真441

Arâmghâhe Seyyed Mahmûd Fâzel

写真441 Arâmghâhe Seyyed Mahmûd Fâzel. ザリーの前に置かれているシャムダーン、中華鍋を伏せたような形の上の土にろうそくの跡が見える。新しいものは少ないが、まだ訪れる人がいることは分かる。



写真442

Boq'e Aqâ Chahâr Barâdarân

写真442 Boq'e Aqâ Chahâr Barâdarân. 水路の脇を通る道が大きくカーブした地点。近年立て直されたばかりの廟が建っている。周囲は水田に囲まれ、墓地やマスジェドは見られない。



写真443

Boq'e Aqâ Chahâr Barâdarân

写真443 Boq'e Aqâ Chahâr Barâdarân. 廟内には下部が開いているザリーが墓石を覆い、訪れる人が直接墓石に触れることができるようになっている。墓石に四兄弟の名前が刻まれている。



写真444

Boq'e Aqâ Chahâr Barâdarân

写真444 Boq'e Aqâ Chahâr Barâdarân. 誰もが容易に触れることのできる墓石は緑の布で覆われている。ザリーではなく、墓石の上に置かれたパンジ・タンにダヒールが結ばれている。



写真445

Boq'e Bâbâ Sa'îd

写真445 Boq'e Bâbâ Sa'îd. ターヘル・ゲラープから川を越える橋を渡ってすぐ目の前に見えるマスジェド付属の墓地の中。建設途中の六角形の廟。廟の周囲にはまだ建材が散らばっている。



写真446

Boq'e Bâbâ Sa'îd

写真446 Boq'e Bâbâ Sa'îd. 廟内はまだ工事が進んでいない。しかし、ズィヤラトの人のため、ザリーは残されている。しかし、墓石は外されてしまっているため、ザリーの中は空である。



写真447

Darvish Aqâ

写真447 Darvish Aqâ. 街道から村へ向かう道路の分岐点。小さな墓地が広がる中に、アーザードの巨木が立ち、神聖な木として信仰されている。ダルヴィーシュが埋葬されるとされるが、どのような人物かは分からない。木の前にある墓石は関係ない人物のもの。



写真448

Darvish Aqâ

写真448 Darvish Aqâ. 倒木の後ろに地に這うように枝を伸ばしたアーザードの木。その裏には小川が流れている。他にもアーザードの木はあるが、緑の布を巻かれたこの木だけが崇敬の対象となる。



写真449 Darvish Aqâ. 緑の布が掛け渡された幹や枝。他で見えるようなダヒールは結びにくいのが少ないが、枝全体に巻いて結んだ布が多く見られる。



写真450 Darvish Aqâ. 盗掘の穴。廟や神聖な木の下には宝物が埋まっていると考える人は多く、盗掘が絶えない。そのため、外から来る人間を警戒する一面がある。調査許可書を持っていても、盗掘を疑われ、警察を呼ばれることがあるのはこうした理由。



写真451 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhim va Seyyed Mohâmmad. 村はずれの広い空き地の中。背の高いアーサードの木が目印になっている。廟の周辺は墓地となっている。



写真452 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhim va Seyyed Mohâmmad. 廟の前方に大きく張り出したひさしを持つ廟。木曜の午後以外には扉を閉めている。



写真453 Boq'e Seyyed Ebrâhim va Seyyed Mohâmmad



写真454 Boq'e Seyyede Kolşûm va Seyyede Fâteme



写真455 Boq'e Seyyede Kolşûm va Seyyede Fâteme



写真457 Boq'e Seyyede Kolşûm va Seyyede Fâteme

写真453 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhim va Seyyed Mohâmmad. 小さな廟いっばいに、とところどころにダヒールを結ばれた金属ザリーが置かれている。ハラムは特に飾りもない、非常にシンプルなもの。

写真454 Boq'e Seyyede Kolşûm va Seyyede Fâteme. 黄色のドームを持つ新しい廟。外壁はレンガがむき出しになったまま。

写真455 Boq'e Seyyede Kolşûm va Seyyede Fâteme. 入り口正面、ハラムの中央からはずれた場所に、とところどころにダヒールが結ばれたザリーが置かれている。

写真457 Boq'e Seyyede Kolşûm va Seyyede Fâteme. 木の幹にたくさんの釘が打たれ、ダヒールが結ばれている。緑色の布だけでなく、様々な色の布が見られる。本来、布やひもはどんなものでも構わないのだが、最近は緑の布を裂いたひもが主流となっている。



写真456 Boq'e Seyyede Kolşüm va Seyyede Fâteme. 廟の傍らに立つ巨木。一部は朽ちて落ちているが、まだ人々の信仰を集めている。



写真458 Boq'e Seyyede Kolşüm va Seyyede Fâteme. 木の幹のくぼみに蟻蟻を立てた跡。他にも見られるので、根元でろうそくを灯すよりもこちらが良いという人がいるらしい。



写真459 Boq'e Seyyede Kolşüm va Seyyede Fâteme. 木の根元に置かれたコンクリートブロックがシャムダーンとして用いられている。色とりどりのろうが重なり、混じり合っている。



写真460 Seyyede Maryame Nürî. ターヘル・グーラフからアンザリー街道へ向かう街道沿いに、アーザードの木が何本かまとまって立っている場所がある。



写真461 Seyyede Maryame Nürî. それをよく見ると、幹に緑の布が巻かれているのが分かる。アーシューラーの時など、宗教的な祭日には黒いエマーム・ホセインやアボルファズルの名前入りの布に変わっているので、こまめに世話をしている人があると思われる。



写真462 Seyyede Maryame Nürî. 幹に布は巻かれていないが、木の幹には釘が打たれ、ダヒールが結ばれている。ところどころには、小石が差し込まれているの見える。他の木にはほとんど見られないこうした行為から、この一本が、この聖所の中心となっているように見える。



写真463 Seyyede Maryame Nuri. 石の上でろうそくを灯した跡。それほど古いものではないので、今でもここを訪れ、ハーシャットを得ようとする人がいるということ、ナズルの食事を配り、食べた後のプラスチック容器が散乱しており、ナズルも配られている「生きた」聖所であることが分かる。



写真464 Seyyede Maryame Nuri. 写真では分かりにくいですが、盗掘の跡が見られる。一箇所だけだが、かなり深く掘られていた。



写真465 Seyyed. 道路に覆い被さるように延びたアーザードの大木。季節には、大きく日陰を広げる。この木の下に、セイエドが葬られているとされ、地域の人たちの信仰の対象となっている。



写真467 Seyyed. セイエドの墓。緑の布で覆われ、造花が飾られてる。近所の人たちが手入れをしているらしい。学校帰りの高校生が、ここでおしゃべりをしながら一休みしているのも日常の光景。



写真468 Seyyed. 木に巻き付けられた緑の布やダヒール。ダヒールは、墓石に結ぶことができないからなのか、この木に対しての信心故なのか判然としない。



写真466 Seyyed, 木の根元に置かれたコンクリート製の墓石。セイエド、とだけ呼ばれ、名前や来歴は全く伝わっていない。しかし、ハーシャトを与えてくれると、人々の信心を集めている。



写真473 Qabrestāne Masjede Jāme'. 二つ並ぶ小さな方。二人のセイエドの墓がおさめられている。



写真469 Boq'e Āqā Seyyed Zākī. マスジェド付属の墓地から廟の入り口を見る。一番右側の扉はトイレのもの。その隣、ひさしの下の扉が廟への扉。マスジェドの扉は閉まっていますがこちらは開けてある。



写真470 Boq'e Āqā Seyyed Zākī. ザリーの写真奥の二面がマスジェドに接した男性用スペース。ここからマスジェドに出入りすることができる。

写真471 Qabrestāne Masjede Jāme'. マスジェデ・ジャーメ付属の墓地の中に建つ二つの小さな廟。地元のセイエドたちの墓。



写真472 Qabrestāne Masjede Jāme'. 正面が薄い緑に塗られた廟の中。正面の中心となる墓の他にも、いくつかのセイエドの墓が見られる。



写真474 Qabrestâne Masjede Jame'. 墓地の中のセイエドの墓の一つ。これから何かを建てるのか、コンクリートブロックが用意されている。



写真475 Boq'e Aqâ Seyyed Khalil. マスジェド付属の墓地の中、通り沿いに建つ小さな廟。扉は開け放してあった。



写真476 Boq'e Aqâ Seyyed Khalil. 廟の所在を尋ねた時には、写真474のセイエド・ハリールを紹介されたり、知らないという反応が多かったので忘れられた廟かと心配したが、廟内の様子を見ると大切にされているのが分かる。



写真477 Qabrestâne Rüstâye Küde. 村の共同墓地の中。六角形の小さな廟が作られている。この墓地は、マスジェド寄りのコンクリートで整地してある場所の墓石は、平たいものがタイルのように敷き詰められている。



写真478 Qabrestâne Rüstâye Küde. 廟の中はセイエド一家の墓が並ぶ。訪れた人が座ることができるよう、句の壁際だけに絨毯をひき、ボシュティーが置いてある。家族や親戚以外の人を訪れる場所となっているかどうかは分からない。



写真479 Qabrestâne Rüstâye Küde. 廟の近くにあるセイエドの墓。四隅に旗を立て、緑の布で覆った墓である。どのような人物であるか確認することができなかった。



写真480 Qabrestâne Rüstâye Küde. 墓の持ち主は、セイエド・ハサン・アラム・ビーニン。名前は分かるが、どのような人物であるかを知らせる情報は書かれていない。



写真481 Boq'e Borj 'Ali. 川にかかった橋のたもと近く。マスジェドと一連りになった廟。右側の屋根の色が異なる部分。



写真482

Boq'e Borj 'Ali

写真482 Boq'e Borj 'Ali. カーテンで廟とマスジェドを区切っている。ハラムに置かれた墓石が斜めになっているのは、キブラとの関係。木曜日の午後になると女性たちが大勢集まってくるという。ハラムには、女性たちが忘れていったとみられるバッグやサンダルなどが絨毯の上に残されていて、驚かされた。



写真483

Boq'e Aqā Seyyed Hājī Zimsār

写真483 Boq'e Aqā Seyyed Hājī Zimsār. マスジェドと一連なりの廟。マスジェドの前に立つアーザードの木は、偶然そこに立っただけ。向かって右側のドアが廟に続いている。



写真484

Boq'e Aqā Seyyed Hājī Zimsār

写真484 Boq'e Aqā Seyyed Hājī Zimsār. パーティションで廟とハラムを区切り、マスジェドからもザリーに触れることができるようにザリーを置いている。ザリーの向こう、窓際にアラムが置かれている。普段は扉は閉じられている。



写真485

Boq'e Seyyed 'Abbās

写真485 Boq'e Seyyed 'Abbās. 新しい廟を建てるため、廟は取り壊されている。スィヤラトの人たちのため、ザリーだけがビニールシートで覆われた仮の小屋の中に残されている。



写真486

Boq'e Seyyed 'Abbās

写真486 Boq'e Seyyed 'Abbās. 仮のハラムに置かれた金属製ザリー。地元の人たちは、このような状態でここを訪れているという。



写真487

Boq'e Aqā Jalīl Mūsavī

写真487 Boq'e Aqā Jalīl Mūsavī. 墓地の外れに建つ小さな廟。廟の前の木は神聖なものと考えられていたが、今は忘れられている。



写真488

Boq'e Aqā Jalīl Mūsavī

写真488 Boq'e Aqā Jalīl Mūsavī. 小さな廟内は、数人が入るといっぱいになるくらい。入り口に入って左手に寄せて墓石が置かれている。手前は別なセイエドのもの。墓石の高さの違いは、被葬者への崇敬の差。



写真489 Boq'e Āqā Ja'il Mūsavi. 廟内に葬られているセイエドたち。石に彫られた肖像写真。壁にはエマームたちの肖像画。



写真490 Boq'e Āqā Ja'il Mūsavi. 廟内の募金箱にかけられた南京錠。右の銀色のものが募金箱の鍵。左端のものは錠がかかっている。



写真492 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad. 街道沿いに広がるバーザールの裏側。マスジェドと一連なりになった廟。向かって左の扉が廟への扉。鍵を管理している人が村にいないことが多く、木曜日にも扉を開いていないことが多い。



写真491 Boq'e Āqā Ja'il Mūsavi. セイエドの墓。緑の布が巻かれ、ダヒールも見られるが、どのような人物かについては確認が取れなかった。



写真494 Boq'e Pile Qor'ân. マスジェドと一連なりになった廟。向かって左端の小さな扉が出入り口。以前、このマスジェドに置かれていた神聖なゴルアーンは盗まれてしまい、ここにはない。しかし、ザリーを置き、ゴルアーンが戻ってくるのを待っている。



写真493 Boq'e Āqā Seyyed Mohammad. マスジェドとは腰までの高さの壁と鉄の柵で区切られ、カーテンで目隠しされている。エマーム・ホセインの名前のプリントされた黒い布でザリーを覆っているのは珍しい。



写真495 Boq'e Pile Qor'ân. 低い壁でマスジェドと区切られたハラムには、金属製のザリーが置かれている。

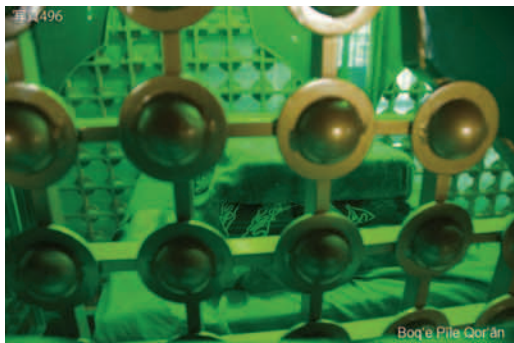


写真496 Boq'e Pile Qor'an. ザリーの中には墓石ではなく、布に包まれたゴルアーンが三冊置かれている。本来のゴルアーンに戻ってきたらここに収める予定。



写真497 Boq'e Pile Qor'an. マスジドからハラムを見る。マスジドは清掃途中だったため、ポシュティーが倒されたりまとめられりしている。



写真498 Boq'e Seyyed Malek Shahmiran. 墓地の外れに建つ二つの小さな廟。ボグエは左の白い壁の建物。右はセイエドの墓。セイエドの墓の方が広く見える。



写真499 Boq'e Seyyed Malek Shahmiran. 廟内には、一般的な墓石よりも幅の広いものが置かれている。廟内の壁には、エマームの肖像画などがびっしりと貼られている。



写真500 Boq'e Seyyed Malek Shahmiran. 二人のセイエドの墓。壁に書かれているのは二人のセイエド名前。墓石は、二人分なので大型のもの。墓参の人たちがボグエと共に立ち寄ることもあるとのこと。



写真502 Boq'e Aqa Piran. 廟に入って左手の壁に寄せて置かれている墓石。ザリー等は、今のところ設置の予定はないとのことであった。



写真501 Boq'e Aqa Piran. 商店などの集まっている村の中心近く。墓地の中に建つ廟。村の人たちの集めた資金のみで建てた廟であることが誇り。廟の裏手に立つ背の高い木も神聖なもので、人々の願いを叶えてくれる力があると信じられている。



写真503 Boq'e Aqā Pirān. 墓石に取り付けられたパンジ・タンにびっしりと結ばれたダヒール。墓石の上に積まれているのはゴルアーンやドーア集。



写真504 Boq'e Aqā Pirān. 廟の裏手に、神聖な木が立っている。今でも根元に緑の布が掛け渡されているのが見えるが、昔ほどは信心されていないとのこと。



写真505 Boq'e Aqā Seyyed Nūrollāh. 倉庫のようで、あまりボグエには見えない廟。廟の前には墓地が広がり、後ろには水田が広がっている。



写真506 Boq'e Aqā Seyyed Nūrollāh. 壁が落ち、蜘蛛の巣も所々張っている状態のハラム。中央に大型の木製ザリーが置かれている。ザリーに結ばれたダヒールを見ると、訪れる人がいることが分かる。



写真507 Boq'e Aqā Seyyed Nūrollāh. ザリーは枠組みが木製で、格子部分は金属、更にその上に金網が張られている。金属部分は錆が浮いているが、金網にはダヒールが色あせかかったものから新しいものまで多数結ばれている。



写真508 Boq'e Aqā Seyyed Nūrollāh. 廟内には、ザリーの他にも、セイエドたちの墓が見られる。ザリーの並びや、写真のようなザリーの前の部分などである。



写真509 Derakht, ヌーローラーとマスジェドの間の道を村の外に向かうと煉瓦の橋がある。橋の向こうに立つ木が願い事を叶えてくれる神聖な木であると信じられている。



写真510 Derakht. 橋を渡ると、周囲より1メートルほど高くなった場所に一本の木が立っている。名前は分からないが、周辺に同じ種類の木は見られないとのことである。



写真512 Derakht. 枝に結ばれたダヒール。色あせたものから新しいものまで様々である。細い枝ではなく、比較的しっかりした太い枝が選ばれ、結ばれている。ところどころ、ダヒールというより、二本の枝をまとめるために結んでいるかのようなひももある。



写真514 Maqbare Seyyede Khadije. 背の高いアーザードの木に寄り添うように、緑に塗られた小さな廟が建てられている。



写真511 Derakht. 木の根元近くの比較的太い枝にもダヒールが結ばれている。木の中心は朽ちて洞になっている。



写真513 Derakht. 木の根元には、盗掘の穴が開いている。盗掘は縦穴が多いのだが、ここでは斜面を横に掘り抜いている。



写真515 Maqbare Seyyede Khadije. 緑色に塗られた小さな廟がここにあることは、村の人は認識している。しかし、どのような人物が葬られているのかということについては「さて、誰だっけ？」と考え込まれてしまう。ようやく、一人の男性が、「ハディージェだったと思うけど、どうだったかな」と自信なさげに思い出してくれた。



写真516 Maqbare Seyyede Khadije. 廟の中には墓石が置かれ、絨毯などが敷かれている。清掃も行き届いていることから、スィヤールトの人がいて、管理する人がいることが分かる。



写真517 Boq'e Aqā Seyyed Hosein. 墓地の端に建つ新しい廟。以前一連りの建物であったマスジェドは、墓地内の別な場所に建設中。



写真518 Boq'e Aqā Seyyed Hosein. 天井に触れそうな高さのエスファハーン様式のザリー。ザリーの高さ自体は他の同じ様式のザリーと変わらないので、天井が低いものと思われる。



写真519 Boq'e Aqā Seyyed Zaki. 村の住宅が並ぶ地区の中、大きなマスジェドの一部。以前は、ノマニーと呼ばれる大型で神聖なゴルアーンが置かれていたが、現在はヘイアトル・オマナーの家に保管されているというので、見せて欲しいと申し入れたところ、シャベ・ガドルにしか公開しないということで、見ることはできなかった。



写真521 Boq'e Aqā Seyyed Zaki. マスジェドの一部をパーティションで区切り、ザリーの一面をマスジェド側からも触れることができるようにしてある。



写真520 Boq'e Aqā Seyyed Zaki. 廟内に置かれたセイエドの墓。墓石は絨毯の下だが、緑の布を広げることで、セイエドの墓があることを示している。三つものナフル (nakhl = 書見台) が置かれている理由は不明。



写真522 Boq'e Aqā Seyyed Zaki. 廟内に置かれたデスクの上に緑の布を裂いたタビール用のひもが用意されている。ザリーなどに結びついたり、手首に巻き付けたりする。普通は、ザリーなどを覆っている緑の布の端を、スィヤラトの際に自分で裂いて結ぶ。



写真523 Seyyed Sādāt. 村のバーザール地区にあるマスジェド・ジャーメ付属の墓地の中、緑に塗られた小さな廟が建っている。セイエドの墓、と伝えられているだけで、どのような人物かは明らかではない。



写真524 Seyyed Sâdât. 小さな廟内の、壁いっぱいには貼られたポスター類や、床一面に敷き詰められた絨毯などから、この小さな廟が丁寧に、ズィヤーラトの人たちによって手入れされていることが分かる。



写真527 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhîm va Seyyed Jamâl. 金属製ザリーが置かれた廟。天井はガラスをはめ込まれたドーム。ザリーでほぼいっぱいになってしまう小さなハラム。ザリーに緑色の光を発する蛍光灯が取り付けられている。



写真529 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhîm va Seyyed Jamâl. 広い廟内の中央よりも、入り口から見て左に寄せて金属製ザリーが置かれている。セイエド・ジャマールとセイエド・エブラーヒームのザリーは、エマームの名前などを打ち出した金属のプレートをザリー表面に、裝飾として打ち付けている。これは、他ではあまり見られない。



写真525 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhîm va Seyyed Jamâl. 村はずれの墓地の中にある二つの廟。以前は、写真中央、上部が朽ちて落ちてしまった木もセイエドとして数え、三人のエマームザデーの聖所と考えられていた。しかし、木が倒れ、現在は二人のセイエドの聖所となっている。



写真526 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhîm va Seyyed Jamâl. マスジードと一連なりになったセイエド・ジャマールの廟。カルバラーの悲劇を描いたタイル絵などで飾られた部分。廟の前にはシャヒードの墓が並ぶ。



写真528 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhîm va Seyyed Jamâl. 墓地を挟んでセイエド・ジャマールと向き合って建つ廟がセイエド・エブラーヒーム。屋根の上の黄緑色のゴンバドが乗っていないければボクエには見えない。

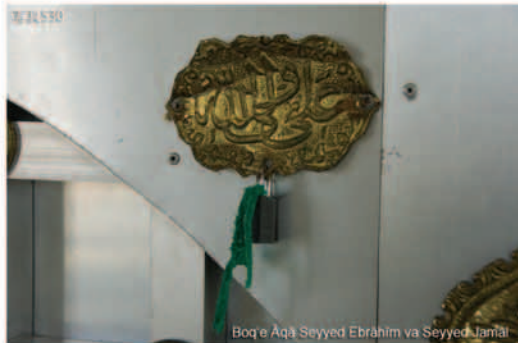


写真530 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhîm va Seyyed Jamâl. ザリーに取り付けられたプレートの釘穴を利用して、南京錠をかけ、その南京錠を利用してダヒールが結ばれている。ダヒール等を結ぶ隙間を何とか見つけようという努力が見られる。



写真531 Boq'e Aqā Seyyed Ebrāhīm va Seyyed Jamāl.
朽ちて倒れてしまった木の残った部分に巻かれたダヒール。今でもこの木のハージャトを信じ、ダヒールを結びに来る人はいるとのこと。



写真534 Aqā Bozorge. ビール・バーザール・ズィヤーバル街道沿いに立つ聖樹。名前は近所の人たちから聞き取ったもの。地元の人々の信心の対象となっている。



写真536 Aqā Bozorge. 木の下にある看板に結びつけられたパンジ・タンと、そこに結びつけられたダヒール。目の前に当の聖樹があるのに、なぜここにダヒールを結ぶのか不思議である。



写真532 Boq'e Seyyed Qāsem. 町のバーザール地区の中にあるマスジェド・ジャーマの敷地の中に建つ廟。マスジェドと廟に付属している墓地はない。この廟がソトゥーデが記録しているChehel-tanかどうか確認は取れなかった。



写真533 Boq'e Seyyed Qāsem. 絨毯が敷き詰められ、広々とした廟内の奥に置かれた墓石。ズィヤーラの母子は、毎週末ここを訪れ、掃除をして、墓石の傍らで祈り、休んでいくとのことであった。「セイエドは、とてもハージャトがあるのよ」とお母さんは上機嫌。



写真535 Aqā Bozorge. 枝に結ばれたダヒール。手の届く範囲に新旧様々なダヒールが見られる。



写真537 Boq'e Darvish'Ali' Aqā. 村はずれに広がる墓地の中。写真奥はマスジェド。つい最近建て替えられたばかりの廟。外壁はまだ工事が残ったままで、窓枠の隙間を埋めるための漆喰が白く残っている。



写真538 Boq'e Darvish'Ali Aqā. 広い廟内の中央に置かれた金属製ザリー。ダヒールが何本も結ばれているのが見える。最近、ダヒールを結んだり南京錠をかけたたりすることを禁ずる廟も多いが、ここでは訪れる人が自由にダヒールを結んでいる。



写真539 Boq'e Aqā Seyyed Rezā. 村の外に広がる墓地の中に建つ。周囲には水田や空き地が広がっている。前方に大きなエイヴァーンを持つ廟。



写真541 Boq'e Aqā Seyyed Rezā. エイヴァーンには絨毯が敷かれているが、使われていない敷物が放り出されていたりもして、乱雑な印象。



写真540 Boq'e Aqā Seyyed Rezā. 二つ並ぶ扉の向かって右がハラム。中には大型のサンドウグが置かれている。壁にはエマームたちの肖像や、村出身者の肖像写真が貼られている。



写真543 Maqbare Seyyede Zahrā Mūsavi. ビール・バーザール・ズィヤール街道沿いの墓地の中。緑色のタイルを貼られた小さな廟が見える。どのような人物が葬られているのかは確認が取れなかった。



写真542 Boq'e Aqā Seyyed Rezā. エイヴァーンの奥には以前、ろうそくを灯していた跡が残っているが、現在は使われていない。廟内や周囲でもろうそくの跡は見られない。



写真544・545 Maqbare Seyyede Zahrā Mūsavi. 廟の窓枠に結ばれたダヒールと廟前に置かれたシャムダーン。この廟に対する信心を持つ人が多いことを示している。



写真546 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. マスジェドと一連なりになった六角形の廟。本来は別々に建っていたとのことだが、マスジェドと廟を建て替える際に現在の形になった。廟はドームは持たないが、タイルで飾られている。



写真548 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. ザリーはスィヤラトの人たちが触れ続けられたため、地金が出てしまっている。中央の楕円のプレートには制作に関する銘文。



写真550 Maqbare Sheikh Mohammad Taleqāni. マスジェドの一階部分。シェイフの墓石が置かれていた場所を示すマスジェドの関係者。マスジェドが完成した後に、エマームザデーでもないシェイフの墓を再びここに置くべきかどうか考えているところだという。



写真553 Boq'e Seyyed 'Aziz Gashfi. 廟の奥から。10人も集まればいっぱいになってしまうような廟内。きれいに整えられた廟内は、村の女性たちがスィヤラトの際に掃除をしたりしていくからとのこと。



写真547 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. 廟の壁に寄せて置かれたザリー。廟の中もタイルで飾られているが、天井はまだ煉瓦がむき出しのまま。



写真549 Maqbare Sheikh Mohammad Taleqāni. 村の外れに広がる墓地の中。現在、マスジェドは建て替え中。そのマスジェドの中に、一人のシェイフの墓があり、人々の信心の対象となっていた。



写真551 Boq'e Seyyed 'Aziz Gashfi. 川岸に建つ廟。向かって右手の土手の向こうはずぐ川。隣村との水争いの中で殺されたセイエドが、なぜここに埋葬されたかについては分からない。



Boq'e Seyyed 'Aziz Gashfi

写真552 Boq'e Seyyed 'Aziz Gashfi。扉を開けるとすぐに木製ザリーが見える。その隣にはセイエドの墓。ザリーに触れながら一周しようとすると、セイエドの墓を踏まなくてはならない。



Boq'e Āqā Pīr Mo'azzen

写真555 Boq'e Āqā Pīr Mo'azzen。廟の正面から。聖廟らしい緑に塗られていないので、一見すると廟には見えない。



写真556 Boq'e Āqā Pīr Mo'azzen

Boq'e Āqā Pīr Mo'azzen

写真554 Boq'e Āqā Pīr Mo'azzen。敷地に入ると先ず目に入るのが背の高いアーサードの木。その後ろに新しい廟が建つ。廟の前には殉教者墓地。



写真556 Boq'e Aqâ Pir Mo'azzen. 入り口を入るとすぐに金属製ザリーが置かれている。左手奥に広い空間。窓が多く、明るい廟内。



写真557 Boq'e Aqâ Pir Mo'azzen. 廟の前に立つアーザードの木は神聖なもの見なされていて、ダヒールを結んだり、ろうそくを灯したりされてきた。木の前に置かれているのは、緑に塗られた煉瓦のシャムダーン。



写真558 Boq'e Seyyede Kolsûm. マスジェドと一連なりになった廟。最も奥の扉がハラム。数年前に建て替えたばかりだが、外装はまだれんががむき出しのまま。



写真559 Boq'e Seyyede Kolsûm. 広いハラムの中、入り口近くにザリーが置かれている。このザリーも、改築の際に取り替えたとのこと。子供が被葬者の場合、小型のザリーが置かれることが多いのだが、この廟では他の廟でも見られるサイズのものも置いている。



写真560 Boq'e Seyyede Kolsûm. 廟の前に立つ大木はズインドと呼ばれ、願掛け行為が見られる場所となっている。しかし、廟の管理人たちはこの木が神聖な木と見なされているわけではないとしている。



写真562 Boq'e Seyyede Kolsûm. 木の枝のあちこちにダヒールが結ばれている。枝に渡されている白いひものようなものは白珠を連ねたネックレス。



写真561 Boq'e Seyyede Kolsûm. 木に結びつけられた鉄板がシャムダーンとして用いられている。木のすぐ脇を小川が流れているのが見える。

写真563



写真563 Boq'e Seyyede Kolsüm. 春を迎え、緑が濃くなると、木は他の木々に埋もれてしまう。



写真566 Boq'e Seyyed Ebrâhîm. 女性用スペース。マَسْجِدを兼ねているので広く、礼拝用絨毯が一面に敷き詰められている。



写真568 Boq'e Seyyed Abū Tâleb va Seyyede Fâteme. 廟の中央に置かれたザリー。格子が壊れ、修理が必要な部分が目立つ。緑の布で覆われているが、布の量が足りず、ザリーの一部むき出しになっている。ザリーの隣に建っているのは募金箱。

写真564



写真564 Boq'e Seyyed Ebrâhîm. 町の中心、バーザール地区のメイダーンに面している。緑のドーム部分が廟。手前の建物はマَسْجِد。バーザールの中にあるため敷地面積はそれほどなく、小さな墓地の中に殉教者墓地が見られるだけ。町の公共墓地は他の場所に設けられているとのこと。

写真565



写真565 Boq'e Seyyed Ebrâhîm. 男性用スペース。ザリーの一面と半分が割り当てられているが、スペースはごく狭い。男性用のマَسْجِدは並びのもう一つの建物、ゴルダステキの門の側になる。

写真567



写真567 Boq'e Seyyed Abū Tâleb va Seyyede Fâteme. グーラーブ・ザルミーフの町を出た街道が、アーリヤーン街道と分かれてすぐ、マَسْجِد墓地の外れに建つ廟。近年立て直された新しい廟。

写真569



写真569 Boq'e Seyyed Abū Tâleb va Seyyede Fâteme. ザリーの中はタイルを敷き詰めてある。一部が外されたタイルの上にセイエド・ファアテメの墓碑が乗っている。



写真570 Boq'e Seyyed Fakhr al-Din. 村を通る道が二股に分かれた先に、小さな廟が建っている。村の人も、少し離れたところに住んでいると、その存在を忘れてしまっているほど。近所に住む人でも名前を知る人が少なく、確認に手間取った。



写真572 Boq'e Seyyed Fakhr al-Din. 廟内は墓石を取り囲んでポシュティーが並ぶ。腰を下ろすと膝が墓石に触れてしまいそうなくらいに小さな廟。しかし、きちんと掃除が行き届いており、訪れる人たちに大切にされていることが分かる。



写真573 Boq'e Seyyed Fakhr al-Din. 窓際に並べられた小石。聖樹に置かれているものと同じ意味を持つようである。シェムシャードの小枝も差し込まれているが、枯れてしまっている。



写真575 Boq'e Sheikh Sami'. 建設途中の廟内は床がはがされているが、ズイヤーラトの人たちのため、サンドウグが残されている。サンドウグの上に乗っているのは、ゴルアーンを置くためのナフル（＝書見台）と、布が風で飛ばされるのを防ぐためと思われる煉瓦ブロックが二つ。



写真571 Boq'e Seyyed Fakhr al-Din. 緑の扉と募金箱がなければ廟とは気づかないほどこぢんまりとした廟。扉も片方は壊れていて、無理に開けると外れてしまう。



写真574 Boq'e Sheikh Sami'. 以前の廟を取り壊し、新しい廟を建設中。廟の傍らに緑の布を幹に巻かれたアーザードの木が立っている。



写真576 Boq'e Sheikh Sami'. 廟の外に、サンドウグを覆っていたザリーが置かれている。錆が浮き、塗装がはがれている部分も見られる。



写真577 Boq'e Sheikh Sami'. 木の幹に釘が打ち込まれ、そこにダヒールが結ばれている。幹に緑の布が巻かれているので、木そのものが神聖な存在と見なされていると思うのだが、地元の人の中には、それは昔の話で、現在はそんな迷信を信じる人はいないと言う人もいる。



写真578 Boq'e Sheikh Sami'. 墓地の中に、壁を薄緑色に塗った小さな廟が建っている。地元のセイイドだったという以外の情報は得られなかったが、ハージャトがあると信仰する人も多いとのことであった。



写真579 Boq'e Sheikh Sami'. 廟内に置かれたサンドウグ。緑の布が何重にもサンドウグを覆っている。信心を持つ人が持ち込むこの布は、このようにサンドウグやザリーを覆うこともあれば、宗教的な行事に利用されたり、細く裂かれてダヒールなどに利用されたりする。



写真581 Emāmzādegān 'Ein 'Alī va Zein 'Alī. 建物奥の扉がハラムの入り口。廟を扶むようにして立つ二本のアーザードの木は、神聖なものとして信心の対象となっている。



写真580 Emāmzādegān 'Ein 'Alī va Zein 'Alī. アーザードの巨木に囲まれた、マスジェドと一連なりになった廟。水田に囲まれ、写真左手を川が流れている。



写真582 Emāmzādegān 'Ein 'Alī va Zeīn 'Alī. パーティションでマスジェドと区切られたハラム。マスジェド側からもザリーに触れることができ、また、行き来もできるようになっている。



写真583 Emāmzādegān 'Ein 'Alī va Zeīn 'Alī. 廟の入り口前に立つアーザードの木の幹。幹に打ち込んだ釘にダヒールが結ばれ、更にその上に小石が積み上げられている。



写真584 Derakht, 水田の中に立つ二本の木。水田の中なので非常に目立ち、印象的である。



写真585 Derakht, 二本の木の根元には緑の布が巻かれ、幹に打ち付けられた釘にダヒールが結ばれている。まだ古びていないそれを見ると、今でも訪れる人が多いと思われる。



写真586 Derakht, 緑の布の上から釘を何本も打ち、その上に小石を並べている。小石を落とすのは忍びなく、そのあたりの布には触れることができない。



写真587 Boq'e Mir Shams 'Alī. マスジェドと一連なりになった廟。数年前に改築を行ったばかりで、まだ廟の外壁はレンガがむき出しになったまま。緑色のゴンパドが廟の目印。



写真588 Boq'e Mir Shams 'Alī. 広いハラムの中央から少しマスジェド寄りに置かれたサンドウッグ。エスファハーン様式のザリーに取り替えるための資金を集めているところ。



写真589 Boq'e Gol Emâm. 村はずれの墓地の中。マスジエドと一連なりになった廟。近年建て替えられた新しいマスジエド。



写真590 Boq'e Gol Emâm. マスジエド側からも出入りができるようになっているハラム。マスジエド側の壁に寄せて置かれている。暖房が入られ、誰がいつ訪れても良いようになっている。ガス代がこの数年で数倍に値上がりしていることを考えると、常に暖房を入れておくというのは大変な経費がかかることである。



写真591 Boq'e Gol Emâm. 墓地の中に立つ大木の幹には、古いダヒールが見られる。この木自身が神聖なものとなされているのかどうか、廟を訪れる人がなく、近所も留守ばかりで確認ができなかった。

写真592



写真592 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Asghar. 村から山道を途中で自動車でも参詣できるよう、自動車道を敷設中。



写真593 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Asghar. 廟の周囲を見渡すと、古い墓地が見える。正面の斜面には頭部と足を示すための目印の石が多数見える。その向こうに見える家には、老人が一人で住んでいるが、モタヴァッリーではないとのこと。



写真595 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Asghar. 廟内には大きな三角屋根を持つ木製ザリー。兄弟二人の墓が納められている。ザリーのあちこちにダヒールが多数結びつけられている。



写真594 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Asghar. 山の上に建つ比較的新しい廟。チェシュメがあり、現在は水道として廟の隣でズィヤーラトの人々に水を供給している。

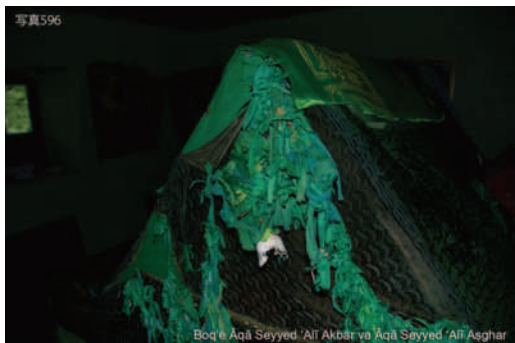


写真596

Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Aṣghar

写真596 Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Aṣghar。ザリーにびっしりと結びつけられたダヒール。ザリーそのものではなく、ザリーに渡されたひもや他の人のダヒールに結びつけている。



写真597

Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Aṣghar

写真597 Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Aṣghar。窓際に置かれたランプ。灯油はきちんと補充されていて、いつでも使うことができるようになっている。灯油は値段や買う手間、更に山の中のここまで運ぶことを考えると高価なもの。



写真598

Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Aṣghar

写真598 Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Aṣghar。入り口から向かって右手には小部屋がある。ハラムがそれなりに広いのと、供えられた道具類から、礼拝用ではなく、礼拝用も兼ねた休憩室ではないかと思われる。



写真599

Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Aṣghar

写真599 Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī Akbar va Āqā Seyyed 'Alī Aṣghar。小部屋に置かれた墓石。セイエドのものであることは明らかだが、どのような人物で、どのような経緯でここに葬られたのかについては、モタヴァッリーがいないので確認できなかった。



写真601

Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Mohammad

写真601 Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Mohammad。廟のエイヴァーン側から。エイヴァーンの下は斜面を利用して地下室が作られている。倉庫として使われているとのこと。写真の女性は、廟のモタヴァッリー。山の上ではあるが、廟の傍らに一年を通して一家族が住んでいる。家畜を飼い、廟の管理をして暮らしているとい、最近では、参詣の人のため、ガフヴェハーネ (Qahve-khāne=茶店) も経営している。



写真600 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad. 山を覆う森を越えると、小さな草草が広がり、大きな緑色の廟が建っている。村の人たちには、朝早く家を出て、ズィヤートの後、仕事に行く人もいるという。



写真602 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad. ハラム前の大きなエィヴァーン。サロンとしての機能も持っている。ここでくつろいだり礼拝を行ったりする。



写真603 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad.

写真603 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad. 小さく、天井が低いハラムに。真っ暗な中、大型ザリーが置かれている。



写真604 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad. ハラムの天井に渡された電気のコードに結ばれたダヒール。



写真606 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad. ハラムの壁は薄い緑色に塗られ、ポスター類が何枚も貼られている。ここに貼るため、村の人たちが持って登ってきたもの。



写真605 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad. ザリーに結ばれたダヒール。ザリーを覆う布をめくってみると、結べるにはダヒールが数多く結ばれている。



写真607 Boq'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad. ハラムの窓を外から見る。木で作られた格子に緑の布が結ばれている。



写真608 Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad。廟の前に立つ木。神聖なものとなされていたが、最近では信心が薄れてしまっているという。



写真609 Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad。幹に打ち込まれた釘に結ばれたダヒール。他にも釘だけ残っている箇所がいくつか見られる



写真610 Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad。廟の裏手の斜面に広がる墓地。現在確認できるのはコンクリートで土台を作った墓のみだが、ずっと古くから墓地として使われていたという。



写真611 Bo'q'e Āqā Seyyed 'Alī va Seyyed Moḥammad。廟の前に立つ聖樹の傍らにある墓石。以前は、ダヒールを結んだあと、ここでろうそくを灯す人もいたという。

(3) Fūman郡の聖所

Fūman郡



写真612 Emānzāde Mirzā。フーマンの共同墓地の中、マスジェドと一連なりになった廟。緑のドームの下。マスジェドの前に立つ壁は殉教者墓地のもの。墓地の入り口側からはマスジェドの屋根しか見えない。



写真613 Emānzāde Mirzā。廟内はパーティションで区切られているが、ザリーの一面はマスジェド側からも触れることができるようになっている。ただし、出入りはできないので、それぞれの入り口を使う必要がある。

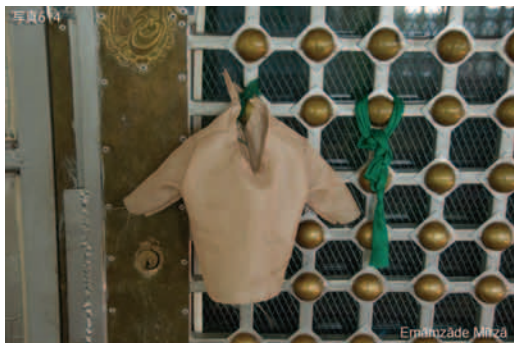


写真614 Emānzāde Mirzā. ザリーに結びつけられた子供のシャツのミニチュア。他では見ることのないもの。ハラム側に結びつけられていたので女性が結んだと思われる。



写真615 Emānzāde Āqā Seyyed 'Alī. フーマンの中心部からは離れた住宅街の中。同名のマスジェドを取り壊し、新しいマスジェドを建設中。取り壊し前も、小さなマスジェドの中にザリーが置かれていたとのこと。



写真616 Emānzāde Āqā Seyyed 'Alī. 工事中も、ズィヤラトの人たちのため、ザリーはそのまま、埃よけ雨よけのため、仮の屋根をかけて工事現場に置かれている。工事中ではあるが、この地区の人たちはそれまでと同じく訪れるとのこと。



写真617 Bo'q'e Pīr Jeloudār. フーマンのパーザール地区、古いハンマームなども並ぶ一角。銀色のドームを持つタイル張りの廟。パーザールの商店主たちや買い物客などが多く訪れる。入り口も廟内も男女が完全に分けられている。



写真618 Bo'q'e Pīr Jeloudār. 廟の大きさに比べると小さな、そしてシンプルなハラム。しかし、周囲をめぐるサロンとは、扉で閉ざされていないため、開放感がある。



写真619 Bo'q'e Pīr Jeloudār. ザリー上部の飾りに南京錠が幾つも取り付けられている。ザリーは内側にガラスが貼られているため、ダヒールを結んだり南京錠をかけたりができない。そのため、手が届くか届かないかである高さのこのような場所まで利用する。



写真620 Saqqākhāne Abū al-Fa'zil. パーザール地区の中、マスジェドの近くに建つ建物の壁面に設けられたサッカーハース。パーザールを利用する人たちを潤すためのもの。



写真621 Saqqākhāne Abū al-Fazl, サッカーハーネを飾るアボルファズルの絵タイル。サッカーハーネにはつきものの画像であり、このサッカーハーネの名の由来。水が豊かなギーラーンでは、水が貴重なアルボルス以南と異なり、サッカーハーネの需要が少ないように思われる。しかし、実際には、サッカーハーネが祈りの対象となり、また、泉が信仰の対象となっているのを目にする。

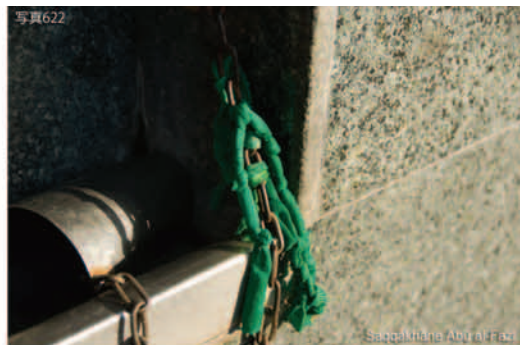


写真622 Saqqākhāne Abū al-Fazl, サッカーハーネとカップをつなく鎖に結びつけられたダヒール。何人も同じひもを使ったらしく、幾つもの結び目が見えている。



写真623 Saqqākhāne Abū al-Fazl, 石材に開けられた募金の投入口。ここで集められたお金が維持費に充てられる。投入口の下に書かれているのは、「アボルファズルさまの保険」アボルファズルに願掛けを行うことで、その保証を受けるということ。



写真624 Saqqākhāne Masjeda Vali 'Asr, マスジドの前に設けられたサッカーハーネ。緑の布が結びつけられ、聖所となっている。パーザル地区にあることから人通りが多いが、写真の女性のように、手を触れ、祈っていく人を何人も見ることができる。

写真625 Saqqākhāne Masjeda Vali 'Asr, サッカーハーネの下、マンホールのふたにダヒールや南京錠が見られる。

写真626 Saqqākhāne Masjeda Vali 'Asr, サッカーハーネの下部に設けられたシャムダーン。新旧のろうそくの跡が見られる。あらかじめシャムダーンとして設けられた場所なのだとすると、聖所としての機能があらかじめ想定されていたことになる。





写真627 Ziyaratgāhe Emām bar. 現在は住宅が建ち並ぶが、革命前は、フーマンの郊外で、木立の中だったという。スィヤーラトガーが埋められ、整地され、住宅が建てられても、名前は残り、使用されている。



写真628 Boq'e Pūr Valī Khān. 村の外、水田に囲まれた中に立つマシエド。その一角が廟。外装はまだで、レンガがむき出しになったまま。国民的英雄と言われるプーリヤー・ヴァリーの墓として知られ、スィヤーラトの人も多いという。



写真629 Boq'e Pūr Valī Khān. 廟内でもまだ工事が終わっておらず、レンガがむき出しの部分が残る。広い廟内の一角が一段高くなり、そこに金属製ザリーが置かれている。



写真630 Boq'e Pūr Valī Khān. ザリーにはダヒールが多数結ばれている。モタヴァッリーによると、ハージャトが大きいの、訪れる人はそれを信じてダヒールを結んでいく。パフラヴァーン (pahlavān) なのだから、庶民の願いを聞いてくれるだろうという人もいた。



写真631 Boq'e Pūr Valī Khān. 以前使われていたザリーにびっしりとダヒールが結ばれ、廟の片隅に残されている。ダヒールがこれだけ結ばれているものを捨てることは難しい。



写真633 Boq'e Pūr Valī Khān. 墓地の中に、数本のアーザードの大木が集まっている一画がある。ここにもダヒールを結ぶなどして願い事をする人たちが見られる。



写真634 Boq'e Pūr Valī Khān. アーザードの木の幹に釘が打ち込まれ、ダヒールが結ばれたり、安全ピンがかけられている。安全ピンも、南京錠のように使われることがある。



写真635 Boq'e Pūr Valī Khān. 幹に打ち込んだ釘の上に小石を載せる。小石が落ちなければ願い事が叶うという。



写真632 Boq'e Pür Vali Khān。ザリーの傍らに置かれた二つの石。写真には写っていないがスプーンが添えられており、スプーンで石を削り、その粉を飲むと病気が治るといふ。

写真637 Boq'e Āqā Seyyed Hasane Gharib。廟内には、入り口から見て左手の壁側に寄せて墓石が置かれている。頭と足の両側に鉄のバーで持ち手のような枠組みが作られていて、そこにタヒールが結びつけられている。



写真637

Boq'e Seyyed Hasane Gharib

写真636



写真636 Boq'e Āqā Seyyed Hasane Gharib。村の住宅地と住宅地を結ぶ通り沿いに建つ。写真で分かるように、廟の周囲には空き地が広がっている。廟のモタヴァッリーは、自転車で村からやってきた。

写真638



写真638 Boq'e Āqā Seyyed Hasane Gharib。木曜の午後など以外、廟の扉は閉められている。それ以外の日に廟を訪れた人は、窓枠にタヒールを結び、お金を投げ込むことができるよう、ガラスが一枚外されている。

写真639



写真639 Boq'e Sabz Qabā。二本のアーザードの巨木の下に建つ小さな廟。右手に見える階段は、廟の下から湧いている泉へ降りるためのもの。廟の裏手から街道まで延びる道路は門前市になっていて、お土産物屋が並び、木曜日などはとても賑わう。

Boq'e Sabz Qabā



写真640 Boq'e Sabz Qabā. 飾り気のない廟内には、大型の金属製ザリーが置かれている。写真が緑色なのは、廟内の蛍光灯が緑色の光を発しているため。



写真641 Boq'e Sabz Qabā. 廟の下から湧き出す泉。廟の下3メートルの所から湧き出る水を廟の外へと引いていく。スイヤーラトの人たちもここからハージャトを持つ水を汲んで、持ち帰ることができる。



写真643 Boq'e Sabz Qabā. チェシュメの石段の途中に見られたろうそくの跡。それほど古いものではない。



写真642 Boq'e Sabz Qabā. 水の湧き出し口。以前は溢れるように水が湧いていたが、この数年、水量が減ってしまった。水路に見える白いパイプは水道のためのもの。



写真645 Arāngāhe Seyyed Javād. エイヴァーン状のシャヒード墓地はアーイーネカーリーで飾られ、サブズ・ガバーの廟よりもずっと華やか。墓地の中でもひとときわ目をひくのがセイード・ジャヴァードの墓。墓の上に骨組みが組まれ、タヒールがびっしりと結ばれている。



写真644 Arāmgāhe Seyyed Javād. イラン・イラク戦争時の戦死者（＝シャヒード）墓地。ラーヒージャーンのシェイフ・ギーラーニーの廟を模したドームと二本のゴルダステを持つ大きな廟。廟の後ろにはマスジェド。



写真646 Arāmgāhe Seyyed Javād. セイエド・ジャヴァードの墓に願掛けを行った人の数を示す、びっしりと隙間なく、何重にも結ばれたダヒール。



写真647 Arāmgāhe Seyyed Javād. 街道からサブズ・ガバーへ向かう道路の分岐点に立てられた案内板。アーガー・セイエド・ジャヴァードの顔写真入り。その一方で、サブズ・ガバーの廟の案内は見当たらない。



写真648 Boq'e Aqā Seyyed 'Alī. 村の外に建てられた大型のマスジェド。村の人口規模を考えると、このような大型のマスジェドが必要なかどうか不思議だが、葬式や宗教行事の他にも、文化的行事などをここで行うことができるようになったので非常に良かったとのことであった。



写真649 Boq'e Aqā Seyyed 'Alī. 広いマスジェドをカーテンで男女のスペースに区切っている。女性側スペースの中に緑の布で覆われた墓石が置かれている。男性はシヤアラトができないのかと尋ねてみると、「女性たちが許可してくれば問題ない」とのこと。



写真650 Boq'e Aqā Seyyed 'Alī. 緑の布で覆われた墓石の上には、ゴルアーン他にも、女性のチャドルやら礼拝用の敷物など様々なものが置かれている。



写真651 Boq'e Aqā Mir Moḥammad 'Alī Ma'rūfī. 村の中心部、商店などの集まるメイダーンの傍らに残る小規模な墓地の傍らに建つ。現在の村の墓地は、同じメイダーンに面した別な場所にある。



写真652 Boq'e Aqā Mir Moḥammad 'Alī Ma'rūfī. 廟内に二つ並ぶ大型のサンドウグ。誰のものかは分かっていない。



写真653 Boq'e Āqā Mir Moḥammad 'Alī Ma'rūfī. 廟内には、サンドウッグの他に、マールフィー一族の墓があちこちに置かれている。写真はセイエデ二人の墓。名前を彫った小さな墓石が置かれている。



写真654 Boq'e Āqā Mir Moḥammad 'Alī Ma'rūfī. こちらもセイエデの墓。奥にも一つ見えるが、これもセイエデ。



写真655 Boq'e Seyyede Zahrā. 村の中心になるメイダーンに面した、現在使われている公共墓地。その中に新しくレンガ造りの小さな廟。村に住んでいたセイエデの墓と伝えられる。



写真656 Boq'e Seyyede Zahrā. 廟内にはザリーを持たない墓石。木曜日の午後などには、女性たちが集まってくるという。



写真657 Boq'e Seyyed Aḥmad Majār Komsārī. 町のバーザール地区の裏手。新しく建てられたばかりの廟。左隣の建物はガッサルハーネ（遺体の清めを行う場）兼物置。廟の正面上部には、廟の持ち主と異なる名前が記されている。これは、廟内に墓のある三人のセイエデの名前。



写真658 Boq'e Seyyed Aḥmad Majār Komsārī. ザリーを置いた大理石の台や壁の腰板部分は大理石。廟内には、他にもセイエデの墓が残っている。



写真659 Boq'e Seyyed Aḥmad Majār Komsārī. 墓地の中に、サンドウッグを持つセイエデの墓があり、ダヒールが結ばれているのが見られる。ハージャトがあるとのこと。



写真660 Bo'q'e Mir Shams al-Din. 村はずれの墓地の中。廟らしいところのない外見の廟。



写真661 Bo'q'e Mir Shams al-Din. 廟に入るとすぐ、墓石が並ぶ小部屋。墓石が床に置かれていたり、壁に立てかけられていたりする。被葬者の肖像写真も並び、木曜日の午後などは、墓参の人たちがここで一時を過ごす。そのために、絨毯が敷かれ、ポシュティイが用意されている。



写真662 Bo'q'e Mir Shams al-Din. 広い廟内に置かれたザリー。絨毯が敷かれた中に緑色の布が広がっているのは、その下にセイエドの墓があるというしるし。廟の建て替え・拡張の際に、墓地が整理されるが、セイエドの墓は残され、廟内に置かれることも多い。



写真663 Bo'q'e Aqā Pile Aqā. 墓地の中に建つ新しい廟。エイヴアーンは持たず、大きくむしを伸ばしている。



写真664 Bo'q'e Aqā Pile Aqā. 広い廟内の中央にザリーが置かれている。廟内のあちこちに故人の肖像写真が飾られている。



写真665 Bo'q'e Aqā Pile Aqā. 廟とマスジェドの間に置かれているザリーと墓石。墓地の中に、廟内に置くような形のザリーが置かれているのは非常に珍しい。墓石は、緑色に塗られたコンクリートの台の上に据えられている。通常、一人につき墓石が一つだが、ここは二人のセイエドが葬られている。



写真666 Bo'q'e Aqā Pile Aqā. ザリーの一部。屋外にあるため、錆が浮いているが、ダブルが結ばれ、信心を持つ人がいたことを示している。しかし、全体に新しいダブルは少ない。村の女性たちによると、信心を持つ人も多いということである。



写真668 Bo'q'e Aqā Mir Nezām. 村はずれの墓地のはずれに建つ、新しい廟。普段は鍵がかけられ、廟内に入ることはできない。



写真667 Boq'e Āqā Pīle Āqā. ザリーの前の緑に塗られた墓石。セイエド・ハージーとセイエド・ザキーの墓。墓碑によると、地域の人々の崇敬の対象であった人物たち。村の女性たちによると、墓参のついでにこの墓にも敬意を表していく人も多いとのこと。



写真669 Boq'e Āqā Mīr Neẓām. 廟の扉は普段閉められているが、訪れた人が中を覗き、寄付を投げ込むことができるよう、ガラスが外されている場所がある。そこに結ばれた緑の布を裂いてダヒールを扉に結びつけている人が見られる。



写真671 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. 村の外れに広がる墓地の中に建つ、マスジェドと一連なりになった廟。左端の扉が廟。



写真670 Boq'e Āqā Mīr Neẓām. 廟内には金属製ザリーが置かれている。廟内には、ナズルの食事を調理する際に使われる大型の鍋や釜が置かれている。通常は倉庫にあるものが、普段からここにあるように置かれているのは不思議。



写真673 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. 広い廟内の、入り口から見て奥に置かれたザリー。ザリーにかけられている柄物の布はチャドル。なぜここにチャドルがかけられているのかは不明。



写真672 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. ハラムに続く扉。マスジェドへの扉に比べると小さく、目立たない。



写真674 Āqādār. 通り沿いに並ぶ住宅の裏手、畑が広がる中に建つアーサードの太木。今は少なくなりましたが、以前はこのアーサードに信心を寄せる人が集まってきて、ランプを灯したり、ここで食事を取ったりしたという。



写真675 Āqādār. 幹に巻かれた緑の布が、神聖な木であることを示しているが、以前はもっとたくさん巻かれていたらしい。



写真676 Āqādār. アーサードの木はまっすぐに伸びるため、ダヒールを結びにくいのが、何とかして結べるところを見つけてダヒールを結んでいる。さらには、古いダヒールを利用して、新しいダヒールを結ぶことも。



写真677 Boqe Āqā Seyyed Yahyā. ラシュト-フーマン街道近くに広がる墓地の中。大規模なマスジェドの中に置かれたズィヤ-ラトガー。



写真679 Boqe Āqā Seyyed Yahyā. セイイドの墓を見下ろすことができる階上の席。階下の墓石のあるフロアとこの二階席がマスジェドの女性席になっている。



写真678 Boqe Āqā Seyyed Yahyā. マスジェドの女性用の扉を開けるとすぐに、緑の布で覆われた墓石が置かれている。その周囲にボシュティーを置き、くつろぐことができるようになっている。



写真680 Boqe Aqa Seyyed Yahya。マスジェド付属の墓地の中にあるセイエドの墓。マスジェド前に住んでいたセイエドの墓。墓参の人たちが敬意を表していくとのこと。ダヒールが結ばれているところを見ると、ハージャトを期待する人がいることが分かる。



写真681 Boqe Aqa Seyyed Yahya。墓地の中にあるセイエドの墓。事故死した子供のもの。こどもシャムダーンが脱けられたり、ダヒールが結ばれたりしている。



写真682 Maqbare Seyyede Nesā。村の住宅が並ぶ中、道が二股に分かれた場所に小さな空き地ができていて、その空き地に緑の布を巻かれたザリーが置かれている。墓石に彼女の出自や没年は刻まれているが、具体的にどのような人物で、墓地でもない空き地になぜ埋葬されているのか、なぜズィヤラトガとなっているのかについては、近所に住む女性たちも知らなかった。ただ、「ハージャトがあるのよ」ということであった。



写真683 Maqbare Seyyede Nesā。墓碑銘。セイエド・モハンマディーの妻で、ミール・アリーの子供、生年月日や死亡日など書かれている。しかし、近所の女性たちは、どのような人物かを知らないという。



写真684 Maqbare Seyyede Nesā。墓を囲うザリーには緑の布が巻かれ、ダヒールが結ばれている。色あせた布は見られず、常に新しいものが追加されていることが分かる。



写真685 Ārāmgāhe Seyyed Shafī。マスジェド付属の墓地の中、敷地の入り口近くに、緑色に塗られたザリーに囲われた墓石が置かれている。村に住んでいたセイエドの墓であるということだが、なぜ、このように緑の布が巻かれたり、ダヒールが結ばれているのかについては明確な回答を得られなかった。



写真686 Ārāmgāhe Seyyed Shāfi. 柩に結ばれたダヒールや緑の布、色があせかかったものから新しいものまで様々である。



写真687 Ārāmgāhe Seyyed Shāfi. セイエドの写真。写真の入った箱の脇にはアラムが立てられ、ダヒールが結ばれている。こうした道具立ては、セイエドにズィヤーラトの人たちの願いを叶える力があると考えられているからであろう。



写真688 Boq'e Seyyed Morteza. 墓地の中に建つ新しい廟。右手、小さな青いドームの建物は殉教者墓地。その右奥にマスジェド。ワクフ慈善庁のリストにあったサッカーハートはまだ作られていない。



写真689 Boq'e Seyyed Morteza. 二本の柱の間に置かれた墓石。墓石には緑の布が何重にも巻き付けられ、パンジ・タンが結びつけられている。ここにダヒールが結ばれている。



写真690 Boq'e Seyyed Morteza. 廟の傍らにあるセイエドの墓。緑色に塗られたザリーに緑の布が結びつけられており、それを覆ったダヒールも結ばれている。



写真691 Boq'e Hāji Rostam. マスジェドの敷地を示す柵から民を出した、小さな建物がある。



写真692 Boq'e Hāji Rostam. 墓地の外れ、道路にはみ出した小さな廟。聖所であることを示す緑色は使われていないが、それは、被葬者がセイエドではなく、ハージーであるため。



写真694 Boq'e Hājī Rostam, 廟内に置かれているランプ。灯油が補充されており、いつでも使えるようになっている。



写真693 Boq'e Hājī Rostam, 廟内には緑の布で覆われた墓石が置かれている。墓石を覆っている緑の布にはきちんと寸法を合わせて縫取りがされており、熱心な信仰を持つ人が作ったものと思われる。墓石の上のピンは普微水、部屋の奥に見えるのは、アラムバンダーンの布を巻き付けたアラム。



写真695 Boq'e Hājī Rostam, 廟の入り口脇に設けられたシャムダーン。シャムダーン脇に眠鳩の煤が見られるので、以前そこをろうそくが灯されていたのを、シャムダーンを設けることでコントロールしようとしたものと思われる。



写真696 Boq'e Pir Yūsef 'Alī, 村はずれの墓地の中に建つ廟。大きなエイヴァーンと張り出した屋根が印象的。遠目に見ても、エイヴァーンの手すりが壊れたり、壁が落ちているのが取れる。



写真697 Boq'e Pir Yūsef 'Alī, 屋根の大きさに比べると小さなハラム。外壁は随分と落ちてしまっている。エイヴァーンも本来はきちんと土を固めてあったのが、掘り返されたようになっている。



写真698 Boq'e Pir Yūsef 'Alī, ハラムの扉は壊れてしまっていて閉まらない。ハラムの中もエイヴァーンと似たり寄ったり。ゴミが持ち込まれて放置されているのを見ると、聖所としては機能していないように思われる。



写真699 Boq'e Pir Yūsef 'Alī, ハラムの中のザリー。扉が壊れてしまっている。ザリーの上にゴルアーンなどが置かれているが、埃が積もっていて、人が使っているように見えない。



写真700 Boq'e Pir Yusef 'Ali. ザリーの中は、振り返されたかようになっており、墓石も何も見られない。



写真701 Boq'e Pir Yusef 'Ali. 墓地の中のセイエデの墓。最近では、ボグエではなく、こちらに願掛けをする人が多いとのこと。村に住んでいた、非常に親切なセイエデだったとのこと。



写真702 Boq'e Pir Yusef 'Ali. フーマン-シャフト街道沿いに広がる墓地の中、大規模なマスジェドに隠れるようにして建つ小さな廟。



写真703 Boq'e Pir Yusef 'Ali. 廟の中心に立つ二本の柱の間に置かれた金属製ザリー。廟内には、アラムやスピーカーなど、アーシューラーの際に使用される道具類が置かれている。



写真704 Boq'e Seyyed Ebrahim. 周囲に茶畑が広がる中に建つ、新しく建てられたばかりの廟。前面を緑のタイルで覆っている。



Emânzâdegân Hâshem, Qâsem va Kâzem



写真705 Boq'e Seyyed Ebrahim. 大きく窓を採った明るいハラムに大型の金属製ザリー。天井にもガラスをはめ込んだ明かり取り。天井の塗装はまだ終わっていないらしい。

写真706 Emânzâdegân Seyyed Hâshem, Qâsem va Kâzem. マスジェドと墓地の間の通路を抜けると墓地が広がっている。墓地側から廟を見る。こちら側にもドアがあるが、これは鍵がかけてられて、反対側の扉から廟に入る。

写真707



Emâmzâdegân Hâshem, Qâsem va Kâzem

写真707 Emâmzâdegân Seyyed Hâshem, Qâsem va Kâzem. 廟には何重にも緑の布がかけられた大型の木製ランドラック。非常にハージャトがあるので、村の人だけでなく、あちこちからズィヤーートの人が集まってくるという。村の女性たちも気が向くとやって来ては折り、廟のために働いている。

写真708



Emâmzâdegân Hâshem, Qâsem va Kâzem

写真708 Emâmzâdegân Seyyed Hâshem, Qâsem va Kâzem. サリーの布で覆われていない箇所には、造花、ダビール、シエムシャードの小枝、アラム、パンジ・タンなど、様々なものが結びつけられている。様々なものが結びつけられていることが、様々な人が訪れ、折りを捧げていくことの証拠ともなっている。

写真709



Emâmzâdegân Hâshem, Qâsem va Kâzem

写真709 Emâmzâdegân Seyyed Hâshem, Qâsem va Kâzem. 墓地の中には、非常に古い墓が並ぶ一面がある。写真では少々分りにくいですが、廟の裏手にあたるここには、かつて遺体の頭部と足元に目印として置いた石が並ぶ。

写真711



Bo'qe Se Emâmzâde

写真711 Bo'qe Se Emâmzâde. 廟の前方エントランス。天井に、土や雨漏りを防ぐため、ビニールがはってある。

写真710



Boq'e Se Emâmzâde

写真710 Boq'e Se Emâmzâde, 向かって右側の、白い壁の建物はモスク。一連なりになっているが、中で行き来はできない。廟の前には墓地が広がっている。墓地の中には地元の人によると樹齢数百年になるシエムシャードの木が立っている。現在、廟のある村には数家族しか残っていないため、廟の維持が大変だという。一方、アーシューラーの時には多くのダステがここまでやってくるほど、地域の人々の信心を集めていることも間違いない。

写真712



Boq'e Se Emâmzâde

写真712 Boq'e Se Emâmzâde, エイヴァーンの一方は、壁の漆喰が落ち、木材やコンクリートブロックなどのゴミ置き場になっている。

写真713



Boq'e Se Emâmzâde

写真713 Boq'e Se Emâmzâde, 入り口側からハラムの奥を見る。廟内もエイヴァーンと同じく、雨漏り防止のため、天井にビニールシートを張っており、壁には雨漏りのしみができている。窓が格子になっているので外の灯りが入って明るい。手前のサンドゥーグがハムゼ、奥の壁側がハサン、窓側がエブラーヒームのもの、柱にかかっているのはズィヤーラト・ナーメ。

写真715



Boq'e Se Emâmzâde

写真715 Boq'e Se Emâmzâde, 廟の前に広がる墓地には、古い墓が多数見られる。最も古いものは、埋葬した後、頭と足の場所を明らかにするため、二箇所に石を置くというものであるが、その後、埋葬した遺体の周囲を石で囲うようになる。写真は、長方形に石を並べてあるのが分かる一画。

写真714



Boq'e Se Emâmzâde

写真714 Boq'e Se Emâmzâde, ハサンとエブラーヒームのサンドゥーグは並んでいるが、直接関係はない。なぜ、時代が下る父を持つエブラーヒームとハムゼがハサンと共に葬られているのかは分からない。



写真716 Dastkhatte Hazrate Amir al-Mo'menin. 町のバーザル地区の一角。商店が建ち並ぶ中、マスジェドと隣り合った廟が見える。ここは、覆かパージャトを持つ人物を埋葬した場所ではなく、神聖であると見なされていたゴルアーンが保管されていた場所。



写真717 Dastkhatte Hazrate Amir al-Mo'menin. 廟内には木製ザリーが置かれているが、中に収めてあるはずのゴルアーンは失われてしまっている。



写真718 Dastkhatte Hazrate Amir al-Mo'menin. 廟は新しくなっているが、古いタイルが残されている。カルバラーでのアボルファズルのタイル。



写真719 Dastkhatte Hazrate Amir al-Mo'menin. 廟内の片隅に、ろうそくを灯した跡が見られる。ろうそくを灯すために設けられた場所ではないが、使われていない場所を見つけ、利用しているらしい。



写真720 Emānzāde Taqī. マスジェドと一連りになった廟。マスジェドは外装が行われておらず、レンガがむき出しのまま。廟の向かいに泉が湧いている。



写真721 Emānzāde Taqī. 廟内はバーディションで男女に分けられている。女性側にはザリーの三面が、男性側は一面だけ。ザリーの手前の墓石は、この廟のモタヴァッリーだった女性のもの。



写真722 Emâmzâde Taqi. 廟の前には水量豊かな泉が湧き出している。以前に比べると水量は減ったということだが、今でもここでは、女性たちが洗濯をしたり、野菜を洗ったりという光景が見られる。



写真723 Emâmzâde Taqi. 水の湧き出し口（写真右下）近くにあるパイプに結ばれたダヒール。向かいにももう一本パイプがあるが、ダヒールが結ばれているのはこちらだけ。湧き出し口に近いくことが関係あるように思われる。



写真724 Boq'e Sheikh Mo'alem. 茶畑に囲まれた中に立つ新しい廟。茶畑は個人のものだが、廟には誰でも出入りできるように解放されている。



写真725 Boq'e Sheikh Mo'alem. コンクリートブロックがむき出し、天井も骨組みがむきだしのまま、窓も一部はガラスが入っていない状態の廟内の中央に、コンクリートブロックで作られた墓石が置かれている。



写真726 Boq'e Sheikh Mo'alem. コンクリートブロックの隙間に小枝を差し込み、そこに結ばれたダヒール。同じようなダヒールが廟内にいくつも見られる。どれも新しいもので人が訪れ、祈りを捧げていることが見て取れる。



写真727 Boq'e Sheikh Mo'alem. 廟の裏手、川を見下ろす場所に、草に埋もれるようにして墓石が置かれている。廟の周囲の墓は古いものがほとんどで、新しいものは見られない。



写真728 Boq'e Siyâh Pûsh. マスジェデ・ジャーメ付属の墓地の中、新しく建てられた廟。



写真729 Boq'e Siyāh Pūsh. 廟の中央に置かれた墓石。墓石が黒い布で覆われていたことから「Siyāh Pūsh=黒衣」と呼ばれるようになったとのことであるが、現在は、緑の布で覆われている。しかし、墓石は黒い石が使われている。



写真730 Boq'e Siyāh Pūsh. 廟内に置かれた小物を入れておくための籠。ダヒールがいくつも結びつけられている。墓石などにダヒールが結びにくいと、廟内の結びやすいところを見つけて結びつけることになる。



写真732 Boq'e Shāh Mirzā Āqā. 木々がこんもりと生い茂り、水田の中の緑の島に見える。この木々は、遠くからでも目に付く。



写真731 Boq'e Siyāh Pūsh. 廟のモタヴァッリーだった人物の墓。廟に対する強い信心を持ち、廟内に葬られることを望むモタヴァッリーは多い。



写真733 Boq'e Shāh Mirzā Āqā. 木々に囲まれた古い廟。土の壁にひびが入り、上に塗られた漆喰も傷んでしまっている。



写真734 Boq'e Shāh Mirzā Āqā. 廟内は、所々壁がはげ落ちたり、蜘蛛の巣が張ったりして、人が頻繁に訪れているようには見えない。中央に木製サンドゥーク。



写真736 Boq'e Shāh Mirzā Āqā. 壁に小さな穴を開け、シエムシャードの小枝が差し込まれている。小枝は、すっかり枯れてしまった古いものもあるが、つい最近差し込まれたばかりの新しいものもあり、ズィヤラトの人が来ていることが分かる。



写真735 Boq'e Shāh Mirzā Āqā. サンドラッグの上に置かれた募金箱。壊れてしまっていて、ダビールを結ぶための台となっている。



写真737 Boq'e Sheikh Jamāl. 川岸から廟を見上げる。廟へたどり着くには、生い茂る草をかき分けていかなくてはならない。案内の男性が持っていた鎌がなければ、村からここまでの道のりも、成長の早いシダ系の植物などで道を見失ってしまうところであった。



写真738 Boq'e Sheikh Jamāl. 屋根だけはトタンに変わっているが、土や漆喰の壁を持たない、全て木で作られた木の廟。右端の扉は、二股の木の枝で押さえられている。



写真739 Boqe Sheikh Jamāl. 廟のエイヴァーン側から。写真の男性は、フーシェ村から来てくれた案内人。木造の廟はあちこち問題が出ており、修理が必要な場所が幾つもあると、柱や屏の具合を確かめながら話してくれた。



写真740 Boqe Sheikh Jamāl. エイヴァーン側のハラムの壁。壁の下部の格子が壊れてしまい、布を貼って応急措置を取っている。こうした格子の壁はフーマンのいくつかの廟で見られるものだったが、今はほとんど残っていない。



写真741 Boqe Sheikh Jamāl. エイヴァーンの床は壊れ、使えなくなってしまった古いランプが放置してある。



写真742 Boqe Sheikh Jamāl. ハラムの扉。特に鍵はかけられていないが、廟がゆがんでしまっているため、開けるのにコツが必要。



写真743 Boqe Sheikh Jamāl. 小さなハラムに置かれたサンドゥッグ。川に面した側の壁には敷物を張り、外からの埃や雨風を防いでいる。



写真744 Boqe Sheikh Zāhed Gilānī Dāfiye. 村の中心部に広がる墓地の中。マズジェドの一面に設けられた廟。独立して建つ小さな廟。聖樹が並ぶ。シェイフ・ザーヘドの廟の入り口は、右手端に見える扉ではなく、建物の左端に見える扉。



写真745 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye. マスジェド側にある廊への入り口。格子細工で飾られ、緑の布で目隠しをしている。



写真746 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye. 廟内に置かれた金属製ザリー。大理石で作られた床の上に乗っている。ザリーに取り付けられた蛍光灯の色は緑と青。

写真747 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye. ハラムの入り口側から、階段を上ると、マスジェドの女性席に出る。そこからザリーが見下ろせる。ザリーと同じフロアもマスジェドの女性席である。



写真747 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye



写真748 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye. 女性席からザリーを見下ろす。廟の上に人が立ったり座ったりすることがないようにしてある。



写真749 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye. 廟の裏手にあったチェシュメ。今は水道として村に引かれているため、水源であるここはゴミ捨て場となっている。蛇口から水が溢れているが、ここを使う人はいない。ギーンでは、表流水は汚染されているかもしれないからと、飲料水には地下水を使うが、ここに限らず、ゴミに対する無頓着さを見ていると、それも当然と思わずにいられない。



写真750 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye. マスジェド付属の墓地の中に立つアーザドの聖樹。その奥に見える小さな廟はBoq'e Âqâ Seyyed 'Abdollah.



写真751 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye, 木の幹に釘を打ち、結ばれたダヒール。糸が絡んでいるのが見えるが、これもダヒール。手近にあったものを結んでいる。



写真752 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye, 釘の上に載せられた小石。左端には枯れたシェムシャードの小枝が見える。緑色の布ではないダヒールも見られるが、基本的に、ダヒールは色や質を問わない。布でも糸でも、ビニールひもでも何でも構わない。



写真753 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye, 幹に据え付けられた蹄鉄。蹄鉄がお守りとして見なされている地域があるとは聞いているが、イランでそのような考え方があるとは聞いていない。地元の人に聞いてみても、なぜここに蹄鉄が打ち込まれているかはよく分からないということのようであった。



写真754 Boq'e Sheikh Zâhed Gilâni Dâfiye, 根元に置かれたコンクリートブロックに、ろうそくを灯した跡が見られる。

写真756 Boq'e Âqâ Seyyed 'Abdollah, 廟内の中央に、背の低いサンドゥグ。どのような人物かは分からないが、ハージャトがとてもあるという。



写真755 Boq'e Âqâ Seyyed 'Abdollah, 墓地の外れに建つ、新しい小さな廟。長いひさしの出ている方向が出入り口とは違っている。

写真757 Boq'e Seyyed Hanafiye, 村から畑の中を通り、村の裏手の丘の上へ。20分ほど歩くと緑に塗られた新しい廟が見える。





写真759 Boq'e Seyyed Hanafiye. 廟の周囲には古い墓地が広がる。頭と足元の二箇所に置いた石や、墓の範囲を石で囲ったものなど、昔に覆われているが、その様子を見取ることができる。



写真758 Boq'e Seyyed Hanafiye. 廟内の中央に木製サンドゥグ。一応、電気は引かれているようなのだが、灯りは付かない。しかし、日があれば、窓からの光で十分に明るい。



写真760 Boq'e Aqā Seyyed 'Abdollah. フーマン-マースレー街道沿いに広がる墓地の中。金色のドームを持つタイル張りの廟。



写真761 Boq'e Aqā Seyyed 'Abdollah. アイーネカーリーで飾られたハラム。パーティションで男女に区切られている。



写真762 Boq'e Aqā Seyyed 'Abdollah. 墓地の中、マズジェドと接する場所に、緑の屋根を持つ東屋が作られている。村のセイエド夫婦の墓で、とても良い人たちであったとのこと。そのため、なくなった後も、村の人たちはセイエドに敬意を表している。



写真763 Boq'e Aqā Seyyed 'Abdollah. 入り口脇に置かれた募金箱。その上の「アッラー」という文字にダヒールやタスビフが結びつけられている。



写真764 Boq'e Āqā Seyyed 'Abdollah, セイエド夫婦の墓石。エマームたちの肖像絨毯が飾られ、ここに懸掛けるための絨毯やポシュティーまで用意されている。



写真765 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm

写真765 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. 斜面の下の墓地から廟を見上げる。廟は、周囲の家々やマスジド、墓地よりも高い場所に位置している。



写真766 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. ドームの下、四本の柱の間に置かれた木製ザリー。ザリーの方が大きく、柱の作る結界の外にはみ出している。



写真767 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. ザリーに結ばれたダヒール。結ぶことのできる場所ほとんど全てに結ばれている。



写真768 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. ザリー上部の突起部分にびっしりと結ばれたダヒール。ダヒールの他に、タスビーフ(数珠)も巻かれ、安全ピンも刺されている。人々の信心の篤い廟であることが、ダヒールの量から分かるが、どのような人物が埋葬されているのかは明らかではない。しかし、ハージャトを与えてくれる。



写真769 Bo'q'e Aqa Seyyed Ebrāhīm. 廟の近くに立つチエナルの太木。神聖なものとなされていたこともあるが、今はその痕跡は残っていない。



写真770 Qadamgāh. 洪水で流されてしまったというガダムガーの跡地。村の男性たちによるとここなのだが、胴と脇の斜面に近く、川よりも随分と離れていて、記録とは異なる位置にも見える。



写真772 Emāmzāde Zein b. 'Alī. 廟の裏手から。廟に接して小さな墓地が作られている。廟の入り口は裏側になる。以前は、川のごちら側にも住宅などがあつたらしく、崩れてしまった建物の跡が見られる。しかし、現在、廟の周囲には、管理人を兼ねる一家が住んでいるだけである。



写真771 Emāmzāde Zein b. 'Alī. 現在、一軒だけ残っている村の家の裏手から、川を渡ると、円錐ドームを持った廟が見える。以前は、橋が架かっておらず、川を歩いて渡っていた。しかし、2012年に橋が架かり、容易に廟を訪れることができるようになった。



写真774 Emāmzāde Zein b. 'Alī. 入り口からすぐ左手にある部屋。タイルの床の所々に墓石がはめ込まれている。動物を引き、サロンあるいはマスジェドとして使用されていた部屋。



写真773 Emāmzāde Zein b. 'Alī. ハラムには、一方の壁に寄せて、木製サンドラッグが置かれている。



写真776 Emāmzāde 'Ein 'Alī. フォーマン・マースレー街道沿いの斜面の上。角錐ドームを持つ廟が建っている。



写真775

Boqe 'Ein 'Alf

写真775 Emâmzâde 'Ein 'Alf. 街道から小径を上ってくると廟の正面に出るが、山の木々に隠され、平らな場所が狭いため、正面から写真を撮ることは難しい。



写真777

Boqe 'Ein 'Alf

写真777 Emâmzâde 'Ein 'Alf. 廟内は壁の漆喰が落ち、扉や窓枠は壊れ、荒れた様相を呈している。床には幾つもの墓石が見られるが、その上に積もった埃を見ると、墓参の人が来ているようには見えない。



写真778

Boqe 'Ein 'Alf

写真778 Emâmzâde 'Ein 'Alf. 廟内に置かれたザリー。ザリーの奥の壁は崩れ、ザリーもばらばらに壊れてしまっている。崩れてしまった床から、墓石が取り外され、壁に立てかけられているが、廟の改修が行われる様子は見られない。



写真779

Boqe 'Ein 'Alf

写真779 Emâmzâde 'Ein 'Alf. ザリーにはいくつかタヒールが結ばれている。布の色から、それほど古いものではないことが分かる。新しいゴミも廟内に見られることから、訪れる人がいないわけではないらしいことが分かる。



写真780

Emâmzâde 'Oun b. 'Alf

写真780 Emâmzâde 'Oun b. 'Alf. 廟と村を見下ろして、廟前に墓石が並んでいるのが分かる。村の中は土地がなく、狭いので、墓地は村の外にも設けられている。



写真781

Emâmzâde 'Oun b. 'Alf

写真781 Emâmzâde 'Oun b. 'Alf. 村の最も古い部分でもある宗教的一角。ボグエとマシエド、周囲の関連施設。



写真782 Emāmzāde 'Oun b. 'Alī. エマームザーデの入り口の扉の上に残るタイルとライオンの彫り物。タイルは残念ながら半分以上剥落してしまっている。



写真786 Emāmzāde 'Oun b. 'Alī. 格子部文を拡大したもので、ダヒーレが幾つも結ばれているのが分かる。ダヒーレは緑の布だけでなく、どんなものでも良い。そのため、写真のように、手近にあったビニールを結んでいく人もいる。



写真783 Emāmzāde 'Oun b. 'Alī. ハラムいっぱいになるような金属製ザリーが置かれている。写真が黄緑色なのは、ハラムの照明が緑色に着色されているため。



写真784 Emāmzāde 'Oun b. 'Alī. ハラムの壁龕に置かれたランプ。村の人が朝、灯しに来たもの。



写真785 Emāmzāde 'Oun b. 'Alī. 廟の周囲の建物に作り付けられたサツカーハーネ。現在、水飲み場としての機能は失われ、格子だけが残されている。下に見えるのは墓石。廟の周囲に広がる墓地の一部。



写真787 Ziyāratgāh. マースレの入り口近く、マスジェド・アボルファズルにあるズィヤラトガー。現在はほとんど見られなくなりましたが、マスジェドの窓の格子に以前はダヒーレが多数結ばれていた。格子窓の下の壁の色が変わっているのは、窓の下にナズルを投入するための投入口を作ったため。(2011年)



写真789 Ziyaratgah. 以前は多数結ばれているのが見られたダヒールは、格子に結ばれた数本を除き、見られなくなっている。(2010年)



写真788 Ziyaratgah. 格子に絡まるひもに、大量のダヒールが結ばれている。窓の両側の模様はパンジ・タンを画像化したもの。(2006年)



写真790 Ziyaratgah. ナズルの投入口にお金を入れる男性。格子窓にわずかにダヒールが見られる。(2011年)



写真791

写真791 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. マースレー/ハルハール街道から廟を見上げる。白い壁に銀色のドームを持つため非常に目立つ。



写真792

Emānzāde Seyyed Ebrāhīm

写真792 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. 山の中腹に建つ廟。廟の下にある石作りの小屋はチェシュメ (=泉) を覆うもの。マースレー/ハルハール街道から廟までは徒歩で登る。



写真793

Emānzāde Seyyed Ebrāhīm

写真793 Boq'e Āqā Seyyed Ebrāhīm. 廟の近くに作られた石作りの小屋。チェシュメを覆うためのもので、水は参詣に訪れた人たちが使用できる。マースレーは湧き水が多い村だが、ここもその一つ。



写真794 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhim, 小屋の中。壁を四角く切つてある向こう側は大きな水槽。その水をこちら側の蛇口から使用する。



写真795 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhim, 廟からマースーレを見下ろす。今は自動車道がひかれてい
るが、以前は、村から歩いてここまで登ってきた。



写真796 Emâmzâde Hâshem, マースーレを出てすぐにタ
ーロムへ向かう小径へ。20分ほど歩くとエマムザーデが
見えてくる。



写真797 Emâmzâde Hâshem, 溪谷に面して建つ廟は、墓
地側から見ると一層だが、溪谷側からは二層になっている。
廟の前の民家には人は住んでいない。



写真798 Emâmzâde Hâshem, 廟を入るとサロン。道具類などもここに置かれている。
写真左奥に積まれているのは泊まり込み用の布団。重大な願い事のあるときなど、泊まり
込みで祈り続けることがある。



写真800 Emâmzâde Hâshem, 外から見ると四角い廟だが、
ハラムは六角形。その中央に木製サンドゥグが置かれてい
る。マースーレから定期的に通う人もいるとことで、サロン
もハラムもきれいに清掃が行き届いている。



写真799 Emâmzâde Hâshem, 道具類を入れておく一種の長持。お茶道具などがこの中
に入っている。お茶の葉や砂糖などは誰かが持ってきては置いて行く。



写真801 Emâmzâde Hâshem, エマームザーデが逃げる途中、刀で岩を割り、身を隠したと伝えられる岩。



写真802 Boq'e Âqâ Seyyed Shams al-Dîn, マースレーハルハール街道の途中、小さなたちこに面して、小さな廟が建つ。



写真803 Boq'e Âqâ Seyyed Shams al-Dîn, マースレーハルハール街道沿い、谷を見下ろすように建つ廟。谷を流れる川の水量はごくわずかである。街道沿いには何力所か水の湧いている場所がある。



写真804 Boq'e Āqā Seyyed Shams al-Dīn, 廟はトタンをはって壁として、屋根も葺いてあったはずなのだが、すっかりはがれてしまい、骨組みだけが残っている。

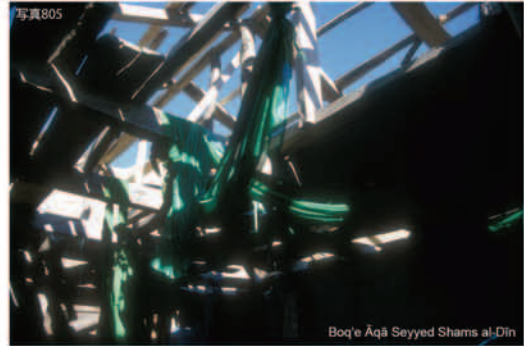


写真805 Boq'e Āqā Seyyed Shams al-Dīn, 廟内から屋根を見上げる。雨の降る季節はどうしているのか心配になる。



写真806 Boq'e Āqā Seyyed Shams al-Dīn, 廟の片隅に無造作に置かれたサンドウグ。側面には穴が開いており、墓石が見えないことから、もともとここに置かれていたのかも分からない。

Shaft 郡



写真807 Maqbare Qāzī Jalāl, シャフトのマスジェデ・ジャーメの近所。緑に塗られたコンクリートの台の上に、やはり緑色に塗られた墓石が乗っている。手前の背の低いコンクリートの台と小さな墓石はガーズィー・ジャラルとは関係のないセイイドのもの。現在、マスジェデ・ジャーメ前はパーザール地区となっており、このマクバレはその裏手にある。



写真808 Maqbare Qāzi Jalāl. 本来なら緑の布で覆われているはずが、くしゃくしゃになっている。ズィヤーラトの人がいないわけではなさそうなので不思議な光景である。



写真809 Maqbare Qāzi Jalāl. ズィヤーラトの人がいると判断する理由の一つである、ろうそくを灯した跡。非常に古いものから新しいものまでが重なり、残っている。



写真810 Maqbare Seyyede Zahrā Hasani. 右の白い壁の建物がマスジェド・ジャーメ。墓地を挟んで向かいに図書館。二つの建物の間に見える金色のドームを持つ募金箱の足元に、セイエデ・ザフラーの墓石が置かれている。



写真812 Maqbare Seyyede Zahrā Hasani. 墓石の脇に残る、ろうの跡。日差しの暑さにすっかり溶けてしまっているが、ハージャトを得ようと訪れる人がいることが分かる。



写真811 Maqbare Seyyede Zahrā Hasani. マスジェド・ジャーメ付属の墓地の外れ。他の墓よりも一段高くなった場所に置かれた墓。両脇の墓石はセイエデとは関係ないとのこと。普通、地面に直接置かれる募金箱が台の上に乗っているのはなぜなのか、理由を聞くことはできなかった。



写真813 Boq'e Shāh Darvīshān. マスジェド・ジャーメ付属の墓地の中。流れる川を下にして、小さな廟が建っている。中央に見える巨木は、廟とは特に関連はない。



写真814 Boq'e Shāh Darvīshān. 墓地の端に建つ水色に塗られた廟。すぐ裏手は川に降りる急斜面となっている。



写真815 Boq'e Shāh Darvīshān. 廟の中央に金属製ザリー。廟の奥に見えるのは、この村出身のシャヒードたちのポスター。



写真816 Boq'e Shāh Darvīshān. 墓地の中に立つ木の幹に押し込まれた緑の布。以前はこの木に対する信仰があったはずなのだが、その消滅と共に、布も取り去られたらしい。



写真817 Boq'e Shāh Darvīshān. 大木の蔭に隠れるように置かれた緑のザリー。墓金箱が取り付けられ、ダヒールも結ばれている。墓地の端の端、もう少しで川に落ちる斜面の上という自立たない位置にあるにもかかわらず、崇敬の対象となっていたということが興味深い。



写真818 Boq'e Shāh Darvīshān. ダヒールや安全ピンが見られ、以前は、ハージャトを得るために訪れる人がいたことを教えてくれる。



写真819 Boq'e Shāh Darvīshān. 墓地の中のセイエドの墓。手前は緑の布で覆われているだけだが、その後ろはザリーが置かれ、ダヒールも見られる。



写真820 Boq'e Shâh Darvîshân, マスジドの裏に置かれたセイエドの墓。電気が引かれ、ザリーの中で灯りを灯すことができるようになっている。



写真821 Boq'e Aqâ Seyyed Ebrâhîm va Seyyed Mohâmmad, ワクフ慈善庁の管理下にはない廟。外部の人間を排除するため、廟内に入ることはできなかった。曰く「ワクフ慈善庁の人間が来るなら、殺してやる」とのこと。



写真822 Boq'e Seyyed Reza va Seyyede Ma'sûme, 村はずれの墓地の中に建つ新しい廟。六角形の明かり取りを屋根の乗せている。外装は終わっておらず、レンガがむき出しになったまま。



写真823 Boq'e Seyyed Reza va Seyyede Ma'sûme, 広い廟内の中央にザリーが置かれその手前、入り口前に二人のセイエドの墓石が置かれている。



写真825 Boq'e Hâj Mo'men, 廟内中央に立つ柱に寄せてサンドゥグが置かれている。柱にはダビールなどがびっしりと結ばれている。



写真824 Boq'e Hâj Mo'men, 墓地の中、マスジドに隠れるように建つ新しい廟。



写真826 Boq'e Hâj Mo'men, ダビールがびっしりと結ばれた柱。柱に結ばれたプレートには、「ハージャットの与え手、ハージー・モオメン」と書かれている。



写真827

Boq'e Haj Mo'men

写真827 Boq'e Haj Mo'men。サンドゥグの上に置かれたダヒール用のひも。普通は、廟内の布を自分で裂いてダヒールにするのだが、ここではあらかじめひもを用意してある。しかし、柱に結ばれたダヒールを見ると、自分でひもを用意したと思われるものもある。



写真828

Boq'e Seyyed Zakariya

写真828 Boq'e Aqâ Seyyed Zakariya。村はずれの丘の上に建つ廟。廟の向こうは貯水池。ドズドギールと呼ばれる泥棒よけのプザーが設置されていて、誰かが扉を開ける度にプザーが鳴っていた。



写真829

Boq'e Aqâ Seyyed Zakariya

写真829 Boq'e Aqâ Seyyed Zakariya。廟内中央に金属製ザリーが置かれている。プザーが鳴っている中では、落ち着いてズィヤラトはできないのではないかと心配される。



写真830

Derakhte Kish

写真830 Derakht。畑の中に数本の木が並んでいる。その中に緑の布が巻かれた木があるのが街道から目にとまる。



写真831

Derakhte Kish

写真831 Derakht。近づいてみると、緑の布が巻かれているのは一本だけ。地元の人たちに名前を尋ねると、キーシュ（＝シエムシャードのギーラーンでの呼び方）とだけ呼んでいるとのこと。この一本だけが神聖視されている理由については地元の人たちからも情報が得られなかった。



写真833

Derakhte Kish

写真833 Derakht。枝に吊された古いランプ。ガラスは割れ、金属部分はすっかりさびてしまい、使われなくなって長い時間が経っていることが分かる。近所の人たちも、存在は認識していても訪れることはなくなっている様子であった。



写真832 Derakht. 枝に結ばれたダヒール数はそれほど多くなく、ここを訪れ、ダヒールを結んでいく人が減ってしまったことを示している。



写真834 Emāmzāde Ahmad. 周囲を茶畑に囲まれたマスジェドと一連なりになった廟向かって左手の扉の向こうが廟となっている。近年建て替えられたばかりの白い石張りのマスジェド。



写真835 Emāmzāde Ahmad. 広い廟内に置かれたザリー。ザリーと同じくらいの高さで壁が切れ、マスジェドとつながっているのは、マスジェド側でもエマームザードと同じ空間を共有できるようにとのこと。



写真827 Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān. 近年建て替えられたばかりの廟。外装はまだできておらず、れんががむき出しのままである。今は、廟の外装よりも、写真の左奥に見える、マスジェドを完成させる方が先であるとのこと。



写真836

Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān

写真836 Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān. 道路沿いに広がる墓地の中、二本のアーザードの巨木が立っている。アーザードの木に隠れるようにして廟とマスジェドが建っている。中央、煉瓦の外壁の建物がボグエ。向かって左のアーザードの木は神聖なものとなされている。



写真838

Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān

写真838 Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān. 廟の中央からずれた位置にある金属製ザリー。天井からはハンケ (=扇風機) が下がる。



写真839

Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān

写真839 Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān. 地元の人によると樹齢千年のアーザードの巨木。二本あるアーザードの木のこちらだけが神聖な木とされているが、理由についてははっきりと分からなかった。



写真840

Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān

写真840 Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān. 細い枝に結ばれたダヒール。手の届く範囲の枝にはほとんど、新旧とどりのダヒールが結ばれている。



写真841

Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān

写真841 Boq'e Seyyed Zū al- Pīrān. 根元に洞ができていて、そこがシャムダーンのようになっている。ろうそくを灯した跡やろうそくをつけるためのマッチが置かれている。



写真843

Boq'e Āqā Mollā 'Alī

写真843 Boq'e Āqā Mollā 'Alī. 廟内の入り口側、マズジェドとの境の壁と、廟内に立つ柱に寄せてサンドウッグが置かれている。



写真842

Boq'e Āqā Mollā 'Alī

写真842 Boq'e Āqā Mollā 'Alī. 村の外、水田が広がる中に建つ、マズジェドと一連なりになった廟。向かって左側のひさしの出ている部分が廟。



写真844

Derakhte Āqā Seyyed Ya'qūb

写真844 Āqā Seyyed Ya'qūb. 水田に囲まれた中に、島のように残る小さな土地に立つ木。取り立てて大きな木でも、珍しい種類の木でもないが、10年ほど前までは、人々が信心を持ち、大切にしていたとのこと。



Derakhte Aqā Seyyed Ya'qūb

写真845 Āqā Seyyed Ya'qūb. 以前は、木の枝に吊したランプを夜通し灯し、それが水田の水に映えてとても美しかったという。



Derakhte Aqā Seyyed Ya'qūb

写真846 Āqā Seyyed Ya'qūb. わずかに残る古いダヒーール。昔はもっとたくさんのダヒーールが見られたというが、いつの間にかほとんど失われ、こくわずかに残るだけになってしまった。近所の女性たちは、ここが聖所であること、名前がアーガー・セイエド・ヤアクーブだと記憶しているが、ここを訪れることはなくなってしまっているようである。



Boq'e Aqā Darvish Ja'far

写真848 Boq'e Aqā Darvish Ja'far. 廟内もまた壁塗りが終わっていない様子。絨毯などは敷かれているが、入り口近くには、作業用の道具が置かれていた。



Boq'e Aqā Darvish Ja'far

写真847 Boq'e Aqā Darvish Ja'far. マスジードに隣接する廟。マスジードも廟も立て替えを行ったばかりであるが、外装はまだ終わっておらず、レンガがむき出しになったままで、窓を留める漆喰が白く残っている。手前に見えるコンクリートの円筒は井戸。



Emāmzāde Aqā Seyyed Qāsem

写真849 Emāmzāde Seyyed Abū al-Qāsem. エイヴアーンの前に並ぶ緑の扉が印象的な廟。屋根は瓦葺きから変わってしまっているが、普通りの形を良く残している。この古い廟は、周囲をアーザードの太木と墓地に囲まれている。



写真850 Emâmzâde Seyyed Abû al-Qâsem. 廟の横手から。廟の側面には扉や窓がいくつも見られるが、壊れたりして、使われていない。



写真851 Emâmzâde Seyyed Abû al-Qâsem. 絨毯を敷き詰めたエイヴァーンと、光を調節するため開けたり閉めたりされている扉。近所の子どもたちが遊び回っている。



写真852 Emâmzâde Seyyed Abû al-Qâsem. ハラムへの扉。エイヴァーンのほぼ中央、エイヴァーンの壁に、墓石が据え付けられている。誰のものなのか、モタヴァッリーが見つからず、確認できなかった。



写真853 Emâmzâde Seyyed Abû al-Qâsem. 廟の大きさに比べると小さなハラムに、大型の金属製ザリーが置かれている。ザリーの中は、木製のザリーが収められている。左奥に見えるカーテンの向こうに小部屋がある。

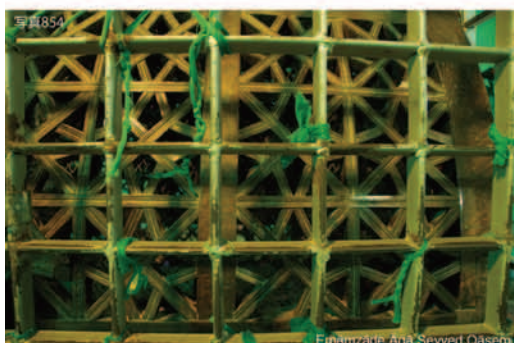


写真854 Emâmzâde Seyyed Abû al-Qâsem. 木製ザリーを金属製ザリーが覆っている。金属製ザリーにはダヒールがいくつも結ばれている。



写真856 Emâmzâde Seyyed Abû al-Qâsem. ハラムにの壁に幾つもの時計がかけられている。鏡が何枚もかけられているのは目にするが、時計は他に見たことがない。何か意味があるのか、その場にいた女性たちに尋ねてみたが、よく分からないという答えであった。



写真855 Emâmzâde Seyyed Abû al-Qâsem. 外側の金属製ザリーは幅があるため取り付けにくかったのが、内側の木製ザリーの金具に南京錠がかけられている。その後、次々と南京錠に南京錠がかけられ写真のような状態になっている。



写真857 Emâmzâde Seyyed Abû al-Qâsem, エイヴァーンの片隅に置かれたシャムダーン。長年使われてきたため煤とろうで真っ黒になっている。



写真858 Bo'q'e Soltân Pîr Hasan. 一番右端の扉が廟への入り口。その上に掲げられている看板をよく見ると、「ハサン」の下に二つの点があり、ハサンであることに自信がないので一応「ホセイソ」とも読めるようにしてみました、という感が現れている。



写真860 Bo'q'e Soltân Pîr Hasan. 二つのザリーの間に、ルーハーニーの墓が置かれている。このルーハーニーの墓を囲っているザリーに大量のダヒールが結ばれている。ルーハーニーに対する信心なのか、ザリーにダヒールを結ぶことができないので手近にあるここに結んでいるのか、管理人たちも分からないとのことである。



写真859 Bo'q'e Soltân Pîr Hasan. 廟の表示はソルターン・ビール・ハサンと一人分なのに、廟の中には二つのザリーが並んでいる。どちらがビール・ハサンのもなのか、どちらかがビール・ハサンのものであるとすると、もう一方は誰のものなのか、管理人たちも分からないという。廟内には、使用されていない絨毯などが積まれ、物置化している。



写真861 Bo'q'e Âqâ Seyyed Mirân. 墓地の中に建つごく小さな廟。人が数人入れればいっぱいになってしまうような大きさ。真っ白に塗られた壁が、こまめに手入れされていることを物語っている。



写真862 Boq'e Aqâ Seyyed Mirân. 一方の壁に寄せてサンドゥッグが置かれている。それを覆う緑の布は何枚も重ねられて分厚くなっていて、めくり上げて中を確認するのが難しいほどであった。壁にも旗やジャーナマーズなどが何枚も貼られていて、寄付が多いことが分かる。



写真863 Boq'e Aqâ Seyyed Mirân. 墓地の端に置かれているザリー。一部壊れているが、古いものが多いとはいえ、ダヒールが結ばれていたり、お金が置かれていたりすることから信心の対象となっていると思われる。



写真864 Boq'e Aqâ Seyyed Mirân. ザリーの中に置かれた千リヤール札。それほど古びておらず、汚れてもいないことから、ここに置かれてからそれほど経っていないと思われる。



写真865 Boq'e Pir Mo'men. 村の中心部、商店などが集まる場所に位置するマスジェドの中の一室を廟とする。マスジェドの前は付属墓地。



写真866 Boq'e Pir Mo'men. ハラム内の柱に寄りかかるように置かれたサンドゥッグ。マスジェドのヘアトル・オマナーによると、今、ピールに信心を持つ人は少なく、ここを訪れる人もほとんどいないということである。



写真867 Boq'e Aqâ Vasûn Dûch. Boq'e Pir Mo'menとは別なマスジェド付属の墓地のはずれ。敷地と道路を区切る壁に沿って建つ小さな廟。墓地が途切れ、草むらを横切って行かなくてはならないはずれ。案内をしてくれた人によると、ピール・モオメンよりもこちらの廟を信仰する人が多いという。



写真868 Boqe Aqa Vasun Duch. 敷地の外を通る道路から見る。廟の後ろが道路側にはみ出ているのが分かる。マスジェドの敷地のこちら側に住んでいる人達の中には、正面入り口まで回るのが面倒で、廟の脇、ブロック塀が低くなっているところを乗り越えて行く人もいるとのこと。



写真869 Boqe Aqa Vasun Duch. 草と木に囲まれた廟。外側は、入り口の扉が閉まらなくらいで、それほど傷んでいるようには見えない。



写真870 Boqe Aqa Vasun Duch. 廟内は、雨のシミが壁一面に見られる。床も張られておらず、土のまま。しかし、廟内は清掃が行き届き、土で作られた墓石を覆う布も埃をかぶっていない。



写真872 Shahzade Esmail va Nesai'. 一段高い場所にあるマスジェドから降りてくると、下にも広がっている墓地の中に建つ廟が見える。扉が見えるが、こちら側の扉は閉められていて、反対側に回らなければならない。



写真876 Shahzade Esmail va Nesai'. ネサーのザリール。エスマーイールと同じ形で、特に表示があるわけでもないが、村の女性によると入り口側がエスマーイール、奥がネサーとのことであった。



写真871 Shahzade Esmail va Nesai'. 廟の敷地の最も低い場所から、廟の裏に見える木々の後ろにマスジェドと新しい墓地。廟の周囲は墓地であるが、比較的古い墓が多い。



写真873 Shāhẓāde Esmā'īl va Nesā'. 扉に近い側、エスマーイールのザリー。ザリーにはダヒールが結ばれ、ゴルアーンをはじめ、さまざまなものが乗っている。



写真875 Shāhẓāde Esmā'īl va Nesā'. 古い形のズィヤラト・ナーメ。現在、このような木の板に書かれたズィヤラトナーメはとても少なくなっている。



写真876 Boq'e Seyyed Pile Aqā. 村の中心。商店などが集まっているメイダーンに面した墓地。大型のマスジェドと一連なりになった、ドームとエイヴァーンを持つ廟。



写真877 Boq'e Seyyed Pile Aqā. 廟の正面。タイルで飾られたエイヴァーンとアーチを持つ回廊。



写真878 Boq'e Seyyed Pile Aqā. 天井の高い、広々とした廟内に置かれた金属製ザリー。タイルの縁取りがある程度で、きらびやかな装飾は行われていないが、今後、工事を行う予定はあるとのこと。



写真879 Boq'e Seyyed Pile Aqā. 墓地の端に、水色の布をめぐるせた、小さな廟が建っている。村出身のセイエドの墓で、ハージャットがあるので、何か願いのある人の中にはこの墓に詣でるひとがいるとのこと。

写真880



Bo'q'e Darvishân

写真880 Bo'q'e Darvishân. 周囲を水田に囲まれた中に建つ廟。ダルヴィーシュの廟なので、縁が使われていない。看板が出ていないこともあり、廟には見えず、通り過ぎそうになってしまう。

写真881



Bo'q'e Darvishân

写真881 Bo'q'e Darvishân. 廟内は、カーテンで男女のスペースが分けられている。女性用スペースに白いサンドゥグが置かれている。ダルヴィーシュであるので、そのしるしであるキャシュクールがあらわれている。

写真882



Bo'q'e Darvishân

写真882 Bo'q'e Darvishân. ここに祀られているダルヴィーシュについて書かれたプレート。

写真883



Bo'q'e Seyyede Fâteme Sâdat

写真883 Bo'q'e Seyyede Fâteme Sâdat. 村の墓地の中に建つ新しい廟。墓地の中には、他にも、セイエドの小さな廟やザリーがいくつも見られる。

写真885



Bo'q'e Seyyede Halime Khâtûn

写真885 Bo'q'e Seyyede Halime Khâtûn. 現在建築中の新しい廟。廟の隣の小さな廟は、殉教者墓地。墓地の向こうには水田が広がる。

写真884



Bo'q'e Seyyede Fâteme Sâdat

写真884 Bo'q'e Seyyede Fâteme Sâdat. 廟内に置かれたザリー。廟内には、他にも数基のセイエドの墓石が見られる。

写真887



Bo'q'e Seyyede Halime Khâtûn

写真887 Bo'q'e Seyyede Halime Khâtûn. 廟の裏手にはこれから屋根の上に載せる予定のドームが置かれている。以前は金色のドームが好まれたが、「金は神の色であり、エマームにのみふさわしい」という宗教界の意見により、銀色のドームが増えたという。



写真886

Boq'e Seyyede Halime Khātūn

写真886 Boq'e Seyyede Halime Khātūn, 工事中の廟内の、ドームを支えることになる四本の柱の間に、サンドゥッグが置かれている。



写真888

Boq'e Seyyede Khānom

写真888 Boq'e Seyyede Khānom, 墓地の中に建つ新しい廟。屋根の頂上からずれた位置に黄色いゴンパド。コンクリートがむき出しのままの外壁。



写真889

Boq'e Seyyede Khānom

写真889 Boq'e Seyyede Khānom, 廟内はきれいに整えられ、小さな絨毯がたくさん敷き詰められている。その中にザリーが置かれている。被葬者については、セイエド・ハーノムとのみ伝えられていて、どんな人物だったかについては伝わっていない。しかし、ハージャトがとてもあるため、村の人たちほとんどこの廟に対する信仰が篤いとのことである。



写真890

Boq'e Seyyede Khānom

写真890 Boq'e Seyyede Khānom, 廟内には、改装される前の廟の様子が写真に取められ、展示されている。



写真891

Boq'e Seyyede Kāzēm Mūsavī

写真891 Boq'e Seyyede Kāzēm Mūsavī, 水田に囲まれた中に建つ廟。廟を新築するための工事中。隣に見えるのはマスジェド。



写真892

Boq'e Seyyede Kāzēm Mūsavī

写真892 Boq'e Seyyede Kāzēm Mūsavī, 新しい廟の建設が始まっている。現在の廟を取り囲むように壁を作り、屋根をかけるための鉄骨が組まれている。現在の廟に比べてどれほど大きくなるか分かる。しかし、工事に従事している人は全く見られず、工事が進んでいるのかは分からない。

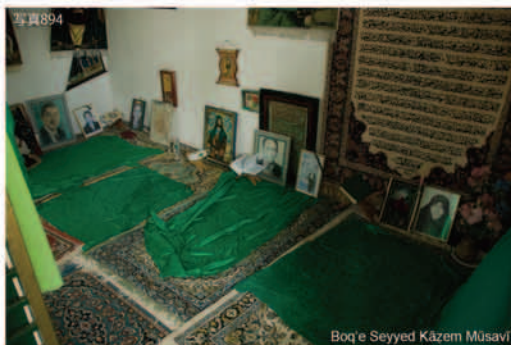


写真894

Boq'e Seyyede Kāzēm Mūsavī

写真894 Boq'e Seyyede Kāzēm Mūsavī, 廟の中に置かれたセイエドたちの墓。肖像写真と一緒に置かれている。



写真893 Bo'q'e Seyyed Kâzem Mûsavî. ハラムにはザリーが置かれ、その両脇にセイエドの墓が並んでいる。



写真895 Bo'q'e Seyyede Zahrâ va Fâteme Hoseinî. 二方向に出入口を持つ新しい廟。外壁の工事はまだ行われていない。



写真896 Bo'q'e Seyyede Zahrâ va Fâteme Hoseinî. 出入口それぞれの近くに墓石が一つずつ置かれている。



写真897 Bo'q'e Âqâ Seyyed Ebrâhim. ラシュトーフーマン街道沿いに建つ大きなマَسْجِدの中。向かって左の扉が廟への入り口。



写真898 Bo'q'e Âqâ Seyyed Ebrâhim. 広々とした廟内は、パーティションによりマَسْجِدと区切られ、マَسْجِد側からもザリーに触られるようになっている。人々の信仰を集めているため、寄付もとても多いという。



写真900 Bo'q'e Âqâ Seyyed Ya'qûb. 入り口は男女一緒だが、中に入るとすぐにパーティションで男女のスペースが区切られている。平日は扉を閉めているが、週末には、地元だけでなく、ラシュトなどからも家族連れが訪れる。



写真899 Bo'q'e Âqâ Seyyed Ya'qûb. フーマン-ラシュト街道沿いに建つ廟。街道を挟んで向かいに同名のグーラーブ (沼) が広がっている。廟は、マَسْجِدと一連なりになっており、廟の裏側に墓地が広がる。

写真901



Boq'e Aqā Seyyed Ya'qub

写真901 Boq'e Aqā Seyyed Ya'qub. 現在の廟の敷地の片隅に、焼け落ちた木の残骸が残っている。これは、以前、聖樹として信仰されていた木の残りであり、1913年に廟が建てられるまでは、この木が信仰の中心であった。現在でも、木の根元にまだ新しいダビールが見られる。

写真902



Boq'e Shahidān

写真902 Boq'e Shahidān. 村はずれの墓地の中、マスジドと一連なりになっており、聖所によく使われる緑も見当たらないため、屋根の上のゴンバドがなければ廟と気づくのが難しい。

写真903



Boq'e Shahidān

写真903 Boq'e Shahidān. 廟内に置かれた金属製のザリー。廟内には、他の廟のように絨毯が敷き詰められた床ではなく、モーケットと呼ばれる安い敷物などが引きかれている。廟自体は新しく、きれいなので、アンバランスな感じがする。

写真905



Emānzāde Ebrāhīm

写真905 Emānzāde Ebrāhīm. ハラム全体にアーイーネカーリーが施され、ドームの基壇部分に色ガラスがはめ込まれているため、ハラムはとてども明るく感じる。パーティションで男女のフロアが分けられているが、行き来はできるようなになっている。

写真904



Emānzāde Ebrāhīm

写真904 Emānzāde Ebrāhīm. 谷の上の狭い土地に廟と門前町が広がっている。廟を中心に、道の両側には土産物屋と宿泊施設が並ぶ。春から秋にかけての週末は、ズィヤラトの人々がギョーランだけでなく、イラン各地から集まってくるという。エマーム・ムーサーの息子であり、ジャラルルーディーン・アシュラフの弟であるから、間違いなくエマームザーデだと廟の関係者は誇る。



写真906 Emānzāde Ebrāhīm. ダヒールとろうそくを売る女性。廟にはダヒールを結んだりろうそくを灯したりする場所はないが、廟の下層部の、工事が終わっていない箇所のできるよと教えてくれる。



写真907 Emānzāde Ebrāhīm. ろうそくが灯された場所。恐らく、窓がはめ込まれる予定だったのではないかと思われるが、まだ工事が行われておらず、ちょうど良い場所があるとはかりにシャムダーン代わりに使われている。



写真908 Emānzāde Ebrāhīm. 廟の周囲に立ち並ぶ土産物屋兼簡易宿泊施設。土産物屋の二階以上は、床と手すりがあるだけの吹きさらしの宿となっている。冬はシートを張って雨が吹き込まないようにするが、夏は開放してしまう。夏になるとこの柱や手すりはカラフルに塗られ、賑やかな門前市に彩りを添える。



写真909 Emānzāde Ebrāhīm. 廟への坂道の途中から。谷の突き当たりに廟が建っていることが分かる。谷を流れる川の上流でエマームザーデが殺されたと伝えられ、景色も良いことから、ズィヤラトの人々の中には、その場所まで足を伸ばす人も多い。



写真911 Emānzāde Ebrāhīm. エマームザーデ・エブラーヒームに毒入りのアーシュを動めて殺した老女の墓。アーシュの入った腕を捧げる老女の姿がそのしるし。エマームザーデ・エブラーヒームへのズィヤラトの際にここに立ち止まり、石を投げつけたり、子供に用足しをさせたりといった行為で、老女へを卑しめる。



写真910 Emāmzāde Ebrāhīm. エマームザーデ・エブラーヒームと、買取され、エマームザーデに購入しアーシュを食べさせた老女の絵。道中のガフヴェハーネ（茶屋）の壁に貼ってあったもの。



写真913 Derakht. 中が朽ちてしまった幹。ギーラーンでは、建物も樹木も残りにくい。



写真916 Boq'e Bābā Rekāb, エマームザーデに向かう前にここに立ち寄り、エマームザーデのレカーブダール（=従者）に挨拶をする。

写真915 Boq'e Bābā Rekāb, 写真914の反対側。廟の入り口はこちら側。エマームザーデ・エブラーヒームを訪れる人がここでズィヤーラトをし、休憩を取り、またエマームザーデに向かう。

写真917 Emāmzādegān Eshāq va Nesā. 丘の上に建つ廟を下から見上げる。マَسْجِدを兼ねる大きな廟。



写真912 Derakht. 街道から谷に向かって降りると、私有地の中に聖樹と見なされていた木が立っている。今は、訪れる人はほとんどいなくなってしまっている。



写真914 Boq'e Bābā Rekāb, エマームザーデ・エブラーヒームから下ってくると、街道脇に白い壁の廟が見える。道路を挟んで反対側には、観光客相手の雑貨屋。





Emāmzādegān Eshāq va Nesā'

写真918 Emāmzādegān Eshāq va Nesā'. 廟の正面から。廟の周囲、廟までの斜面は、墓地となっていて、新旧の墓石が並ぶ。廟は2013年に取り壊され、新しい廟を建設中。

写真920



Emāmzādegān Eshāq va Nesā'

写真920 Emāmzādegān Eshāq va Nesā'. 紺色に塗られた入り口の扉上には、様々な警句が貼られているのと共に、天井から垂られたひもに、南京錠がずらりと連なる。

写真922



Emāmzādegān Eshāq va Nesā'

写真922 Emāmzādegān Eshāq va Nesā'. エマームザーデから村を見下ろす。エマームザーデ・エブラーヒームほどではないが、小さな門前町を形成している。

写真925



Emāmzādegān Eshāq va Nesā'

写真925 Emāmzādegān Eshāq va Nesā'. ガトウルガーの小祠の中には金属製のザリーが置かれている。二人の墓は丘の上にあるので、ザリーの中は空である。しかし、ダヒールが結ばれ、信心の対象となっていることが分かる。



Emāmzādegān Eshāq va Nesā'

写真919 Emāmzādegān Eshāq va Nesā'. 廟内は男女のスペースが分けられている。所在はシャフト郡だが、その重要性故に、エマームザーデ・エブラーヒームと共に、ワッフ慈善ラシト事務所の直接管理下にある。



Emāmzādegān Eshāq va Nesā'

写真921 Emāmzādegān Eshāq va Nesā'. 扉上に吊された南京錠。ズィヤーラトの人たちがかけていった大小様々な南京錠が連なり、吊されている。それほど新しいものは見当たらないので、最近にはここには鍵をかけないものと思われる。紺色に塗られているのは、廟内でペンキを塗った際に一緒に塗られたからとのこと。

写真924



Emāmzādegān Eshāq va Nesā'

写真924 Emāmzādegān Eshāq va Nesā'. ガトウルガーから廟を見上げる。二人は廟の脇に立つ木の洞に隠れているのを発見され、殺されたと伝えられる。家を持ちたいと願う人は、この木の脇に石を積むと家を持つと言われる。

写真923



Emāmzādegān Eshāq va Nesā

写真923 Emāmzādegān Eshāq va Nesā。エマームザーデ・エスハークから下を見下ろすと、緑の屋根の小さな廟とその脇に立つ背の高い木が見える。ここは、ガトウルガー（Qatigāh=殺害場所）と呼ばれている。エスハークとネサーの兄弟がここで殺されたと伝えられる。廟を訪れる人はここにも足を伸ばし、祈る。

写真926



Emāmzādegān Eshāq va Nesā

写真926 Emāmzādegān Eshāq va Nesā。二人が隠れ、殺されたとされる木の洞。家を持ちたいと願う人が精んだ石でいっぱいになり、ダヒールが結ばれている。

写真927



Boq'e Āqā Nūr Se tan

写真927 Boq'e Āqā Nūr Se tan, 深い谷に面して建てられた廟。マスジェドと一連なりになっており、廟の入り口は向かって右の扉。写真手前の斜面は一面の墓地。

写真928



Boq'e Āqā Nūr Se tan

写真928 Boq'e Āqā Nūr Se tan, 広い廟内に置かれた大型のザリー。三人の墓はこの中に収められている。低い壁を隔ててマスジェドが続いている。

写真929



Boq'e Āqā Mir 'Aziz

写真929 Boq'e Āqā Mir 'Aziz, 村はずれの墓地の中に建つ新しい廟。敷地内に建つマスジェドは、現在建設中。廟の裏手を川が流れている。



写真930 Boq'e Aqâ Mir 'Aziz. 廟に入って左手に寄せてザリーが置かれている。廟の中央に緑の布が巻かれた柱が立ち、絨毯の上に火を灯したランプが置かれている。これは、近所の人が毎朝、火を灯すとのこと。廟の奥に窓枠などが置かれているのは、現在建設中のマスジェドのもの。



写真931 Boq'e Hajj 'Ali Aqâ. 村はずれの墓地の中、前方にエイヴァーンを持つ新しい廟。廟の裏は急斜面になっており、川が流れている。



写真932 Boq'e Hajj 'Ali Aqâ. 廟内は、入り口から見て左手奥に寄せて、大型のザリーが置かれている。天井がそれほど高くないので、天井に触れてしまいそうに見える。



写真933 Boq'e Hajj 'Ali Aqâ. サンドウグを覆う布に付いているフリンジに結ばれたタヒール。ちょっとした場所を見つけては、タヒールは結ばれる。



写真934 Arâmghâhe Aqâ Seyyed Reza. マスジェド付属の墓地の中に置かれたセイエドの墓。二つの線に塗られたザリーが並ぶうちの、マスジェドとは反対側のザリー。村出身のセイエドの墓で、とてもハージャットがあるという。写真右に見える女性たちも、墓参の前に、セイエド・レザーの墓に触れ、ファーテヘを唱えていた。



写真935 Arâmghâhe Aqâ Seyyed Reza. スィヤラトガーとなるセイエドは、若くして或いは高齢で亡くなった人物であるケースが多いのだが、このセイエドは、37歳で亡くなっており、他のケースと少々異なる。家族は現在ラシュトに住んでいる。



写真937 Boq'e Aqâ Seyyed Mansûr. マスジェドと一連りになった廟、マスジェドは外装がなされないままであるが、廟は漆喰で白く塗られている。

写真936



Boq'e Aqā Seyyed Mansūr

写真936 Boq'e Aqā Seyyed Mansūr, 水田の中に数件の農家が集まっている中に建つ廟。近くの集落からは少々距離があるが、週末や宗教的な祝日などは人が集まってくるとのこと。

写真938



Boq'e Aqā Seyyed Mansūr

写真938 Boq'e Aqā Seyyed Mansūr, ハラムとサロンは背の低い壁とカーテンで区切られている。ザリーはそのしきりに擦るように置かれている。

写真939



Boq'e Aqā Seyyed Mansūr

写真939 Boq'e Aqā Seyyed Mansūr, ハラムとサロンのしきりに置かれたろうそく。一度灯してから消したらしい。

写真940



Boq'e Pir Mokhtār

写真940 Boq'e Pir Mokhtār, 墓地の外れに建つ廟。左手に見える茶色の屋根がビール・モフタール。右手の小さな白い廟はマルズィヤー・ハーザープールのもの。

写真941



Boq'e Pir Mokhtār

写真941 Boq'e Pir Mokhtār, 前方に大きなエイヴァーンを持つ廟。廟と同じくらいの長さを持つひさしが目立つ。エイヴァーンには、古い墓石が見られる。

写真943



Boq'e Pir Mokhtār

写真943 Boq'e Pir Mokhtār, 木製のかまぼこ形ザリーには、色とりどりの、様々な品質のダヒールが見られる。



写真942 Boqe Pir Mokhtâr. 廟内いっばいになるかと思えるほど大型の木製ザリー。ザリーを覆う布の隙間のある場所に、ダヒールが結ばれているのが分かる。



写真944 Boqe Pir Mokhtâr. 村出身のセイエド。マルズィヤー・ハージーブールの墓をおさめた廟。ハージャトがあると信じられている。



写真945 Boqe Pir Mokhtâr. マルズィヤー・ハージーブールの墓を覆うサンドウグ。奥にもセイエドの墓が置かれている。壁に黒く見えるのは、ろうそくを灯した煤の跡。これまで、ここでろうそくが灯されてきたことが分かる。



写真946 Boqe Pir Mokhtâr. サンドウグに結ばれたダヒール。ハージャトの持ち主として、願いを叶えてくれることが期待されていることが分かる。



写真948 Boqe Sälek Mo'alem. 写真では分かりにくいですが、廟の正面には壁がなく、素通しになっている。ひもを通して青い布をかけて目隠しにしてあるが、外から中を見ることができるようになっている。壁が作られていない理由は不明。



写真947 Boqe Sälek Mo'alem. 村の家が途切れた先の丘の上に、墓地が広がっている。その中に、水色に塗られたエイヴァーンを持つ廟が建っている。



写真949 Boq'e Sâlek Mo'alem, 廟内の二本の柱の間に置かれている、かまぼこ形の屋根を持つサンドゥグ。廟の全面は開いているが、強い風が吹いていない限り、それほど雨は降り込まないらしい。写真奥の壁際に古いランプが並んでいるが、これは使われなくなっている。



写真950 Boq'e Sâlek Mo'alem, サンドゥグの脇に立っている柱に結ばれたダヒール、柱にひもをかけ回し、そこにダヒールがびっしりと結ばれている。



写真951 Boq'e Sâlek Mo'alem, 村から続く道の傍ら、廟が建つ丘の下に、チェナールの巨木が立っている。神聖な木として信心の対象となってきた。



写真955 Boq'e Sâlek, 村の中心部、マスジデ・ジャーメ付属の墓地の中、二色に塗り分けられた外壁の廟。建物の半分はホセイニーエとのこと。



写真952 Boq'e Sâlek Mo'alem, 木の幹にできた穴に差し込まれたシェムシャドの小枝。



写真953 Boq'e Sâlek Mo'alem, 小枝の折れた跡に結ばれたダヒール。色から見て少し古いもの。



写真954 Boq'e Sâlek Mo'alem, 細い枝に結びつけられたダヒールと小枝。枝の種類は未確認。



写真956 Boq'e Sâlek. 廟の反対側、ホセイニー工側。墓地を挟んで向かいに大規模なマスジェドが建設され、こちらは今はほとんど使われていないとのこと。



写真957 Boq'e Sâlek. 廟内に置かれた背の高い墓石。現在のギーラーンで、このような背の高い墓石を見るのは珍しい。



写真958 Boq'e Kâs Âqâ Vâhedî. 墓地の中に建つ、緑のドームを持つ廟。道路を挟んで谷に面している。



写真959 Boq'e Kâs Âqâ Vâhedî. 木製の大きなザリー。扉部分やザリー上部は鉄で補強されている。ダヒールがあちこちに結ばれている。



写真960 Boq'e Kâs Âqâ Vâhedî. ザリーの扉の取っ手に結ばれたダヒールと南京錠。厚みがあるのでここ以外に南京錠をかけるのは難しい。



写真961 Boq'e Kâs Âqâ Vâhedî. セイエド・カース・アーガーイェ・ヴァーヘディーの写真。ペルシア語の文書は、セイエドに対する称賛と哀悼の言葉。



写真962 Boq'e Kâs Âqâ Vâhedî. 廟の窓の外に鉄製のネットが張られ、そこにもダヒールが多数結ばれている。ザリーは今、内側に目張りがされているため、ダヒールが結びにくくなっているためかと思われる。

Studia Culturae Islamicae No. 100

The Research and Educational Project for Middle East and Islamic Studies (MEIS) Series No. 17

ギーラーン州の聖所 I

清水直美

吉枝聡子

上岡弘二

2014年9月

発行 東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

Tel. 042-330-5600

印刷 三鈴印刷株式会社

میزان درآمد اماکن متبرکه دارند⁸. هر چند به خاطر عدم تمایل اوقاف نسبت به اعلام میزان درآمد اماکن متبرکه، تخمین رقم درآمد این نوع اماکن دشوار است، اما از موارد ذکر شده در فوق می توان به عنوان فاکتوری برای تخمین میزان درآمد اماکن متبرکه استفاده نمود.

تحقیقات به عمل آمده عمدتاً دربرگیرنده ی عکس بیرونی و درونی مقبره یا آرامگاه، موقعیت جغرافیایی مکان متبرکه، وضعیت فعلی، دارا بودن یا نبودن زیارتنامه و شجره نامه، و در صورت دارا بودن زیارتنامه، محتوای آن، مصاحبه با فرد یا افرادی که وظیفه مراقبت از مکان متبرکه را به عهده داشتند، و همچنین مصاحبه با ساکنین اطراف زیارتگاه می باشد. هر چند نگارنده سعی در جمع آوری هر چه دقیق تر اطلاعات داشته است، اما در پاره ای موارد به دلایلی مانند عدم حضور متولی زیارتگاه یا عدم حضور ساکنان اطراف آن مکان، امکان انجام تحقیقات میسر نبود. لازم است یادآوری کنم که در این کتاب علامت اختصاری A.H نشان دهنده تقویم میلادی و S.H نشان دهنده تقویم ایرانی است.

چاپ این کتاب مرهون زحمات و تلاش های استاد کامی اوکا کوچی، رئیس سابق مرکز مطالعات زبان و فرهنگ آسیا و آفریقا می باشد. پیشنهاد مرتب سازی اطلاعات جمع آوری شده در تحقیقات در قالب یک کتاب، از طرف ایشان مطرح شد؛ که جا دارد یک بار دیگر به خاطر راهنمایی های ارزنده شان مراتب سپاس خود را اعلام دارم. همچنین در چاپ این کتاب، استاد ایزوگا، استاد مرکز مطالعات زبان و فرهنگ آسیا و آفریقا نیز سهم بسزایی دارند، که لازم است مراتب قدرانی خود از ایشان را نیز ابراز کنم.

همچنین از مساعدت های سازمان اوقاف و امور خیریه استان گیلان برای صدور مجوز تحقیق، از آقای چپریمان که زحمت رانندگی بر عهده ایشان بود، و همکارشان آقای احسانی، و نیز از تمامی افرادی که در خصوص اماکن متبرکه صحبتی نموده یا توضیحاتی به نگارنده ارائه دادند، همچنین از روستاییان عزیزی که به خاطر دور بودن مکان متبرکه از روستایشان اجازه ندادند که یک زن به تنهایی عازم آنجا شود و با او در این کار همگام شدند، تشکر و قدردانی می کنم. این پژوهش با استفاده از کمک های مالی بنیاد تویوتا به ثمر رسیده است. هرچند تعداد اماکن متبرکه ای که مورد تحقیق و تفحص قرار گرفت فراتر از پیش بینی های صورت گرفته بود؛ و به همین خاطر امکان انجام تحقیقات میدانی از کل اماکن متبرکه استان گیلان در مدت تعیین شده فراهم نشد، اما پژوهش بسیار پرباری به عمل آمد. این کتاب در واقع گزارشی است که بخشی از این پژوهش را منعکس می کند.

در آخر، از تمامی دوستانی که در ژاپن و ایران به اشکال مختلف با بنده همکاری نمودند، علی الخصوص از همسر و خانواده ام که باور همیشگی من در طول تحقیقات بلند مدت در ایران هستند از صمیم قلب سپاس گذاری می کنم.

⁸(شیمیزو، کامی اوکا 2009:180) برای افرادی که حرفه ی آنها احداث یا مرمت آرامگاه است، گرفتن سفارش آئینه کاری یا ساخت ضریح از نوع اصفهانی مایه خرسندی خواهد بود. چرا که مرمت یا ساخت این موارد سرمایه زیادی را می طلبد. لذا اینگونه می توان نتیجه گرفت که به خاطر هزینه بر بودن آئینه کاری و همچنین ضریح از نوع اصفهانی، آرامگاه هایی که در آن آئینه کاری فراوان یا ضریح اصفهانی به چشم می خورد، از درآمد بالایی برخوردار هستند.

اما مسلماً این لیست جامع نبوده و هیچ بعید نیست اماکنی که به دلایل مختلف به برطه فراموشی سپرده شده یا به حال خود رها شده اند، اماکنی که از بین رفته اند، و همچنین اماکنی که به خاطر رعایت جانب احتیاط به خارجی ها - که نگارنده را نیز شامل می شود - معرفی نمی شوند، همچنین اماکنی که به دلیل ناکافی بودن تحقیقات نگارنده از قلم افتاده باشند نیز وجود داشته باشند. به همین خاطر نگارنده سعی دارد که بتواند در جلد های دوم و سوم این کتاب، اطلاعات جدیدتری را اضافه نماید.

لیست مذکور بر اساس همان تقسیم بندی که در سازمان اوقاف استفاده شده و در تقسیمات کشوری شهرستان⁶ محسوب می شوند، تهیه و تنظیم شده است. البته در پاره ای موارد و بنا به مقتضیات سازمان اوقاف، تفاوت هایی نیز دیده می شود. (نقشه شماره 2 و 3)

اسم اماکن متبرکه ای که در این کتاب به آنها اشاره می شود، اصولاً بر اساس همان اسمی که در سازمان اوقاف، یا در منابع موجود به ثبت رسیده است می باشد. اما در مواردی که اسم به ثبت رسیده با اسمی که در محل مورد نظر به آن مکان اطلاق می شود تفاوت داشت، اسم رایج در محل مزبور در اولویت قرار داده شده است.

همانطور که در کتاب "اماکن متبرکه استان تهران" نیز اشاره کردم⁷، قاعده خاصی برای اطلاق عنوان امامزاده، شاهزاده، شاه، سید، زیارتگاه به اماکن متبرکه وجود ندارد. به همین خاطر اینگونه ناهمگونی ها نه تنها در منابع کتبی، بلکه در بین مردمان ساکن این مناطق نیز به چشم می خورد. از آنجایی که برای نگارنده، نتایج به دست آمده در تحقیقات میدانی در اولویت قرار داشت، لذا در چنین مواردی، در خود متن یا در پاورقی به اینگونه تفاوت ها اشاره کردم.

در بسیاری موارد در خصوص شجره نامه امام زاده ها نیز، بین منابع کتبی و اطلاعاتی که در تحقیقات میدانی حاصل می شد این گونه ناهمگونی ها به چشم می خورد؛ که در اینگونه موارد، اطلاعات بدست آمده در محل مورد نظر، در متن اصلی کتاب، و سایر اطلاعات موجود در خصوص آن محل، در پاورقی قید شده است.

در خصوص موقعیت جغرافیایی اماکن متبرکه، در صورتیکه این اماکن در داخل شهر واقع شده و دارای آدرس مشخصی باشند، به همان منوال قید شده است. اما در خصوص اماکن متبرکه ای که خارج از شهر یا روستا واقع شده اند، به اسم نزدیکترین روستا یا شهر در اطراف آن، به انضمام اطلاعات GPS آن مکان، اشاره شده است.

اما از آنجایی که دستگاه جی پی اس ای که نگارنده از آن استفاده می کرد از نوع کوچک بود، احتمال خطای جزئی در سنجش موقعیت محل متصور است. البته برای مشخص شدن محل هر یک از اماکن متبرکه، نقشه ساده و مختصری نیز تهیه و پیوست شده است. اما این امکان وجود دارد که به خاطر پیشرفت سریع راه سازی در مناطق مزبور، بین نقشه تهیه شده توسط نگارنده و راه های احداث شده ناهمخوانی هایی نیز دیده شود.

در حال حاضر برای دقیق تر مشخص شدن مکان جغرافیایی اماکن متبرکه، مشغول فراهم کردن مقدمات لازم برای ارایه اطلاعات جی پی اس این اماکن متبرکه بر روی اینترنت هستم و امیدوارم که در طی سال 2013 بتوانم این اطلاعات را در اختیار عموم قرار دهم.

در بخش های مربوط به داخل آرامگاه ها به مواردی نظیر بودن یا نبودن ضریح یا صندوق، نوع شکل سنگ مزارو ضریح، دارای گچ بری بودن یا نبودن آرامگاه نیز پرداخته شده است. چرا که بودن یا نبودن این موارد ذکر شده، رابطه مستقیمی با

⁶ یکی از تقسیمات کشوری در ایران. به مجموع چندین روستا دهستان، و به مجموع چندین دهستان بخش اطلاق می شود. شهرستان در واقع از مجموع چندین بخش در کنار یک یا چند شهر کوچک تشکیل می شود. عمدتاً این نوع تقسیم بندی برگرفته شده از اشتراکات جغرافیایی و فرهنگی به جای مانده از قدیم می باشد.

⁷ (شیمیزو، کامی اوکا 3-1: 2009)

مقدمه

این کتاب مجموعه گزارشی از تحقیقات میدانی می باشد که از سال 2009 در خصوص وضعیت فعلی اماکن متبرکه استان گیلان انجام گرفته است. در واقع این کتاب در ادامه دو کتاب "اماکن متبرکه استان تهران" (2009) و "اماکن متبرکه استان قم" (2010) به رشته تحریر در آمده و اولین جلد از مونوگرافی اماکن متبرکه استان گیلان محسوب می شود. این جلد به بررسی اماکن متبرکه مناطق آستانه اشرفیه، صومعه سرا، فومن¹ اختصاص داده شده و قرار بر این است که در جلد دوم به مناطق لاهیجان²، لنگرود، رودسر³، و در جلد سوم به مناطق رشت⁴ و تالش⁵ پرداخته شود.

نگارنده پیش از این، درباره اماکن متبرکه استانهای تهران، قم و قزوین نیز تحقیق به عمل آورده بود؛ که همه ی این مناطق در قسمت جنوبی رشته کوه البرز که دارای آب و هوای نسبتاً خشک می باشند واقع شده اند. همین امر باعث شد که نگارنده اینبار تحقیقات خود را در استان گیلان که رو به دریای خزر بوده و دارای آب و هوای مرطوب می باشد پیگیری کند. استان گیلان که از سمت شمال توسط دریای خزر و از سمت جنوب و غرب توسط رشته کوه البرز احاطه شده است، به لحاظ جغرافیای طبیعی و جغرافیای انسانی دارای یکپارچگی خاصی می باشد که خود این امر باعث متمایز گشتن آن از سایر مناطق ایران می شود. در طول تحقیقات، خود مردم گیلان نیز خاص و اصیل بودن نوع اماکن متبرکه این استان را خاطر نشان می شدند. از اینرو سعی نگارنده بر این بوده و هست که با جمع آوری هر چه بیشتر اطلاعات و منابع، از صحت و سقم این گفته ها اطمینان حاصل کند.

نکته دیگری که مردم گیلان به آن اشاره داشتند، تكثر اماکن متبرکه در این استان است. این تكثر به حدی است که می توان در اغلب روستاها، در اشکال مختلف وجود اماکن متبرکه را احساس نمود. در این استان، علاوه بر آرامگاه های بزرگی که سقف گنبدی آنها با کاشیکاری مزین شده اند، اماکنی که در آنها بر روی درخت یا سنگ مقبره ای، یک پارچه سبز رنگ کشیده شده نیز به چشم می خورد؛ که همه اینها در نوع خود به مثابه مکانی برای توسل جویی و عبادت مردمان این مناطق به شمار می آیند. منوچهر ستوده در کتاب خود با عنوان " از آستارا تا استرآباد"، که در برگزیده تحقیقات وی به سال 1345 در خصوص بناهای تاریخی مناطق واقع شده در حاشیه دریای خزر می باشد، مقدس بر شمرده شدن درختان در گیلان را خاطر نشان شده و اینگونه قید می کند: " هر جا پبله پبله داره - اونجا گیلکان مزاره" یعنی هر جا درختان بزرگ و تنومند است، آنجا پرستشگاه و زیارتگاه گیلکان ها است.

اما در عصر حاضر و با شدت یافتن روند مدرنیته گرایی، اینگونه اعتقادات ساده به سرعت در حال رخت بر بستن است. نگارنده امید دارد که توانسته باشد گزارش جامعی از وضعیت فعلی اماکن متبرکه در استان گیلان، چه آن اماکن با مقیاس بزرگ که زیر نظر سازمان های رسمی بوده و چه آن اماکنی که مردمان یک منطقه آن را مقدس بر شمرده و به آن توسل می جویند، را ارایه کند.

عمده ترین منبعی که برای پیشبرد این تحقیق از آن استفاده شده است، لیست اماکن متبرکه ی تهیه شده توسط سازمان اوقاف و امور خیریه استان گیلان می باشد. اما از آنجایی که این سازمان که عمده فعالیت آن نظارت بر درآمد ها و هزینه های مربوط به امور وقف می باشد، اطلاعات خاصی در خصوص مکانهایی که وقف شده محسوب نمی شوند ندارد، نگارنده از منابع کتبی و نقشه های موجود، منابع شفاهی مانند صحبتهای ساکنان مناطق نیز بهره برده و اقدام به تهیه لیست این اماکن نمود. (جدول شماره 1)

¹ از لحاظ تقسیمات کشوری فومن و شفت

² در تقسیمات کشوری لاهیجان و سیاهکل .

³ در تقسیمات کشوری رودسر و املش.

⁴ در تقسیمات کشوری رشت، انزلی، رودبار، آستارا.

⁵ در تقسیمات کشوری تالش، رضوان شهر، ماسال.

اماکن مبرکه در استان کیلان

جلد اول

ناومی شیمیزو

ساتو کو یوشیه

کوجی کامی اوکا

مؤسسه مطالعات فرهنگ، با و زمان های آسیا و آفریقا

دانشگاه مطالعات خارجی توکیو

۲۰۱۴



ISBN 978-4-86337-168-2